これがヘブンだ! 美濃輪育久16ページ大解剖!!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

enterbrain MOOK

2006
98
880yen

PRIDE無差別級GP徹底大特集!

柔道王が優勝宣言!!
吉田秀彦

放浪の野獣がついに決断!!
藤田和之

地獄の底から這い上がる男!!
ミルコ・クロコップ

アントニオ・R・ノゲイラ
ジョシュ・バーネット
ヴァンダレイ・シウバ

『PRIDE武士道』大激震!
五味隆典、敗戦の衝撃!!

まさにPRIDE STAR WARS!
無差別級GP、戦闘開始!!

格闘技宇宙一決定戦!!

ZSTが生んだ2大スター
国境を越えた親友対談
所英男×レミギウス

6・17さいたまスーパーアリーナ決定!
『ハッスル・エイド』へ向けガッペ加速!
ハッスル×吉本合体特集!
インリン様が沖縄に降臨!!

kamipro 98 格闘技宇宙一決定戦!!

2006年5月5日
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本/図書印刷株式会社

PRIDEは群雄割拠がよく似合う!

格闘技宇宙一決定戦!!

2006 No.98 CONTENTS

kamipro

表紙イラスト/岡村昌明

太陽系に位置する世界最高峰の戦闘惑星で……

争乱が一旦は静まりを見せ
険な皇帝ヒョードルの支配に
たちはその絶対政権を崩壊
来たる時機を待っていた。
間、皇帝は激戦により深手
癒に専念。支配下の防衛を
託し、しばらくは姿を消す
かしその影響力の低下は
がりはじめている——再
覇権を競う英雄格闘群像
開戦する。いざ、男の中の
無差別級GPのリングに

いや〜〜あ!!!

（110度のけぞりながら）

TAR WARS

May the PRIDE be with you!

太陽

時は最強を巡る争乱が
ているさなか屈強な皇帝
対し、各国の英雄たちは
させるべく静かに来たる
英雄たちの沈黙の間
を負った氷拳の治癒に専
レッドデビル兵に託し
ことになった。しかし、
すでに各国へと広がり
び最強という名の覇権
劇はもう、まもなく開戦
男たちよ、PRIDE無差

出てこい

PRIDE STA

ー決定戦開戦!!

格闘技宇宙一

IIDA

HIDEHIKO YOSHI

吉田秀彦

日本の“総大将”が無差別級GP、V宣言!

今回が最後のチャンス そのつもりで獲りにいきます

“柔道王”吉田秀彦が、昨年の『ミドル級GP』に続き、今年は『PRIDE無差別級GP』に出場が決定! 昨年大晦日、小川直也との“平成の巌流島決戦”を制した“日本の総大将”として、堂々、優勝を狙いにいくと宣言した。本気になった吉田の意気込みを聞け!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　designed by hisa（TwoThree）

――『PRIDE無差別級GP』まで一カ月を切りましたけど、そろそろ疲れのピークぐらいですか？

吉田　いや、まだまだ。親父パワーでやってますから（笑）。

――でも、その親父パワーをもってしてもキツいくらい、相当ハードなトレーニングを積んでるらしいですね？

吉田　追い込んでますからね。けっこうしんどいですよ。おかげで、よう寝れるもん。昨日も12時に寝て、起きたのが8時とか9時だから。もうぐっすり。

――ある意味健康的ですね。いまは一日2回練習してるんですか？

吉田　日によって違いますけどね。火・木・土はここの道場で練習やったあとは水泳に行ったり、リラクゼーション行ったり。月・水・金はここでやって、髙阪（剛）のところでもやって。

――また髙阪さんも相当気合入ってるんじゃないですか。

吉田　ムッチャ入ってる。昨日もスパーリングやって、ガンガン殴られましたらね。

――鼻が腫れるぐらい強烈なパンチもらったって聞きましたけど。

吉田　そう。下向いたときにアッパーが鼻に入って、折れたかと思いましたよ。お互い親父パワーで殴り合ってるから（笑）。

――先ほど道着を脱いだところを見せてもらいましたけど、吉田さんの上半身が凄くデカくなってますよね。とくに背中が凄いなって。

吉田　それも打撃やってるからでしょうね。それとも太ったって言いたいの？

――いや、違いますよ（笑）。無差別級GPに向けて計画的にウエートを増やしたということもあるんですか？

吉田　増やそうと思ってやってるわけじゃ

ないですね。自然の流れに身を任せ。ミドル級で出るときとか、無理して絞ることはありますけど、無理して大きくすることはないです。

——じゃあ、ウエート制限関係なく、自分が一番動きやすい身体になってるということですか？

吉田 わかんない。軽くなったら軽くなったで動きやすいし。だからもう少し絞ったほうがいいかもしれない。

——いま何キロぐらいですか？

吉田 計ってないですけど、100ちょいでしょうね。まぁ、これから練習で絞りますよ。

——お酒のほうは断ってるんですか？

吉田 飲みには全然行ってないですね。飲んでも、飯食うときに1杯ぐらい。だから飲み屋から電話かかってきますよ、「最近どうしたの？」って。「試合じゃ、試合じゃ！ お前らみたいに飲んでばっかいられねえんだよ」って断ってますけど（笑）。

——ダハハハハ！ じゃあ、これまで以上にアスリートらしい生活になってるんですかね。

吉田 歳取ったからそうなっただけですけどね。あんまりそういうこと考えたことなかったから。けっこうみんな神経質にやってますけど、俺は神経質になるのが嫌いなんで。べつにこれまでも、身体に気ぃ遣ってないわけじゃないんですけどね。要は練習して試合して、ストレス溜まらないように身体のことを考えてやるだけなんで。人それぞれ、自分のいいと思うことをやればいいことですから。

——プロになって4年経ちますけど、総合格闘技での自分のやり方っていうのが練習も含めてわかってきた頃ですか？

吉田 わかってはきましたけど、考えてた以上に打撃が難しい。あれは一～二年でモノにできるようなもんじゃないね。もっと最初の頃から真剣にやっときゃよかったって、いま頃後悔してますから（笑）。

——プロ転向当初はあんまり打撃の練習はしてなかったんですか？

吉田 打撃なんて、ただ殴りゃいいと思って、全然やらなかったですからね。

——全然やらずに、シウバと殴り合ってたわけですか（笑）。

吉田 そのへんからようやく気づかされましたね。打撃は力じゃないんだなって。肩の回転とか腰の回転とか、そういったことじゃないですか。それがわかり始めてから、力任せじゃなくなってきましたけど。

——じゃあ、ある意味、いまは打撃おもしろくなってきたっていうのもあるんですか？

吉田 そうですね。っていうか、必要だっていうことがわかってきましたね。

——ようやく（笑）。

吉田 もうホントに前は喧嘩だと思ってやってたから。ビビッたら負けだと思って、下がっちゃダメだっていう、それだけしか考えてなかったから。そのへんが最近ちょっと変わってきたね。ちょっと技術も必要だなって。いまの総合の世界で、打撃がないとお客さんも盛り上がらないし、ちょっと必要だなって気がついて。これは少しやらなきゃいけねえなって（笑）。

——一昨年のヘビー級GPには出場しなかった吉田さんが、今回は無差別級GPに出場を決めたのは、そういった打撃も含めて重い階級でもやれる自信がついたからなんですか？

吉田 いや、今回出ようと思ったのは、オファーがあったから。それだけですよ。

——でも、一昨年のヘビー級GPのときも、もちろんオファーはあったわけですよね？

吉田 ありましたけど、あのときはケガしてたのかな？ なんかダメだったんですよね。まぁ、それに（ヘビー級とは）やってますからね。もともとデカいのとやってるから、あんまり体重とかは関係ないなっていう気がして。ミドル級っていっても、ヴァンダレイとかみんな100キロぐらいから絞って出てきてるわけだし、だから僕も絞って出たいんですけど。ある意味、ヘビー級とか無差別のほうが、気分的に楽っていう部分もありますしね。

——なんで楽なんですか⁉

吉田 ミドル級だと、試合する前にまず減量に打ち勝たないといけないからね、減

柔道時代からの同級生であり、プロ転向後はトレーニングをともにしてきた吉田とTKが揃ってGP出場を発表。この大会に引退を賭けるTKの覚悟と意気込みは、"盟友"吉田にもおおいに刺激を与えているだろう。

吉田秀彦vsヘビー級、闘いの軌跡

2002.11.24 東京ドーム／PRIDE.23
○vsドン・フライ［1R 5分32秒 腕ひしぎ十字固め］
吉田秀彦の総合格闘技デビュー戦の相手は、なんとドン・フライ。戦前はフライの打撃とレスリングに苦戦が予想された吉田だが、パンチを一発ももらうことなくテイクダウンに成功すると、腕十字で完勝！ その実力が本物であることを証明した。

2002.12.31 さいたまSA／INOKI BOM-BA-YA2002
○vs佐竹雅昭［1R 0分50秒 前方首固め］
急遽決定した吉田の第2戦は、K−1日本王者・佐竹雅昭。柔道vs空手の頂上対決として注目されたこの一戦だが、吉田は総合格闘技での経験の差をものともせず、あっさりと前方首固めでタップアウト勝ち。佐竹はこの試合の直後に引退を表明した。

2004.06.20 さいたまSA／PRIDE GP2004 2nd ROUND
○vsマーク・ハント［1R 5分25秒 腕ひしぎ逆十字固め］
鳴り物入りで『PRIDE』転向を表明した、K−1WORLD GP王者マーク・ハントを迎え撃った吉田は、約30キロの体重差と、打撃の圧力、そしてハントの予想以上の総合への対応ぶりに苦戦を強いられたが、最後はキッチリと腕十字で一本勝ち。

減量による精神的、肉体的な苦痛がないから、無差別級のほうが楽ですね

量と試合と2連戦みたいなもんですからね。だから倍疲れるの。
――ああ、なるほど。
吉田　その点、今回は無差別級だから、そういった減量による精神的、肉体的な苦痛がないから、けっこうやりやすいよね。
――体重を気にせず、勝つための練習に専念すればいいから、そのぶん、精神的に楽だと。
吉田　ただ、今回は相手が相手だから、ちょっとビックリしましたけどね（笑）。想像してなかった相手だから。
――西島洋介選手ですよね。でも、「やろう」と思ったからには、何か理由もあるわけですよね。
吉田　それはオファーが来たからですよ。オファーがあればどんなカードでも受けて立つというのが僕の信条ですから。
――なるほど。まぁ、それで実現不可能って言われてた小川さんとの試合までやってるわけですもんね。
吉田　あのときもビックリしましたよ。だって、ボクがそのカード聞かされたの発表の前日ですよ。
――そうなんですか⁉
吉田　前の日に（事務所の）社長に言われて。「は？」とか言って。「向こうがやるっていうんだったら、べつにいいですよ」って言ったら次の日発表（笑）。
――あれだけのカードが、そんな電撃決定でしたか（笑）。
吉田　まあ、社長もボクの性格を見抜いてるから。
――「小川戦決まったぞ」って言われたら、「嫌だ」とは言わないだろうっていう。じゃあ今回もまったく迷わず？
吉田　迷わずっていうかね、ホントに俺でいいのって感じで。
――それは西島選手に対して「一回戦からこんなに強い俺が相手でいいの？」ってことですか？
吉田　いやいや、そういう意味じゃなくて。日本人とやると思ってなかったから、予想外なところがあって。実績のあるヘビー級の外国人選手とやるもんだと思ってたから。
――ある意味ちょっと拍子抜けしたっていうのはありますか？
吉田　拍子抜けってわけじゃないんですけどね。思ってた相手と違ったんで、ちょっとその部分では肩透かしを食らったようなな。でも、決まった以上はその相手と闘うしかないんで。まあ、パンチは練習してるし、打撃系の選手とやりたいとは思ってたんで、いいかなと。グラウンド系の選手だとボクは噛み合わないから。
――そうですか？
吉田　試合がおもしろくない。
――確かに比較的、玄人向けの試合にはなりますね。でも、ウチで読者アンケートをやったら、「無差別級GPで吉田秀彦vsノゲイラが見たい」っていう声が凄く多かったんですけど。
吉田　それはね、ファンが頭の中で想像してるぶんにはいいでしょうけど、実際やったらきっとおもしろくないよ（笑）。
――まぁ、夢の対決というのは、夢のままでいたほうがいい場合もあるんでしょうけどね（笑）。
吉田　そういうのは、お互い決勝ぐらいで

普段は柔道着に隠れているが、見事に鍛え抜かれた上半身をしている吉田。とくにこの背中の筋肉の力強さを見よ！　これでウェートトレーニングはやっていないというのだから、驚きだ。

HIDEHI YOSHI

2005.12.31 さいたまSA／PRIDE男祭り2005 頂-ITADAKI-
○vs小川直也［1R 6分04秒 TKO 腕ひしぎ十字固め］
日本中が注目した禁断の柔道王対決。かつて柔道時代、全日本選手権で対格差をはね除けて小川から殊勲の金星を上げている吉田は、プロのリングでも真っ向から勝負。アキレス腱固めで小川の左足を破壊した上で、最後は腕十字で完璧な決着をつけた。

2005.8.28 さいたまSA／PRIDE GRANDPRIX 2005 決勝戦
○vsタンク・アボット［1R 7分12秒 片羽絞め］
この年、ミドル級GPに出場したものの、一回戦でシウバに惜しくも敗れた吉田が、翌年のヘビー級（無差別）挑戦への布石として、UFCで名を馳せたアボットと激突。片羽絞めで完勝すると「重いほうでもできるかな？」とvsヘビー級へ自信を見せた。

2004.12.31 さいたまSA／PRIDE 男祭り 2004 -SADAME-
×vsルーロン・ガードナー［3R終了 判定負け 0-3］
あの"人類最強の男"アレキサンダー・カレリンの五輪4連覇を阻んだガードナーと、柔道vsレスリングの"金メダリスト対決"が実現。吉田は積極的に寝技に持ち込もうとするが、対格差のあるガードナーの手堅い戦法に大苦戦。悔しい判定負けを喫した。

シウバのパンチは痛いだけですけど西島選手のは一発もらったら終わり

実現できればいいかなって話で。

——ノゲイラのほうは「ヨシダとやりたい」って前から言ってますけどね。

吉田　ノゲイラとかもね、俺みたいな年寄りをイジメるんじゃなくて、もっと若い選手とやりゃあいいんだよ！

——いやいや（笑）。じゃあ、ミルコなんかいいんじゃないですか。打撃系だし、年齢も30代だし。

吉田　ミルコの打撃は痛そうだよね〜。どれぐらいのもんか、やってみたいのはありますけど。ただ、ミルコとは（関係が）近すぎてあんまり嫌なんだよな。

——え!?　近すぎますか？

吉田　ミルコ自身というかね、マネージメントやってる人たちをよく知ってるから。試合となれば関係ないですけどね。

——同じような意味で、日本人同士じゃないほうがいいっていう部分もあるはあるんですか？

吉田　大あり。でも興行として考えるとね、7月にセカンドラウンド、9月に決勝ラウンドがあるから、日本人対決をやってどっちか一人でも残したいっていうのは、主催者側としてはあるんでしょうね。それがわかってるから、主催者側の気持ちを汲んで僕はやります（笑）。

——そうすると主催者側が最も強く望んでいることは、当然9月の決勝まで残ることなわけですけど。

吉田　でも、厳しいよね。決勝には4人しか残れないわけだし。

——しかも当然、勝てば勝つほど厳しい相手になるし（笑）。

吉田　そんなこと、今年37歳になるヤツに要求するなって（笑）。

——そういえば、吉田さんは9月生まれだから、ちょうど決勝大会直前に37歳になるんですよね。

吉田　いいじゃない、無差別級のベルトが誕生日プレゼントで。自分で自分を祝いたいね（笑）。

——いや、もうそうなったら自分自身じゃなくて、日本中の人々がおおいに祝いますよ（笑）。

吉田　でもね、今回ホント最後のチャンスかもしれないんで。年齢的な面もやっぱりあるし、体力的にも。剛が今回のGPで引退するっていう気持ちはわかるけど、僕自身もそういうときが遠からず来るのかなということも少し考えるし。やっぱり二年に1回じゃないですか。今度（ヘビー級のGPを）やるときは39歳ですからね。体力とか気持ちの面とか考えたら、今回が最後のチャンスじゃないかなっていうのはありますし。だからってこれが最後って決めてるわけじゃないですけど。そういうつもりで頑張りたいな、と。

——自分の中ではもう次はないぐらいの気持ちで。

吉田　そうですね。

——これまで吉田さんは、ミドル級のGPに2回出てますけど、そのときは桜庭選手と日本代表二枚看板みたいなかたちで、どちらかに決勝まで残ってほしいという感じでしたけど、今回はおそらく実績からいっても吉田選手が〝総大将〟って感じになってると思うんですよ。

吉田　そんなこと言われてもね、おじさんだよ。剛と同い年なんだから。新しい人が出てきてくれないと、こっちも困りますよ。ホントはカズ（中村和裕）が頑張ってくれたらよかったんですけど、ジョシュにああいう負け方しちゃったんでね。

——カズ選手も、何かもう一つ壁をぶち破れないでいますよね。

吉田　まぁ、でもそれは経験を積んでいくしかないし、とにかく頑張ってくれやって（笑）。

——俺がこんだけ頑張ってるんだから（笑）。ジョシュの名前が出ましたけど、無差別級GPではジョシュやハント、アレキサンダーといった20〜30キロ差の相手との試合も勝ち上がれば当然組まれることもあると思いますけど。

吉田　でも、ジョシュぐらいだったら平気ですよ。１２０キロぐらいまではどうにかなる。

——ガードナーぐらいまでいくと、ちょっと厳しいですか？（笑）。

吉田　あれ１３５キロぐらいでしょ？　もう試合やっててつまんなかった！　途中でイライラしてるのが自分でよくわかったし。

——あのときは、吉田さんがやられそうになるシーンはありませんでしたけど、とにかく〝難攻不落〟って感じでしたよね。

吉田　だってあんなにガード固められてさ、全然前に出てこないでジャブばっかりだからね。そのジャブも当たりゃ痛えし、

手長いしさ。デカい奴にあれやられたら、ねぇ？

—攻めてこないっていうのはキツいですよね。壁に向かってやってるような（笑）。でもその後、去年はアボットに勝って、大晦日は小川さんに勝って、二人の大きい選手に勝ちましたけど、それって自信にはなりました？

吉田　自信……そうですね。ある程度の自信にはなったと思いますし。マーク・ハントとやったときから、ある程度は自信というか、いい経験にはなってるんでね。無差別でやるのにも、そんな不安はないです。

—では、そういった大きな選手とやる前に、まずは一回戦の西島選手との試合ですけど。『PRIDE・31』での西島 vs ハント戦を見た印象はどうでしたか？

吉田　やっぱりパンチも速いし、的確な打撃の強さもあるし。まあ、ホントに打撃中心にっていうか、打撃だけでくるだろうからね、それをいかに僕がかわして……。

—逆にパンチを入れていくか。

吉田　そう。なんか、みんな僕が殴り合うのを期待するんだよね（苦笑）。

—やっぱり西島選手は総合デビュー2戦目だし、まだ練習し始めて一年経ってないですからね。

吉田　だから、見てる人はグラウンドにいったら僕が勝つなと思ってるんでしょ？

—まぁ、多くのファンが「寝技に持ち込んで吉田の一本勝ちだろうな」とは思ってるでしょうね。

吉田　だから、簡単にそう思わせないような試合をしなきゃいけない。それが僕の仕事……なの？

—それがメインイベンターの仕事というか。

吉田　皆さんが「打撃で勝負しろ！」と言うんだったら、打撃で勝負しますよ。

—おぉ～～！

吉田　でも、その結果、俺がやられても知らないですから。

—それはそれで困りますね。じゃあ、打ち合わなくてもいいですから、西島選手がストレートを打ってきた腕をつかまえて、そのまま一本背負いでぶん投げて腕十字を極めるとか（笑）。

吉田　無理だよ！　あり得ない（笑）。

—でも、吉田さんの場合、打撃勝負でいこうと思ってなくても、シウバ戦のように一発殴られたら、身体が自然と「この野郎！」って感じで殴り返しにいったりする可能性もあるんじゃないですか？

1969年9月3日、愛知県出身。92年バルセロナ五輪柔道78キロ級金メダルを筆頭に、数々のタイトルを獲得。02年8月プロ転向後、『PRIDE』マットでも常に真っ向勝負の名勝負を連発。今年は無差別級GP制覇を狙う。180cm、100kg。

HIDEH
YOSH

吉田　シウバの場合は殴られても痛いだけだから「この野郎！」って気持ちになるけど、西島選手の場合、ピンポイントでくるだろうから。的確にアゴを打ち抜かれたら、そこで終わっちゃいますからね。

—西島選手のパンチは、殴り合う前に一発もらったら最後という危険性があるわけですね。

吉田　だから常にアゴ引いてね。デコとかはそんなに殴られても効かないから、べつに殴られてもいいんですけど、こめかみとアゴだけは気をつけないと。

—では、同じ打撃系と言っても、シウバ戦とはまったく違った感じになるわけですね。

吉田　そう。シウバは金槌を振り回してるような感じだから。

—金槌振り回されるのは嫌ですね（笑）。

吉田　シウバって全部フックでしょ？　だから肩とかで受けるじゃないですか。そうすると、試合後、全部青タンだもん。

—肩で受けても青タンですか！

吉田　そう。「ホントに同じグローブなの？」「なんか入れてんだろう」って思いましたよ。

—「見せてみろ！」って（笑）。

吉田　西島選手の場合、そうやってパンチを振り回してはこないだろうけど、一発いいのもらったら終わりなんでね。僕は蝶のように舞い、蜂のように刺す……それは誰も期待してないか（笑）。

—思い切って踏み込んで、パンチを叩き込んでほしいとは思ってるでしょうけどね。

吉田　できれば、やりたいですけどね。でも、そうなると道着が邪魔だなぁ……。

—となると、小川戦に続いて道着を脱ぐ可能性もあると？

吉田　いや、脱ぐとスポンサーに怒られるから。

—大晦日の前もそんなこと言ってましたよね？

吉田　あれで怒られちゃったんだよ（笑）。

—じゃあ、試合中に脱ぎ捨てるっていうのはどうですか？

吉田　それはカズになっちゃうから（笑）。

—後輩のオハコは奪えない、と（笑）。

吉田　そうだなぁ……じゃあ、僕は地肌に道着の絵を描いて出ようかな（笑）。ダハハハハ！

—……。とにかく、無差別級GPでの闘いぶり、期待してます！

【06年4月6日／梅が丘・吉田道場にて収録】

KAZUYUKI FUJITA

［GKインサイドリポート］

5・5 PRIDE無差別級GP参戦

野獣の決断

本当の藤田和之が姿を現わす!!

文／金澤克彦
撮影／菊池茂夫
designed by hisa（TwoThree）

2月1日、藤田和之の年が明けた。6年間お世話になった猪木事務所を円満退団。晴れてフリーとしての第一歩を踏み出すはずだった。ところが、その一歩がなかなか定まらない。踏み止まって、何か逡巡しているようにさえ見えた。

「フリーになって一皮剥けたばかりなんで。剥けたばかりだから、やたら敏感なんですよね。だから何か刺激を与えちゃうと、すぐ暴発するかもしれないじゃないですか（笑）」

久々に飛び出した下ネタは相変わらずのキレ味だ。しかしながら、確かに藤田はナーバスになっていた。「2月中には結論を」と言っていたものが3月まで伸びて、「今月中には答えを出します」と言っていたのに、気が付けば4月も半ばにさしかかろうとしていた。

そして4月13日、遂に答えは出た。戦場は『PRIDE無差別級GP』である。この号が発売する頃には、対戦相手も決定していることだろう。それにしても、なぜ出場決定・発表までこれほどの時間を要したのか？ 改めて、決断に至るまでの数ヵ月を振り返ってみたい。

実際に藤田サイドは、2月の頭から、DSE（PRIDE）ともK—1（HEROS）ともフラットな状態で、同時進行の交渉を続けてきた。そこで思い出すのは、昨年末にも勃発した藤田争奪戦。また、それ以前の話として、藤田は新日本プロレスの1・4東京ドーム大会への

決断の日、藤田はこう言い放った。
「腹は決めました。こんなことを軽々しく言うのはなんですが、男と男の命懸けの約束です」

出場を辞退している。いわゆる〝ドタキャン〟騒動だ。

一方的に、ドタキャン男の汚名を着せられる破目となった藤田。だが、この騒動を招いた一番の要因は、当時の新日本執行部と猪木事務所サイドの不仲、確執にあったことは周知の通り。藤田は被害者だった。なぜなら年末年始の試合出場を睨んで調整を続けてきたにも関わらず、結局どの大会にも名前がエントリーされることはなかったからだ。

1・4ドーム出場が藤田本人のあずかり知らぬところで発表され、本人にギャラの提示もないまま時間ばかりが過ぎていく。さすがに藤田もイラついた。選択肢は4つ用意していたのだ。『PRIDE男祭り』に参戦、『K―1 Dynamite!!』に参戦、新日本1・4ドームに参戦、1・4ドーム&どちらかの大晦日決戦に中三日おいての連続参戦。

ともかくスッキリしない状況を打破するため、1・4ドームを辞退した。ここから、PRIDEとK―1による争奪戦がスタート。当初両陣営にとって、藤田の存在はそれほど魅力的な商品とは映らなかった。一言でいえば、ギャラに見合った視聴率が期待できない、ということ。つまり、猪木事務所の後ろ盾があるから当然、藤田のギャラは高い。一方で、いち格闘家、いちタレントとして見た場合メディアへの露出度はイマイチだから、視聴率にはそれほど繋がりそうもない。使う側にとっては、なんとも厄介なタイプの選手なのかもしれない。

ところが、暮れも押し詰まってくると、両団体は「これでもか！」の人海戦術に打って出た。テレビの視聴率戦争を考えれば、一人でも多く出場可能な格闘家やプロレスラーを動員したいところ。そうなると、残された大物は藤田和之一人だけ。

〝藤田株〟は突然の急上昇。K―1サイドからは、過去にも何度か話題に上ったピーター・アーツ戦のオファーがあったようだ。

PRIDE側の情報は、ほとんど漏れてくることがなかった。後になって、A・ホドリゴ・ノゲイラ戦が濃厚だったとも聞くが、真偽のほうは定かではない。ともかく渦中の男は、12月14日、大晦日を睨んでカリフォルニアへ飛んでいる。もちろん、行き先はいつものマルコ・ファス道場である。

藤田にとって不幸（？）だったのは、すでに猪木事務所が事務所として機能しなくなっていたこと。当時、K―1の谷川貞治イベントプロデューサーが「藤田選手と連絡がつかない。窓口が誰なのかもわからない」と困惑していたのはそのためだ。実はその頃、ある情報が飛び込んできた。藤田の『男祭り』出場が確定し、あとは契約書にサインさえすればすべて完了だというのだ。

私はそれにチラッと触れた。本誌の携帯サイト『kamipro Hand』の金曜コラム（※12月15日に配信）で、「藤田は現段階では『男祭り』への出場が濃厚だろう……」と書いたのだ。元々、このコラムの主旨は、1・4ドーム大会を辞退したことで〝ドタキャン男〟の汚名を着せられた藤田を弁護することにあった。『男祭り』云々はさらりと最新情報を付け足してみただけの話。ところが、そのコラムがアップされた途端、格闘技界周辺は大騒ぎとなったらしい。

熾烈な戦争状態に無頓着なのは、フリーになり立てで現場を離れている私ぐら

KAZUYUKI FUJITA

いであったようだ。その証拠に当日夜、携帯電話が何度も鳴った。着信記録を見ると国際電話で、すべて同じ番号。相手は藤田だった。

開口一番、「金澤さん、何か書いたでしょ!?」と抗議の声。「もう何か報道が出ると、本人が一番疑われるんだから、頼みますよ！ 僕は金澤さんにだって今回はノーコメントで通してきたじゃないですか。なんかあったら、ちゃんと証言してくださいよね！」

わざわざ国際電話で抗議してくるぐらいだから、よほどナーバスになっていたのだろう。実際、藤田は私にも一切口を割らなかった。その後、PRIDEとの契約は一旦白紙とされ、一方で、K－1関係者が直接カリフォルニアまで交渉に出向いた、などという噂も出回った。やはり信憑性のほどはわからない。

いずれにしろ、藤田の大晦日出陣は消えた。年明けの元日午後、藤田に電話を入れてみた。大晦日2大格闘技戦争はテレビでハシゴ観戦していたという。「おせちを食いながら最後まで観ていたら、ほとんど全部食べちゃって。お正月に食べるものがないでしょ！ って嫁さんに怒られましたよ」と笑う。

藤田が一番の関心を示したのは、テレビ未放映の中尾vsヒーリング戦の話題だが、小川vs吉田戦にも強く感じるものがあったようだ。「よかったと思いますよ。最後も軽く抱き合う程度で、馴れ合いにならなかったし。お互いの持ち味が出たんじゃないですか」と評価する。正直、格闘技界はこの大晦日にすべてを結集し、材料を出し尽くしてしまった感がある。少なくとも私はそう感じたし、ますます藤田への需要は高まるように思えた。結果的に、大晦日を音なしの構えでやり過ごしたことは正解だったのではないか？

「それはわからないですね。結果的にそうなっただけで。自分の価値っていうのはなかなか自分自身ではわからないものですよ。ただ、今後に関して言うならね、これが最後のチャンスとは言わないけど、今年が一番大切な勝負の年になるんじゃないかって」

勝負の年、そのスタートへ向けて、猪木事務所を退団。その際、猪木事務所が所有していた都内某所の道場を、藤田は買い取った。フィジカル面のトレーナーには引き続き和田良覚氏が付いてくれたし、交渉代理人は旧知のS氏が引き受けてくれた。練習相手には石澤常光もいる。常にコンディションは維持していた。いつでも行けるよう準備だけは怠りない。しかし、前記したように両団体との交渉がスタートしてから2ヵ月が過ぎようとしているのに、なかなか結論は出てこない。

代理人のS氏はこう説明する。

「マスコミさんにも、DSEさん、K－1さんにもご迷惑を掛けて申し訳ないと思っています。だけど、フリーになった藤田さんが本当に勝負を掛ける大切な契約の第一歩ですから。もう慎重に慎重を重ねて。できる限り、100パーセントに近いものを藤田さんに用意してあげて、最終的に藤田さんに選択してもらう形にしたいんです」

当の藤田は決定の如何に関わらず、4月17日以降には最終調整のため師匠マルコ・ファスのもとへ飛ぶ予定。では、昨年末から少しばかりナーバスになっていた男は、どのような心境で、その時を待っているのか？

「5年、10年と選手を続けられるわけじゃないですけど、この2年ぐらいはしっかり見据えて勝負を掛けたいし、出方を間違えたくはないんですね。やりたい時に体が動かないんじゃ、しょうがないし。こうして2箇所からオファーをいただいて、しかも双方ともいい条件で本当にありがたい。自分が選べる立場でいることが、ありがたいですよ。結果的に、〝鳴くまで待とう……〟みたいになっちゃったかなって。僕はね、今までチャンスの取り合いに参加したことがなかった。考えたこともなかったし。このままでいいや……じゃないけど、特に不満もなかったし。いつも一番前には出られない。それは自分の性格なのかもしれないけど。そうやって待っていたからなのか、継続してきたのがよかったのか、このタイミングで今しかないのかな!? っていう気がするんです。今が本当のチャンスなんじゃないかなって思えるんですよ」

素の藤田が顔を覗かせ始めた。新日本プロレスを電撃退団した2000年初頭からスタートした、藤田の闘い。さかのぼってみると、この6年間で総合の試合を16戦しか消化していないことにも驚きを感じる。その歴史を自ら振り返ってみて、藤田はこんな表現をした。

「2001年＝K－1ジャパン、2002年＝LEGEND、2003年＝イノキ・ボンバイエ、2004年＝ROMANEX、2005年＝新日本プロレスと貴重な体験をしてきました。その集大成として頑張ります」

まるでケンドー・カシンばりのギャグというか、自虐ネタを披露する。新日本は別として、実際にK－1ジャパン、LEGEND、イノキ・ボンバイエ、ROMANEXと、藤田が関わってきた大会はいつの間にか消滅している。思うに、これは単なるジョークではなく、藤田自身の心に深く刻まれたネガティブな結末なのだろう。

当時MMA最強といわれたマーク・ケアーに引導を渡したのは藤田だった。ミルコという怪物を掘り起こしたのも藤田だし、PRIDEのリングでプロレスラー同士によるメインイベント（高山善廣戦）を実現させたのも藤田。右クロスカウンターの一撃で、最強ヒョードルの顔面を切り裂いたのも藤田だし、日本人ファイターとして初めてボブ・サップに土をつけたのも藤田である。しかし、すべては歴史の中の〝点〟に過ぎなかったのか。そう考えると、藤田の存在は常に助演男優賞止まりだったような気もする。

藤田の中にはまだ達成感がない。快哉を叫ぶような完全燃焼には出会っていないのだ。フリーになって初めてそこに気付いたし、欲も出てきた。アトランタ五輪への未練、捨てきれぬ夢を追い求めて総合の世界へ足を踏み込んだはずだった。それなのに、オレは何も残していないし、まだ何も始まっちゃいないんだ！ という、心の叫びが聞こえてきそうだ。

決断の日、藤田はこう言い放った。

「腹は決めました。こんなことを軽々しく言うのは何ですが、男と男の命懸けの約束です」

溜めに溜めたストイックな時間。それが旬のタイミング、周囲の期待感へと見事に化けた。いざ、命懸けで約束のリングへ。

藤田和之とはいったい何者なのか？ 我々はもうすぐ、その本当の答えを知ることになるだろう。

ドキュメント

ミルコ・クロコップ

MIRKO CRO COP

文／橋本宗洋
撮影／乾晋也
構成／堀江ガンツ
designed by hisa (TwoThree)

超人と人間の狭間

5・5『PRIDE無差別級GP』一回戦で、美濃輪育久との対戦が決定したミルコ・クロコップ。しかし、この対戦に向けて彼の肉声は一切入ってきていない。大晦日のハント戦以降、ミルコはこの4カ月間、何を考えていたのか。本誌は全権代理人、今井賢一氏に連絡を取り、ミルコの近況を聞いてみると、今井氏の口から驚くべき真実の姿が明かされた――

"ミルコは無差別級GPに出ないらしい"
"もう試合をする気がないんじゃないか"
"あの男が燃え尽き症候群……!?"

今年に入ってからというもの、そんな噂が格闘技業界を飛び交った。実際には5・5GP開幕戦出場、美濃輪育久との対戦が決まったミルコだが、カード決定の正式アナウンスまで、不思議なくらいミルコ陣営は完全に沈黙していたのも事実だ。自身の希望でスタートさせてもらったはずのブログも、マーク・ハント戦翌日に、自虐的なコメントを残して以来、まったく更新される気配すらない。

ある意味、「敗者には語る資格がない」と常々語っていたミルコらしいと言ってしまえばそれまでだが、本誌でも、しっかりとした形でミルコの記事を掲載するのは『PRIDE・30』(昨年10月)の直前号以来である。

大晦日以降4カ月間 ミルコ陣営の完全沈黙 にはある理由があった

そしてこれらは、故なきことではなかった。ミルコには、明らかな異変が起こっていたのである。ポジティブな話題など表に出てきようがない状態に、ミルコはあったのだ。それはもはや"非常事態"といってもよかった。

発端は、昨年8月のヒョードル戦だった。『PRIDE』参戦以降、最大の目標にしてきた闘い。ミルコ自身が"人生で最も重要な闘い"と位置づけた一戦は、しかし完敗という結果に終わる。

この時点で、ミルコには長期休養を取り、心身ともにリフレッシュして再出発を図るという選択肢もあった。だが、彼が選んだのははわずか2カ月後の『PRIDE・30』出場、ジョシュ・バーネットとの対戦だった。それが"全身格闘家"たるミルコが己に課した宿命だったのだろう。あるいは"一刻も早く屈辱を払拭し、復活をアピールしなければ"との思いもあったはずだ。ただ、そんな過酷な連戦は、ミルコの心と身体を容赦なく削っていった。

本誌91号、ジョシュ戦直前のインタビューにおける「正直言って、(ヒョードル戦の)敗戦後はしばらくリングに上がりたくないような気持ちにはなりませんでしたか?」という質問に、ミルコはこう答えている。

「(しばらく沈黙後)……NOだ。強がりに聞こえてもかまわない。NOだ」

この言葉、もしかするとミルコが自分自身に言い聞かせたかったものなのかもしれない。ヒョードル戦で燃焼しきったはずのファイティング・スピリットを、どうにかもう一度燃やさなければいけない。そんな思いにかられていたのではないか。

ジョシュ戦を判定勝利で乗り切ったミルコだが、やはり身体だけではない、間違いなく心に疲労が蓄積されていたはずだ。今度こそ、休養とリフレッシュが必要だった。そこへ『男祭り』のオファーが届く。大晦日のオールスター戦に、やはりミルコの存在は不可欠。遅々として進まないマッチメイクに「オレはもう出ない!」とキレた時期もあったというミルコだが、最終的にはハント戦のオファーを受諾する。『PRIDE』のため、フジテレビの

(写真・右)昨年8月のヒョードル戦、インターバルで苦しそうな表情を見せるミルコ。左足の甲をよく見ると、大きく腫れ上がっているのがわかる。(写真・上)体調不良、左足のケガを押して出場した『男祭り』でハントに判定負け。(写真・左下)ヒョードル戦からわずか2カ月でジョシュと闘ったが、やはりいつものミルコの動きは見られなかった。

ため、そして何より自分の姿を見たがっているファンのために。いわばハント戦は、ミルコが初めて自分のためにではなく闘った試合だったといえる。

だが、その代償は大きかった。試合直前に高熱に襲われ、クリスマスの段階でベッドに寝たきりの状態。なんとか立ち上がれるまで回復し、12月29日に来日したが、それでも体温計は37度8分を指していた。座薬まで使ってなんとか熱を引かせたものの、体調は万全からほど遠い。さらに、ミルコにはもう一つの大きなビハインドがあった。

左足甲の負傷である。6月に傷めた個所が練習中に再発、大きく腫れ上がっていた。ハント戦で、ミルコがシューズを着用していたのはそのためだ。ミルコの全権代理人を務める今井賢一氏は、決戦前の状況をこう語る。

「K—1時代と比べて、いまは寝技やレスリングの練習にも時間を割かなければいけない。サンドバッグやミットの蹴り込みの絶対量が減って、足の皮膚が柔らかくなっているんじゃないかと思います。でも、蹴りの威力は変わらないわけだから、その衝撃に足が耐えられなかったんでしょう。暮れの押し迫った時期に、シューズを探して駆けずり回りましたよ（苦笑）。試合前日のルールミーティングのときも、誰にも覚られないようにして島田レフェリーにシューズのチェックをしてもらいました。でも、あれだけ腫れていれば、蹴れば間違いなく脳天まで痛みが走るような、そんな状態でしたね。テーピングをするときにすでに痛みに顔を歪めてましたから」

ハント戦後、ミルコは「しばらく何も考えたくない」と言った——

取れるだけの対策は、とりあえず取った。それでも病み上がりで爆弾を抱えたミルコの動きは冴えない。痛みを押し殺して放った左ハイキックも、ハントの強靭な肉体に衝撃を吸収された。

今回、今井氏が本誌に公開してくれた写真には、ハント戦直前のミルコを撮影したものがあった。その光景は「これがミルコ⁉」と目を疑いたくなるようなものだった。控室のベンチに脱力して横たわるミルコ。別カットの傍らにはコスチューム姿の五味隆典の姿も映っていたので、ミルコの出番もまもなくだったはず（五味vsマッハ戦の2試合後がミルコvsハント戦だった）。それでも、ミルコの目は闘志のかけらさえ宿してはいなかった。

もう一枚の写真は、試合直前、入場ゲート裏の様子である。イスに深く腰掛け、いかにもつらそうに床を見つめるミルコがそこに写っていた。戦場に向かう戦士が醸し出す独特のオーラなど、そこからは感じようもなかった。スプリット・デシジョン（1—2）での判定負けは、いわば当然の帰結だった——。

試合後、今井氏はミルコと夜を徹しての話し合いをもったという。話題の中心は当然〝今後〟のことだ。

「春の無差別級GPまでは、試合を組むつもりはない。しばらくゆっくり休んでくれ」

そう言った今井氏に、ミルコはこんな言葉を返したという。

（写真・上）マーク・ハント戦前の控室で負傷した左足にテーピングを施しながら、激痛に顔を歪めるミルコ。ミルコの伝家の宝刀である左足のケガは、想像以上に深刻だった。（左上）試合直前にもかかわらず、まるで敗者のようなミルコ。こんな姿を見せるのは初めてだという。（左下）会場入りした後も一向にテンションが上がっていないのがわかる。

「しばらくは何も考えたくない……」

あれから3カ月あまり、ミルコの新たな公式情報が公開されることはなかった。今井氏も、「こんなにミルコに会っていないのは初めてですね」というほど、長くクロアチアを訪れてはいない。それはつまり、前向きな話ができるような状況ではなかったということだ。今井氏によれば、今年に入ってからのミルコは「完全に燃え尽きた状態」だったという。

無理もない話だ。2003年、『PRIDE』に本格参戦してからのミルコは、ヘビー級の頂点を目指して常人ではありえないほどのスピードで突っ走ってきた。試合数は2年半で17。ノゲイラ戦、ランデルマン戦といった挫折も、直後に復帰戦を行なうことでリカバリーしてきた。ヒョードル戦のあとでさえも、だ。これで〝ツケ〟が回ってこないはずがない。連戦は肉体以上に精神を蝕むともいう。

「いくらなんでも、ヒョードル戦から立て続けにジョシュ、ハントと闘うのはキツすぎた。これで燃え尽きなかったら、ミルコは人間じゃないですよ」

いつもであれば、敗北を喫しても2週間後には再び次の目標へ向けて立ち上がるのがミルコという人間だったはずだと今井氏は言う。ただし今回はそれがないのだ、とも。

「スカッと切り替わる瞬間が、今回はなかったんですよ。いつもとは様子が全然違うんです」

GPが近づいてきても人間から超人へのギアが一向に入らない

2月26日に開催された『PRIDE・31』の直後、今井氏のもとにミルコから連絡があったという。そのときのミルコも、いつもとは違っていた。

「いつもなら『あの試合はどうだった?』、『アイツはどうだったんだ?』って細かく聞いてくるのに、今回はファブリシオ(・ヴェウドゥム)のことしか聞かないんです。ハリトーノフvsアリスターとか、コールマンvsショーグンとか、あの大会には無差別級GPに向けて自分にも絡んでくる試合がたくさんあったじゃないですか。にもかかわらず、まったく気にかけていない。これはかなり重症だな、と……」

この時期、ミルコを巡る練習環境にも変化があった。ミルコの寝技コーチ役も務めるヴェウドゥムは、(グラップラーである)ユノラフ・エイネモとの闘いに備えてブラジルに一時帰国。試合後はスペインでバケーションをすごし、現在は無差別級GPに向けて再度ブラジルに戻っている。ミルコとの絆は切れてはいないが、お互いGPに参戦するとなればそのあいだはライバル。離れて練習したほうがいいだろうという判断だった。

「そういう状況になったら、すぐに連絡してくるのがいつものミルコなんですよ。『オレはいったい、誰と練習すればいいんだ!?』って、スパーリング・パートナーを呼び寄せてくれという要求がくるはず。ところが、いまのミルコからはそんな連絡もない。たまに『ファブリシオはどうしてる?』って聞かれることはありますが、練習相手がいなくても、焦りも感じていないように見えるんです」

心の中でいつも聖火のように燃え続けていたものが消えてしまったようだ。少し闘うことを忘れていたい。それがミルコの偽らざる心境だったのだろうか? そんなミルコの〝完全休養モード〟を見て、クロアチア人の側近、トレーナーやチームメートたちも、我先にと休暇を取り始めた。ミルコがこの数年間休みなく闘い続けてきたということは、彼らもまた同じように張り詰めた闘いの日々をすごしてきたことになる。スタッフたちにとっては、やっと訪れた休息だった。

最高のスパーリング・パートナーであるヴェウドゥムも、あらゆる面からミルコをサポートしてきた側近たちもいない。チーム・クロコップは、一時活動休止状態となった。かつてはオーバーワークで体調を崩すほど練習に熱を入れてきたミルコ。彼の強さやモチベーションは、激しい練習によって支えられてきたといってもいいだろう。その、何よりも大事な練習環境が一時的にとはいえ完全にアイドリング状態に入った。それでもミルコは、それを気にする素振りも見せなかったのだ。

最近になって今井氏に届いたクロアチアからの写真。そこにはミルコ・クロコップではなく〝ミルコ・フィリポヴィッチ〟が写しだされていた。仲間と談笑する姿、レストランのステージで歌うマリアッチとのにこやかな2ショット。これまでであれば、絶対に公開されなかった類の写真であり、表情だった。

3月に入っても、ミルコから練習環境整備を訴える連絡は入らなかった。フィリポヴィッチからクロコップへ、人間から不屈の超人へと切り替わる心のギアが入

MIRKO CRO COP

地元で友人たちと休息を楽しむミルコ。そこには我々の知るクロコップではなく、人間ミルコ・フィリポヴィッチの姿が写しだされていた。

らない。それでも無差別級GPへの出場オファーは、当然のようにやってくる。対戦相手は美濃輪育久。ファンにとっては興味深いカードも、いまのミルコのハートには響かなかったようだ。この対戦カード案を告げられたミルコは、今井氏にこう言ったそうだ。

「相手はミノワ？　オレはそこまでPRIDEに心配されているのか……？　オレはそんなに落ちぶれたと思われているんだな……」

　何かミルコのカンフル剤になるものはないのか。今井氏はGPに向け、ブラジルから新しい柔術家とムエタイ選手を、さらにロシアからも若くて活きのいいキックボクサーを、ミルコの承諾を得ずにスパーリング・パートナーとしてクロアチアに送り込んだという。

「新しい練習相手が来ると、ミルコはまずスパーリングをするんです。相手のレベルの確認もありますが、道場主としてきっちりと上下関係をはっきりさせるために〝示し〟をつけるのが目的です。今回もそうするでしょうけど、いつもなら基本的にはミルコをリスペクトしていて、クロコップチームで日本に行くチャンスももらおうという予定調和を理解している選手たちなんですが、今回はまったく事前の話はつけず、鼻っ柱の強い、一発狙ってるような一匹狼系を、あえてミルコにも相談せずに送りましたから、初日から火花が散るんではないかと……。それでミルコの心に火がついてくれれば……、私はそれに期待しているんです。もう、うだうだとしているような時間は残ってないですよね。まず開幕戦で美濃輪くんに勝たなければ話にならない。『ギルバート・アイブルの二の舞を踏んだら、それこそおしまいだよ』って、ミルコにはそう話しましたけど……」

「GP参戦が正式にアナウンスされたら、試合に向けて、きっちりと調整に入る。俺はプロなんだから、ケンは心配しないでくれ……」

　ミルコはそう語っていたという。だが……。

『PRIDE』で頂点を取るという野望が、そして自分でも抑えきれないほどの〝最強〟への渇望が、これまでのミルコの原動力だったはずである。左ハイキックよりも、寝技技術の上達よりも、何よりもミルコをトップファイターに押し上げたのは「他の誰よりも強かったモチベーション、内から駆り立てる炎の強さ」だった。そこがぐらついているいま、もしかしたらミルコが選手生活で最大の危機を迎えているのかも知れない。

　果たしてミルコは、このまま燃え尽きた姿を大阪ドームのリングに晒してしまうのか!?　いや、ヒョードルを倒し、PRIDEヘビー級のベルトを巻くという野望が達成されない限り、闘志の火種は残っているはずだ。あとはそこに火をつけられるかどうか……。

　答えは、5月5日に出る。

「相手はミノワだって？俺はそんなに落ちぶれたと思われているのか……」

5月5日、大阪ドームでいよいよ開幕する『PRIDE無差別級GP』。ヘビー級王者ヒョードルの参戦こそ、現時点では正式決定していないが、ミルコ、ハント、ジョシュ、シウバ、日本人では吉田、TK、西島、美濃輪、そして藤田和之と、『PRIDE』史上最高、いや総合格闘技史上最高のメンバーが揃った空前絶後のトーナメントとなった。そんなどこを見ても強豪だらけの今大会だが、優勝候補の筆頭と言えば、このノゲイラをおいて他ならない。

一昨年のヘビー級GP。ノゲイラはヒジ関節に負傷を抱えながら手術を先送りにして挑み、決勝で宿敵ヒョードルと激突。〝氷の拳〟と恐れられたヒョードルのパウンドを完封、試合を優位に進めながらバッティングのアクシデントでノーコンテストとなり、その年の大晦日、改めて決勝戦を闘うも今度はヒョードルに研究され判定負け。悲願のGP優勝はならなかった。

その後、ノゲイラはヒジの手術を行ない、昨年はそのリハビリもあったため、試合は6月のパウエル・ナッラ戦のみ。わずか一試合だけだった。

しかし、その間もノゲイラはただ休んでいたわけではない。長年激闘にさらさ

IRA

れた身体のメンテナンスを行ないながら、ヒョードルのパワーに対抗するため肉体改造に着手し、スピードを落とさず6キロの増量に成功。この無差別級GPに照準を合わせ、誰よりも完璧に準備してきたのが、ノゲイラなのだ。

そしていま、無差別級GPを直前に控え、ノゲイラは弟ホジェリオらとともに故郷バイーアで最終調整を行なっている。その模様がここに掲載した写真だが、ここにきて、ノゲイラに二つの問題が浮上してきてしまった。

一つは、スパーリング中、場所は明かせないが、ある個所をケガしてしまったのだ。そのため、現在はスパーリングができない状態。それでもノゲイラは、その状態の中でできる限りのトレーニングを行なっているとのことだが、GP直前にきてのケガは、開幕戦に少なからず影響を与えるだろう。

さらにもう一つの問題は、4月14日現在、試合まで3週間と迫りながら、まだ対戦相手が決まっていないことだ。GP出場メンバーはそれぞれ、違う個性を持った強豪ばかり。当然、対戦相手によって対策も違ってくる。ましてやノゲイラは現在負傷中。その対戦相手に合わせた戦略が当然重要となってくる。

そんな状況のため、チームやマネージャーは危機感を募らせ始めているが、当のノゲイラは、落ち着いているという。

「ボクの目標は一回戦の勝利ではなくGP優勝。誰が相手になってもいいように、できる限りの準備をするだけだよ」

今年6月に30歳の誕生日を迎えるノゲイラ。肉体的にも総合力でもいまが格闘家として一番脂が乗っているこの男こそがやはり、GP優勝候補の大本命だ。

頂点に立つ準備はできている

文／堀江ガンツ　写真協力／ブラジリアン・トップチーム　designed by hisa（TwoThree）

ANTONIO RODRIGO NOGUEI

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

レッドデビルの野望に、北斗の男が立ちふさがる!!

「ヒョードル&アレキよ、オマエタチハ、モウ、シンデイル!!」

無差別級GP一回戦でエメリヤーエンコ・アレキサンダー戦が決定したジョシュ・バーネット!!　アレキの首を獲ることは、すなわち彼の兄であり"皇帝"ヒョードル戦実現への重要なステップになる。いまこそジョシュの真髄をPRIDEのリングに立ち上らせる大チャンスだ!

聞き手／ジャン斉藤　助手／上杉再検査
撮影／菊池茂夫　試合写真／平工幸雄、乾晋也
designed by hisa (TwoThree)

無差別級GP一回戦で"皇帝の弟"と激突!

ジョシュ・バーネット

JOSH BARNETT

ＰＲＩＤＥ乱れしとき、北斗現る――!!

ハリトノーフ、ショーグンが露と消えたＧＰ前哨戦。皇帝ヒョードルの無差別級ＧＰ一回戦欠場。立て続けに大波乱に見舞われている『ＰＲＩＤＥ』のいまを表現すれば、冒頭の言葉になるのだろうか。

いま、"青い目のケンシロウ"ことジョシュ・バーネットへの期待感が大きく膨らんでいる。ジョシュのＧＰ一回戦は、皇帝が二回戦からシードされることなくこのまま不出場となれば"陰の優勝候補"としてその名が挙げられる、エメリヤーエンコ・アレキサンダーに決定。この皇帝の弟を倒せば、無差別級ＧＰ制覇はもちろんこと、兄ヒョードルの影を捉えることにもなる。

今回の決戦に限らず多くのファンがジョシュに想いを託すのは、彼が"ＵＷＦ"をこよなく愛す"プロレスラー"でもあるから……いや、より精確に厳重に審査をすると、彼は"ＵＷＦ"戦士でもなければ"プロレスラー"ですらない。誤解を恐れずに断言すれば、勝手にそれを自称している屈強な格闘家だ。

"ＵＷＦ""プロレスラー"とは何か？　という面倒な定義は前田日明にお任せするとして、いずれも現在の総合格闘技にまったく必要のない肩書き、余計な思想になっている。近年、その純度を増していく総合格闘技との奇跡的な融合、ハードな接触は相当難しくなってきたのは周知の事実だ。

しかし、ジョシュはその余計なものを馬鹿正直に背負い、真剣に思考し、総合格闘技の舞台であぶりだそうとしている。……え？　まったく浮き上がってこないって？　いいんだよ！「視聴率」だ「お茶の間」だ「女性人気」だのなんだというキーワードが幅を利かして浮かれている格闘技界で、「プロレスは最強だぜ！」と一人叫ぶ、そんな愛すべき馬鹿な姿勢が見られるだけで。

ほとんどの男たちがオトナになると打算や計算の末に捨てることになる、青臭い衝動をジョシュはいまでも胸に抱えて闘いに臨む。ボクたちの代わりに闘っているのだ。こうしたドン・キホーテの立ち向かう敵が巨大であればあるほど、我々が彼にベットするコインはどんどん増えていくのではないだろうか。そんなジョシュの決戦直前の声を、『愛を取り戻せ！』をバックミュージックに、神谷明ボイス（阿部寛でも可）で音読してくれ！

ヒョードルが二回戦から出場するのであれば、アレキサンダーに続いてボクが倒す!!

その"陰の実力者"ぶりに、ここ最近、対戦を避ける選手が続出しているアレキサンダー。同じくレッドデビル所属のローマン・ゼンツォフ、友好に関係にあるアリスター・オーフレイムらとともにヒョードル打倒の行く手を阻む"皇帝最強親衛隊"の一員である。倒せるか、ジョシュ!?

――ジョシュさん！　『PRIDE無差別級GP』に向けて調子のほうはいかがですか？

ジョシュ　絶好調だよ！　いまはカリフォルニアでトレーニングしているんだ。どんどん強くなっていく自分を肌で感じるし、身体もグッドシェイプだよ。

――決戦に向けて準備万端なんですね。つい先日、一回戦の相手がエメリヤーエンコ・アレキサンダーに決定しましたが、対戦相手が未定状態でのトレーニングに焦りはありませんでしたか？

ジョシュ　問題ないな。たしかに相手がわからないとトレーニングの照準を絞りづらい部分はあるけど、何よりボクには"イッ、ナンドキ、ダレトデモ、タタカウ！"というスピリットが備わっているから。

――常在戦場の精神がある！　と。

ジョシュ　ボクは常にベストのコンディションでいられるようトレーニングを積んでいるからね。いまは100パーセントのコンディションだ。ハッキリ言う……誰もいまのボクには勝てない！

――ちなみに相手のアレキサンダーについて、兄のヒョードルが「私より強いかもしれない」と発言しています。それについてはどう思われますか？

ジョシュ　たしかに彼は若く、可能性を秘めていると思う。だが、兄を超えられるかどうかはわからない。ボクはまだ彼の最新の試合、つまりパウエル・ナッラと闘った映像を見てないけど、その試合を見ればアレキサンダーの強さも、そして弱点もわかるんじゃないかな。

――もちろんアレキサンダー戦の次も見据えているわけですよね。闘いたい相手は誰かいますか？

ジョシュ　闘ってみたいのは、マーク・ハントだ。彼が賞賛すべきポテンシャルを持っていることは知っているし、最近は闘いの波にもうまく乗っているようだが、彼のグラウンド技術が発展途上だということには議論の余地がない。さらに言えば、ボクはいまがハントの限界だと思っている。ボクと闘えば、それは公然の事実となるだろう。それから、もう一つ。もしこの試合が実現するのなら、プロレスラー対ストライカーの試合になる。歴史は繰り返される……そうだ、マエダ（前田日明）とドン・中矢・ニールセンが闘ったときと同じようなシチュエーション

に！
——相手はやけに太ったニールセンになりますけどね（笑）。噂では開幕戦でノゲイラ戦と報じられてましたよね。
ジョシュ　望むところだったよ。ただ、ノゲイラが屈強な戦士だという事実に変わりはないが、タムラ（田村潔司）戦にはプロとしての何かが欠落しているとしか思えない印象があったけどね。
——ほう。といいますと？
ジョシュ　タムラは彼の対戦相手としては身体が小さすぎた。そこでノゲイラがとった戦法は、ただ単に体格差をうまく利用しただけで、エキサイティングに闘うリスクを放棄したのさ。
——なるほど。そのノゲイラは「ヒョードル、俺が第一グループ。ミルコ、ハントが第二グループ。ジョシュはその下」と言い放ってましたが、その階層分けについてはどう思われます？
ジョシュ　……たぶん、ノゲイラはボブ・サップのパワーボムで脳ミソにキズがついてしまったんだな。ご愁傷様！
——ワハハハハ！　なんてこと言うんですか！
ジョシュ　しかし、ノゲイラはなんてくだらないことを口にするんだろうね。だいたい誰がどのレベルにいるかなどと、ボクの知ったことではない。ファイターがそんなことを気にしてどうするんだ？　忠告する。ノゲイラは自分ことを心配したほうがいい。ファイターの傲慢さは、真剣勝負の前では命取りになるだけだ。
——でも、ノゲイラに言わせると「ジョシュはビッグマウス」ということになるんですが。
ジョシュ　勘弁してくれよ。ボクはノゲイラほどビッグマウスではない。彼こそがビッグマウス。おそらくタコヤキ・ボール（タコ焼き）が30個は入るんじゃないか？
——ビッグマウスの意味が違います（笑）。
ジョシュ　フフフ。タコヤキ・ボールはGP一回戦の開催地オーサカ（大阪）の名物だったね。ノゲイラにぜひチャレンジするよう伝えてくれよ（笑）。
——なぜノゲイラがそんなに挑発的かといえば、『Dynamite!』のボブ・サップ戦の前日に、ジョシュが部屋に来てくれて仲良くなったのに、試合後にマイクを使ってボクを卑下する発言をしたので許せない」らしいんですよ。
ジョシュ　ああ、そう（苦笑）。言っておくけど、ボクは常にプロとしてアクションしているだけだぜ。つまり、彼はボクがリング上で挑戦をブチあげたとき、ファンが何を望んでいるのかをまったく理解してなかった。自分にかかりっきりで、本当に起こっていることには気づきもしないのさ。きっと観客の前で闘って勝ちさえすればいいと思っているんだろう。ファンを興奮させることにも、エキサイティングな試合をすることにも、彼はじつは関心がないんだ。そういった意味で、ノゲイラは真のプロファイターと呼ばれるほどに強くはないと言えるだろうね。
——厳しい発言が続きますね。
ジョシュ　断っておくけど、ボクはノゲイラに対して悪感情を持っているわけじゃない。問題なのは、彼がマイクパフォーマンスを単なる個人的な挑発としてしか受け止めないことなんだ。ボクはどんなに仲の良い友だちとでも試合ができる。なぜなら試合は個人的な範疇に留まるものではないからだ。ファンを巻き込んでエキサイティングなショーに仕立て上げていくということ。それが真のファイターだと思ってるんだよ。
——そういった哲学がジョシュさんの中

ボクは常に観客のファンとしてリングに向かっている。ハートやドリームを分け与えたい！

191センチ＆115キロのジョシュを上回る、198センチ＆117キロのアレキサンダー。ジョシュは体格面での不利はぬぐえないが、かつて211センチの巨人シュルトを二度も極めきった"怪物退治"の経験がある。

『PRIDE.31』では"無差別級GP前哨戦"として、ミドル級の中村カズと対戦。1R8分10秒、裸絞めで一本を極め、PRIDE初勝利を飾った。高阪剛曰く「これまで肌を合わせた中でジョシュが寝技が一番、強い」というグラップルの実力はアレキ戦でも発揮されるのか？

には刻み込まれている、と。その切り替えはたいへんそうですね。

ジョシュ　そういう意味で、ファイターは孤独であると言えるかもしれない。ただ、ボクは彼に対する態度や接し方を変えたことは一度もないが、一つ確かなことは、ノゲイラは真のファイターの成せる業、観客に対するゼスチャーをうまくハンドリングできないという事実だ。だって「昨日まで仲良く話していたのに……」なんて言いぐさは、プロのファイターのメッセージだとは到底思えないし、もっと言えば男じゃないよ！　彼との関係がうまくいかなかったのは、それはもう仕方がないことなのかもね。

——ジョシュさんはリングを降りれば、誰ともでフレンドリーに接するというか、よく〝オタク〟話で盛り上がっているのは耳にしてるんですが……『PRIDE・31』の控室では、エイネモのセコンドとして来日していたヨアキム・ハンセンと音楽の話題で盛り上がったそうですね。

ジョシュ　ヨアキムがメタル好きと知っていて声を掛けたんだ。いろんなバンドの話題で盛り上がったよ。ボクらは二人ともナイトウィッシュのファンということもあってね。彼とは好みが合うようだから、今度〝Sonata Arctica〟というバンドのCD-Rを焼いて持ってくるつもりなんだ。ヨアキムはそのバンドの存在を知らないみたいだから。まあ、メタルの話はしゃべりだすと止まらないからここでストップ（笑）。

——いずれたっぷりと（笑）。それで本題の無差別級GPの一回戦ですが、ヒョードルが右手の負傷で欠場することが正式にアナウンスされました。

ジョシュ　らしいね。もしかしたら二回戦から出場するかもしれないという話も耳にした。

——二回戦からのシードという制度には賛否両論ありますが、ジョシュさんの考えを聞かせてください。

ジョシュ　ボクはチャンピオンがGPに絶対に出るべきだとは思わない。これはあくまで個人的な意見だが、こういったトーナメントでコンテンダーを決めて、チャンピオンに挑戦するというかたちを取ればいいと思う。それに出場するなら一回戦から出るべきで、自動的に二回戦に進むなど、ほかのファイターに失礼な話だ。

——ノゲイラもヒョードルのシード扱いについてはジョシュさんと同意見ですね。

ジョシュ　まあ、こういったことはボクが決めることではないし、ヒョードルが二回戦から出てくるのであれば、アレキに続いてボクがやってやる。ヒョードルだけじゃない。ノゲイラであれ誰であれ、このトーナメントでボクの目の前には立たせない。オマエハ、モウ、シンデイル!!

JOSH BARNETT■1977年11月10日、アメリカ・シアトル出身。02年3月UFC32でランディ・クゥートアーを破り、史上最年少でUFCヘビー級チャンピオンに就く。03年8月、近藤有己を下し、第10代パンクラス無差別級王者に。MMA戦績19戦16勝3敗。191cm、115kg。

JOSH BARNETT

——そういえば、その『北斗の拳』の新作映画が公開されました。来日したらその映画はご覧になりますか？

ジョシュ　時間があればぜひ観たい！　たとえ字幕ナシでもかならず観るよ!!

——さすがですね（笑）。

ジョシュ　字幕がなくても、闘う男たちの愛と魂は伝わってくるからね。それに『北斗の拳』の新作はひさしぶりだから、興奮を隠せないんだ。それでいつの日か、ボクも何かしらのかたちで『北斗の拳』に出られるといいなあ……。もちろん、ケンシロウの役でね（笑）。

——ジョシュさんがケンシロウなら、ヒョードル、ノゲイラ、アレキサンダーはどのキャラに該当します？

ジョシュ　ノゲイラは、南斗聖拳のシンだね。

——シンでいいんですか？　ケンシロウとは〝同じ女を愛した男〟になりますけども（笑）。

ジョシュ　いやいや、彼はボクのことをライバルだと思う気持ちが異常なほど強いから（笑）。それに、彼はシンと同じくトップに立ててない。それはノゲイラ自身、わかっていると思うな。で、ヒョードルは第一の羅将、北斗琉拳のカイオウだ！

——おお！　つまり、ラスボスですね。

ジョシュ　ヒョードルはめったに話さないし、なかなかファンの前に姿を見せない。彼は強くなるためにだけ生き、自分のためだけに勝つ。冷酷なカイオウにピッタリだ。

——ヒョードルが聞いたら怒るだろうなあ（笑）。

ジョシュ　ケンシロウは〝拳盗捨断〟でそのカイオウの拳を粉砕し、見事にやっつけたけど、ボクはトレーニングでヒョードルに勝つ方法を見つける！

——ジョシュ版〝拳盗捨断〟でヒョードルは右手を再び破壊されて、カイオウのように「ぐああ、手……手が、手があ〜!!」と叫ぶ日がくるわけですね（笑）。しかし、そうなると、アレキサンダーはカイオウの弟・ラオウになるんですかね？　ケンシロウとは義兄関係になってややこしいことになりますが……。

ジョシュ　う〜ん。なんだろうな。

——ヒョウという雰囲気でもないし、カイオウ陸戦隊の一人というわけでもなさそうですし（笑）。

ジョシュ　とにかく、ヒョードルを倒すためには、まずアレキサンダーをやっつけなきゃならないことが条件だ。次の試合でかならずクリアするよ。見ててくれ！

——では、最後にファンへメッセージをお願いします！

ジョシュ　ボクは常に観客のファンとしてリングに向かっている。リングから得られるハートやドリームをみんなに分け与えたいし、それが誰かをインスパイアしてくれれば幸せだ。アレキサンダーとの試合にはすべての準備をしていく。そして試合で彼に世界で一番、大事なことを教えてやるつもりだ。

——大事なこと？

ジョシュ　言うまでもないよ……プロレスは最強ということだ！　ヒョードル、アレキサンダーよ、オマエタチハ、モウ、シンデイル!!

【06年4月10日／国際電話取材にて収録】

EMELIANENKO
ALEXANDER

"陰の主役"はこの男!?

1981年8月2日ロシア出身。03年コンバットサンボ世界選手権アブソリュート優勝、アマチュアサンボ公式戦10勝無敗、PRIDE6戦5勝1敗。愛称は"サーシャ"。197cm、117kg。

ヒョードル不在もレッドデビルの攻勢は止まらない!!

GPに忍び寄るアレキの脅威!!

文／橋本宗洋　撮影／乾晋也
designed by hisa (TwoThree)

『PRIDE』は個人競技であると同時に、チーム・バトルでもある。シュートボクセ、ブラジリアン・トップチーム、あるいはチーム・クロコップ。選手それぞれがチームの看板を背負いながら展開する激しい勢力争いも、『PRIDE』における見逃せない要素だといえるだろう。そして今回の無差別級GPで、一大勢力にノシ上がりそうなのがレッドデビルである。ジョシュ・バーネット戦が決定したエメリヤーエンコ・アレキサンダー、『PRIDE・31』でペドロ・ヒーゾを秒殺KO、GP出場が濃厚と噂されるローマン・ゼンツォフ。これに提携関係にあるゴールデン・グローリーのアリスター・オーフレイム、去就が注目されるエメリヤーエンコ・ヒョードルを加えれば、16人トーナメント中、じつに4人がレッドデビル＝ゴールデン・グローリー勢で占められることになるのだ。

もちろん、ヒョードルがどのようなかたちでGPに関わるかはいまだ微妙な状態だが、それでも彼らの戦力はあなどれない。今回、兄ヒョードルに代わって大将格となるアレキサンダー。この男こそは無差別級GPの"陰の主役"とでも呼ぶべき存在なのだ。彼の力をもっとも良く知る人間、つまりヒョードルに言わせれば「私の最大のライバルは、弟のアレキサンダーです」。客観的に見て、ノゲイラ、ミルコ、ハントよりもアレキサンダーのほうが力は上だというのだ。これは決して"身びいき"ではないだろう。少なくとも、アレキサンダーが『PRIDE』のトップに食い込む実力の持ち主であることは疑いようがない。

一昨年夏、ミルコに壮絶なKO負けを喫したアレキサンダーだが、それ以外は『PRIDE』で負けなし。しかもミルコ戦以降は、飛躍的に強さを増した印象がある。ジェームス・トンプソンを12秒で、ヒカルド・モラエスを15秒でKO。昨年の『男祭り』では欧州の柔道王パウエル・ナツラからスリーパーで一本勝ちを収めてもいる。トンプソン、モラエスを葬ったパンチのスピードとキレ。ナツラと8分間休むことなく寝技の攻防を繰り広げたスタミナとテクニック。そして何より198センチ、117キロの体躯と圧倒的なパワー。デビュー当時は腹回りの脂肪が目立ち、スタミナ不足を指摘されたアレキサンダーだが、キャリアを重ねるにつれ欠点は消えていった。ミルコ戦にしても、敗れたとはいえ凄まじい突進力で序盤の主導権を握っている事実は見逃せない。

加えて今回の開幕戦、出場を見送ったヒョードルが、アレキサンダーの全面バックアップに回る。ヒョードルを"皇帝"へと押し上げたノウハウが、すべてアレキサンダーに授けられるのだ。エメリヤーエンコ兄弟は3月にコーカサス地方のキスロボックで高地トレーニングを敢行。そこでヒョードルは、弟に自らの経験で得たミルコ、ノゲイラの攻略法を伝えているに違いない。

アレキサンダーに対して"勝てそうな相手に勝ってきただけじゃないのか?"という見方をする人間もいるだろう。確かに、彼はまだミルコ以外のトップファイターと闘ってはいない。だがそれは、これまでそのチャンスがなかったというだけのこと。おそらくはジョシュとのGP開幕戦が、アレキサンダーが真の能力を満天下に知らしめるきっかけになるだろう。

昨年夏、本誌の取材に答えてアレキサンダーは言った。

「いま世界ナンバーワンの男はヒョードルだけど、次にナンバーワンになるのはエメリヤーエンコ・アレキサンダーだよ」

「待っているだけでもいつかは俺がトップになるとは思う。でも、それじゃつまらないからヒョードル、ミルコ、ノゲイラが強いうちに、来年のGPで頂点を奪いたい」

GPが進むうち、彼のこの言葉が強がりでもなんでもなかったことを、PRIDEファンは思い知ることになるはずだ。

最強皇帝が兄でありトレーニング・パートナー。強くならないわけがない。真ん中のズングリ男がI編集長オキニのローマン・ゼンツォフだ。

WANDERLEI SILVA

ヴァンダレイ・シウバ

歴史に残る試合がしたい だから俺は 無差別級GPに出る!

2・26『PRIDE.31』で弟分であるマウリシオ・ショーグンが腕を脱臼。GP出場が不可能となったのを受け、ヴァンダレイ・シウバがついに無差別級の闘いに討って出る決断をした。はたしてミドル級の絶対王者は、ヘビー級トップファイターを相手にどこまで勝ち進むことができるか!?　ここでは、2月25日、ショーグン負傷前に収録したインタビューをお届けしよう。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

designed by hisa (TwoThree)

DERLEI
LVA

――さて、いきなり核心に入ろうと思いますが、『PRIDE』は今年、5月から無差別級GPを開催しますけれど、この大会にシウバ選手は出場する意思はあるんでしょうか？

シウバ　ああ。俺個人としてはいつでも闘ってもいいと思ってるよ。やはりあと一番大事なのはファンのみんなの声だからね。みんなが俺に「ぜひ無差別級GPで闘ってほしい！」と言うのであればもちろん俺は闘うよ。

――もうファンの答えは決まってると思いますけど（笑）。

シウバ　俺はこれからもいろんなチャレンジをしていきたいと思っているから、ファンが俺に何を望んでいるのか、ぜひ聞いてみたいね。

――『PRIDE無差別級GP』に出るとなると、トレーニング方法というのはいままでと何か変わってきますか？

シウバ　トレーニングの内容に関してはそれほど変化はないと思うけど、体重を増やさなきゃいけないと思ってる。できれば99キロぐらいまで増やしたいね。

――それでスピードを落とさないようにか、そういったことも？

シウバ　もちろんだ。スピードを持続しながら体重だけを増やしたいと思ってるよ。

――シウバ選手はPRIDEミドル級の"絶対王者"として揺るぎない地位を築いています。にも関わらず、倒されるリスクがミドル級より大きい無差別の闘いに、あえて討って出るということにどんな意義を見いだしているんですか？

シウバ　一言でいえば、「神が俺に勇気を与えてくれている」ということに尽きるね。周りからは「神を信じることは試合にはまったく関係がないんじゃないか」と言われることも多いけれど、間違いなくそれが自分の大きな力になっているんだ。神を信じているからこそ、俺はどんな対戦相手とでも闘える勇気を得ることができた。もちろん勝ち負けには関係ないが、まず試合をするにあたっての勇気が大事だと思うからね。

――実際、シュートボクセにはそういった勇気を持った選手が多く見受けられるように感じるんですけど。

シウバ　その通りだよ。シュートボクセの中では軽い選手が体重を増やして、どんな相手でも闘うという気持ちを持つんだ。（ムリーロ・）ニンジャとかね。だから、俺もそういったシュートボクセの姿勢を行動で示したいんだ。

――シウバ選手はミドル級で数々の名声を手にしたと思うんですけども、それともう一つフリーウェイトですべて含めて自分がトップに立ちたいという夢もやはりあるわけですか？

シウバ　ああ。それはファイターなら誰もが持つ夢だからね。以前もミルコ・クロコップやマーク・ハントとも闘ったことがあるけど両方ともいい試合をしたし、俺としては両方とも試合には勝っていたといまでも思っている。ヘビー級に関してはヒョードルとミノタウロ以外はトップファイターとも闘ってるし、これからもいい試合をしていきたい。ただ、やはり無差別でトップに立つために準備もしっかりしなければならないとは思っているよ。

――シウバ選手が無差別級GPに出たらそれこそ夢のカードがファンにとってはいくつもあると思うんですけどもご本人が一番楽しみにしてるカードはありますか？

シウバ　やはりミノタウロとの試合だね。

――ノゲイラですか！　それはなぜですか？

シウバ　俺は常に最高の選手と闘っていきたい気持ちを持っている。ミノタウロはとてもタフで素晴らしいファイターだからね。『PRIDE』の中でも本当に最強の選手の一人だからぜひ闘ってみたい対戦相手だよ。

――ノゲイラ選手というのはブラジルのトップ同士という意味合いもやはりあるんですか？

シウバ　もちろんその通りだね。他の強いブラジル人ファイターもいるけど、やはり

2・26『PRIDE.31』では、弟分のショーグンが腕を脱臼するアクシデントを見て、コールマンを止めるべくリングに乱入したシウバ。GPでコールマン戦もありうるか!?

WANDE
SIL

これまで、ミルコ、ハントというヘビー級トップファイター二人と夢の対決を実現させているシウバ。ミルコとは引き分け、ハントには判定負けだったが、内容的にはどちらもシウバが勝ちでもおかしくない、堂々たる闘いぶりだった。

ヘビー級と闘うことに問題はない ミルコやハントにも俺は勝ったと思っている

俺たち二人はトップを走っている選手だと思うしね。まぁ、でもブラジル人に限らず世界中のファンが注目をしてくれる試合になると思うよ。

――なるほど。今年元旦に『kamipro』で対談していただいたヒョードルはどうですか？

シウバ ヒョードルに関しては闘いたいとは言えないが、無差別級GPというのは、そういった対戦の可能性がある大会なので、出るからにはとくに問題はないよ。

――シウバ選手とヒョードル選手は、ウチで対談をしただけで凄い反響があったんで、これが本当に闘うとなったらとんでもない反響になると思うんですけども（笑）。

シウバ バーリ・トゥードの中では普通の試合と歴史に残る試合があると思う。俺としては歴史に残る、ファンのみんなの心の中に残る試合を常にやりたい気持ちがあるんだ。それは強い対戦相手やタフな試合に毎回チャレンジすることが大事だと思う。俺としてもチャレンジされる側じゃなくて、常に自分がチャレンジをする側にいたいとは思ってるしね。

――シウバ選手はもう5～6年そういう試合ばかり続いていますけど、これだけハードに闘いながら大きなケガはないんですか？

シウバ 非常にいい質問だ。もちろん常にケガはつきものだが、いまはとくにケガのせいで試合ができないってことはないよ。いつかはケガのせいで試合に出られないこともあるかもしれないけど、いまはそんなことは考えたくないね。いまが一番大事なときだから、できる限りケガしないように今後もいい試合をしたいと思うよ。

――『PRIDE』のトップファイターはほとんどみんな手術をして休養を経験しているんですけどもシウバ選手はやはりそのあたりのケアを凄く大事にしているんでしょうか？ 身体が強いんですかね？

シウバ 俺はプロのファイターだし今後もたくさん試合をしたいと思ってるからそういった面でもケアがとても大事だと思うよ。たまに試合をするときにケガのせいで身体が痛かったりとかもあるかもしれないけど、そういうことにあまりこだわらずに試合をすることが大事だと思う。ハードな練習をして、リングに上がればケガなんて忘れるさ（笑）。

――わかりました！ では、無差別級GPで歴史に残るような闘いを期待してます！

【06年2月27日／都内・某ホテルにて収録】

Wanderlei Silva■1976年7月3日、ブラジル・クリチーバ出身。初代PRIDEミドル級王者、『PRIDE・GP2003ミドル級トーナメント』優勝を誇る〝PRIDE絶対王者〟。無差別級GPで、どこまで階級の壁を越えられるか注目される。182㎝、92・9㎏。

5・5大阪ドーム『PRIDE無差別級グランプリ2006開幕戦』直前ニュース!

無差別級GPは開幕戦から、ビッグバン級の衝撃三昧!!

いよいよ開幕が迫った5月5日の『PRIDE無差別級GP2006開幕戦』大阪ドーム大会。右拳の回復が遅れる王者、E・ヒョードルの参戦は見送られたものの、紆余曲折を経て"野獣"藤田和之の出場が決定! かつてない豪華メンバーの集結に話題が集中。締め切りの都合上、全カードを報告できないのが残念だが、史上最高のラインナップの一回戦となるのは間違いなし! GWにはすべてを捨てて大阪ドームに観に来いやぁ～!

"柔道vsボクシング"注目の日本人決戦!

吉田秀彦 VS 西島洋介

プロレスハンターとウルトラヘブンが正面激突!

ミルコ・クロコップ VS 美濃輪育久

皇帝の実弟か? 世紀末覇者か?

エメリヤーエンコ・アレキサンダー VS ジョシュ・バーネット

"格闘宇宙一決定戦"に強豪が続々参戦!

[その他の出場候補選手]
アリスター・オーフレイム
マーク・コールマン
ファブリシオ・ヴェウドゥム
ローマン・ゼンツォフ
ジェームス・トンプソン

『PRIDE無差別級GP2006』出場予定選手
(4月13日現在)

締め切りの都合上、すべての出場選手が確定してないが、引退をかける髙阪剛、ヒョードルへのリベンジを誓うアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ。"中量級絶対王者"ヴァンダレイ・シウバ、西島を倒して波に乗るマーク・ハントなど各地の英雄が勢揃い!

PRIDE無差別級GP2006 開幕戦
2006年5月5日(祝・金)大阪ドーム
開始17:00予定(開場15:00)

[チケット料金(全席指定・税込)]
VIP(専用入場ゲート・グッズ付)100,000円
RRS 30,000円/スタンドS 17,000円/スタンドA 7,000円

[問い合わせ]
ドリームステージエンターテインメント 03-5464-1531

PRIDE TOPICS

"野獣"藤田和之がついに参戦表明!

猪木事務所の閉鎖により、その去就が注目されていた"野獣"藤田和之が、4月14日、都内ホテルで正式に『PRIDE無差別級GP』への参戦を発表した!! いつもはトレーニングウェアなどのラフな格好で姿を現わす藤田だが、この日は珍しくスーツに身を包んで会見場に登場した。

今回の参戦を決めた経緯について、藤田は「各方面からお話をいただいていましたが、命懸けでGPを成功させたいという榊原代表の言葉から熱意を感じて、再び『PRIDE』に上がろうとハラを決めました!」と率直な思いをコメント。また「榊原代表同様、自分も命を懸けてこのリングに上がる覚悟でいます!」と言葉に力を込めた。すでに本誌発売日の時点では対戦相手が決定している可能性は高いが、"ヒョードルを最も苦しめた日本人ファイター"であり、さまざまなリングで死闘を繰り広げてきた経験をもとに、"進化した野獣"は『PRIDE』という舞台で世界の強豪とどう闘うのか? この男に出現によって、『PRIDE』無差別級GPの行方はますますわからなくなってきた!!

五味敗戦、ヒョードルGP一回戦欠場!!
どうなる!?『武士道』&『無差別級GP』!!
DSE榊原代表を直撃!!

桜庭和志にウェルター級GPを獲りに来てほしい!

ドリームステージエンターテインメント代表取締役

榊原信行

今年、大きく飛躍が期待されながら、エース五味隆典まさかの完敗という衝撃のスタートとなった『PRIDE武士道』。地上波ゴールデンタイム放送も取りざたされる中、6月からはウェルター級GP開催も決定。5・5大阪で開幕する無差別級GPも含め、DSE榊原代表の今後の展望をうかがってみました!

聞き手/堀江ガンツ designed by Tani-yan (Two Three)

どうなる!?『武士道』&『無差別級GP』!!
DSE榊原代表を直撃!!

五味選手は負けたことで目標ができたし逆に求心力が増すんじゃないかと思う

王者として初の試合でまさかの一本負けを喫し、連勝記録も10でストップしてしまった五味。この敗戦を五味自身がどう消化し、今後どんな闘いを見せていくか、ここからが五味隆典の正念場だ。

――今日は先日の『PRIDE武士道・其の拾』の総括から、これから開催する無差別級、ウェルター級の両GP展望などをたっぷりうかがいたいと思います！

榊原 よろしくお願いします。

――その前に、と言ってはなんですが、榊原代表は『kamipro』初のPRIDE増刊号『PRIDEわっしょい!!』はご覧になっていただけましたか？

榊原 ああ、見ましたよ（笑）。いい雑誌でしたね。表紙からノゲイラのふんどし姿から始まり、サクとHGの対談、それから……ジョー・サン！

――ダハハハ！　ジョー・サンの写真は代表もかなりお気に入りだと聞きました（笑）。

榊原 いやいや、僕が気に入ったというより、騒いでたのは島田ルールディレクターだよ。なぜか拡大写真ももらったし（笑）。

――じつは島田さんから編集部に「ジョー・サンの写真を大判で焼いてくれ！」って電話があったんですよね。「榊原さんがほしがってるから」って（笑）。

榊原 それで僕があの写真をもらったというわけですか（笑）。

――要は島田さんのゴマスリだったということですね（笑）。まぁ、『PRIDE』は極限の勝負の厳しさという世界観があるからこそ、ああいう破廉恥な構成が映えますよね。そして、先日の『PRIDE武士道・其の拾』では、その勝負の厳しさを改めて見せつけられたわけですけど、あの大会を総括してみていかがですか？

榊原 2006年一発目ということで、いろんなテーマがあったわけですが、結論としては非常に『PRIDE』の世界観が凝縮された、納得のいく大会でしたね。個々のモチベーションが高かったことも良かったし、試合自体も〝十人十色〟じゃないけど、それぞれの良さが出てましたよ。

――確かに会場に来たファンの満足度も高かったと思うんですけど、これまで『武士道』を引っ張ってきた五味選手が星を落としてしまったというのは、正直、大きな誤算だったんじゃないですか？

榊原 いや、誤算でもなんでもありませんよ。『PRIDE』という空間の中では、プロモーターがチャンピオンを守っていくような編成はあり得ませんからね。桜庭和志が勝ち続けたときにも、常に厳しい相手をチョイスして対峙させるカードを組んできましたし。それに『PRIDE』という世界は、五味選手が勝ったから熱がつく、あるいは負けたから熱が引くというのとは違うと思うんですよ。逆に僕なんかは、負けてさらに求心力が増すんじゃないかと思ってるくらいで。

――確かに、負けたことで五味選手に新たな闘いのテーマというか、ドラマが生まれた気はしますね。

榊原 そう考えると、いままでは五味選手と闘わせたい相手を挙げろと言われても、ファンの中で共通の選手が挙がってくることはなかったと思うんですよね。もっと言うなら、五味選手に聞いても答えは見つかっていなかった。だから、逆にこの敗戦を受けてファンも五味選手に託す目標ができたし、五味選手にも明らかな標的ができたわけですよ。だって、次にどんな試合をするのか気になりませんか？

――それはかなり気になります。あの、なんとも言えない焦燥感の先に何があるのかというのは見たくなるというか。

榊原 あそこで五味選手がKOなんかで勝ってたら、みんなすぐに席を立って帰ってたと思うんですよ。でも、どこか帰りづらいような、事実を受け入れがたいような感じというのは、本当の意味でこれまでの『PRIDE』に匹敵するようなインパクトを残したんじゃないかなって。予定調和で終わらなかったのは逆にイベント的にはよかったかなと思うんですよね。

――ただ、『PRIDE』をよく観てるコアなファンにとっては、これからの五味選手の活躍が見たいという期待を持てるような

4・2
PRIDE武士道―其の拾―
有明コロシアム
PUTI REVIEW

●デニス・カーン vs マーク・ウィアー×
［1R　4分55秒　KO］

怪我で昨年のウェルター級GPに参戦できなかったデニスがこの一戦で大暴れ！『武士道』三連勝で今年のウェルター級GP参戦に、堂々名乗りを上げた。

●ジェンス・パルヴァー vs アライケンジ×
［1R　3分59秒　KO］

今成の欠場で急きょ参戦が決定したアライケンジ。パルバーの強烈な打撃に一歩も引かない奮闘を見せ、KO負けはしたものの『武士道』初戦にしてインパクトを残した。

●イーブス・エドワーズ vs 池本誠知×
［2R　判定3-0］

『REAL RETHM』のエース池本が得意のスピードパンチで強豪イーブスと打撃で真っ向勝負。だが勝負は惜しくも池本の判定負けで、名勝負製造機の本領発揮はならなかった。

※他の試合はP138からの4・2『武士道』特集参照

ものだったと思うんですけど、逆に新聞とか地上波をチラッと観る程度の人たちにとっては、もう「五味、何連勝！」という見出しが使えなくなるわけじゃないですか。そのあたりは非常に痛手ではないかと思うんですが。

榊原　どうなんですかねぇ。でも、『武士道』ってそもそも会場に来てくれるお客さんやペイパービューを買ってくれてる人たちに向けた、コアなソフトしか作ってないですからね。そこに力点を置いてきた大会なので、逆にK−1でいう魔裟斗選手が負けてしまったというような影響はないんじゃないかな。それに五味人気がいまピークに達しているわけではまったくないんでね。それより怖いのは、コアファンの中で「なんだよ、DSEは五味ばっかり守って」というような言われ方をすることなんじゃないかと思うんですよ。

——そうなると、『PRIDE』が『PRIDE』じゃなくなる、と。

榊原　……ただ、これだけはどうしても言っておきたいんですけど、僕は五味vsマーカス・アウレリオは絶対反対だったの！

——ダハハハ！　そうでしたか（笑）。

榊原　だって、五味選手が負けるとしたらああいうタイプだろうなってずっと思ってたんですよ。本当、恐れてたことが現実になった感じはしてますね（苦笑）。でも五味隆典っていう人間は、やっぱり自分が実力を認めた選手じゃないと試合を受け入れないわけですよ。五味選手が勝てる可能性の高い選手っていうのもいっぱいいたんだけど、一番リスクが高い人を彼は相手に選んでしまったんだよね。

——まぁ、それでこそPRIDE王者ですけどね。あと『武士道』でやっぱり気になるのはゴールデンタイムでの地上波放送が実現するのかどうかなんですけど。

榊原　それに関してはこれから最終調整しないといけないんですけどね。まあ、去年あたりからフジテレビさんにも言われてたことでもあるし、他局の方からも「うちだったら全試合ゴールデンでやらせてもらいます」って話をいただいてるんですけど。でも、我々のゴールというのはゴールデンタイムで放送することでは決してないですからね。

——それは、具体的にいうと？

榊原　たしかにゴールデンタイムで放送するというのは、自分たちの伝えたいものを100パーセント伝える武器になるとは思いますよ。でも、逆に見せたくないものまで見えてしまう。我々としては「これが『PRIDE』の世界観で、『PRIDE』が自信を持って見せられるソフトだ」っていうのをチョイスして見せたいんですよね。それに一般のテレビ視聴者って会場に来るお客さんと違って、非常に無責任にコメントするじゃないですか。だから、そういう人たちに見せるソフトの作り方と、コアな世界の中で作るソフトはやっぱり違うわけですよ。なので、地上波をどう活用してプロモーションに利用するか、我々が考えるところはそこだと思いますよ。

4月7日、DSEで行なわれた記者会見で、6月4日から開幕するウェルター級GPの出場決定選手として、まずは長南亮、瀧本誠、郷野聡寛の参戦を発表。いずれも83キロ以下の日本を代表する選手だが、ここへさらに桜庭らが加われば、その注目度は格段に違ってくるだろう。

——では、今後も全部が全部ゴールデンタイムで放送するつもりはないと。

榊原　ポイントになる何大会かを、ヘビー級、ミドル級と同じような形でゴールデンにかけていきたいなと思ってます。だから、それを理解していただけるテレビ局とどう向き合えるかでしょうね。

——ただ、五味選手なんかは早くゴールデンで放送して、もっと多くの人に知ってもらいたいという思いはありますけどね。

榊原　『HERO'S』とか『K−1MAX』とかに比べると『武士道』に出てる選手は一般層の知名度は低いと思うんですけど、でもだから『武士道』に出てる人たちがマイナーだということではないと思うんですよ。ただ、『PRIDE』とか格闘技というのはサッカーとか野球みたいに万人受けするような競技ではまったくないんでね。もっとドロドロした魅力というか、ねちっこさも含めて成り立つ競技なんで、好きな人に見続けてもらえればとは思いますね。

——『PRIDE』はそういう熱心なファンの期待に応えてきたからこそ、決して安くないチケットが売れ続けているわけですからね。

榊原　それこそ4点ポジションからのヒザ蹴りとか、サッカーボールキックを禁止できないのは、〝そこまでするのか〟という究極のルールに対応してきたり、その中での凌ぎ合いを見せていきたいからなんですよ。

●ダン・ヘンダーソン vs
三崎和雄×
[2R終了　判定3-0]

ウェルター級王者・ダンヘンにGRABAKAの実力者・三崎が挑戦。ダンヘンの強打を受け流し、フルタイム闘い抜くも惜しくも僅差の判定で大魚を逃した。

●フィル・バローニ vs
近藤有己×
[1R　0分25秒　KO]

ついに近藤のウェルター級参戦が実現!! 圧倒的勝利が期待されたが、なんと開始25秒でバローニの弾丸フックが近藤を破壊!　近藤まさかの敗戦に会場も言葉を失なった

●郷野聡寛 vs
キム・デウォン×
[1R　4分00秒　腕ひしぎ十字固め]

韓国柔道強化選手であり『武士道』初参戦のキムに、郷野が教科書通りの腕十字で一本勝ち!!　試合後はいつもの通りの郷野劇場で微妙な盛り上がりの中GP出場をアピール。

●パウロ・フィリオ vs
ムリーロ・ニンジャ×
[2R　判定3-0]

通常ミドル級で闘ってきたニンジャが10キロ以上搾って強豪パウロと対戦。しかし、この“裏ウェルター級GP決勝戦”を制したのは“ウェルター級のアローナ”パウロだった。

どうなる!?『武士道』&『無差別級GP』!!
DSE榊原代表を直撃!!

そこをやっぱりいわゆる一般の視聴者の人たちに迎合したりしたら、大きい声では言えないけど、○○○を出すことになっちゃうんですよ（笑）。

——そうですか（笑）。

榊原　○○○を出すというのは、テレビの数字を取ること以外に何も理由はないでしょう？　○○○の試合見たさに何万円も払って会場に行かないもん。ただ、『PRIDE』としても地上波の中で何千万人の人に見てもらう機会は当然手に入れたいし、地上波での露出自体を否定してるわけじゃなく、それは本当にバランスだと思う。だから、年に何回かはウェルターもライトも世界トップクラスの本当の真剣勝負を地上波で一般の人たちにも見せていかないとね。それ以外のレベルでやってる大会と一緒だと思われると、我々も癪に障りますからね。

——癪に障りますか（笑）。そうなると、今年の『武士道』はウェルター級GPを開催するわけですけど、それをゴールデンで放送するからには、何か大きな目玉はあったりするんですか？

榊原　それこそ、この階級に新しい勝負の場を求めて世界を獲りに来る日本人選手が、近藤選手以外にも出てくるんじゃないですか。我々としてもウェルター級GPを開催するからには「ひょっとしたら優勝するかもしれない」という期待感を持たせる日本人選手を送り込みたいですから。いまの日本人選手のラインナップの中では、ライト級でいう五味選手のような存在はいないじゃないですか。だから近藤選手も含め、いままでミドル級のトップ戦線で闘ってたような日本人選手が参戦すれば、ウェルター級も混沌としてくるんじゃないかと思いますし、そういう選手の参戦も含めていまは最終調整中ですね。

——その〝ミドル級で活躍していた日本人選手〟の中で、ウェルター級GPに参戦が最も望まれるのは、ズバリ桜庭選手だと思うんですけど。

榊原　まあ、5月から無差別級GPもスタートしますけど、桜庭選手が無差別、ウェルター両方闘うっていうのは無理ですからね。

——それは無理すぎます（笑）。桜庭選手に本来、85キロぐらいで闘ってきた選手ですから、ウェルター級GPは本来ピッタリなんですよね。

“グレイシーハンター”と呼ばれ、破竹の連勝を続けていた時代（99年～01年頃）は、84～85キロの体重で闘っていたサク。適正体重のウェルター級に転向し再び輝くことを多くのファンが期待している。

2・26『PRIDE・31』では、無謀にもヘビー級のトップ、ノゲイラに真っ向から挑み完敗を喫した田村。しかし、ファンがいまの田村に求めているのは、適正体重でのギリギリの勝負であるはずだ。

榊原　まあ、美濃輪選手みたいに階級にとらわれない闘いを期待されてる選手は無差別でもいいと思うんですけど、桜庭選手の場合、ファンからしたら本当に勝利を期待して、それに結果で応える姿を見たいですよね。桜庭選手の中では、どうしてもミドル級でやらないといけないという観念にとらわれている部分もあると思うけど、もう一つ階級を下げてやったほうが逆に桜庭選手との闘いを見たい選手が出てくると思うんですよ。サクにとっても新しい世界が見えてくるだろうし。まぁ、どうなるかはわかりませんけどね。

——桜庭選手だったら王者ダン・ヘンダーソンから一本取ってくれるんじゃないかという、期待感も当然ありますからね。

榊原　三崎選手もこのあいだ本当に頑張ったんだけど、あれってスタンディングだけの勝負だったじゃないですか。でも、桜庭選手だったら打撃と寝技をミックスして、トータル的に闘いをコントロールできるテクニックを持ってますからね。ダンなんかがこの前みたいに2ラウンドでハアハアいってるようだったら、桜庭選手もテイクダウンとって絞められるような展開が開けてくると思うんだよね。

——そういう意味でも、階級を落とすというのは決して後退じゃないですもんね。

榊原　本人は「逃げるのが嫌です」とか言うんだけど、逃げたんじゃないじゃないですか。ヴァンダレイと再戦したいのなら、ウェルター級王座を獲った後、またミドルに転向してもいいことだからね。ファイターとしてはファンに期待感を持ってもらえる試合で答えを出すことのほうが大事だと思うんですよ。だから、彼の中にあるいまの階級に対するこだわりを充分理解しつつも、地道に洗脳活動してるんですよ（笑）。

——洗脳中ですか（笑）。

榊原　ええ。サクには「無差別級GPに出るなら一回戦はスーパーヘビー級の選手だよ」って言ってあるからね（笑）。

——ヘビー級ですらない（笑）。

榊原　だって、無差別級ってそういうことでしょ？　本人は「いやぁ、〝スーパー〟まではちょっと……」なんて言ってたけど、無差別に出るからには、そうなる可能性も当然入ってきますからね。

——その洗脳はかなり成功率が高そうですね（笑）。その勢いで、ついでに〝赤いパンツ〟なんかも洗脳できませんか？

榊原　究極のことを言うと、トーナメント表の端と端に桜庭選手と田村選手がいてくれたら完璧ですよ。そこに若い日本人もいて、外国人もニューカマーも含めて入り交じったら、無差別級の16人を凌ぐGPになると思う。

——実際、そのメンツならいったい誰が勝ち進むのか、優勝予想も難しいですもんね。この階級で誰が一番強いのかを決めるためにも、本当にトーナメントをやる意味があるというか。

榊原　そうですね。やはり優勝争いが混沌としているほうが、ウェルター級GPの熱は高くなってくるでしょうし。

——では、昨年以上の盛り上がりを期待してます！　そして、その前にいよいよ無差別級GP開幕が迫っていますが、こちらは正直、『PRIDE・31』の結果でずいぶん予定が狂ったんじゃないですか？

榊原　狂いましたね（苦笑）。少なくとも、マウリシオ・ショーグンには残ってほしかった。負けてもいいんだけど、ケガをした

究極的にはトーナメント表の端と端に桜庭、田村がいてくれたら完璧ですよ

亀田くんには早い回にKOしてもらって そのまま視聴者がスライドしてくれれば（笑）

のは大きな誤算でしたね。
―ショーグンこそ、ミドル級の選手でヘビーの中に入ってもトップを狙える期待感がある選手でしたからね。
榊原　それから初参戦のエイネモも、もう少し活躍してくれるかなと思ってたし、あとは、ハリトーノフがケガしちゃったのも誤算と言えば誤算かな。だけど、プラスに考えたら新しい選手が出てこられる機会も増えたわけだからね。階級を超えた中での16人なので、とくに一回戦は無差別級の特徴を活かしたようなカードを組んでいきたいなと思いますけどね。
―だから今回のGPは本当に最強を決する場でもあり、オールスター戦的なお祭り感というか、おもしろさもありますよね。
榊原　それと、格闘技の根源的な魅力を掘り起こしたい。やっぱり「柔よく剛を制す」というような、小さい人が大きな人と対峙した場合にどうなの？　っていうのを見せたいですね。圧倒的な肉体的ハンディキャップはあると思うんだけど、「本当に大きい選手が強いのか？」っていうのは原点に帰って突き詰めたい。だから、美濃輪選手と対戦するミルコなんかは意外と苦戦するかもしれませんよ。
―美濃輪選手の場合、何が飛び出すかわかりませんからね（笑）。
榊原　ハイキックの軌道だって、いつもヒョードルとかノゲイラに出してる角度とは違ったりするわけだから。美濃輪はモチベーションも高いし、また前転で入ってくるかもしれないよ（笑）。
―ダハハハ！　それはミルコはかなり意表をつかれるでしょうね（笑）。
榊原　セオリー通りで向き合わないことが小さい人には必要なんだろうし、そういう知恵をいっぱい使うと本当に何が起こるかわからないと思うんですよ。それはまた違った意味で選手の魅力を引き出す機会になればな、と思うし。
―現時点でもかなり期待が持てる大会なわけですが、一番気になるヘビー級王者ヒョードルというのはGP参戦はあるんでしょうか？
榊原　5月の一回戦は間に合わないというのは確かですね。ですから一回戦はシードにして、二回戦からの参戦を考えています。いままでの実績から言っても、彼がシードになることに異論はないでしょうし。二回戦から参戦してくれればいいようにしようと思ってるんですけども。
―7月の二回戦までには、ケガは回復できそうな感じなんですか？
榊原　2月の時点でリングドクターにも診てもらったんですが、おそらく7月には大丈夫でしょうという診断はもらっていますから。手の中に入れてるプレートをとってもう一度くっつけるための時間が必要になりますけど。だから、一回戦始まる前にもう一度診断してもらって、最終的に7月に出られるかどうかを決めようと思ってます。
―そうじゃないと一回戦に組む試合数も7試合にするのか、8試合にするのか変わってきますもんね。
榊原　それについては、5月5日にリザーブマッチも含めて8試合組んで、勝ち上がった8人の中からファン投票で7人に絞ろうかとも考えてるんですよ。もしヒョードルが二回戦にも間に合わないようなことがあったら8人全員が二回戦に上がればいいし、ヒョードルがシードとして二回戦に入ればファン投票で一人をリザーバーにするというのもありだろうし。まあ、一回戦には本人も来日しますので、そこで正式決定するということになるでしょうね。
―わかりました。ところで、大会当日は『PRIDE』vs亀田興毅のテレビ対決という闘いも一部では話題になってるようですが（笑）。
榊原　ハハハハ！　同じ日だもんね。
―5月5日は当日地上波放送はあるんですか？
榊原　やりますよ！　当日21時から。亀田くんの試合が19時からだから、ちょうど終わった頃に『PRIDE』が始まるという感じかな。
―亀田選手は「視聴率で『PRIDE』と勝負したる」みたいなことを言ってるみたいですよ（笑）。
榊原　本当⁉　それは怖いね～。前回も凄い視聴率取りましたからね。でも、亀田くんの試合は相手がまたランキング30位とかの選手ですから、早いラウンドで終わってもらって、そのあとゆっくり『PRIDE』を観ていただけたらと思いますけど（笑）。
―相乗効果を狙って（笑）。
榊原　亀田くんがたくさん視聴率取って、その視聴者がそのまま『PRIDE』にスライドしてくれたらいいな、と（笑）。でも亀田くんに関しては、本当の格闘技ファンやボクシングファン以外の支持が非常に大きいんでね。ちょっと僕らとは目指すものが違いますから。やっぱり『PRIDE』は格闘技を愛してくれる人たちのものでありたいですよ。そうしないと長続きしないと思うし、そのあたりはバランスをとっていきたいですね。
―わかりました。では、無差別級、ウェルター級、その他もろもろ楽しみにしてます！

【06年4月6日／DSEにて収録】

その過剰すぎるほどのゴンタくれキャラと、未知のタイ人ボクサー相手の破竹の連勝で、"一人『Dynamite!!』状態"の人気爆発ぶりを見せている亀田興毅。3月のボウチャン戦では瞬間最高31.8パーセントという驚異的な視聴率を上げており、『PRIDE・GP』と同日放送の次戦もおおいに注目される。

PRIDE武士道 2006年スケジュール

6月4日（日）
さいたまスーパーアリーナ
PRIDE 武士道 ― 其の十一 ―
PRIDEウェルター級グランプリ2006 開幕戦

8月26日（土）
名古屋市総合体育館レインボーホール
PRIDE 武士道 ― 其の十二 ―
PRIDEウェルター級グランプリ2006 2nd Round

11月5日（日）横浜アリーナ
PRIDE 武士道 ― 其の十三 ―
PRIDEウェルター級グランプリ2006 決勝戦

言うちゃ悪いけど今月の直言!!

五味、ショーグン、ハリトーノフは滝に打たれて"殺し"を身につけろ!

プロレス・マスコミの"生きる伝説"

I編集長の

喫茶店トーク ラウンド

2・26『PRIDE.31』でマウリシオ・ショーグン、セルゲイ・ハリトーノフがまさかの敗戦を喫したのに続き、4・2『PRIDE武士道─其の拾─』では、なんと"絶対王者"五味までもが完敗! この異常事態続きのPRIDEマットをI編集長が、言うちゃ悪いけど今月も熱く熱くブッタ斬ります!

聞き手/堀江ガンツ　designed by bun-chan（Two Three）

I編集長とは?

井上義啓。元『週刊ファイト』編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けたプロレス者の数は計り知れない。70歳を越えたいまも、毎日、プロレス&格闘技のことを考える哲人だ。

——さて、井上さん。今月はあまりにもお聞きしたいことが多すぎて、どれから始めたらいいか迷ってしまうのですが……。

井上 まぁ、テーマが多いに越したことはないでしょう。5・5大阪ドームでヒョードルがビタリ・クリチコとどつき合いの大ゲンカをやらかすという極秘情報でもあれば、それだけで何時間でもトークできるがね（笑）。

——そんな妄想の世界は横に置いておくとして（笑）。この前の4・2『PRIDE武士道・其の拾』で五味隆典がマーカス・アウレリオに肩固めで敗れたという現実的なお話から。

井上 なぜ五味が負けたか。これはもうハッキリ言うたら、〝殺し〟の欠如ですよ！

——〝殺し〟の欠如！ いきなり、そこへいきますか（笑）。

井上 あの日の五味には〝殺し〟の気配がぜ～んぜんなかったからな。

——確かにモチベーションの低下はウワサされてましたが。

井上 胸を出して、相手に押させるというぶつかり稽古では駄目なんだよ。五味は2月の『PRIDE・31』でマウリシオ・ショーグンとセルゲイ・ハリトーノフがあっけなく負けた試合をどう見ていたのだろう。「〝殺し〟が欠如していたからだ」。私は大声でそういったぞ！

——耳にびんびん残っております（笑）。

井上 だから言うたら悪いけれども、五味は俺の書いたものなど、まるで読んでないんだよな！

——五味はこのページを読まなきゃダメですか！（笑）。

井上 そりゃそうですよ！「ライターは書いていくら。それはワークであって、そんなものを読んでいるヒマなどあるか」などと言っているから、あんな不始末をやらかす羽目になる。書かれたもの、それがド素人のたわ言であっても、そこから大事なものをつかみ取るという基本姿勢が必要なんだよな。五味の負け方とハリトーノフのそれとはまったく同じじゃないか！ ウェルター級の近藤有己も負けた。五味も負けた。「勝負は時の運さ」などと言っておしまいにしていてはならない。マスコミがファン教育をおろそかにしておくから、こういった馬鹿げた現象が生じる。『kamipro』にも、責任の一端はある。

——あ、うちにもありますか！

井上 キミんところこそ、チームリーダーとして『PRIDE』を引っ張っていかなければならないんだ。それができてない。

——それは井上さんにお任せします。まぁ、そんな大それた責任論は、いつかヒマなときに、ゆっくりとおうかがいするとしまして（笑）。やはり五味の敗北は気迫の弛みからですかね。

井上 ライト級のチャンピオンベルトが与えられた。同時にトーナメントの覇者との称号も与えられた。こうなると、目標がなくなってしまって、スコーンと気が抜けるもんなんだよな。ひどく人間らしい話で、現実論の最たるものとはなるが、だから人間、滝に打たれてでも気を引き締める壮絶な精神修行がいる。

——五味は滝に打たれろ、と（笑）。

井上 ショーグンにしても、負けることはないとマーク・コールマンに向き合った。「相手はロートルだ。ちょっと試合を長引かせれば、滝のような汗をかいて、すぐ息があがってしまうよ」。ヴァンダレイ・シウバと冗談口を叩き合っているジムでの風景が目に浮かぶだろう。

——じつに想像が豊かですね（笑）。

五味は俺の書いたものをまるで読んでない　だから、ああいうことになるんだよ！

井上 ショーグンが花道に出てきたときのビデオを巻き戻して見てみろよ。ニヤラホヤラとして、これから生きるか死ぬかの大ゲンカをやらかす若者の顔とはほど遠いふやけ方だ。

——確かに、そう見えましたね。

井上 だから、胸を出して「さぁ、ぶつかってていらっしゃい」だ。コールマンのほうは必死の目だったから、一気にゴングと同時に飛びかかっていった。それがあのアクシデントにつながった。ショーグンが頬をピクピク痙攣させてガーッといっていたら、勝負はあっけなく終わっていただろう。ハリトーノフにしても、ゆったりと見すぎたよ。アリスター・オーフレイムは103キロもあり、ヘビー級と変わるところがなかったし、あの豹のような敏しょうさだ。一気にテイクダウンされてサイドポジションを取られてしまった。五味も同じで、ああなると、いくらもがいても脱出は不可能だ。

——五味は今後、どうしたらいいのでしょうか？

井上 ベルトを返上することだな。そうすれば、心がビシッと引き締まる。やってやる！ との気迫も生じる。いまのままだと、次の試合も同じモチベーションのままだとなる。チャンピオンは受けに回ってはならない。常にチャレンジャーであるといった精神構造でないとね。

——でも、返上までしちゃいますか（笑）。

井上 私は五味に対して「ライト級の城を守れ。上のクラスの選手とは闘うな」と言ってきた。しかし、いまとなってはウェルター級の強い選手とやってもいいように思える。いや、そうでもしないと、電気が全身に走らないような気がするんだ。対格差を越えてダン・ヘンダーソンのベルトに挑戦するといった姿勢こそ、五味には似つかわしい。

——そのウェルター級ですが、6月から『ウェルター級GP』の開催と決定しました。近藤の巻き返しを考慮に入れても、何かもう一つピーンとくるインパクトに欠けるのですが。

井上 欠けるねぇ。これはもう負けたらファイトマネーなしという、フランスの若者雇用法案まがいのキツーイ手に出ないと駄目だ！

——負けたらファイトマネー没収ですか！

井上 魔裟斗が「トーナメントの優勝賞金を3倍の3000万円に上げてほしい」などと口走っているが、闘う側に、いま述べてきたような、切羽詰まった精神状態がない。もう少し、血を流せ！ 血へどを吐け！『PRIDE』もK―1もかったるいんだ！ とくに、この前の五味と近藤にはそれが言えた。トップクラスの選手に出場してもらうのは骨の折れる交渉だが、一度、主催者側、選手側が一堂に会して話し合う必要がある。そうしないと、ファンにかったるさを見抜かれてしまって、下降線を辿ることになる。

——それだけでウェルター級GPは盛り上がりますかね。

井上 いや駄目だ！ 他流試合が必要だ。

——他流試合！

井上 そう。ウェルター級は、ヘビー級、ミドル級の下にランクされている。どうしても重いクラスに目を奪われてしまって存在感は希薄だ。だから、上のクラスへ乗り込んで、勝てないまでも話題を作る必要がある。いまのヘビー級に、ミドル級の強いのがワンサといるから骨だが、それを避けていたのでは重いクラスに何もかも持っていかれて、GPなど盛り上がらない。無差別級の設置はなんのためなんだよ。ガンガ

ン行け！　その中から「ヘンダーソンなんか大笑いだ」というような強いのが生まれる。ぬるま湯に浸かっているヘンダーソン、近藤の顔が目に浮かばないか。

——想像力が欠如しておりますので（笑）。

井上　（無視して）下からの挑戦も受ける。だがポイントは上のクラスとの大勝負だ。これなくしてウェルター級を作った意味などない。

——ところで、先ほどから話に出てくる無差別級GPですが、ヒョードルの参戦が危ぶまれているわけで、今大会のテーマがトーンダウンしかねません。どんな手があるのでしょうか。

井上　何かファン不在の場所でどんどんカードが決まっていくみたいだけど、ファンの観たいカードを中心に据えてのマッチメイクを遅まきながら取り入れる必要があるな。俺はハリトーノフvsアレキサンダーといったカードを考えていたんだが、アレキサンダーの対戦相手がジョシュ・バーネットに決まってしまった。ジョシュはラスベガスの試合あたりで強いのとぶつければいいので、アレキサンダーとのカードはベガスでやってほしかった。やはり、ヒョードル欠場となれば、この穴を埋めるインパクトとして、ハリトーノフにアレキサンダーをぶつけるのが最上策だ。そうすれば、ヒョードルにも出番が与えられる。セコンドとしてハリトーノフとやり合えば、欠場など吹っ飛んでしまうよ。

——ヒョードルとハリトーノフの場外乱闘ですか！（笑）。

井上　何せ、現在の『PRIDE』の核はレッドデビルとロシアン・トップチームのいがみ合いにある。この目玉商品をケロっと忘れているんじゃないか。ヒョードルが出場するのなら、こんな出しゃばり方はしない。出ないのだから、それに代わる影武者が要る。いまからでも遅くはない。「ハリトーノフvsアレキサンダーの無制限一本勝負にします」と発表し直すことだな。また榊原社長からにらまれるかな（笑）。

——以前から、DSEの意向に反した仰天提案ばかりしていますからね。当方といたしましても、困惑しているのですが（笑）。

井上　おおいに困惑しろ（笑）。それくらいの血が噴き上げるぐらいのやり取りがないと、プロ格闘技はすたれる。誰も話題を作ろうとしないじゃないか！　気に食わんことは書くな。取材拒否を食らわすぞでは『PRIDE』もK—1もすたれる。ああだこうだ騒ぎまくれ。そうしないと、カードの発表、試合結果だけで終わってしまい、トーンダウンはどんどん進む。力道山が言ったぞ。「少々悪いことでも書かれたほうがいい。そうすれば話題になって、みんなの目がプロレスに集まるからな」と。さて、力道山と榊原社長、谷川貞治FEG社長の器量の違いとは何か。これ、次号の『kami pro』のテーマ。

かつては同じロシアン・トップチーム期待の新星として、ともに練習し仲も良かったハリトーノフとアレキサンダー。しかし、いまやチームも分かれ犬猿の仲の二人がいま激突したら、壮絶な一戦になることは間違いないだろう。

ハリトーノフはアレキサンダーと試合して セコンドのヒョードルと大ゲンカをせよ！

——勝手に編集方針を決めないでください（笑）。ところで、5・5と言えば、プロボクシングの亀田興毅が世界前哨戦を同日にぶつけてきました。テレビの視聴率がどちらが上かと騒がれていますが、この件について。

井上　渡りに船じゃないか。しかしプロボクシングと『PRIDE』では、やはり世間の認知度で違いがある。世界前哨戦とはいえ、あれだけ大噴出している人気ボクサーの興毅のほうが数字を取るのは目に見えている。何かプロ格闘技界は視聴率視聴率と騒ぐが、そんなことはお門違いなんだよな！『PRIDE』はそれらしい数字を取ればいいので、よそ様のことはどうでもいいんじゃないか。プロレス村と同じで、一般社会に認知され始めたとはいうものの、やはりプロ野球、Jリーグ、プロボクシング、大相撲とははっきり一線を画して、別の存在体として位置づけを強固に持っていくことだ。張り合う必要なんかない。ただし、K—1はライバルだから、張り合うことでインパクトが増す。K—1とのベガス戦争なんて、おおいにやることだ。そのためにも、マスコミを利用してじゃんじゃん書かせる必要がある。何か両方ともおとなしいんだな。私だったら、ライバルの御大と密かに会って、あれこれ策を練るがね。それは決してファン欺瞞なんかじゃない。営業担当は常にコンタクトを取り合い、マスコミ、ファン対策を講じるべきだ。

——そこまでやりますか（笑）。

井上　無差別級GPにしたって、マスコミの盛り上げ方が弱い。これでは、いくら『kami pro』が躍起になったって無理だ。なんの手も打っていないからだ。……あ、そうだ。忘れていたことがある。

——なんですか？

井上　五味が立ち直るにはどうしたらいいかというくだりだ。ハリトーノフもだが、とくに五味はグラウンドテクニックが課題だ。下になっても脱出できる裏技をマスターする必要がある。ノゲイラ兄にでも弟子入りすることだ。日本にいたのでは駄目だよ。桜庭みたいに、思い切ってブラジルにでも出かけて、一からやり直す根性が必要だ。

——具体的に言うとどうなりますかね。

井上　たとえば下から相手の逆関節を取って強引にねじ曲げるといった裏技だな。手首をつかんで逆方向にねじるという手もある。カール・ゴッチはわからないように、相手の小指をねじっていた。とにかく、反則すれすれの手を使わないことには、あの体勢からの脱出は無理だ。もうパンチだのキックだのはいい。いかにして、下になったときに脱出するか。そればっかりを研究しろ！　そうでないと『PRIDE』は頭打ちになる。見ている側が、「ああ、もう駄目だ」となってしまうからね。プロなんだから、我々がエーッと驚くハイテクニックを見せてほしい。五味が肩固めを食って絶望的な目をしたとき、「だから、そう言っただろう！」と叫んでしまったからな。

——テレビの前で叫びましたか（笑）。

井上　ハリトーノフにしたって芸がなさすぎた。サイドポジションは確かに脱出困難だが、ヒクソン・グレイシーだったら、そのままやられていたか。あの男は〝殺し〟を知っているからねぇ。だから安生がボコボコにされてしまった。〝殺し〟とは裏技を含んだものだ。五味にそれがやれないようでは、ライト級の灯は消える。

——わかりました。長い時間、ありがとうございました！

【06年4月10日／電話取材にて収録】

ヒョードル、無差別GP不出場？

五味、まさかの敗戦!!

!?

PRIDEに群雄割拠の春風が吹く!!

春の格闘大波乱座談会

今年一発目の『PRIDE武士道』で“エース”五味隆典が敗れる大波乱！　一方、無差別級GPでは“皇帝”ヒョードルの一回戦欠場が正式発表！　ついでに“クーデター未遂”のあの男が株主総会で爆弾発言予定（これはまったく関係なし）と、そんな春の嵐が吹き荒れる『PRIDE』の現在を語る！

構成／ジャン斉藤　designed by Tani-yan (Two Three)

ジャン え～、今回の座談会は、まさかの"五味敗北"という大波乱で幕を閉じた『武士道・其の拾』を軸に、無差別GPを含めた『PRIDE』の現状を語りたいと思ってるんですが……風の便りによると、先月号の「格闘技マスコミに何が起こっているのか？」座談会での橋本さんの発言が、一部で波紋を呼んでるみたいですねえ。

橋本 なんだよ、担当だったくせにその他人事みたいな聞き方は（笑）。こちとら格闘技興行の取材で会場に行くたびに「あの座談会、波紋を呼んでますよ！」とか言われてますよ。

ガンツ へえ～。我々の周りにそんな話はまったく届いてないですけど（まるで他人事な態度で）。

橋本 俺が火の粉を被っていろいろ言われてるんだよ！「向こう見ずだねえ」「あ、問題児がきた！」「ストロングXさんは誰なの？」とか。

ジャン あとクマクンマンボ熊久保（英幸）さんのブログで「会見前と会見後には大声で喋り、偉そうなことを言い、DSEの社員を『くん』付けで呼び、女子社員と楽しくお喋りすることだけが目的の皆さん、今日はマジでムカつきました」と書かれたりとか。

橋本 そうそう、会見ではロクに質問もしないのについついおしゃべりが弾んじゃってさ……って、それは俺じゃなくて●●の●●って人間のことだよ！　ちなみに俺は某老舗格闘技専門誌の編集者から、座談会の件で「あんなこと言ってると、これからウチで仕事できなくなるよ！」って言われたけどね。

ガンツ ガハハハハ！　そんな圧力をかけられましたか。その切なさは愛せないなあ（笑）。

橋本 こちらとしては「べつにそちらで仕事する気は毛頭ないですが……」って感じなんだけど。どうよ？

ジャン 「どうよ？」も何も、それは橋本さんのまったく個人的な問題ですからねえ。

橋本 あ、人を二階に上げといて平気でハシゴを外すんだ。

ガンツ 橋本さんもね、座談会で発言をするときは「日本に帰ったら私は殺される！」というぐらいの覚悟で発言してもらわないと（笑）。

橋本 どんな覚悟だよ、それは（笑）。

春の格闘大波乱座談会

ジャン まあ、例によってページの都合上、その話題は泣く泣くスルーするんですが、そんな業界話はこれくらいにして、さっそく『武士道・其の拾』の感想を聞きたいんですけど。

ガンツ 個人的には『PRIDE・31』と同様、事前の高揚感は薄かったんだよね。それはビッグイベントが連発しているがゆえの贅沢病でもあるんだけど。

橋本 麻痺してるところはあるよね、実際。

4・2有明コロシアム大会で節目となる10回大会を迎えた『PRIDE武士道』。念願だった地上波ゴールデンタイム進出もほぼ確定。中・軽量級の盛況にどのような影響を与えるのか。そして多忙を極めることになる佐伯さんのストレスが食生活にどう表われるのか。こちらも興味深い。

ガンツ そういう現状は確実にあるんですけど、終わってみれば『武士道・其の拾』は予想以上に好試合が連発して、幕切れもドラマチックな非常に満足度の高い大会でしたよ。以前の『PRIDE』って何が起こるかわからない事前のドキドキ感があったり、「一つの答えが今日出される」という緊張感、高揚感のある試合が多かったけど、逆にクオリティの面では当たり外れも多かったわけじゃない。

橋本 ドラマ性だけが先行していたこともあったよね。

ガンツ だけど、今回はハイレベルな試合内容が事前の高揚感を凌駕してて。もうこれは総合格闘技というジャンルがワンランク上のレベルに上がったのかなという気はしますね。

橋本 レベルが高くて、なおかつおもしろいっていう。だから逆に言うと、もう「真剣勝負だから、つまらなくてもしょうがない」というエクスキューズができなくなっちゃったんだと思うんだよね。選手もマスコミもファンも。

ジャン ただ、あえて不満を言えば、事件性なドラマチックさに欠けるなあと思いながら、セミファイナルまで観てたんですよね。

ガンツ キミの場合は、『猪木祭り』とか『OH祭り』とか『LEGEND』みたいな破滅型興行マニアだからだろ（笑）。

ジャン 『猪木祭り』……………（ボソッと）。

橋本 意味深で不気味な沈黙はやめろよ、ホントに（笑）。たしかに『武士道』の前半戦は一過性のKOとか一本の魅力や迫力で押し切った感じがあったね。もちろん選手個々にテーマやドラマはあったんだけど、それはこれまでの『PRIDE』全体のスケールからいえば、まあ小さいっちゃあ小さい。"GPに向けて誰が飛び出すか"みたいなテーマもあるにはあったけど、それは漠然としすぎてるしね。

ジャン 『PRIDE』って、観てる人間の頬っぺたをバチンと引っ叩いて現実の過酷さを見せつけるのが魅力の一つだったりするじゃないですか。髙田vsヒクソン戦に始まり、最近ではアローナvs桜庭戦。もうとにかく心に突き刺さるものがあって。だから内容で"観客を満足させる"ことは大前提だと思うんですが、そ

誰かにそら似の座談会出席者

ジャン"マサ"斉藤
本誌・永久電機調査室室長。とくに似ている選手が誰もいないという、つまらない男。名前つながりでマサ斎藤の写真を使用したが、マサさんばりに英語が達者なわけでもないどころか中学生以下並の理解度。外国から編集部にかかってきた電話を「いません!!」と即座に叩ききる。

堀江"キム・ミンス"ガンツ
韓国の柔道王にして"リングスコリア"所属キム・ミンス似の本誌編集若頭。なお、上の写真は名古屋フルマラソンで全力疾走するキム!!……じゃなくてレニー・セフォーの打撃に背を向いたところをたまたまカメラマンと目があったときのもの。05年kamiproベストショット大賞に輝いた。

橋本"キム・ドンウィッグ"宗洋
kamipro編集部のあいだで開催前から「文句なしに今年のベスト興行!!」との呼び声も高いK-1アジアGP。それに参戦する韓国シルム軍団キム・ドンウィッグ似の超巨漢フリーライター。その体躯から当時DDT所属の橋本友彦と間違われ、危なく『猪木祭り』に出場しかけた過去あり。

脅威的なプレッシャーでアウレリオににじり寄る五味隆典。KO決着で連勝記録を伸ばすかと思われたが……このまさかの敗戦が五味本人、そして『武士道』に何をもたらすのか？

五味の敗戦を含めて残したインパクトは、『武士道』のなかでも1、2を争う興行だった（橋本）

れイコール〝ハッピーエンドじゃなければならない〟ということには決して結びつかないと思うんですよね。作り手側も観る側も、そんなことを想定して臨む興行なんて薄っぺらいかぎりですよ！

橋本　〝点〟の興行ならハッピーエンドという着地は必要なんだろうけど、〝線〟として捉えるならバッドエンドもありだよね。つまり、今回の興行のポイントである五味隆典の敗戦は、先が見えるバッドエンドなのか、どうかなのか？　ということが問われるんだと思う。

ジャン　まず〝点〟だけの評価を下すと、五味隆典というファイターは、いつ何時、『武士道』という興行を観客の記憶に残してくれる救世主だなって。勝ち方にもよりますけど、五味が普通にアウレリオに快勝していたら、あそこまで心に突き刺さる光景は味わえなかったはずですし。

橋本　五味が試合後のリング上で、自分が絞め落とされていくシーンをビジョンで確認していた姿はなんだか、グッときたよねえ……。

ジャン　それと、肩固めを極められながら、天に向けた右手がヒラヒラ落ちているシーンも……。

ガンツ　それは菊田早苗戦の鈴木みのる！あれはあれですばらしい名珍場面だったけど（笑）。

橋本　とにかくファンや主催者の期待感を一身に背負っていた五味がずっこけてしまったけど、残したインパクトだったらいままでの『武士道』のなかで1、2を争う興行だったのはたしかかなあ。

ガンツ　それに五味 vs アウレリオは試合内容自体、短いながらも濃密でおもしろかったんですよ。アウレリオにジリジリとにじり寄る五味のプレッシャーというか、無言の圧力は凄いものがあったし。そこで五味のフックに絶妙なタックルを決めて、一本奪ったアウレリオというのも、久々に柔術家の凄みを見せてもらいましたよ。

橋本　アウレリオは五味に勝つためにはこれしかないという細い一本道を見事に渡りきった感はあったよね。

ガンツ　この打撃全盛の格闘技界において、その頂点に立つ五味にほぼ柔術一本で鮮やかに勝つシーンが見られたのは驚きですよ。みんなの頭の中に総合の闘い方がほぼ完成されつつあるなって思っているなかで、ある意味、その究極のかたちがボクシング＋レスリングの〝五味スタイル〟だったところはあったでしょ。

橋本　2月の修斗代々木大会なんかさ、〝プチ五味隆典〟みたいな選手ばっかりだったからね。ちゃんと目を凝らせば、青木真也とか我が道を行くスタイルや信念を持つ選手もいるんだけど、タックルからテイクダウンしてパスガードして極めて勝つ。そんな定番も定番のフルコースをトップレベルの『武士道』のリングで、しかも五味相手にやってのける選手がいたってことはビックリですよ。

ガンツ　だからアウレリオはその離れ業を

締切ド直前速報!!

2・11DEEP後楽園大会

“五味の弟分”帯谷信弘がDEEPライト級王者に!!

三島☆ド根性ノ助が返上したDEEPライト級（70キロ以下級）王座を争い、帯谷信弘が雷暗暴と激突。帯谷には、同じチーム・ラスカルに所属する兄貴分・五味隆典がセコンドに。試合は息詰まる熱戦の末、帯谷が3─0の判定勝利。第二代ライト級チャンピオンに輝いた。これにより帯谷は『武士道』登場の切符を手中に収めた。すっかりDEEP名物となった長時間興行の詳細（会場延長料金も）は次号で!!　佐伯さんの血糖値を気にしながら来月を待て！

やってのけたわけですけど、一部の人間なんかは「五味の倒し方がわかった」とか物知り顔で言うわけじゃない。だいたい負けたら誰でもそう言われるんだけどね。ミルコ・クロコップだってそうだし。

橋本 あれはさ、ミルコ攻略法をパーフェクトに実践できたヒョードルが凄いんだよ。

ガンツ ホントそうですよ。ボクシングの大橋（秀行）会長が「タイソンを倒すには彼の間合いを恐れず踏み込んでストレートを打てばいいってことだけど、ホリフィールドが実践するまで、誰もその勇気を持ってなかった」って言ってたけど、そういうことでしょう。ホントにね、それを「倒し方を見つけた！」とか言ってるだけだったら、それこそI編集長の「俺だって勝てますよ！キミにだって五味隆典を倒せる!!」という世界ですよ（笑）。

橋本 ククク。五味の驚異的な圧力に対して、ジャストのカウンタータックルを入れられる選手がどれだけいるんだ？という話だからね。

ジャン そもそも、ここ二年間の軌跡を振り返ってみると、五味って常に敗北という二文字と隣り合わせの闘いの連続だったんですよね。

ガンツ 観る側に危機感はなかったけど、今回のアウレリオだって相当ヤバイよ。ZST・GPで初来日して、一回戦で修斗のタクミに完勝したとき「あ、もうこの人が優勝だ」って思ったもんね。結局、今成正和、所英男、小谷直之、TAISHO、レミギウス・モリカビュチス、リッチ・クレメンティら実力者揃いのなか、ブッチギリの強さで優勝したし。

橋本 で、五味はそれと同等かそれ以上の強敵と『武士道』で闘ってきたわけだよね。それに敗戦の理由に挙げられるモチベーション不足ということで言えば、去年5月のルイス・アゼレード戦のほうが顕著だったと思うよ。俺が「五味ってスゲエな！」って思ったのは、あれを乗り越えたときだった。だから今回もやってくれるだろうという期待感は当然あって、彼は今回の大会パンフレットのインタビューで「勝つだけじゃなくて、地味な試合にすらさせない」くらいのことを言ってたんだよね。もしかしたらそれはモチベーションがない自分にプレッシャーをかけるためだったのかもしれないけど。なんとしても乗り越えてほしかったよねえ。

"ガイジン天国"の様相を呈している83キロ以下級。その頂点に君臨するのが、初代PRIDEウェルター級チャンピオンのダン・ヘンダーソンだ。『武士道・其の拾』では三崎和夫が接戦を演じたが、やはりその壁は高くて厚かった。

もし適性体重のウェルター級で桜庭が王者になったら……それはもの凄いロマン（ガンツ）

難敵はダンヘンだけじゃない、昨年のウェルター級ＧＰ準優勝者のムリーロ・ブスタマンチ、リザーバーに甘んじたが"ウェルター級最強説"も囁かれるパウロ・フィリオも厄介な強豪。こうした現状を打破する日本人ファイターは現われるのか。

ガンツ 一人の競技者としてだったら、PRIDE王者になったんだから、もうそれでいいのかもしれない。でも、五味の本当の役割ってベルトを獲るだけじゃなく、そのPRIDEライト級王座の価値をもっともっと高めることであり、『PRIDE武士道』というステージ自体を引き上げることでしょ。スーパースターとして、そこまでを期待されてるんだから、モチベーション不足に陥っている暇はないんですよね。

橋本 モチベーション不足なんて言ったらさ、五味の大好きな永ちゃん（矢沢永吉）は50歳を過ぎて何を燃やしてやってるんだってことだから。

ガンツ でもさ、『PRIDE』ももうちょっと考えてあげてもいいのにとも思うけどね。ゴールデンタイム進出への〝前哨戦〟みたいな大会なんだからさ、ある意味、顔見せみたいな感じでもいいわけじゃない。亀田興毅の相手みたいなのをタイあたりから連れてくるとかさ（笑）。

ジャン それはそれで強い奴を探すより難しいですけどね（笑）。でも、『PRIDE』側も、ファンも、そしてマスコミも五味に対してそういった生ぬるさを許さない雰囲気がいい意味でつくられている気がします。それは「常に一線級の選手と闘え！」みたいな測定オンリーな押しつけじゃなくて、「この男はかならずや超えてくれる！」という願望があるからこそなんでしょうけど。五味には試練にさらされる幸運があるんですよ。

橋本 だからこそ「モチベーション不足」という言葉は、五味本人の口から聞きたくなかったんだよなあ。いや、仮にそれが敗因だとしてもね。五味にはね、ガチンコではありえないとされてきた常勝チャンプ、無敵のエース街道を突き進んでくれるんじゃないかなっていう期待があったから。ここ最近、そんな可能性を持った日本人選手は見当たらなかったわけだし、10連勝という記録だけ取り上げても、もう未知の領域じゃない？

ジャン その領域に片足を一歩踏み入れていた五味の孤独感が、モチベーションのないもう一人の自分を浮き上がらせてしまったのかもしれない。今回の敗戦で、そのもう一人の五味隆典がいい意味で砕かれたことを望みたいですね。

橋本 ホームページで復活宣言したんでしょ？

ジャン そうですね。「あの日の試合によってチャンピオンとしてとりつくっていたものが全て肩の荷がおりた気がします。達成感から自分に酔っていた部分やとりつくりながら肩に力が入っていたものが全て無くなりました」というメッセージをアップして。アウレリオとの再戦を望んでいるので6月ないし8月には復活する姿が観られそうですけど。

橋本 でも、俺はありきたりな復活劇は観たくないんだよね。アウレリオの再戦

にしたって、「あれ？ どっちがリベンジするんだっけ？」という雰囲気を持ってリング上で対峙してほしいし、もう何事もなかったかのようにまた10連勝とかしてさ、「五味って負けたことあったっけ？」とか思うぐらいのことをやってほしいね。五味をそこらによくあるありきたりな"感動の復活劇"のフォーマットに乗せないでほしいというかさ。

ガンツ 俺は逆に自暴自棄になる五味も見たいですけどね（笑）。あしたのジョーの世界というか。失踪してまったく連絡が取れなくなって、ドヤ街の草バーリ・トゥードで闘っているところを発見されたりさ（笑）。

ジャン スピリチュアルな方面に走って、須藤元気みたいに「ボクの前世は聖セバスチャンなんです！」（by『オーラの泉』）って言いだしてもいいですけどね（笑）。

橋本 （無視して）五味がどう動くのかが気になると同時に、『武士道』全体を見渡しても、おもしろい展開になるでしょ。川尻（達也）やマッハ（桜井マッハ速人）がアウレリオを倒してしまう可能性は充分あるわけだし。

ガンツ そうなったらまた複雑なジャンケンの関係性が生まれておもしろくなる。一人物語にしたくても、すんでのところでならないところが『PRIDE』の『PRIDE』たる所以だから。

ジャン やっぱりなんの秩序のない世界は刺激的ですよね。五味が絶対的なエースなんだけど、そこに群像劇の張りつめた緊張感があるのが観る側にとっては理想的だと思いますし。

ガンツ まあ、いずれにせよ、楽しみが増えましたよ。『武士道』はそんな感じかな。

橋本 いやいや！ もう一人、『武士道』で残念な結果になった選手がいるでしょ⁉ 俺はへこんだなあ……。

ガンツ ……誰？ 持病の喘息で無念の欠場になった十段（今成正和）？

橋本 確かに今成も残念だったけど、大きな期待を背負って『武士道』に初登場しながらも負けてしまった、団体のエースがいたでしょうよ。

ガンツ ああ！ 忘れてました。あれは残念でしたよね、池本誠知。

橋本 そうそう、リアルリズムのエースが負けちゃってさぁ……ってわざと言ってんだろ！

ガンツ え⁉ 違うの？（笑）。ほかにエースなんていたかなぁ……。

橋本 近藤ですよ、近藤有己！ いるんですよ、インディー団体のエースが！

満を持してウェルター級に参戦した近藤有己だったが、バローニの剛腕の前に秒殺負け!! ウェルター級の日本人エースとして期待は高かったが……。関係者曰く「バローニのプレッシャーは想像以上もの。やすやすと勝てる相手ではない」という。

ガンツ ガハハハハ！ インディーなんだ、パンクラスって（笑）。

橋本 キミたちはねえ、ここ最近のパンクラス後楽園大会に来てないから、そんなに呑気に笑ってられるんですよ。

ガンツ リングサイドの席を一列しか作らないという、快適なファーストクラスを思わせる、ゆったりとした座席配置なのは存じ上げております（笑）。

橋本 そんなパンクラスを「インディーじゃないのかも」って思わせていたのが近藤有己という存在でしょ。唯一、外でも通用する実力と、ファンやプロモーションからの両方のニーズがあったわけだし。その近藤も、フィル・バローニにわずか25秒でKO負けだからねぇ……。ガックリきちゃったよ、ホント。

ガンツ 落ち込んでますねえ。

橋本 落ち込むよ！

ジャン でも、近藤の敗戦って、パンクラス自体には影響なさそうですよね。近藤が勝ったからって、パンクラスが上がる構造は見えづらいですし。

橋本 でも逆は言えるんじゃないの？ 近藤が負けて、パンクラスはホントのホントに危機感を持たなきゃならないという。近藤はこれでPRIDE5連敗でしょ。単に実績だけでいうとPRIDEファイターとしての資質が問われてくるじゃん。

ガンツ そんな贅沢言っちゃいけませんよ。金ちゃん（金原弘光）なんて、もうかれこれ5年間も勝利から見放されてるんですから。近藤選手の連敗なんて、まだまだ（笑）。

ジャン どんな慰め方ですか（笑）。でも、近藤の場合、体重差のある中村カズやダンヘンと互角以上の試合をした貯金があるからいいんじゃないですかね、そんなに気にしなくて。

橋本 いや、それこそ本末転倒というかねえ。俺は中村カズ戦とダンヘン戦の判定は近藤の勝ちじゃないかと思ってるんだけど、でも出てしまった結果は動かないからね。空手だってそうなんだよ。他流派の大会に出れば最低は"技あり"を取らないと勝ちにはしてもらえないところがあるから。近藤だって『PRIDE』に乗り込む以上は「惜しかった」ってことはなんの貯金にも勲章にもならないんだよ。近藤に対してなんの思い入れもない人から見たら「ミドル級で勝てなかった近藤がウェルターに落としたけど、やっぱりダメだった」ってことになるわけでしょ。

ガンツ 近藤が適正体重のウェルター級に参戦したら、とんでもない強さを発揮するという期待感はたしかにあったんですよね。だからオープニング・セレモニーでの近藤への歓声って、予想以上に凄かったし。それこそ"インディー"のエースとは思えないくらい（笑）。

橋本 それがねえ……。しかもパンクラスの面々はさ、負けるにしても相手が悪いんだよね。よりによって近藤はバローニで、前田吉朗はクレイジー・ホースでしょ。

ガンツ つまり、ストイックなイメージの強豪に負けるならともかく、いわゆる"バカ外人"に負けている（笑）。

橋本 バローニはクリアしないといけない相手だっていうイメージだったじゃない、試合前は。結果としてバローニは以前より強くなってたけど。

ガンツ でも、バローニって単なるバカキャラじゃなくて、かつてのゲーリー・グッドリッジ的な存在ですよ。門番なんだけ

ど、メチャクチャ強いという。

ジャン　いまさら言うことじゃないですけど、『PRIDE』って世界前哨戦の相手がえらく強すぎますよ（笑）。

ガンツ　だから、たまにはタイ人ボクサー連れてこいって（笑）。

ジャン　ボクが近藤の敗戦にあまりショックを受けなかったのは、それ以上に勝ったバローニが最高だったからなんですよね。

橋本　それはあるね。速報だけを読んだ人や近藤ファンは「近藤惨敗、ウェルター級に暗雲」みたいな感じだっただろうけど、会場にはフィル・バローニというスターの誕生を祝福するムードもあったからね。

ジャン　あの剥きだしっぷりは、おもしろかったですよ！　最近の選手のマイクや会見の発言には見られない強引さが非常に魅力的で（笑）。

ガンツ　勝手に「泣いて、笑って、ケンカして」っていうね、一人ド根性ガエル状態（笑）。

橋本　あんな〝夕焼け番長〟はそうそういないよ（笑）。しかも普通に強いから厄介だよ。パウロ・フィリオにしても試合内容はこないだの『武士道』のなかで唯一と言っていいほどつまんなかったとはいえ、じゃあ誰か勝てる日本人はいますかっていったらねえ。ミドル級のガイジン選手がどんどん83キロに落としてきてる状況はね、かなり怖いよ。

ガンツ　あの堅実で隙のない勝ちっぷりはヤバイですよねえ。

橋本　俺はもう、吉田秀彦がウェルター級に落としてほしいぐらいだよ。日本には無差別が最上級のものであるという考えがあるじゃない。武道的な見方であれプロレス的な見方であれ。でも強豪ガイジン選手は、減量して自分がより有利になる状況でベルトを獲るってことになんの躊躇もない。そのシビアさに日本人がついていけてないというか。

ガンツ　こうなったら、やっぱり桜庭和志の出番でしょう！

ジャン　やっぱりそこに期待しちゃいますよね。

ガンツ　うん。だって「ダン・ヘンダーソンとやらせてみたい選手は誰ですか？」って聞かれたら、とりあえず俺は桜庭和志しか思い浮かばない。

“前転タックル”からの波状攻撃で大巨人を撃破した“天国に一番近い男”美濃輪。この勝利により、2メートル＆150キロ以上の体重資格が求められるシルバ主宰・ジャイアントGPの開催を阻止すると同時に、無差別級GP出場が決定！　ミルコ戦に向け、へのつっぱりはいらんですよ！（意味なし）。

橋本　ブラジルでシュラスコ食って太っている場合じゃないよね（笑）。桜庭の参戦を後押しするためにも、ウェルター級への転向は適正体重に合わせるだけであって、決して後退ではないという意識を選手が、というかマスコミこそが持たないといけないよね。

ジャン　桜庭が連敗しているときに〝桜庭『武士道』降格の危機〟っていう見出しをつけたスポーツ紙があったぐらいですからね。

橋本　あの記事が最たるものだよ！　でも、いまの『武士道』は『PRIDE』の二軍でもなんでもないからね。いまだにそんなことを書くトンチンカンなマスコミはまだいるんだろうけど、ファンにはもういないんじゃない？

ガンツ　「待ってました！」って拍手喝采ですよ！　それはもの凄いロマンだよ。桜庭がウェルター級に出たら絶対に勝つ！とかそういうことじゃなくてさ、桜庭はこれまでミドル級で圧倒的な体格差に泣かされてきながらも、誇りと意地だけで闘い続けてきた歴史があるわけじゃない。もし適正体重のウェルター級でチャンピオンになった日には……。

橋本　ファンの溜まり溜まった桜庭への感情は爆発するだろうね。佐藤ルミナが後楽園ホールで修斗の環太平洋王座を獲ったときの熱狂が、さいたまスーパーアリーナの規模で起こるんだろうなあ。

ジャン　そうなったら髙田本部長は「鳥肌立った‼　サクが獲った！」しか絶叫しないでしょうね、いつも以上に（笑）。

橋本　体重を軽くすることのリスクを差し引いても、絶対にやる価値があると思うよ。

ジャン　興行としてもウェルター級GPのストーリー性がグンと高まりますよね。ほかの日本人選手にだって刺激になるはずですし。

橋本　俺は長南の復活にも期待してるんだけどね。

ジャン　あの妥協のしなさっぷりと泥臭さは、もっと光を当てたいところなんですけどね。

ガンツ　妥協のしなさっぷりのといえば、俺はぜひとも〝赤いパンツの頑固者〟にも出てきてほしいね。それこそ適性体重ですよ。

橋本　田村が出るんだったら、U－STYLE Axisをもう一回観てもかまわないよ（笑）。

ガンツ　再び「お門違い」発言が飛び出る可能性は大だけど（笑）。

橋本　もし田村潔司が出るならほとんどのファンは桜庭戦がスッと思い浮かぶんだろうけど、俺は長南亮との〝元・師弟対決〟が観たいなあ。

ジャン　多くの関係者は口を揃えてそう言いそうですよね。それこそ〝仁義なき闘い〟すぎて桜庭戦以上に実現は無理でしょうけど（笑）。

ガンツ　『PRIDE』側が実現に動くことになったときの佐伯さんには注目だよ。「だ、だ、だ、誰が田村さんにそれをオファーするの？　ねえ⁉（怒）」って（笑）。

橋本　ククククク。話は変わるけど、無差別級GPのカードも難航してるんでしょ。

ジャン　いまのところジョシュvsアレキサンダー、ミルコvs美濃輪、吉田vs西島の3カードが発表されていて、ほぼ枠は埋まってるみたいですけど、カード編成で難航しているっぽいですね。藤田（和之）もどうなるかわからないし（後日、出

場決定）。

橋本　階級を超えた無差別ということは、どうしても番外編的な匂いがするからさ、順当に重いほうに勝たれても夢がないし、誰かがスパイス的にでも化けてくんないとね。

ガンツ　美濃輪は存在自体が大波乱なんですけどね（笑）。

橋本　さっき『武士道』の話でし忘れたんだけど、美濃輪の会場人気は凄いね。言っとくけど、ジャイシルに勝っただけだからね、あれ。そりゃあ体格差は危険すぎるほどあったけどさぁ、そうはいってもジャイシルだから。

ジャン　しかも、とくに劇的な勝ち方でもないのに（笑）。

橋本　ある意味、美濃輪は何をやってもオッケー状態になってきたよね。それこそ〝美濃輪ワールド〟が完成したというか。

ガンツ　体重のランク分けとはカテゴリーが違ってきてるよね。ヘビー級、ミドル級、そしてヘブン級（笑）。

ジャン　だから今回のジャイシル戦を〝無差別GP査定試合〟として位置付けられるのは、天国を汚される感じがしちゃって。美濃輪のヘブンを純粋に味わいたいのに、なんか気が散るなあという（笑）。

橋本　そうそう。あれはあくまで〝ヘブンの出来事〟なんだから。現世の価値基準は余分だよね。

ガンツ　同じ査定マッチでもハリトーノフvsアリスターや、ショーグンvsコールマンと違いすぎるだろうって（笑）。

ジャン　まあ、興行と競技の噛み合わせ方を両立してくれる団体ってほかにないから、『PRIDE』にはぜひともうまく転がしてほしいという希望があるんですけどね。

これまでのGPが“最強”を競う合いが大きなポイントなら、今回はそれぞれの物語が濃密に浮き上がってくる瞬間を観る（ガンツ）

橋本　ただ、いまはどこもかしこもGP流行りじゃん。飽和状態になるのが気になるよ。

ジャン　とくに『PRIDE』のヘビー級はミルコとヒョードルの決着も一旦はついて、〝最強の季節〟はすぎさった感があるじゃないですか。そういう現状での無差別級GPの行方は気になりますよね。

橋本　行方の鍵を握る存在としては、ヒョードルがシードで参戦するって話はもう消えたの？

ガンツ　どうなんでしょうね。去年の『HERO'S ミドル級トーナメント』は準決勝から3選手が出場したという大胆すぎるシード枠があったけど（笑）。ヒョードルが二回戦から出てくるっていうのはありなの？

橋本　俺はべつにいいと思うよ。ノゲイラは怒るだろうけど。

ガンツ　でも、僕がヒョードルにインタビューしたかぎり、単純に手術から逆算すると二回戦出場すら危うい思うどね。特例として二回戦出場が認められたとしても、ホントに二回戦から出られるの？　っていうのがホントの気持ち。

橋本　「出る」と言っといて、結局ご破算になったら大変なんだけど、でもそんな展開は充分ありそうだよね。

ガンツ　だから今回のGPのポイントは、〝無差別〟〝ヒョードル一回戦欠場〟というテーマが、どういうスパイスになるかどうかってことだよね。絶対的な王者が不在のリングで、階級を越えた闘いが行なわれる。それぞれの選手が主人公になりうる群雄割拠な舞台がテーマというか。

橋本　誰か勝ってもおもしろい展開になりそうだよね。二年前のヘビー級GPが凄かったという記憶は俺にも残ってるんだけど、開幕戦にはセーム・シュルトvsガン・マギーとかジャイシルvs戦闘竜なんてカードもあったじゃない。でも、今回は濃い面子が揃ってるから。へんな言い方だけど〝捨てカード〟がおそろしく少ない。

ガンツ　ミルコであり、吉田秀彦であり、高阪剛であり、ノゲイラであり、ジョシュであり、マーク・ハントであり。いわゆる〝捨てカード〟が一つもなくなるんじゃないかな。これまでのGPが最強を競う闘いなら、今回は『PRIDE』ワールドのオールスター戦で、それぞれの物語が濃密に浮き上がってくる瞬間を観る、ということが最高の鑑賞方法だと思うけどね。

橋本　去年のミドル級GPの桜庭vsユン・ドンシクは〝桜庭目線〟だけでよかったけど、吉田vs西島戦はどっちの目線もありだし。

ガンツ　それぞれの16通りの物語を追っていくしかないよね。ま、出場選手すら出揃っていないのに、定義している場合じゃないんだけど（笑）。

橋本　藤田和之はどうなるんだろうねえ。

ジャン　まったく読めないですね。「kamiproの表紙になったから、やっぱり『PRIDE』なんでしょ？」ってよく聞かれますけど……。

橋本　まあ、藤田がどう決断しても、大きな波乱になると思うけど。

ジャン　トーナメントはトーナメントでも、おもいきって新日本の〝春のG1〟「NEW JAPAN CAP 2006」に出ても大波乱ですけどね（笑）。

橋本　『PRIDE』、HERO'S、「NEW JAPAN CAP」（笑）。

ジャン　横に並べるのも恥ずかしいという（笑）。

ガンツ　いやいや、そんな状況で藤田に参戦を呼びかけた永田さんはやっぱりスーパースターだよ！　ってことで、今日はここまで！

序列の膠着をいい意味で崩すキーワードとなる「無差別」「ヒョードル開幕戦欠場」。群雄割拠時代の幕開けになるか、それともレッドデビル軍団が内乱を再制圧!?

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールなUSAニュースをお届け!!

USA cool宅急便

聞き手／デューク東郷　助手／上杉再検査

Vol.3

PROFILE

Scott Petersen【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』(http://www.mmaweekly.com/)を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「"I Love You"と"I Like You"は違います」。

UFC中軽量級戦線の現状

『PRIDE武士道』、K-1MAX、『HERO'S』と日本ではすっかり人気の定着した中軽量級戦線。一方、アメリカでは最近になってUFCにライト級が復活。アメフトなどに人材が流出しないぶん、優れたアスリートが集うと言われる中軽量級。そこにはいったいどんな展望があるのか？

——野球小僧に逢ったかい～♪　男らしくて純情で～♪　『kamipro』読者の皆さん、こんにちは！　WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）の興奮冷めやらない『USA cool宅急便』の暴走ドライバー、日系三世のデューク東郷です！　そしてナビゲーターは……。

スコット　無知な聞き手に翻弄される『MMA WEELKY』編集長のスコット・ピーターソンです！

——いやあ、それにしてもWBCは見事に盛り上がった!!

スコット　そうなのかい？　ボクはベースボールにあんまり興味がないから観なかったけど。

——盛り上がっていたとも!!　日本の全国民がテリー伊藤ばりに〝王さんに抱かれたい〟という胸キュン状態に陥ったのは間違いないよ！　王さんバンザ～イ！　イチローよくやった！　上原はよく投げた！　多村もスペランカ～!!

スコット　（冷たい視線で）しかし、それくらい格闘技にも情熱を注ぎ込んで取材してほしいもんだよ。

——（無視して）ただ、強いて残念なことをいえば、WBC出場を辞退した我らが松井秀喜を一部のマスコミやファンがバッシングしていることだよ！　イチローも試合前に「出なかったヤツらを見返してやろうぜ！」なんて鼓舞したそうだけど、本当に見返したかったら、松井のようにAVネタオンリーで『東京スポーツ』に出る男っぷりを見せるべき！　違うか、スコット!?（大興奮）。

スコット　（極めて冷静に）何を言ってるかさっぱりわからないし、このコーナーとはまったく関係ない話だよな。さっさと本題に入ろう！

——はいはい。え～、『kamipro』編集部から渡されたメモを読むと、今回のテーマはアメリカの中・軽量級戦線の現状だそうですよ。

スコット　OK！　さかのぼること93年にUFCが始まったときは、そもそも階級の概念はなかったんだ。いま振り返ればとんでもなく体重差のあるマッチメイクが普通に行なわれたりして、ずいぶんムチャな試合があったもんだよ。

——つまり、曙vsホイス・グレイシーみたいな危険な試合のオンパレードだったというわけ？

スコット　アンタが言っている危険のニュアンスは思いっきり違うような気がするけど、UFC12で初めてヘビー級とミドル級の差別化が図られた。ミドル級はのちにライトヘビー級と分かれることになるが、205ポンド（約93キロ）を境目にして二つの階級ができたってわけ。

——ふんふん。

スコット　そしてUFC16で170ポンド（約77キロ）のクラス、現在のウェルター級が生まれて、そのあとUFC26で155ポンド（約70キロ）のライト級が誕生した。

——あいや～。

スコット　さらにUFC31で当時のミドル級がライトヘビー級とミドル級（約84キロ）に分かれたんだよ。

UFC階級表

Heavyweight ヘビー級	205～265ポンド／ 93～120キロ
Light Heavyweight ライトヘビー級	185～205ポンド／ 84～93キロ）
Middleweight ミドル級	170～185ポンド／ 77～84キロ
Welterweight ウェルター級	155～170ポンド／ 70～77キロ
Lightweight ライト級	145～155ポンド／ 66～70キロ

——……もうわけわからん！　親亀の上に子亀を乗せて、子亀の上に孫亀を乗せて、孫亀の上にひ孫亀を乗せて、それからどうしたってぇ？

スコット　全然例えになってないよ！　ちなみにライト級は当初150ポンド（約68キロ）に規定されるはずだったけど、いずれ〝修斗のカリスマ〟佐藤ルミナを招聘しようと、彼の体重に合うように155ポンドにしたって言われている。つまり5階級が整備されたのはズッファ体制初開催となるUFC31から。ズッファは、ラスベガスでカジノなどを経営している資本により成り立っているんだけど、階級を整備することで、ブラッド・ファイトや残虐ショーといったレッテルを貼られていたUFCを市民権のあるスポーツにするために努力したんだ。最終的にラスベガス開催を実現するためにね。

——公平なスポーツのフォーマットを取ってないと、ギャンブルの対象になりにくいというわけなんだろうな。

スコット　UFCはまず興行の打ちやすいニュージャージーのアスレチック・コントロールボード・ルールをクリアしようとした。ネバダ州（ラスベガス）のアスレチック・コミッションもほぼそれに準じているしね。それで体重の上限も安全性を考慮して265ポンド（約120キロ）になったんだよ。

——ビビデバビデブ～!!　それじゃFEGルートでの曙さんやボブ・サップのオクタゴン出陣は無理ってことじゃん!!

スコット　そのニュージャージーで開催するために作られたルールが、現在施行されているルールの基本形になっているんだ。おもしろいのは、UFCではシューズの着用が禁止されているってこと。それもニュージャージー州で決められたんだけど、その理由が不潔だからだって（笑）。どんな競技的解釈だって話だよ。

——靴の問題だけに〝クツウ〟な臭いを疑問視したんじゃないか？　GAHAHAHAHA！

スコット　……そ、それで、前回のUFC58でひさしぶりにライト級が2試合行なわれたけど、それまでしばらくのあいだ、ライト級は日の目を見なかったというか、封印されていたんだよ。

——封印!?　そいつは安藤健二の触手が伸びそうな展開ですな！

スコット　WHAT？　結論からいうと、UFCが試合数を維持できなかったことが原因。当時のUFCは年に5～6回しかイベントを開けなくて、そうなると出場選手の定員は限られてくる。それでいて、各階級の選手層を浅くしないためには、どこかの階級を切らないといけなかった。そうしてライト級が封印されたってわけ。

——どうしてライト級が切られることになったんだい？

スコット　なぜかっていえば、アメリカ人は小柄なファイター同士の試合より、ビッグガイの殴り合いを好んで観たがる。そんな理由からなんだよ。

——でも、最近になってライト級の試合が復活したんだろ？

スコット　その理由はシンプルにショーの数が増えたことで試合の枠を埋めないといけないからなんだ。ただ事情はどうあるにせよ、ライト級の復活を多くのファンは喜んでいるよ。なにしろUFCライト級のファイターたちは、世界最高水準のスキルを装備したアスリートばかりなんだから！

——つまり、●●●の言うところの〝▲▲▲▲級〟のファイターがウジャウジャいるわけだ。

スコット　単なる妄想に聞こえるから、

その例えはやめてくれって！

——じゃあ、どんな選手がいるんだよ？

スコット　イーブス・エドワーズ、サム・スタウト、スペンサー・フィッシャー、マーク・ホーミニック、それから、ジョシュ・トムソン、ショーン・シャークがニック・ディアス戦後、階級を下げることは決定的だ。

——あ～、ただでさえよく知らないんだから一気にまくしたてないでくれ！　ぶっちゃけ、誰が一番強いの？

スコット　いまは、コイツがトップとハッキリ断言できる選手がいないんだよ。ただ、関係者に聞いた話だと、今年中にはタイトル戦を実現させるつもりらしい。UFCとしては、イーブスに王者になってもらいたかったようだけど、イーブスはUFC58でマーク・ホーミニックにまさかの一本負けをしてしまったからな～。

——イーブスは一歩後退してしまったと。

スコット　でも、イーブスの実力は誰もが認めるところ。『PRIDE』のレギュラーになる前に、もしかしたらUFCが契約で縛る可能性も充分にありえるね。

——中・軽量級の選手を巡っても『PRIDE』とUFCはある種の緊張状態にあるってわけね。

スコット　問題があるとすれば、UFCは選手へのギャランティを思いのほか低く提示しているから、どうなることやら。

——なるほどね。ところで、アメリカのファンは日本の軽量級のスター、五味隆典や山本"KID"徳郁に興味はないのかな。

スコット　マニアはともかくライトなファンはどうかなあ。アメリカ人はアメリカのことしか興味ないからね。日本で盛り上がってることも知らないんじゃないかな。

——えらく幸せな国民だなあ。

スコット　まあ、アンタにだけは言われたくないけどね（笑）。日本のファンも日本だけじゃなくて、アメリカの中・軽量級戦線にも注目してほしいね！

アメリカのライトなファンは五味やKIDには興味はないよ

UFC58での敗戦のショックを払拭するかのように、短いスパンで『PRIDE武士道 其の拾』のリングに上がったイーブスは鋭い打撃で池本を圧倒。本人はUFC・『PRIDE』双方との継続参戦を希望しているが、今後は……？

UFC中軽量級の主役は？
USA Cool宅急便

USA Cool宅急便 NEWS

元UFCファイターに110億円の強盗容疑!!

かつてUFC46でジョージ・リベラを三角絞めで下したリー・マーレイにイギリス史上最大の強盗事件に荷担した容疑が掛けられている。2月21日、イギリスのケント州トンブリッジで警備会社のマネージャーが拉致され、その会社の金庫から5,300万ポンド（約110億円）が盗まれるという事件が発生。翌月ケント州警察はその事件に関連して3人の女性を逮捕。盗品所持とマネー・ロンダリングの容疑で身柄を拘束された彼女らの一人がマーレイに近い人物であることから、マーレイの借りていたガレージを警察が捜査したところ、700万ポンド（約15億円）が見つかった!　またマーレイは家族とマネージャーにスペインに行くと告げたまま行方不明になっていることも判明。現在、警察は21人を逮捕し5人を起訴、これまでに2000万ポンドを回収しており、残りの3,300万ポンドとともに彼の行方を追っている。なおマーレイは昨年末にロンドンのナイトクラブで刺されて、世間を騒がせたばかり。またしても派手にやってくれたマーレイはいったいどこに?

UFCに強力な助っ人出現!!

ネバダ州アスレチック・コミッションのエグゼクティブ・ディレクター、マーク・ラットナーが辞任。5月15日からUFCの副社長に就任する。ラットナーは、01年にUFCがネバダ州に進出した際に、ボクシング・コミッションの協力を得て、UFCのルール改正に参加。当時、"何でもあり"の印象が強く、世間からは野蛮と非難されていたため、開催が難しいとされたラスベガスでのイベント実現に大きな貢献をはたした。また、ラットナー氏はUFCがカリフォルニア州での興行ライセンスを得た際にも力を尽くしたと言われている。ダナ・ホワイトUFC代表は「UFCのスタッフは全員、彼を尊敬している。彼のこれまでのコンバット・スポーツにおけるキャリアはUFCの価値を大きく高めるだろう」と笑顔。さらに「まだ二つノック・ダウンしていない都市があるんだ」とコメントした。今後、シカゴそしてニューヨークでのイベント開催を目指すUFCに強力な助っ人が加わったことになる。

TUF3がついに放映開始!!

全米ファンが待ちに待ったリアリティー・ショー『TUF第一回（ジ・アルティメット・ファイター） エピソード3』がついに放映開始。第一回放送では、犬猿の仲と言われるコーチのティト・オーティズとケン・シャムロックに対して、ダナ・ホワイト代表が「感情的にならずに、選手がUFCと契約できるように、プロに徹してトレーニングに集中するように」と発言。その言葉を受けて、二人のコーチは握手。放送終了後の実現がウワサされる試合までお互いのわだかまりを我慢することになる。また今回からそれぞれのアシスタントコーチは各コーチが選べるように。ティトは立ち技のアシスタントコーチに加え、アブダビ・コンバット優勝者で『PRIDE武士道』にも参戦経験のあるディーン・リスターをグラップリングのコーチに。一方シャムロックは寝技のコーチではなく、コンディショング・コーチとしてダン・フリーマンを揃えた。多くの選手はシャムロックの判断に批判的だが、はたしてその差はどう出るのだろうか!?

ストライク・フォースが第二回大会開催!!

3月10日にカリフォルニア州で初のライセンスを得たMMA大会を開催し、北米レコードを更新する18,200人の動員に成功した『ストライク・フォース』。その第二回大会が開催決定! 6月3日、ロサンゼルスのステープルセンターで行なわれるその大会には日本でもK-1 MAXやROMANEXでおなじみのドウェイン・ラドウィックの参戦が発表されている。さらに、現在フリーとなったクイントン・ジャクソンも参戦するという情報もあり、WFA、ストライク・フォース、『PRIDE』、UFCのランペイジを巡る動きに注目だ。ちなみに観客動員では大成功だった旗揚げ戦だが、チケットの値段を低く抑えすぎたため興行収入は100万ドルに留まったとのこと。

新団体IFLが早くもTV契約を締結!!

IFLが4月29日の旗揚げ戦を前にフォックス・スポーツ・ネットワークと契約を結んだ。アメリカでは、第一回大会を開催する前にテレビ局が契約を結ぶのは珍しいことであり、この背景にはUFCブームによる格闘技界全体に対する米国民の関心の高まりがある。旗揚げ戦には『PRIDE武士道』に参戦中のジェンス・パルヴァーの出場も決定。コール・エスコバドと対戦する。なお、この大会の模様は5月21日にで全米でオンエアされる。

ドン・フライが10年ぶりにアメリカでファイト!!

5月13日に開催されるキング・オブ・ザ・ケージにドン・フライが出場!　大会名もドン・フライのアメリカでの異名"プレデター"が付けられることになった。ドン・フライは日本を主戦場としていたため、なんと、これが10年ぶりの母国アメリカでの試合となる。なお、対戦相手はルーベン・ヴィラリール。

イズマイウ、奮戦中!!

我らが"闘魂ストーカー"、ヴァリッジ・イズマイウがアメリカで精力的に活動中だ。イズマイウは4月29日にブラジルのマナウスで開催する『ジャングルファイト6』の準備で大忙し。ヘビー級フランス人ファイター、アンソニー・レアと契約した述べている。その対戦相手には、2月の『MARS』で矢野卓見を絞め落としたハニ・ヤヒーラのチームメイト、ディミトリ・ヴァンダレイが挙げられている。

協力／『MMA WEEKLY』

UFCライト級ファイター プチ図鑑

スペンサー・フィッシャー
スコット一推しのファイター。前回UFC58で約10キロ落としてライト級にで電撃参戦。しかし急激な減量がたたり、試合中に失速。格下と思われたスタウトに敗れてしまった。

サム・スタウト
"石の拳"を持つ男。驚異的なスタミナで連勝街道を突っ走り中のカナダ人。レスリングがベースだが、K-1 MAXに出場するほど、強力なパンチも持ち合わせている。

ショーン・シャーク
UFCウェルター級の中で5本の指に入るトップファイターだが、ニック・ディアス戦を最後にライト級に転向する。力が強く、典型的なタックル&パウンドファイター。

ジョシュ・トムソン
挑戦的で傲慢な態度から、ついたニックネームは"パンク"。名門アメリカン・キックボクシング・アカデミーの一員だが、下から極めるなど寝技もテクニシャン。イーブスと並ぶエース候補。

エルメス・フランカ
元ATT&BTTのメンバーでブラジリアン柔術のスペシャリスト。打撃とレスリングも強く、勝負における粘り強さに定評がある。UFC44では宇野薫をKOして一気に有名に。

イーブス・エドワーズ
『PRIDE』でもお馴染みのブラック忍者。カリブ海はバハマ出身。立ってよし、寝てよしのファイトスタイルに加えて、その明るい性格からアメリカMMA界のカリスマに。

petit picture book © Dave Mandel, Mick Hammond, Scott Petersen

인 사이드 코리아
（イン サイド コリア）

韓龍格闘技ノンフィクション劇場

第2回

デニス・カーン、美濃輪育久に"公開道場破り"を仕掛けた男

韓国格闘技界最強のグラップラー チョン・チャニョル列伝

文／大川"隊長"義之

■韓国格闘技界における伝説にして最強のグラップラー

韓国には、KOREAN TOP TEAM（以下KTT）という総合格闘技のチームが存在する。「トップチーム」という名前はいまでは多くのチームが使用していて安易なイメージがあるが、KTTは韓国最高峰のレスリングコーチをずらりと並べた、文字通りのトップレベルのチームである。そしてこのKTTのグラップリング部門のコーチを担当するのが、今回の物語の主人公、**チョン・チャニョル**・コーチである。「なんでコーチなんぞを取りあげるんだ？」と言うなかれ。韓国でトップファイターとして活躍し、現在KTTとは姉妹チームの関係にある韓国真武館総本部の奥田正勝選手はチョン・コーチの印象をこう述べる。

「彼とは03年ごろから一緒に練習していますが、一言で言えば、〝バケモノ〟です！（キッパリ）。いや、かわいい〝バケモノ〟かな？（笑）。彼は間違いなく、**韓国格闘技界最強のグラップラー**です。常に一本を狙いますし、自分の身体に合わせた頭のいい闘い方をしますね」

現在の肩書きはKTTのコーチであっても、このチョン・チャニョルは、どんな**現役の選手をも寄せつけない**領域にいる韓国格闘技界〝最強のグラップラー〟なのである。

■「いつでも」、「誰とでも」本気（マジ）なチョン・チャニョル！

「いままでグラップリングで誰にも負けたことはない」と聞いたチョンは、明け方の4時近くにもかかわらず無理やりジムを開け、ガチスパーを挑んだ

チョン・コーチは、ただ強いだけでなく、愛すべき武勇伝のようなエピソードが多いことでも有名だ。ここでは〝いつ、何時、誰とでも〟闘う無頼な剣豪を彷彿させるエピソードを紹介する。

あるとき、チョン・コーチは同業の格闘技ジム関係者と飲んでいた。その中の一人が何かの拍子で「俺はいままでグラップリングで誰にも負けたことはない」という話を、あろうことかチョン・コーチの前でしてしまったから、さあ大変。**すでに明け方の4時近く**になっていたにもかかわらず、**「そんなに強いというなら、俺といまやってみようじゃないか！」**というチョン・コーチの一言で即、**近くのジムにタクシーで直行！**　酔っていようが、どこにいようが、何時であろうが、そんなことおかまいなし！　**無理やりジムを開けてもらうと、本当にガチスパーを始め、**二時間にわたって相手からコテンパンにタップを取り続け、二度と大口が叩けないようにしたという。チョン・コーチは本気（マジ）で誰とでも闘うのだ。

顔からしてタダモノではない。眼鏡をかけたキャイ〜ンの天野似の男がチョン先生！　非常に味わいのある顔立ちから、一直線な性格が伝わってくるというものだ。酒の席といえども「俺は強い」なんてことを口にしたら、そのままジムへ連れ去られるから気をつけよう！

■別名『プロセミナー荒らし』

昔、グレイシー一族が無名の頃、自分たちの強さを証明するため、世間で強いとされる者がいれば、わざわざ出向いて自分の実力を証明する**「グレイシー・チャレンジ」**という闘いを行なっていたという。チョン・コーチも、「強い」と言われる相手なら、直接手を合わせて自分の力を証明したいという、**格闘家として純粋な衝動**を持ち続けている。その具体的な方法として、彼は韓国で開催されるプロ格闘家の**セミナーにお金を払って受講生の一人として参加**。セミナー中に行なわれるスパーリングで**合法的に自分の強さを試す**「チョン・チャニョル・チャレンジ」とも言うべき**公開道場破り、**もしくは**〝プロセミナー荒らし〟**を何度も行なっている。

03年11月1日CMA／KPAの主催で開催された美濃輪育久セミナーに、チョン・コーチはキム・ジョンワン、チェ・ムベらとともに受講生として参加。このとき、取材に来ていた『mooto』などのメディアは、**パワー全開でスパーリングに挑み、美濃輪選手を万力フロントチョークで吊り上げて半失神にまで追い詰めた**チョン・コーチの記事を掲載している。

■デニス・カーンとの幻の頂上対決

圧巻だったのは、05年1月9日に、ソウルにある真武館韓国本部でデニス・カーンのセミナーが行なわれたときのこと。主催者が事前に宣伝をしなかったため、参加者はたった4名だったが、**その中にチョン・コーチの姿が当たり前のようにあった。**「あんた素人じゃないじゃん！」とツッコミた

くなるが、チョン・コーチにとっては大真面目の参加。なぜならこのセミナーは**“韓国人最強”**と評価されているデニス・カーンと、正式な果たし合いができる絶好のチャンスだったからだ。

参加者は少なかったが予定通りスパーリングは行なわれ、ついにデニス・カーンとの対戦が実現。**異様なテンションでスパーに臨むチョン**・コーチから公開道場破りの如き異様なオーラを感じとったか、デニスは警戒してなかなか簡単には攻め込まない。電流の流れるようなヒリヒリした空間の中、時間はあっという間に過ぎていき、結局スパーリングはスタンドレスリングの手の探り合いだけで終わってしまった。**デニスはこのスパーを行なっただけでセミナーを終了**させ、韓国グラップリング最強の男を決める対決は、決着がつかないまま終了した。

今夏に開催される『PRIDEウェルター級GP』の優勝候補、デニス・カーンにハイテンションでガチスパーを挑む!! それがセミナー中なのだからデニスからすれば迷惑この上ないが、おもしろいから問題なしです、チョン先生！ まさに“腕を試す”というフレーズが世界で一番似合う男、武芸者なのである。

異様なテンションでセミナーのスパーに臨むチョン。異様なオーラを感じたのか、デニス・カーンは警戒してなかなか簡単には攻め込まない

■……そして日本最強のグラップラー、青木真也との死闘

チョン・コーチが次なる「チョン・チャニョル・チャレンジ」の舞台として選んだのは、05年3月に行なわれた**アブダビ・コンバットの日本予選**であった。今度は日本で強いと言われているグラップラーたちに挑戦状を叩きつけたのである。しかし、はやる気持ちとは裏腹に、チョン・コーチは大会直前、首に深刻な怪我を負ってしまう。ギリギリまで欠場しようと考えていたが、参加に当たって某プロレス団体の協力を得て申し込みをしていたため、無理を承知で出場を決意。そうして最悪のコンディションで出場したトーナメントの一回戦の相手は、なんと**日本最強のグラップラーとの呼び声も高い**、現・修斗ミドル級王者の**青木真也**！

一回戦でいきなり**“日韓最強のグラップラー対決”**が実現。試合は、その期待を裏切ることなく、パワーで押すチョン・コーチに対し、跳び関などの技で青木が対抗するという実力伯仲の大熱戦となった。**パワーに勝るチョン・コーチが終盤までアドバンテージ**を得ていたが、一本狙いからポイント狙いに切り替えた青木選手が終了直前にテイクダウンを奪い、2―0で薄氷を踏むような勝利を収めた。青木選手はこの後、3試合連続秒殺一本勝ちでブッちぎりの優勝。振り返ってみれば、**一回戦が事実上の決勝戦だった。**

残念ながら「チョン・チャニョル・チャレンジ日本編」では、大会での優勝や入賞といったかたちのある成績を収めることはできなかった。しかし一回戦終了後、青木選手が今成正和にもらした**「いやぁー、相手強かったよ～」**というコメントに見られるように、チョン・コーチの強さは人々の心にしっかりと刻みこまれたのである。

■そして、これから

現在、DSEの後援を受けて、世界レスリング連盟（FILA）が組み技格闘技**「パンクラチオン」**をオリンピック正式競技種目にしようとしている。来年あたりに世界選手権大会を開催する方向で話が進んでいるが、もしこの話が順調に進めば、まだ年齢の若いチョン・コーチは韓国代表の最右翼となる。将来的にはレスリングで果たせなかったオリンピック出場の可能性もまだ残されていることになる。チョン・コーチもこうした動きを視野に入れており、今日も元気に毎日の目標である**“一日百タップ”**を奪うため、KTTの練習生を相手にガチスパーを行なっている。「チョン・チャニョル・チャレンジ」は、まだまだ終わりそうにない。

チョン・チャニョル
1973年生まれ。韓国体育大学卒。KOREAN TOP TEAM所属。毎日の目標が“一日百タップ”奪取ということからして、常人では計り知れない格闘人間力を感じるのである。92年世界青少年選手権大会優勝、94年アジア選手権4位、92年ハンガリー・デュナカップ3位、95年カナダカップ2位、全国体育祭典7連覇（以上受賞はすべてフリースタイル）。170cm、77kg。

インサイドコリア 韓国格闘技情報

新たなるシルムファイターがK―1にチャレンジ！

韓国の元シルム戦士であるキム・ドンウク（29）、キム・ギョンソク（25）、シン・ヒョンピョ（29）らのK―1デビューが発表された。韓国シルムの強豪である彼らは、すでにムエタイやボクシング、柔術や総合格闘技のトレーニングを1年以上続けており、K―1以外にも『HERO'S』の参戦も視野に入れているという。とくに04年にチェ・ホンマンを破ったこともある強豪キム・ドンウク（193センチ、170キロ）に関して、韓国のメディアは「デビュー戦近し」と報道している。

アントンがビッグイベント開催？

昨年、世界大会を開催したWXF（旧WKF）が早ければ、4月末に再び国際規模の大会を開催する。関係者筋の情報によれば、昨年WXFの総裁に就任したアントニオ猪木氏を通じて、最近引退を宣言したUFC元ライトヘビー級王者ランディ・クートゥアー、ダン・スバーン、セーム・シュルト、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラなどのスーパーファイターを集結させるビッグな大会を計画しているという（!）。実際には参加選手のリストは噂レベルにすぎないようだが、こうした壮大な大会前情報と、現実の大会とのギャップを楽しむのがコリアンMMAの楽しみ方というもの。期待しすぎず続報を待ちたい。

スピリットMCがナンバーシリーズを開催

スピリットMCは4月22日にソウル奨忠体育館で、第8回目を迎えるナンバーシリーズを開催する。タイトルは『Only One』。この大会には、『PRIDE武士道・其の拾』に出場して勝利を収めたデニス・カーンをはじめとして、『GO!スーパーコリアン』でメディアの露出度が高くなったミドル級のトップ戦士イム・ジェソク、チェ・ヨン、イ・ジェソン、ペク・ジョングォンらが、中級クラスのアメリカ人ファイターと対戦する。また、2月に開催された新人トーナメントの決勝戦も併せて行なわれる。このトーナメントの3階級中2階級で九州の真武館勢が決勝に進出している。これまでスピリットMCというと純国内選手による大会、という印象が強かったが、この大会をきっかけに国際大会として大きく飛躍することができるか。

MARS KOREAの詳細

4月29日の開催を発表したMARSは「新概念総合格闘技」を標榜し、最大限に観客を楽しませる試合を提供するという方向性を明らかにした。具体的には、空中攻撃や回転攻撃、ハイキックなどの派手な技を出す選手に高評価を与え、反対にグラウンドの攻防には打撃ほどの点数を与えないという独自の査定ポイントを設定した。試合は全15試合が予定されており、すでに小椋誠志vsキム・ジョンワン、ジェイソン・ワイルド・チャイルドvsソン・オンシク、中村K太郎vsチョン・ヨンジェ、加藤実vsハン・ジョンソなど、8試合が決定している。韓国人ファイターは元チーム・タックル（すでにジムは閉鎖）の面々やバーファイト経験者が多い。

NEO FIGHTは大会を延期

3月末に予定されていたNEO FIGHTは関係者の大方の予想通り、延期された。NEO FIGHTはここ数年プロ興行を年に一度しか開催しておらず、業界内でその存在感は薄れている。延期の時期については5月頃を予定しているというが、今年度に入ってすでに二度も延期が続いているため、実現の可能性は未知数。

時代の流れに逆らう男たち

パンクラス・ヘビー級王座決定トーナメント
金原、杉浦 一回戦敗退！
見せつけられた厳しい現実

第2代ヘビー級王者決定トーナメント一回戦
○アルボーシャス・タイガー vs 金原 弘光×
（2R終了 判定 3−0）

第2代ヘビー級王者決定トーナメント一回戦
○野地 竜太 vs 杉浦 貴×
（1R 3分25秒 KO）

4·9 PANCRASE
2006 BLOW TOUR
ディファ有明

文／橋本宗洋　撮影／乾晋也
designed by bun-chan（Two Three）

現実を見た。

観客の胸に容赦なく叩きつけられる圧倒的に残酷な現実。それは何も『PRIDE』に限った話ではない。この日、セミとメインに登場した金原弘光と杉浦貴（二人とも、今年36歳になる）の敗北は、彼らを見てきた人間に重くのしかかった。

バックボーンこそ違うものの、金原も杉浦もかつては『PRIDE』に出場したことのあるファイターである。万単位の観衆の視線と歓声を浴びてきたのだ。その彼らがディファ有明というお世辞にも大きいとはいえない会場で、（二人のファンからすれば）知名度の低い選手たちに敗北を喫してしまう。

1ラウンド、アームロックのチャンスを逃すと、金原はアルボーシャス・タイガーのカウンターのフックに何度もマット這わされた。KOこそ免れたものの、そうレフェリーに判断されても仕方のないようなダウンシーンも見られた（この試合を裁いていたのが、Uインターやリングスで同じ釜の飯を食った和田良覚レフェリーだったというのも、切なさを増幅させた）。

杉浦の負けも、まったく言い訳のできないものだった。極真空手出身、K―1でも活躍し、最近は総合ファイターとしての実力を上昇させている野地竜太の前蹴りをボディに食らい、弱々しくマットを這う。そこへ踏みつけとパウンドの連打。開始直後こそタックルで主導権を握った杉浦だが、それをしのがれるとなす術がなかった。

これが、現実なのだ。知名度がどうであれキャリアがどうであれ、リングの上ではそのとき、強い者が勝つ。この日、金原と杉浦の敗北に感じた重さは、だから選手の〝幕引き〟、あるいは極端な言葉を使えば〝末路〟に関するものだったように思う。名を成したファイターが時代の趨勢に流され、若い選手たちの力に押しやられていく……。

総合格闘技はまだ歴史の浅い世界だから、スポーツの世界にはあって当然の〝選手の末路〟にまつわる悲劇性が棚上げにされてきた部分もあった。だがこの日、金原と杉浦の敗北によって、我々は気づかされたのだ。実力の世界で生きることを望んだ人間が、実力ゆえに生きる場を失なっていくという負のドラマは、決して避けられないものだということを。ボクシングで、野球で、相撲で。何度も見てきたあの哀しい光景を、総合でだけは見なくて済むなんてことがあるはずはない。

試合を終えた杉浦は言った。

「格闘技やってる人に笑われるのが一番嫌だったけど、今日は格闘技やってる人からは素人に毛が生えたくらいに見られるでしょうね」

金原の言葉は、さらに痛切である。

「疲れたっていうか、もうやめようって気持ちもあるし、ここでやめたら情けないし。やめるのは簡単なんでしょうけど、ここで終わるのは嫌だし……。難しいですね」

二人とも、自分がこの日突きつけられたものが何であるかを充分すぎるほどにわかっているのだろう。だから彼らの声は、胸に響く。

ただし、だ。彼らの敗北を見て〝もう終わったね〟と簡単に斬り捨てたり、〝選手は引き際が肝心だよ〟などというつもりは、筆者には毛頭ない。彼らがそんな戯言に耳を貸す必要も、まったくない。リング上でボロボロにされ、自分に足りないもの、失なってしまったものを痛感し、メインストリームから押し出されたとしても、そんな彼らを止める権利など誰にもないのだ。

〝見事な幕引き〟や〝惜しまれつつリングを去る〟のもいい。だが誰に何を言われようが、どんな屈辱を味わおうが時代の流れに、現実に抗い続けようとするファイターの〝業〟もまた、筆者の目には魅力的に映るのだ。

金原、杉浦とも、1ラウンド開始早々はテイクダウンを奪い、試合を優位に進めたが、金原はアルボーシャスのカウンターのフック、杉浦は野地の前蹴りで流れを変えられ逆転負け。地力はある二人だけに、なんとか復活を期待したい。

金ちゃんのどこまでやるの？

イラスト◎中川画伯

特別編

傷つき打ちのめされても這い上がるよ！

パンクラスヘビー級王座決定トーナメント一回戦、バルボーシャス・タイガー戦。頑張って優勝しようと思ってたんだけど、また判定負けしてしまいました。敗因は1ラウンド最初に極められるチャンスで十字にいこうか、アームロックにするか迷っちゃったのがいけなかったと思うんだけど……。

なんか最初から自分でも反応鈍いなと思ってね。ファーストコンタクトで向こうのパンチが来たとき目ぇつぶっちゃってさ。「あれ～目ぇつぶっちゃってるよ、俺」とか思って。こんなことってなかったんだけどね……。

技術的とか体力的より、メンタルな部分に問題があるのかな。なんか、がむしゃらにいく闘志が沸いてこなくてさ。本当なら1ラウンド、いいパンチ食らって取られてるから、2ラウンドはもっともっと攻めなきゃいけないのに、そういう闘志が沸いてこなくて……。

今回、試合の前の日から試合するのが嫌でしょうがなくてさ、珍しく夜も眠れなくて「おかしいな、こんなことなかったのに……」と思って。「試合の前ってこんなに緊張したっけかな」と思うぐらい嫌でさ。負の方向ばっか気持ちがいっちゃうんだよね。本当は試合前って、自分が勝つイメージを作らなきゃいけないんだけど、「また負けたらどうしようかな……」とか、負けたあとのことばっかり考えてね。精神がかなり追い込まれてるんだよね。

このままじゃ終われないっていう気持ちもあるんだけど……ボクシングでも相撲でも一度連敗していったベテラン選手って、そのまま負けが込んで辞めちゃうもんね。俺もそういう状況に来てるのかな……。これだけ結果が出なかったら、プロとして辞めなきゃならないのかもしれないし。でも、ここで辞めたら情けないっていう思いもあるし。

なんかさぁ、このあいだ、気功の先生とスピリチュアルな話をしてたら、俺、前世が中国の大富豪らしくてさ、ほしいものはなんでも手に入ったんだって。それで何不自由なく生活して、苦労を知らずに一生を終えたから、現世は苦労を知るために生まれてきたんだって。生まれてきた理由が「苦労を知るため」って、勘弁してほしいよ～（苦笑）。

もう、ホントは今回、こんな寂しい内容のコラムになる予定じゃなかったんだけどね。じつは試合前に勝ったあと書くコラムの内容も考えてて、「いや～、やっと勝ったよ」っていう出だしで始まってさ、「長かったな～」。これだけ勝てなかったら、普通の選手はもう辞めてるよね。でも、俺はそれを乗り越えたんだから、たいしたもんだよ」とか書こうとしてたんだけど、真逆の結果だったからね（苦笑）。

う～ん、うまくいかないな。長渕剛の「傷つき打ちのめされても　這い上がる力がほしい」という歌の歌詞が胸に響くね。だけど、俺を応援してくれるファンが一人でもいるのなら、ファンに恥じないように復活するよ！

これは“スーパーU-STYLE”なのか？

“U”にシュートファイト導入！
ファイトマネーは観客投票で決定!!

U-STYLEの地下実験Uzeal ユー・ジールを見た!!

4・8 西調布格闘技アリーナ

取材・文／堀江ガンツ

designed by bun-chan (Two Three)

どっこい、〝U〟は生きていた！

昨年11月23日、DSEの協力を得て初のビッグイベント『U－STYLE Axis』を開催しながら、興行的には惨敗を喫してしまった、田村潔司率いるU－STYLE。この大会後、田村は本誌に「観客数200人の西調布格闘技アリーナから出直して、若い選手を育てていきたい」と語っていたが、その言葉通り、今年3月11日より新コンセプトイベント『U－zeal（ユー・ジール）』をひっそりスタート。その旗揚げ戦はほとんど宣伝らしい宣伝をしていなかったため、本誌も思わず見逃してしまったが、第2回大会が開催されるというので、4月8日、早速足を運んでみた。

会場となる西調布格闘技アリーナは、平日はU－FILE CAMP調布としてジム営業し、週末のみ格闘技・プロレス会場として使用されている収容人数最大200人の小規模アリーナ。

会場入口で渡された資料によれば、『U－zeal』の「zeal」とは「情熱」という意味であり、その「熱」を生み出すための実験場が『U－zeal』なのだという。

では、『U－zeal』が行なっている実験とはいったい何か？ それはズバリ、勝負論と観客論の融合だ。これまでのU－STYLEは、格闘スタイルでありながら、ジャンルとしてはプロレスにカテゴライズされるものだったため、総合格闘技でもエンターテインメントでもなく、「勝負論と観客論のどちらにも針を振れな

つまらない試合をしたらノーギャラ！これが観客投票システムだ!!

観客投票の流れ

●入口にて入場券（半券）と引き換えに赤と青の観客投票権をもらう。

●全試合終了後、会場出口にて投票箱をご用意してあり、「一番おもしろかった」という試合には赤い札、「一番つまらなかった」と思う試合には青い札を投票する。該当する試合がない場合は「該当なし」の箱に投票。

赤票　青票

第1試合　第2試合　第3試合　第4試合　該当なし

赤票　最も**おもしろかった**試合（＋¥1000）

青票　最も**つまらなかった**試合（－¥1000）

※赤票、青票それぞれで該当する試合がなかった場合は、棄権として「該当なし」に投票。

選手への報酬

●全投票終了後、試合ごとに赤青それぞれの得票数を集計。赤票の合計数から青票の合計数を引いた数字が試合の獲得ポイントとなり、獲得ポイントに1000円をかけた金額がその試合に対する報酬となる。つまり、青票のほうが多い試合については無報酬。ノーギャラとなってしまうのだ。

●このシステムは、観客の支持がそのまま報酬に直結することにより、選手は「何が自分に足りないのか？」を直視するきっかけとなり。選手としてのさらなる質の向上を期待するものだ。

観客数80名の場合（例）

	赤票	青票	獲得ポイント	試合報酬
第1試合	40	10	30	30,000円
第2試合	10	30	0	0円
第3試合	20	10	10	10,000円
第4試合	0	10	0	0円
該当なし	10	10	―	―

※この獲得ポイントは後日試合結果と一緒にホームページにて公表。
自分が応援している選手や、興奮した試合の評価が一目でわかるシステムになっている。
U-FILE CAMP ホームページ　http://www.u-filecamp.com/

これが西調布格闘技アリーナの内部。見ての通りどこからみても特別リングサイド。この日はなんと"世界の所さん"もプライベートで観戦に来ていた。

規模は小さいながらも、大会運営はしっかりとU－STYLE。ちゃんと本部席にはロストポイントを表示する電光掲示板も用意されているのだ。

会場出入口には各試合ごとのボックスが用意されており、観客は帰る前にここへおもしろかった試合、つまらなかった試合の票を入れていくのだ。

会場にはもちろん田村潔司の姿も。『U―zeal』は田村が直接タッチするのではなく、『PRIDE』のレフェリーでもある大城氏が担当しているが、全試合しっかりと見ていた。

い、中途半端なもの」と思われがちであった。そういった認識を克服するため、この『U―zeal』が目指すのは〝総合格闘技でありエンターテインメントでもあるU―STYLE〟。だから、試合はあくまでプロレスではなく、シュートファイトなのだ。しかも『U―zeal』がユニークなところは、シュートでありながら、勝つこと以上に観客を満足させることが求められているところだ。

そのために導入されたのが、別表に掲載した観客投票システム。これは観客がおもしろかった試合、つまらなかった試合をそれぞれ選び、その投票がそのままファイトマネーに直結。シュートでありながら、〝ニンジン〟を観客論側にぶら下げることで、勝負論と観客論を融合させられる選手を育てようとしているのだ。ただ、そうなると難しいのが観客論のさじ加減。この日観た試合の中には、シュートではあっても派手な展開を意識しすぎて、技をかけさせ合っているかのような光景も少なからず見受けられた。このあたりが今後の課題となるだろう。

にしても、『U―zeal』が画期的な実験を行なっていることは確か。昨今、巷では〝スーパーUWF〟という蜃気楼のような〝ガチプロ〟が何度か話題に上がっているが、じつはもうそれは、この東京の片隅でひっそりと実現し始めていたのである。

なお、次回開催は5月13日。チケット料金は一律3000円と格安なので、ぜひ一度、『U―zeal』の実験をその目で確かめてみてほしい。

キス、そのあとで

セイセイセイ！あの中尾さんに新展開!?

『Dynamite!!』でのヒーリングとのキス事件で一躍脚光を浴びた中尾さん。その後、『kamipro』96号で本誌初登場となった中尾さんは赤裸々発言を連発、読者のハートをガッチリとキャッチした。しかし、それ以後、トンと音沙汰のない中尾さんに何が起こっているの？

構成／松澤チョロ

総合好きな『kamipro』読者の中で、ここ最近、一番気になるレスリング出身者といえば、この人で間違いないだろう。

エッ、藤田和之？　まあ、藤田選手も締切間際の4月11日現在、『HERO'S』に出るのか、『PRIDE』に出るのかハッキリしないんで、やっぱり気になりますね（※翌12日、『PRIDE』参戦決定）。KIDの妹の山本聖子？　聖子ちゃんもハンドボール日本代表と婚約したばかりなんで、気になるっていえば気になりますよね……セイセイセイ！　ちょっと待ってくださいよぉ～!!

たしかに、その二人も気になりますけど、肝心なあの男を忘れちゃいませんか!?　つぶらな瞳に、たくましいマッチョバディのあのナイスガイを！　そう、昨年大晦日の『Dynamite!!』でのヒース・ヒーリングとのキス事件で一躍名を挙げた我らが中尾さんのことですよ～！

その後、『kamipro』NO・96で、事件の真相を赤裸々に語ってくれた中尾さんは、「今度、ヒーリングと闘ったらパンチで倒して、寝てるところにチューするんです！」などキュートな発言のオンパレードで、読者はもちろん、選手＆関係者からも「中尾さん最高！」といった声が多数寄せられ、注目度は高まるばかりだったのだが……。

3・15『HERO'S』武道館大会前に行なわれた会見で谷川貞治K―1イベントプロデューサーの口から「ホントはヒーリングと中尾君の再戦を考えてたんですけど、中尾君から断られちゃったんですよ。ハッキリ言って今年一番のショックですよ！」という発言が飛び出して以来、中尾さんの話題はトンと聞かなくなった。

「まだ体調が完璧じゃないのかなぁ？」とか考えていた3月3日のひな祭り、パンクラスから一枚のファックスが！　そのファックスによると、当初、4・9ディファ大会でのヘビー級王者決定トーナメントに出場が決定していた浜中和宏が欠場になるというもの。理由として、浜中が出場するトーナメントの同ブロックに一緒に練習している野地竜太が出場するため、チームの代表的立場にいる中尾さんから「仲間同士の試合は今後の練習に影響が出るため避けたい」と出場辞退の申し入れがあったということが明記されていた。パンクラス側は「出場の了解を得た上での発表だったが、協議を重ねた結果、申し出を受理した」と見解を発表。字面だけ見ると、中尾さんがちょっとした悪者にも見えてくる。その件について本人に確認してみると「なんかそんなことが書かれてるみたいですね。矢野（卓見）さんとも冗談で話してたんですけど、キャラ的に僕の名前が使われたんじゃないかって。中尾ならしょうがないか、みたいな（笑）」と、アッケラカンと語ってくれた。

それ以後、再び話題を聞かなくなっていた中尾さんが公の場に姿を見せたのは、4・9パンクラス・ディファ大会だった。その日は練習仲間の野地の応援で来場した中尾さんだったが、対戦相手の杉浦は自衛隊レスリング部時代の仲間。野地サイドにいた中尾さんの姿を発見した杉浦夫人は冗談まじりに「この、裏切り者！」と言っていたという。またしても、やっちゃった!?　大きなお世話ながら、そのことを中尾さんに報告すると「同じ釜のメシを食ってた仲間なんで、話せばわかってもらえると思うんですけどね」と苦笑い。

続けて中尾さんは「もう少しで、おもしろいことが発表できると思うんで楽しみにしててくださいね！」と、意味深に語っていた。いったい何を企んでるんだ、教えて、中尾さん!?　「もうちょっとだけ待ってください。『kamipro』さんには真っ先に報告しますから！」と、もったいぶる中尾さん。〝殺し〟を持っているかは定かではないが、この男、〝焦らし〟のテクはなかなかのモノを持っていると見た。そういえば、中尾さんは、ちょっと前までは電話で「K―1の中尾です」と、さわやかに切り出していたのだが、ここ最近は「格闘家の中尾です」と名乗っている。う～ん、そのへんに何かヒントが隠されているのだろうか？　一日も早くリング上での中尾さんの勇姿を見たいと思っているのはボクだけじゃないはずだ。『HERO'S』でのヒーリングとの再戦はもちろん、現実的には新生『MARS』への出場、さらには『ハッスル』でのHG or RGとの対決、はたまた急転直下の『PRIDE無差別級GP』出陣と、想像するだけで夢は無限に広がっていく――。

この号の発売日ぐらいには中尾さんの今後の展開が明らかになっているものと思われるが……〝キス、そのあとで〟中尾さんが何をしでかすかチュー目だ！

4・3新宿ロフトプラスワンで行なわれた吉田豪とターザン山本！の『格闘二人祭り』にゲスト出演した中尾さん。当日は中尾さんと一緒にヒーリング戦の衝撃映像を楽しむという非常に贅沢な空間も設けられた。好感度さらにアップ！

Kamipro降臨! その後のインリン様の姿を入手!

僕が新日本を辞めた理由はアントニオ猪木です!!

大反響! 核心に迫る後編突入

元新日本プロレスリングアナウンサー
田中秀和

各方面で大反響! 前号の『kamipro』に"ケロちゃん見参!"してくれた元新日本プロレスの田中秀和リングアナウンサー。今号ではいよいよ新日本を退団した真相を告白! 混迷が続く新日本プロレスの内側でいったい何が起こっていたのか? 真実を明かす直撃インタビュー!(後編)

聞き手/ジャン斉藤、真下義之 designed by shiraki(TwoThree)

前回の本誌登場では、新日本プロレスに入ったきっかけや、独自のプロレス観、黄金時代の新日本のエピソードの数々を披露してくれたケロちゃん。大反響の前回に続き、今回は新日本の離脱の真相、〝あの人〟について語りまくります!

——昨年11月に新日本の株をユークスに売却しましたが、言うまでもなくそれまで猪木さんの影響力が非常に強かったわけですよね。

ケロ　やっぱり内部では絶大な影響力がありましたよ。この人の言ったことは、絶対やらなきゃいけないという。

——田中さんの個人的関係だけすくい取ってみると、挨拶のためにリングに上がった猪木さんとのあいだにいつも微妙な距離感がありましたよね。

ケロ　う～ん、そうでしたかねえ?（笑）。

——いや、もう見るからにありましたよ!（笑）。

ケロ　じつは、このあいだの札幌のとき（2月5日、新日本プロレス・月寒グリーンドーム大会の休憩明けにアントニオ猪木が挨拶）もライガーたちに注意されたんですよ。「ケロさん、顔に出すぎだよ!」って（笑）。

——ワハハハハ!　猪木さんも「俺がリングにいると不機嫌なヤツがいる!」って言っていたことがありましたけど。

ケロ　僕だけじゃなく、おそらく新日本の社員は、あの人に対してみんな不機嫌だと思いますけどね（笑）。でも、僕は不機嫌さを出そうと思ったことは一度もないですよ。ただ、「ダーッ!」は決してやりませんけどね。とくにここ何回かは意地でもやってないです。

——そんな意地を張ってたんですか（笑）。でも、田中さんが猪木さんに「アレをお願いします」って振る役じゃないですか?

ケロ　そうそう。猪木さんっていつも「ダーッ!」だけは振ってほしそうにするんですよ。マイクは段取り通りにやってくれないのに。

——ああ、猪木さんはどこのリングでも「なんか言うことを頼まれたんですが、ズバリ言って忘れてしまいました。というわけで、いよいよ世界戦略が……」という感じですからね（笑）。

ケロ　だから、そこは気持ちを汲んであげなきゃいけないの。本当に大変なんですよ!!　あの人は。

——それに猪木さんと新日本、猪木事務所の三角関係にしても複雑すぎて、外から見ているとわけがわからなかったんです。

ケロ　まあ、一つだけ言えるのは、新日本の外部関係者って私利私欲に走る人が多すぎたんです。とくに猪木事務所に顕著なんですけどね。

——不思議なのは、新日本側で猪木さんたちの介入を食い止めようとした人間はいなかったのか?　ということなんですけど。

ケロ　結局は上の人間の癒着というか、人間関係の結びつきが強かったんでしょうね。上井（文彦、現ビックマウスラウド・プロデューサー）さんだって、新日本の会社よりも猪木事務所にいる時間のほうが長かったんだから。

——上井さんは外部人材中心のマッチメイクをしてたので、必然的にそうなったんでしょうね。

ケロ　藤波さんもけっこう丸め込まれるタイプですし。草間（政一、前・新日本プロレス社長）さんなんか単純ですから、ちょっとおいしいこと言えばコロッと話に乗っちゃう。

——あら、コロッと話に乗っちゃいますか（笑）。

ケロ　はい。だからどういう流れでことが進んでいたかは、僕らには全然わからなかったんです。

——すべては雲の上の世界で行なわれていた、と。

ケロ　そうですね。僕は、上井さんがマッチメイカーを辞めて退社したあとに渉外部長になったんですけど、そのあと猪木事務所が介入してきて「マッチメイクは猪木事務所がやるから」って言い出したんです。ほかにも常識はずれた無理難題を押しつけてきて……もう「何、それ?」の世界ですよ!

——そこで、新日本の社員が立ち上がろう!　という雰囲気は生まれなかったんですか?

ケロ　それは……やっぱり（会社を）辞める覚悟がないとできないでしょうね。そこは長いモノに巻かれた人もいますから、内部の足並みも揃いませんでしたし。それにどうしたって猪木さんはイチャモンばっかりつけるわけでしょ?　「このカードはつまんねえ」とかさ（笑）。

——「テレ朝、死んじまえ!!」「新日本は脳みそが腐ってる!!」という具合に（笑）。あの頃のアントン成田会見の内容は、放射能汚染なみの破壊力がありましたね!

ケロ　毎回、新日本の文句を言ってるわけでしょ?（笑）。社員は「猪木さんが金を出してチケット買ってるわけじゃないだろ!」っていつも憤ってましたね。それにオーナーなら、そんなの内部で発言すればいいことじゃないですか?

——そこは駆け引きというか、政治闘争という意味合いも強かったんでしょうね。

ケロ　社内の会議で「ここはつまんねえから、こうしたら?」って言えばいいのに、なんで外に向けて批判ばっかりするんだ?　社員がチケットを売ろうと頑張ってるときにどうしてそういうこと言えるの?　って。でも、そういった姿勢を批判したり、意見する人はポストを外されて会社を出て行かざるを得ないようにされてましたしね。

——だから、身体を張って猪木さんと対峙しようとした人間はいなかったわけですか?

ケロ　「正論を言うと殺される」という新日本の歴史をずっと見てきましたから。まぁ、どんな会社でも少なからずあることなんでしょうけど。

——それほど猪木さんが新日本に対して恨みを抱くことになった要因には、一連の政治スキャンダルが発端となって、猪木さんが新日本から追放気味になったことにあると思うんです。

ケロ　そうですね。おそらく猪木さんはその政治スキャンダルがあったとき、新日本が助けてくれなかったことを恨みに持ってると思うんですよ。ただ、僕はこと政治スキャンダルに関しては、猪木さんが悪いとは思わないんです。あの人の性格からして、仕事を全部、他人に任せるから、細かい部分はほとんど見ないんですよ。「こんな話があって、これなら税金対策をうまくクリアできますよ」ってアドバイスされたら、猪木さんは「じゃあやってくれ!」って言うじゃないですか。

——まあ、猪木さんはそのスキャンダル絡みの裁判で「なぜすぐ弁明しなかったのか?」という詰問に「……ズバリ言って、面倒くせえんです!!」って証言したぐらいですから（笑）。

ケロ　だから猪木さんは基本的に悪い人じゃないんです。「お前らが好きにやってくれよ!」って他人任せにしといたのが結局スキャンダルになったんで、それは周囲の責任だとは思うんですけど。ただ、いつも周囲に踊らされてるんですよ。

——そのときそのときで政治的な状況に巻き込まれたり、他人の言動に影響されたり。

これぞ「ケロちゃんの中のケロちゃん!」と絶叫したい、宝塚チックなデラックス・ケロちゃん衣装だ。髙田総統を連想させる秀逸デザインに乾杯!　96年4月29日東京ドーム大会より。

不機嫌さを出そうと思ったことはないけど「ダーッ」は意地でもやってません

04年5月3日の東京ドーム大会より。インタビューの通り、「ダーッ!」をやらないばかりか、もはや「心ここにあらず」といった視線。真一文字に結んだ口もとからケロちゃんの苦悩ぶりが見える。

ケロ　周りの人が「ドームはつまんなかったですよ！」って吹き込めば、猪木さんもそういうふうに言ってしまう。それにいつも自分が新日本の頂上にいることをアピールしたい。一般より上に位置づけられたいから、いい試合があっても「いい試合だ」って言わないでしょ？

——そうですね。猪木さんはあんまり他人を褒めないどころか、いつ何時、自分が主役になることを考えてますからね（笑）。

ケロ　〝神〟としては、少しでも違ったことを言ったり、目立ちたいんでしょうね。

——そんな猪木さんが新日本の権力を掌握するポイントになったのが、〝1・4事変〟と呼ばれる小川直也vs橋本真也戦（1999年1月4日）だと思うんです。小川さんが橋本さんに仕掛けたことで現場は相当な修羅場になりましたけど、あの試合を田中さんはどう振り返りますか？

ケロ　（即座に）「ああ、やられたな！」って思いました。

——それは事件の首謀者とされる猪木さんに対してですか？

ケロ　うん。あの人ならやりかねないと思いますよ、小川を焚きつけるぐらいのことはね（キッパリ）。

——まあ、まったく不思議に思わないですよね。騒ぎが大きくなってそのまいなくなったことも、さすが猪木さんという（笑）。

ケロ　だって「ハプニングさえあればOK！」って人ですから。

——それにしても、事前に危険な試合になりそうだという不穏な情報は入ってこなかったんですか？

ケロ　いや、試合はちゃんとしてくれるんだろうなと思ってたんですけどね……。まぁ、一番かわいそうなのは巻き添えになった双方のセコンドたちですよね。村上（和成）くんとかは病院送りになっちゃったし。

——村上さんは生死に関わる危険な状態になって。そういう事件に火をつけた猪木さんに対する怒りはありませんでした？

ケロ　それはなかったです。どっちかと言えば「橋本、やり返せよ！」って思ってたくらいでね。新日本って会社は「仕掛けられたらやり返せ！」って気風がありますから！

——その精神は大事ですね！　橋本さんはのちに「なんとか場を修正させたい気持ちでわざと寝てた」って言われてましたけど、結局、人生を懸けて小川さんに立ち向かうことになって。

ケロ　いま考えれば、あの試合はあの試合で結果的にいいものが生まれて良かったんじゃないか、って気もしますけど。

——小川さんと橋本さんは歴史に残る抗争劇を展開するわけですからね。それと同時に、猪木さんが頻繁に現場介入する流れができたわけですが。

ケロ　そこで猪木さんって……なぜか『PRIDE』やK－1で勝った人を新日本の目玉にしようとするじゃないですか。中邑真輔がK－1で勝ったら真輔を目玉にしたり。安田（忠夫）をやたらピックアップしたり。なんか僕は猪木さんが一番『PRIDE』やK－1に対してコンプレックスがあるんじゃないか？　って思うんです。もちろん僕らにも「負けたくない」って意識はありましたよ。でも同じ土俵で闘うってことじゃなく、格闘技に対して、プロレスというジャンルが負けたくないということですから。

——やっぱり、『PRIDE』やK－1の選手を新日本がお下がり的に使うのは抵抗が出てきちゃいますよね。

ケロ　そうです。それは新日本プロレス発の価値観じゃないですし、僕はプロレスって凄く難しい競技だと思ってるんです。もちろん『PRIDE』やK－1も難しいでしょうけど、プロレスにはそれ以上に〝魅せる〟という要素が必要じゃないですか？　並大抵の試合ではお客さんは納得してくれないしね。ウチの選手が『PRIDE』やK－1に出て行くのはいいとしても、なんでウチの試合を『PRIDE』やK－1に近づけなきゃいけないの？　って。

——田中さんからすれば、プロレスとしての価値観をもっと高めたかったわけですね。

ケロ　だってプロレスを総合っぽく見せたって、総合にかなうわけないでしょう（キッパリ）。プロレスはプロレスの良さがあるわけで、お客さんはそれを観に来てる。猪木さんは格闘技に対するコンプレックスと、自分の見栄のために新日本を動かしてきたのかなと思いますね。

——総合から新日本のフィールドにバックできたものは少ないですし。還元したところで『アルティメット・ロワイヤル』とかの珍企画ぐらいで（笑）。

ケロ　……あれはあまり思い出したくない（笑）。

——ワハハハハ！　優勝者（ロン・ウォーターマン）も本当はIWGPに挑戦するはずが、一ヵ月経ったらなかったことになって（笑）。みんな記憶から消し去りたいんだろうなって思いました。

ケロ　本当に苦労しましたよ！　選手たちは、もの凄いプレッシャーの中で、かなり真剣にやってくれましたよ。だからこそ選手たちには申しわけなくてね……（しみじみと）。

——新日本内部の混乱がそのまま

リング上にあぶりだされた感じはしましたね。

ケロ　だから、僕が猪木さんに言いたいのは、新日本の社員と選手、プロレスをもっと信頼してくださいってこと。彼らはいつも凄い試合をやってる。それをほかの団体の選手を使ったり、長州さんを突然マッチメイカーにしたり……。どうしてそんなことするの？　新日本の選手を信頼しないから全然光ってないし、本当の意味で商売になる選手も育ってこないんですよ。でも、本来は純粋な新日本の選手同士で、会場をいっぱいにしなきゃいけない。2月の両国大会にしたって、目立ったのは長州さんと曙だけじゃないですか。でも、その二人は新日本の選手じゃないじゃん。

——チャンピオンのブロック・レスナーにしたって、ファンからすれば新日本プロレス所属としての親近感はまるでないでしょうし。

ケロ　それにここ一年、IWGPチャンピオンが地方の大会に全然出ていない。団体のチャンピオンが来ないのはマズイでしょう。どうしてそういう路線を変えようとしないのかなぁ。

——新日本が不安定な状況だからこそ、曙さんやレスナーとか、話題性を持っていて見出しになりえる選手に下駄を預けたいところはあるんでしょうね。

ケロ　そうだね。現実的に客を入れなきゃいけないのはわかりますし、テレビ局の要請もあると思います。だから、あとは新日本の選手がレスナーや曙を押しのけて目立ってくれ！　ということですよ。レスナーvs曙を観たくて来たお客が、「次は棚橋を観に行こう！」というふうにしなきゃいけない。それができないかぎり、新日本復興はないですよ！

05年11月13日の大阪ドーム大会より。急遽、参戦した"キャプテン、ハッスル"小川直也率いるハッスル軍と新日正規軍が「ハッスルする・しない」でシュートに反目しあうという異常事態に。

——いまの新日本は何か目先の手段を変えて良くなるっていう雰囲気はないですしね。

ケロ　ないですね。いまのお客さんには「新日本の試合はおもしろい！」っていう期待感はないじゃないですか（キッパリ）。1万円のチケットを買って、そのぶん新日本は満足させてくれるっていうお客さんとの信頼関係がなくなってる。それを取り戻すには何年もかかりますよ。

——その一環なのか、体力がつくまでしばらくはドーム興行からも手を引くみたいですけど。

ケロ　うん。僕らも本当は大阪ドーム大会（05年11月13日『闘魂祭り』）から我慢したかった。だからあえて棚橋vs中邑をメインに持ってきたんです。大阪ドームから一年間は我慢して、いずれ再びこのカードで東京ドームをいっぱいにするというプランがあったから。

——ある意味、〝前向きな負け〟をチョイスするという戦略だったんですね。

ケロ　そうですね。でも、その大事なメインを強制的に変更させられた（結果的にセミが小川直也&川田利明vs天山広吉&棚橋弘至、メインは藤田和之&ケンドー・カシンvs中西学&中邑真輔へ変更）。

——あの大阪ドーム大会の開催自体も突発的に決まったような印象があったんですけど……。

ケロ　（さえぎって）誰も知らなかったんですよ、やることを！

——あ、やっぱり（笑）。

ケロ　社内的には「ドーム大会の開催は内情的に厳しいから、しばらく見合わせよう」という方針だったの

kamipro厳選!!
ケロちゃん"傑作"前口上ヒストリー見参!!

「グレートムタ、見参！」でおなじみ、ケロちゃんといえば前口上、前口上といえばケロちゃん、というわけで新日本プロレス在籍中にケロちゃんが残した数々の傑作前口上をプレイバック。しかと見届けよ！

最初の前口上

■1990年2月10日
『90スーパーファイトin闘強導夢』東京ドーム大会
特別試合　長州力&ジョージ高野vs天龍源一郎&タイガーマスク

「燃えろ天龍、そして燃えろ長州！」

※新日本プロレス、二度目の東京ドーム大会で、全日本プロレス勢が緊急参戦。ケロちゃんが最初に前口上を披露した大会であり、「このときお客さんが乗ってくれたから、調子に乗って」以後、続くきっかけとなる。

■1993年1月4日
『FANTASTIC STORY in闘強導夢』東京ドーム大会
特別試合　長州力vs天龍源一郎

「午後7時1分、時が来た！」

※ケロちゃん自身「生涯、最高の前口上」と自負する傑作。「7時」とは言いたくなかったケロちゃんが、リング上で時計を見つつ披露した"偶然の必然"から生まれたベスト・オブ・前口上。

■1994年5月1日
『94WRESTLING DONTAKU in FUKUOKA DOME』福岡ドーム大会
INOKI FINAL COUNTDOWN
1stアントニオ猪木vsグレート・ムタ

「福岡ドーム、地獄絵巻をお見せしましょう……。グレート・ムタ見参！」

※「午後7時1分、時が来た！」と並びケロちゃんも「ハマったな」とお気に入りな「グレート・ムタ見参！」。ムタ登場時に頻繁に使用。このときは猪木vsムタという新旧魔性対決で、猪木の前口上は「復活！　魔性と呼ばれた闘魂」だった。

■1995年9月25日　大阪府立体育会館
IWGPヘビー級選手権試合　武藤敬司vs平田淳二

「この手の先に、ドームが見える。ばく進せよ！　武藤敬司入場！」

※地方では「団体や選手の大きな流れ」の説明を心がけたというケロちゃん。簡潔な言葉で、キャラとストーリーをまとめる前口上。このときは数日後に控えた高田延彦との一騎打ちを踏まえた煽りだった。

■1998年4月4日
『アントニオ猪木引退試合』東京ドーム大会
IWGPヘビー級選手権試合　佐々木健介vs藤波辰巳

「4月4日、44歳のドラゴンが4年ぶり、4度目の王者返り咲きを狙う！」

に、上から〝神様〟が降りてきて、ひとこと「やれ！」と。

――猪木さんが無理矢理に開催した背景には、スポンサーがらみの兼ね合いもあったんですか？

ケロ　スポンサーがらみったって、黒字になるスポンサーがつくわけじゃないでしょう？　パチンコの平和さんも大阪ドームはつかなかったし。それも中邑vs棚橋なら、大阪ドームの使用料からいっても、なんとかトントンで終われたんです。なのに外部から選手を招致したぶんだけ、凄く高いギャラをブン取られて……。

――小川さんや川田さん、藤田さんやカシンとか外部のトップどころをあんなに招聘したら、とんでもない金額になりますよ！　しかも急なオファーだったから、通常より多少はイロがついてたでしょうし。

ケロ　……本当にまいりましたよ！

――おまけにハッスル軍とは「ハッスルポーズ」を巡って、非常に馬鹿馬鹿しい騒動になって（笑）。

ケロ　あのときのバックステージは凄い緊張感でしたねえ。新日本は「何か仕掛けたら、こっちも行くぞ！」って張りつめた空気で、控室はかなりナーバスになってましたね。

――そんな状況なのに、アン・ジョー司令長官と島田二等兵がリングサイドを呑気にウロチョロしてたんですか（笑）。

ケロ　結局、あの大阪ドームから新日本の路線が狂ってきちゃったでしょ。じつはあそこが新日本再生の最大のチャンスだったんですけど。新日本内部の価値観をガッチリ固めて、あらためて活性化を図る時機だったのに。

――今年の大量離脱劇もある意味で、大きな再生のチャンスかと思ったんですが、長州さんルートでインディーの選手を連れてくるのはいいにしても、単純な足し算的なマッチメイクだから明確な方向性は見えないですよね。

ケロ　やっぱり我慢の方向が違う。金になる選手を新日本の自前で作るっていう行為が必要なんですよ。

――猪木さんの影響力が薄れたと言われるいま、その地味な作業ができる環境になったと思いますか？

ケロ　いや……今年の1・4東京ドーム大会にしたって、結局は猪木さんが口を出しましたからね。本当は1・4にやる予定じゃなくいて、本当は今年のドームは1月の中旬にやるはずだったんですよ！　それが猪木さんが勝手に東京ドームを押さえちゃったんです。

――ワハハハハ！　さすが猪木さんだなあ（笑）。

ケロ　まいりましたよ！　最近は大晦日の格闘技戦争に宣伝も誌面も食われちゃうでしょ。だから「その波が去ってから、1月の頭から充分に宣伝しましょう」って社内会議して、ドームもすでに押さえてたんですよ。ところが最後の最後になって、サイモン社長が「猪木さんから〝逃げるな〟って言われたので、やっぱり1・4にしました」「〝時期をずらしてコケたらどうするんだ？〟って言われました」って……（呆然とした表情で）。

――ずらさないと確実にコケるから、延期しようとしたのに（笑）。

ケロ　で、結局1・4に戻っちゃった。だから、社員は「あの会議はなんだったの？」って憮然としてましたよ。

――しかし、一般的には、ユークスが猪木さんから株を買ったことで、猪木さんにはなんの権限もなくなったと言われてますけど……。

ケロ　（さえぎって）結局、新日本はなんも変わってないんだよ！（キッパリ）。だから僕は辞めたんだもん！

――株を手放しても猪木さんの支配力は弱まらない。であるならば辞めるしかない、と。

ケロ　もうね、サイモンさんが社長のかぎり、猪木さんの権力は絶対に消えないと思いますよ。ユークスさんにも主導権は取らさないと思うし。

――猪木さんは永遠に変わらないでしょうね。変えたいなら「力で勝ち取ってみろ！」というタイプの人間ですから。

ケロ　やっぱり僕は、最後の最後まで猪木さんは（新日本から）引かないと思いますよ。あの人は自分の名前が消えるのを一番恐れてると思いますし。

――ユークスにしても、猪木さんの肖像権がほしいみたいですから、両者の思惑は一致するところはあるでしょうね（後日、ユークスがアントニオ猪木の肖像権獲得を発表）。

ケロ　タレントとしての猪木さんの商品価値はまだ高いですからね。じゃなきゃこんな赤字会社、背負うわけないじゃないですか。

――それに乗じていまだに口を出している猪木さんは最高におもしろいですね（笑）。なにか凄まじい執念を感じますよ！

ケロ　選手はみんな猪木さんを「裸の王様」って言ってますよ。いつも勘違いしたまま暴走を始めちゃうんです。猪木さんの周囲はヨイショする人ばっかりで、猪木さんにとっていいことしか言わないじゃないですか。

――猪木事務所が開店休業状態のいま、猪木さんのアドバイザーって誰になるんですか？

ケロ　口には出せないけど、何人か知ってます。こないだの猪木さんの誕生日パーティもその人たちがやってるわけでしょ。

――事業面では兄貴の快守さんが右腕になってるみたいですね。それで闘魂神社の各県設置計画や、全国のパチンコ店の駐車場の灯りを闘魂パワーでつけようとしてるみたいで。本当に話題は尽きないな、と（笑）。

ケロ　猪木さんって本当は凄く寂しがり屋で、自信がない人だと思うんです。だから常に周囲に確認しながら自信をもらっていく。それに「新日本がなくなるのは猪木がなくなること」って思ってるから、どこかで〝猪木あっての新日本〟と思わせたいんですよ。ここまで来てしまったのは、僕たちの責任もあるから、もっと猪木さんにハッキリ言えばよかったかなぁって思うこともありますよ。

――そういう直訴をするタイミングってなかったんですか？

ケロ　じつはパラオに行ったときに、猪木さんの前で蝶野（正洋）と僕で一緒に話したことがあるんです。大阪ドームのカードのことでおうかがいを立てなきゃいけなくて。

――南国のイノキアイランドで直談

最後の最後まで猪木さんは、新日本から引かないと思いますよ

※ケロちゃん史上でもかなりトンチの効いた傑作前口上。偶然にしては出来すぎ。惑星直列のごとく4が6つも連なったこの日のドラゴンは、奇跡のジャーマン炸裂で劇的勝利！

■1999年1月4日
『99 WRESTLING WORLD in闘強導夢』東京ドーム大会
特別試合　橋本真也vs小川直也

「道着を脱いだ格闘家。UFOを背負い、小川直也入場！」
「己のケジメと新日本を背負い、橋本真也入場！」

※ケロちゃんも「不隠な空気を感じた」という、歴史的な1・4事変の前口上がコレ。「己のケジメ」というのは橋本が当時、新日本を無期限出場停止中だったことを暗喩しているのかもしれない。

■2002年5月2日
「創立30周年記念　闘魂記念日」東京ドーム大会
特別試合　蝶野正洋vs三沢光晴

「K-1、『PRIDE』、プロ野球、Jリーグ。いいか、よ〜く見ていろ！　これがプロレスのパワーだ！　プロレスは絶対に負けない！」

※本誌、ジャン斉藤もベスト前口上として、強烈プッシュする名フレーズ。格闘技はともかく、球技まで視界に入れてしまった、ケロちゃんのストロングな生き様を吐露するような感動的な前口上だ。

■2003年5月25日
『ULTIMATE CRUSH』東京ドーム大会
特別試合　蝶野正洋vs小橋健太

「プロレスの誇りと、自信と、夢。プロレスファンよ胸を張れ！　そして、しかと見届けよ！」

※前項の三沢に続き、NOAH絶対王者として君臨していた小橋健太が新日本初登場した舞台で披露、またもやプロレス界全体に向け、ケロちゃんの全存在をかけたような強烈すぎる前口上となった。

■2005年8月14日
『G－1クライマックス』　両国国技館大会
決勝戦　蝶野正洋vs藤田和之

「この闘いよ、天に届け！　蝶野正洋、入場」

※05年8月に急逝した元新日本プロレス、橋本真也さんの死を受けた形で、闘魂三銃士の蝶野を呼び込んだ〝ケロちゃんなり〟の追悼前口上。このあと『爆勝宣言』の前奏が流れ、場内は大爆発した。

最後の前口上

■2006年2月19日　両国国技館大会
IWGPタッグ選手権試合
蝶野正洋＆天山広吉vs中西学＆ジャイアント・バーナード

「闘い、感動、夢！　シリーズをシメるのはこの試合！」

※ケロちゃん新日本のラスト前口上となったのがコレ！　試合は消化不良な結末となってしまったが、試合後ケロちゃんも「聞いてなかった」、突然のセレモニーが開催。蝶野が感謝のマイク。本隊もリング上で花束を贈呈し、胴上げという最高のフィナーレで幕。

4月2日、DDT後楽園大会でリングアナ復帰したケロちゃん。当初は好意的に受け入れられたが、休憩明けには一転してDDTに辛辣な発言連発し、ポイズン澤田と一色触発！ 後藤達俊との対戦も示唆した。

判されたんですね。

ケロ そのとき、猪木さんに「お前は俺の悪口を言ってるらしいな？ 嫌なら新日本を辞めろ！」って言われました。いまなら「もう辞めました よ！」って報告できるんだけど（笑）。それから「おめえ、昔は凄い良い感性を持ってたのに、それはどこにいったんだ？」って言われて、僕は「それはあなたのほうじゃん！」って思いましたけど。そういうことが何度もあったから「もう辞めたい」って思ってたんです。

——ずっと葛藤されていたんですね。

ケロ ファンのために「なんとかしなきゃ、なんとかしなきゃ」と思いながらも、一方では「辞めたい、辞めたい」って葛藤してましたね。そのあとも何度もカード変更させられたし、ことあるごとにイチャモンつけられた。あげくの果てに自分の株を売ったわけでしょ？ あの時点で

『我闘姑娘』の映像を見た長州さんが「俺はプロレスがわからなくなった」って……

「新日本は終わったな……」って思いましたよ。

——いまや業界の盟主の座を完全に追われてますもんね。

ケロ やっぱりいまプロレスファンの信頼を一番持ってるのは、NOAHさんかなって思いますよ。でも、いま以上に突き抜けることが難しいのがNOAHさんだなとも思いますね。

——マスコミの扱いに関しては、NOAHは〝繰り上がり当選〟的なところもありますよね。

ケロ そこを突き抜ける爆発力を秘めてるのが新日本だと思います。逆転の可能性は持ってるけど。最低2年ぐらいは地道な活動が必要だし、そこを我慢できる体力があるかどうか……。

——一時は活況で株式上場するという話もあったんですけどね……。

ケロ なぜか実現しなかったですね。それは経営面を裸にされたらまずいという問題もあったと思いますし。

——最終的にGOサインが出なかったのはなぜなんですか？

ケロ まあ、しがらみもあるでしょうし。興行会社って上場が難しいんじゃないかな。資金的には上場したほうがいいんでしょうけど、上場しないほうが制約は少ないし、ファンといい関係が築けるような気はしますけどね。

——しかし、これからの新日本の行く道は相当険しそうですね。

ケロ ただね、いまだに新日本の名前のバリューって凄いんですよ。それは地方に行けばよくわかります。営業で「新日本プロレスですけど……」って会社に電話すると、みなさんけっこう会ってくれるんですよ。で、よく言うのは「新日本プロレスは優良会社じゃないけど、有名会社だ」って（笑）。

——やっぱり新日本は業界のパイオニアですし、今日に至る興行的手法だって、新日本が最初にやり始めたことが多いですもんね。

ケロ そうですね〜。一本の花道なんかにしても、WCWがやってるのを見てウチが取り入れたし。あと、『PRIDE』さんとかでもやってる、名前のコールのあとに英語を流すのも、新日本が最初にやったんですよ。

——そういえば、「マサヒロ・STF・チョーノ」とかってコールしてましたね（笑）。

ケロ 新日本っていろんなことを先駆者的にやってるんです。場外フェンスの設置も新日本が最初だし、地方でテーマ曲を流すことにしたのも最初。地方で照明を組むようになったのも最初だし。そう考えたら凄い団体だなあと思いますけどね。

——最近では、プロレス団体として初めてビジョンを自前購入して。400万くらいで買ったそうですけど。

ケロ （即座に）そのぶん、選手や社員の給料上げてやれよ！（笑）。

——「会社も苦しい」ってことで大幅な年俸ダウンを選手に提示したのに（笑）。そんな契約更改後にやることじゃないですよね。

ケロ それにビジョンって地方で必要かどうかわかんないですしねえ。

——『PRIDE』みたいなきっちりとした煽り映像を流すわけじゃなさそうですし。休憩時間にコマーシャルを流すという意味ではスポンサー対策としてアリなのかなって思ったんですけど。

ケロ でも、ユークスさんのコマーシャルしか流れてないんでしょ。

——いや、かつては東京ドーム興行のときに健康食品『グリオ』のコマーシャルを流していたじゃないですか。藤波さんがモデルで（笑）。

ケロ そうなんだっけ（笑）。まあ、ファンサービスの一環としてやるのはいいと思うんだけど。地方の小さい会場は、リングに集中させてあげたほうがいいと思いますよ。大きな試合の煽りを流すのはいいですけど。地方ではカードを煽れないし。

——ところで最近のマスコミ報道はどうですか？ 新日本には、かなり辛めの論調になってきてますけど。

ケロ 批判されても仕方ない部分はあるけど、「なんとかしよう！」って頑張ってる選手は認めてあげてほしいですね。大きなこと言うわけじゃないですけど、僕はいままで新日本さえ良ければ良かったけど、いまはこの業界全体をハッピーにしたいなと思ってるんですよ。最近は、『週刊プロレス』さんとか『週刊ゴング』さんも売り上げが落ちてるらしいですし。『東スポ』さんも厳しいとうかがってます。やっぱりプロレスって素晴らしいジャンルだと思うんですよ。50年の歴史があるし一般大衆の娯楽として絶対になきゃいけな

Kamipro降臨!
その後のインリン様の姿を入手!

もう「ケロちゃん」を商品登録しちゃおうかなって(笑)

いものだと思います。もう一回プロレス界を底上げするために勉強したいなって思ってるんです。

——いまは、いろんな団体をご覧になっているようですね。

ケロ　観てますね。いろいろとおもしろいアイデアも出てきたんで。フリーの選手を集めて、一度は自主興行をやりたいんですよ。

——かつて田中さんが企画した『夢★勝ちます』的なイベントですか？

ケロ　うん。そういうのもいいし、新日本の本隊と「どっちが新日本っぽいか？」というところで闘うのもいいかなって。「フリーの子たちのほうが新日本らしい」って言われたら、新日本の選手は悔しいでしょ。そこは相乗効果で新日本も良くなるんじゃないかなと思うんですよ。そんな興行があってもいいと思うし。そこでいままではできなかった自分なりの新しいスタイルの興行を見せたいですね。

——新しいスタイルというと、最近はＨＧやインリン様みたいな芸能人がプロレスをやったり、『我闘姑娘』という団体では小学生の女子が試合をしてますけど、そういったボーダーレスな状況はどう見てますか？

ケロ　これは難しいですねえ……。じつは長州さんとも控室で1時間くらい話したことあるんですけど。長州さんも「ケロ、俺はプロレスがわかんなくなった……」って言ってましたから。

——ああ、長州さんは『我闘姑娘』をたまたま映像で観たらしくて、えらく衝撃を受けたみたいですね。

ケロ　本当に難しいですよ。いまの時代、プロレスにとって何が勝ち組なのか？　客を入れたもの、儲かったものが勝ち組なのか？　企業とすればそうなんでしょうけど。でもそのためなら何してもいいのか？　って葛藤もありますよ……。

——プロレスの歴史的にかなり分岐点にさしかかっている気はしますけども。

ケロ　ただ、寂しさはありますねえ。リングに立つ人間はしっかり練習した、鍛え抜かれた人が立ってほしい。今度、全日本さんのファン感謝イベントでも芸能人の方が出るんでしょ？

——武藤さんが神奈月やイジリー岡田とタッグマッチで絡みますね（3月21日、後楽園ホールにて、武藤敬司と武藤のモノマネをする芸人の神奈月がタッグを組み、小島聡とノアの三沢光晴のモノマネをする芸人のイジリー岡田組と対戦）。

ケロ　ムトちゃんはそれでいいのかなぁ……？

——武藤さんは当初、「ＨＧはリングに上げない」ってハッスルの芸能人路線を否定してましたけど、あの発言にはジェラシーも見え隠れしてましたから、苦肉の策というわけではないと思うんですけどね。

たなか・ひでかず■1959年1月6日、愛知県稲沢市出身。80年8月22日、新日本プロレスの品川プリンスホテル大会でリングアナとしてデビュー。以後、新日本の象徴的な存在として活躍。フロント業務も務め、興行部長としても活躍したが06年2月25日付で新日本プロレスを退社、現在はフリーとしてＤＤＴなどで活躍中。

ケロ　まぁ、芸能人やハッスルさんに関してはコメントが難しいですね。一つの形としてはアリかな、とは思いますけども。プロレスの代名詞的な形になっちゃうとレスラーたちはなんであんなに苦しい練習してるんだ、ってことになりますし。和泉元彌さんの間を認める部分もありますけども、納得いかない部分もありますよ。「なんで健想が負けちゃうの？」って（笑）。

——なんで負けちゃうのって、簡単なようで難しい質問ですね（笑）

ケロ　ま、自分はあと何年働けるかわかりませんが、新日本の魂を持って生きていきますよ。これだけは絶対に譲れない部分ですね！

——そこは貫いていきたい、と。

ケロ　そこは貫きたいですねえ。絶対に！（目を光らせて）。

——グループサウンズな衣装やコールも含めて〝ケロちゃんスタイル〟を貫いてほしいです！

ケロ　いや、またあの衣装着るんですか？　自分が派手にしたら他のリングアナもどんどん派手になってきたんでいまは黒のシンプルな衣装にしてるんですけど。

——それは残念ですね（笑）。で、最後にお聞きすることではないかもしれませんが、どうして「ケロちゃん」というあだ名になったのか、新しいファンに向けて教えてください！

ケロ　僕の嫌いな倍賞鉄夫という人がですね。入社したときに「お前、カエルに似てるな～。お前は今日からケロヨンだ！」って言ったことが始まりです。最初は「ケロヨン」って呼ばれてたんです。それでいつのまにか、ヨンがなくなって「ケロ」になって、47歳になったいまでも小学生から「ケロちゃん！」って呼ばれてますからね（笑）。

——ＷＷＥなんかはよく名前の権利問題で揉めてますけど、「ケロちゃん」という名前は大丈夫なんですか？

ケロ　だからもう「ケロ」で商標登録しちゃおうかなって思ってて（笑）。

——かつて新日本と全日本のあいだでグレート・ムタ問題もありましたし、二代目ケロちゃんがデビューする前にお早めの登録をお勧めします（笑）。今日は長々とありがとうございました！

【3月8日／坂口道場付近の『テニーズ』で収録】

緊急レポート
ケロちゃんが新宿ロフトプラスワンでも大炎上!!

4月4日（火）、本誌終身名誉バイザーであり、現在『吉田豪のセメント!!スーパースター列伝』（エンターブレイン刊）が絶賛発売中の吉田豪と、（前回、イベント中にドタキャン逃亡した）ターザン山本!による新宿ロフトプラスワンの『格闘二人祭!!』（ターザンが登場するか不明だったため、『「?」と吉田豪の格闘二人祭!!』と表記）にケロちゃんが金沢“GK”克彦氏とゲスト出演。新日本時代のシュートな裏話で盛り上げた。

残務処理もあって、なぜか現在も新日本の事務所で巡業ロードを組んでいるというケロちゃん。しかも無給！　ケロちゃんはターザンの「●●●●●●は無能ですか？　有能ですか?」というぶっきらぼうな質問にも「無能でしょう!」とキラーに一刀両断して、客の心をつかむ。

また本邦初公開の裏話として、95年の地下鉄サリン事件のあとの東京ドーム大会で、オウム真理教（当時）信者が来場、公安警察から大会開催中に緊急連絡が入り「何かあったら、お客さんを出します」と警告されたエピソード。この事実は新日社内でも倍賞鉄夫氏含め、ほんの数人にしか知らされず、舞台裏は厳戒態勢。結局、ことなきを得たが「何かあったら……」と最も恐怖を感じたドーム大会だったという。

この他、87年12月の両国大会のカード変更による暴動騒ぎで、怒り心頭の観客たちが、リングにモノを投げつけたとき、あまりの危険な状態にその場から退散しようとしていたGK（当時は若手記者）にケロちゃんが「このつらさを一緒に味わえ!」と一喝したエピソードも披露。

さらに髙田延彦（現・PRIDE統括本部長）の若手時代をよく知るケロちゃんは「ハッスルに呼ばれたら、髙田総統をギャフンと言わせる自信がある!」と豪語するなど、新日本時代の“ストロングスタイル”なケロちゃんのイメージが強かった観客からも「ケロちゃん、最高!」とおおいに株を上げた一夜だった。

4月4日『「?」と吉田豪の格闘二人祭』より。左から、吉田豪、金澤“GK”克彦、ケロちゃん、そしてターザン山本!。この日は中尾芳広に田中健一（格闘結社田中塾）も登場した

Kamipro降臨!
その後のインリン様の姿を入手!

インリン様は なんと沖縄にいた?

昨年12月25日の『ハッスル・ハウス クリスマススペシャル 涙のラストM字ビターン』
で引退を表明した"官能の女王"インリン様。
「普通の女性に戻って旅に出た」と噂されるなか、音信不通のインリン様が沖縄にいた?
同一人物疑惑が囁かれるインリン・オブ・ジョイトイ最新写真集
『МИРのM』(ぶんか社)に登場したインリン様の画像を編集部が入手!
ひさびさの官能と美貌を堪能せよ!

プロデュース・撮影:クラタノフ(元ヒラオカノフスキー・クラタチェンコ)

構成/真下義之

designed by Tani-yan (Two Three)

スケベでヒマなプロレスファンの諸君、
ご機嫌はいかがかしら？

Kamipro降臨！

その後の

インリン様

の姿を入手！

……そんなにM字が見たいの？

■インリン様
162センチ、B86−W56−H86。高田総統が投入した女子プロ軍団「高田アマゾネス軍」リーダーとして登場。M字固めで小川からフォール勝ちなど、華々しく活躍していたが、昨年の「ハッスル・マニア」でHGに敗戦。M字パワーが底をつき、「ハッスル・ハウス クリスマススペシャル」で引退表明。最後のM字ビターンでイン卵を産み落とし高田総統に預けたが、その後の消息は不明だった。

すべての道はM字に通ず……

Kamipro降臨！

その後のインリン様の姿を入手！

元気があれば、M字もできる

ジョイトイのMИPのM

インリン様がスペシャルゲストとして登場した、インリン・オブ・ジョイトイの最新写真集「MИPのM」、プロデュース・撮影：クラタノフ（元ヒラオカノフスキー・クラタチェンコ）は4月28日、ぶんか社より3200円（税抜）で発売！ 表紙はインリン・オブ・ジョイトイ、裏表紙にはインリン様が登場。

●撮影に立ち会ったスタッフの証言

インリン様との撮影はとても楽しかったですよ！　ただ……照明が少しずれると……「私を誰だと思っているの!?」と鞭が飛んできました。そのインリン様は沖縄名物ソーキそばがお気に入りだったようで、おいしそうに食べていました。「また沖縄に来るわ！」と言い残し自家用ジェット機に乗ってどこかに行ってしまわれました。

（照明・山田）

6・17㈯ 噂のハッスル・マニア級、新イベントがついに発表!

ハッスル・エイド2006が来る!

ハッスル発祥の地、さいたまスーパーアリーナに凱旋!

『骨髄バンク8万人運動』とファイティング・オペラが融合!

『ハッスル・エイド2006』を後援する骨髄移植推進財団の木村成雄事務局長(写真右から2番目)と榊原信行代表も巻き込んで「ハッスル、フォーッ!!」で気勢を上げた。

惨憺たる観客動員に終わった『ハッスル1』さいたまスーパーアリーナ大会は「ハッスルを救ってくれ」(小川)という状況だった。リベンジとなる今回は果たしてどうなる?

●骨髄バンクとは

白血病など血液難病を直すには「骨髄移植」が必要だが、この「骨髄移植」を成功させるために、患者は自分と同じ白血球の型(ＨＬＡ型)の人から、骨髄液を提供してもらう必要がある。このＨＬＡ型が一致する確率は兄弟や姉妹でも4人に一人、それ以外は数百人から数万人に一人、と確率が低いため、「骨髄移植」が受けられない患者が少なくない。骨髄バンクとはこういった患者と「骨髄を提供する」意思がある人とを橋渡しする活動。財団法人骨髄移植推進財団が主体で、厚生労働省、日本赤十字社、都道府県、医療機関、ボランティア組織らの協力で成りたっている。

マニアからエイドへ……。06年上半期のビックイベントとして用意されたのは、ハッスル発祥の地で、『ハッスル1』(04年1月4日)では観客動員で大苦戦した、さいたまスーパーアリーナ。約二年半ぶりの凱旋が決定した。

『ハッスル・エイド2006』と名づけられた今大会。テーマはズバリ「ハッスルで地球を救え!」。榊原信行代表も「非常に大胆かつ、無謀なことになりそうなタイトル」と言うように、プロレスのバラエティ化を推進するハッスルが「ハッスルを通じて社会貢献」に乗り出すという。現段階ではテーマが大きすぎて心配にもなってしまうが、その真価が問われるイベントになりそうだ。

ハッスルは今大会から「骨髄バンク8万人登録運動」を応援。ファンに骨髄バンク登録を呼びかけ、一人でも多くの命を救えるよう尽力してゆく。

会見に出席した〝キャプテン・ハッスル〟小川直也は「ハードル高いですよ。地球規模ですからね」と語り、HGも「こんなに場違いな場所は初めて」と戸惑いも見せたが「私はよくも悪くも世間に認知されてるので、少しでも多くの人に骨髄バンクを知っていただけたら」と抱負を語った。

いったい〝骨髄バンク〟というテーマと〝ファイティング・オペラ〟がどんな融合を見せるのか? またも未知のステージに突入したハッスルと『ハッスル・エイド2006』の行方を見届けろ!

06年上半期のクライマックスを見届けろ!

KYORAKU PRESENTS

ハッスル・エイド2006 ファイティングオペラ

〜ハッスルで地球を救え!〜

2006.6.17 sat
さいたまスーパーアリーナ
www.hustlehustle.com

日時:2006年6月17日(土)
開場・開演時間/未定
会場:さいたまスーパーアリーナ

主催/ドリームステージエンターテインメント
協力/骨髄移植推進財団、戸田浩司君支援会
協力/東海テレビ放送 特別協賛/KYORAKU

語録で振り返る
マンスリー・ハッスル⑤月号

五月病をビターーン！とふき飛ばせ！

スリー、ツー、ワン！
マンスリー！マンスリー！

このーヵ月のハッスルの出来事をあんな言葉、こんな言葉で振り返るマンスリーハッスル！
第一回から話題満載だよ！
わかるだろ？

構成／真下義之

3/22 RGM就任初会見にハッスルアマレスラー、石井千恵が殴りこみ!!
おなかの上があったかいヨウ！ ――RGM

浩子から“GM継承”したRGMが就任後初会見！　いきなり「何言うたらいいの？」とヘタレっぷりが炸裂。加藤（A）GM代行に“フリップ持ち”として活用され、中京女子大出身アマレスラー、石井千恵のハッスル所属が発表されると「誰ですか？　この人？」と噛みつくも、タックルを決められテイクダウンに。空気が読めないRGMは最後も「おジャーマンスープレックスホールド」を決めるが上から石井に座りこまれて悶絶！　「おなかの上があったかいヨウ！」と絶叫した。

3/28 レスリング・クイーンズカップ準決勝で石井千恵が惜敗！
いつもこんな感じです（笑） ――石井千恵

初のハッスル所属アマレスラーであり、年内のプロレスデビューを予定する石井千恵選手（口調が山瀬まみに酷似）が「表彰台でのハッスルポーズ」を宣言し『レスリング ジャパンクイーンズカップ2006』（3月28日駒沢体育館）に出場！　だが井上佳子選手（至学館高校）に惜敗。試合後、ハッスルを背負ったことで「本来の動きが出せなかった？」という質問に「いつもこんな感じです（笑）」と答える大物ぶり。今後も「打倒、伊調馨」を目標にハッスルしてほしい。

3/29 TAJIRIが自作のイン卵様ダミーで、イン卵様対策を披露
もともと図工クラブなんで ――TAJIRI

「だんだんかわいくなってきたんですよ～」となぜか自作のイン卵様のダミーをスリスリするTAJIRI。「昨日は徹夜だったんですが、完成まで2週間ぐらい。もともと図工クラブだったんで……」と告白しつつ、大阪大会のイン卵様対策として“卵（たま）ンチュラ”と“ジャー卵（らん）スープレックスホールド”を公開。ここへ怒り狂ったアン・ジョー司令長官とジャイアント・バボが乱入し、「イン卵様の孵化（ふか）」をあらためて宣言した。

4/3 『ハッスル16』大阪大会で吉本新喜劇による提供試合が実現！
おまえ、なかやまきんに君やないか！ ――ユウキロック

これもＲＧＭ効果か？　ハッスル大阪大会に「真のエンターテインメントを見せる」ため吉本新喜劇が出場。島木譲二は闘志を爆発させ、なかやまきんに君に似たキャプテン☆ボンバーは肉体を誇示し「ハンバーガー。チーズバーガー。チキ～ンナゲット！　ボンバーッ！」とネタ披露。ユウキロックが「おまえ、なかやまきんに君やないか！」とつっこむと内輪もめが勃発！　ケンドー・コバヤシが仲介し、RGMの指示で吉本提供試合が決定したのだった。

4/4 HGがオリックス・バファローズ公式戦で始球式に登場！
“タマを棒で打つ”という行為は大好き ――HG

「始球式、フォ～！」。4月4日（月）大阪ドームのオリックス・バッファローズ公式戦の始球式にハッスル代表としてＨＧが登場。池乃めだかの国歌斉唱（！）に続き、赤いハードゲイコスチュームに身を包んだHGは「ボールはここですよ～！」と股間から取り出し「あと二つあります」と下ネタを爆発。終了後は「野球経験はまったくないんですけど、タマを棒で打つという行為は大好きなんで、プロ野球もよく見ます」というゲイ心溢れたコメントを連発した。

4/5 ハッスル・エイド2006の記者会見でキャプテン・ハッスルが一言
おまえ、誰だ？ ――小川直也

6・17『ハッスル・エイド2006』の会見に登場した“キャプテン・ハッスル”小川直也。普段のハッスル会見とは打って変わった厳粛ムードに戸惑いがあるのかと思いきや、司会進行を担当していた笹原広報局長に「おまえ、誰だ？」とひとこと。すかさず「DSEの笹原と申します！」と切り返した笹原氏。初代ハッスルGMとして一時代を築いた笹原氏とキャプテンの「元祖ハッスル劇場」が一瞬だけ復活。マニアはニヤリとする貴重なやりとりだった。

今後の大会スケジュール

●KYORAKU PRESENTS
『ハッスル・ハウスvol.13』
東京・後楽園ホール
4月22日（土）　開演19:00（開場18:00）
【チケット料金】ハッスルVIP　12,000円／スタンドS　7,000円／スタンドA　5,000円／スタンドB　3,000円（全席指定・消費税込）

●KYORAKU PRESENTS
『ハッスル・ハウスvol.14』
東京・後楽園ホール
4月23日（土）　開演12:00（開場11:00）
【チケット料金】ハッスルVIP　12,000円／スタンドS　7,000円／スタンドA　5,000円／スタンドB　3,000円（全席指定・消費税込）

●KYORAKU PRESENTS
『ハッスル17』
宮城県・仙台市体育館
5月13日（土）　開演 17:00（開場16:00）
【チケット料金】ハッスルVIP（特典：ハッスルグッズ付）　12,000円／S席　8,000円／A席　6,000円／B席　4,000円全席指定・消費税込）

●KYORAKU PRESENTS
『ハッスル・ハウスvol.15』
静岡県・アクトシティ浜松
6月10日（土）　開場・開演時間　未定

●KYORAKU PRESENTS
『ハッスル・ハウスvol.16』
東京・後楽園ホール
6月15日（木）　開演19:00（開場18:00）

●お問い合わせ
ドリームステージエンターテインメント
ハッスル事業局　TEL 03-5464-1731

衝撃！ ハッスルが
紙のロボット人形
Kami-Robo になった！

GWの六本木ヒルズで限定公開が緊急決定!!

Kami-Robo（カミロボ）とは？

紙で作られた15cm～20cm程度のロボットファイター。各部に関接を備え、自在に操れる。両手にカミロボを持ち、専用リングでぶつけ技を掛け合う。作者の安居智博氏により27年で約200体のカミロボと団体が生まれ、その歴史が刻まれてきた。「ひとり遊びの楽しさ」が詰まったカミロボは、アート作品やキャラクターとしても話題を集めている。

見てみい！ あの髙田総統が稼動する紙人形として、ここに生誕！ その威風堂々かつ気品あるたたずまいまでもが、“紙”で再現されている。わかるだろ？ ビターン！

カミロボ、フォーッ！ 日本中が知っているハードゲイ（芸）人であり、いまやハッスルの絶対エースのＨＧまでもが“紙”で構築されているんだ、セイ。展示会にもバッチコーイ！

ハッスルの象徴である、髙田モンスター軍の髙田総統、そしてハッスル軍のエースＨＧが、いま話題のｋａｍｉ－Ｒｏｂｏ（以下、カミロボ）になった！

カミロボとは、造形作家の安居智博さんが約27年間、一人でこつこつ作ってきた“可動式の手作りロボット紙人形”のこと。約200体からなるカミロボは、もともとプロレス世界のように複雑な人間関係、団体などオリジナルの物語を紡ぐ「壮大な一人遊び」だった。だが、近年はそのキャラクターが注目され、作品の展覧会やキャラクターグッズ展開、果ては後楽園ホールでのプロレス大会を開催するなど、カミロボワールドがどんどん拡大中だ。

プロレス大好きな安居さんだが、いままでカミロボで実在のプロレスラーを制作したことはなかった。だが今回、『ｋａｍｉ ｐｒｏ』編集部からの提案もあって、髙田総統とＨＧというハッスルを代表する2大レスラーを誌上で完全カミロボ化！ ここにカミロボとファイティング・オペラが融合した。

今回、紹介した髙田総統とＨＧのカミロボは、4月25日から六本木ヒルズのアートアンドデザインストアで行なわれるカミロボの展示会、『ｋａｍｉ－Ｒｏｂｏ六本木ヒルズ アート アンド デザインストア展』での展示が緊急決定！

新世代エンターテインメントをめざすハッスルと、独自の世界を構築するカミロボ……。ここから新しい何が始まるような予感がしてならない。これからもハッスル、そしてカミロボから目を離すな！

INFORMATION 1 六本木ヒルズに髙田総統＆HGのカミロボが登場！

4月25日より『Kami-Robo 六本木ヒルズ アート アンド デザインストア展』が開催されます。数々のカミロボを公開するこの展示に、急遽、髙田総統とHGのカミロボ展示も決定！ 「カミロボ プロレス!!」DVDスペシャルボックスをはじめ、カミロボ紙人形バードマンに続く、ザ・オーレの紙人形も展示、発売予定！また様々なキャラクターグッズなど関連商品の販売も行います。

『Kami-Robo 六本木ヒルズ アート アンド デザインストア展』
日時：2006年4月25日（火）～5月24日（水）10:00～22:00／会場：六本木ヒルズウエストウォーク3F アート アンド デザインストア／TEL：03-6406-6280／入場料無料／主催：バタフライ・ストローク株式會社

INFORMATION 2 「カミロボ プロレス!!」DVDスペシャルボックス発売！

昨年8月3日、後楽園ホールで開催されたカミロボのプロレスのイベント「マックスリーグ カミロボエンタテインメントショー」が「紙人形組み立てキット」つきのDVDボックスとしてコロムビアミュージックエンタテインメントより発売！

◯全長約37cmのバードマン「紙人形組み立てキット」＋オリジナルポストカード&ステッカー付き!!
◯みうらじゅん氏、ケンドーコバヤシ氏のスペシャルインタビュー・「カミロボ ファイト」2試合収録
発売元：バタフライ・ストローク株式會社／販売元：コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社／税込価格：¥3,465 絶賛発売中！

美濃輪育久 特盛大全

まさにウルトラヘブン！
まるごと16ページ美濃輪ワールド!!

ヨーソロー！　全国1000万人の『kamipro』読者の皆さんの熱いご要望にお応えして、“天国に一番近いレスラー”美濃輪育久の大特集がついに実現！　読めばウルトラヘブン突入間違いなしのたっぷり16ページ、美濃輪ワールド特盛でお届けします！

構成／堀江ガンツ、松澤チョロ　撮影／乾晋也

designed by matsu (TwoThree)

5・5『PRIDE無差別級GP』一回戦で
"バッファローマン"ミルコ・クロコップと激突！

ミルコの超人強度は1000万パワー！
でも俺には火事場のクソ力がある!!

4・2『PRIDE武士道・其の拾』で"サンシャイン"に見立てたジャイアント・シルバを下し、見事、"リアル超人オリンピック"『PRIDE無差別級GP』出場の切符を手にした美濃輪育久。その一回戦の相手はなんと、あのミルコ・クロコップに決定した！　はたして「ミルコのイメージはバッファローマン」という美濃輪は、超人強度1000万パワーを誇る相手に対し、どんな闘いを見せるのか？

聞き手／堀江ガンツ

※なお、文中、『キン肉マン』を読んでいないと、意味がさっぱりわからない個所が数多く存在しますが、美濃輪ファンなら、いますぐ漫画喫茶に行って『キン肉マン』を全巻読破してから、このインタビューを読むことをオススメします！

——今日は撮影でバッファローマン（の人形）と向き合ってもらったわけですけど、どうでしたか？

美濃輪　バッファローマンに関しては……やっぱり向き合ったとき、あのロングホーンが危険だなと思いましたね（真顔で）。

——人形とはいえ、威圧感ありましたか（笑）。

美濃輪　ありますね。自分の中で（5・5大阪ドームでの）ミルコ戦はvsバッファローマンだと思ってるんで、ミルコ選手の足が蹴る瞬間ロングホーンに変化するんですよ。

——ミルコのハイキックはハリケーンミキサー（笑）。

美濃輪　だから、その対策としてまずはキン肉マンvsバッファローマンもう一回読み返すところから始めようと思ってます。キン肉マンがどうやって倒したかっていうところに絶対にヒントがあると思うんで。

——キン肉マンは片腕を差し出して、ロングホーンを受け止めたりしてましたけど、あれも参考になりますか？

美濃輪　なりますね。あのときはウォーズマンに折られたあとだったんで、ロングホーン一本だったんですけど、ミルコ選手は足が二本あるんで。この二本のロングホーン対策を発見できたらたいへんなことですね。

——そして、4・2『武士道』でのジャイアント・シルバ戦は、美濃輪選手の中ではvsサンシャインだったんですよね？

美濃輪　そうですね、デカいっていうことで、最終的にはサンシャイン

のイメージで闘いましたね。だから勝つためにはシルバのキーパーツを外さなきゃいけないと思って。

――シルバにとっての〝太陽のマーク〟はどこなんだと（笑）。

美濃輪　そのキーパーツを外すというのは、身長差を克服することだと思ったんですよ。それで、「どうしたらいいんだ!?」って考えてたんですけど、あるとき、ヤツの身長を超える方法がわかったんです。

――ほう。身長差を超える方法がわかりましたか！

美濃輪　はい。それは……ヤツを寝かすことによって、その時点で僕のほうが背が高くなるんですよ！

――あ、なるほど。デカいシルバも寝てれば、高さ50センチぐらいですもんね（笑）。

美濃輪　それを発見することで自分が有利になりましたね。

――そして、そのシルバを寝かせる方法が前転タックルだったと（笑）。

美濃輪　他にもいろいろ方法はあったんですけど、あの場合、前転タックルになりましたね。

――そしてシルバに見事勝利したわけですけど、その試合の前に、また一カ月ぐらい世界各地を修行してきたらしいですね？

美濃輪　そうですね。最初にイギリス、その後にオランダ、イタリア、韓国に行ってきました。

――どうしてその4カ国に行こうと思ったんですか？

美濃輪　イギリスは試合で行きまして、オランダは格闘技王国って昔から言われてたんで、興味あったんですよ。あとイタリアは道場発掘というか、ちょっと個人的な挑戦をしようと思ったんですけど。

――個人的な挑戦ですか？

美濃輪　ローマって、古代はコロッセオでグラジエーターが闘ってたわけじゃないですか。だからそういう道場があるんじゃないかなって気持ちもあったんですけど……。

――グラジエーターの道場があると思ってた（笑）。

美濃輪　だけど意外とそういうのがなくて。道場発掘はならなかったんですけど。

――ローマに道場があったら、半ば道場破りチックに出稽古っていうのを考えてたんですか？

美濃輪　道場破りっていうことじゃないですけども、グラジエーターたちの闘い方を学びたいなって。でも、コロッセオが見たかったんで観光してきました。

――コロッセオでは何か感じましたか？

美濃輪　感じましたね。コロッセオは当時、グラジエーターたちが殺し合って、それをお客さんに見てもらってたわけじゃないですか。あの中に入ったとき、その当時の闘ってる状況とか、気持ちとかが何か伝わってきましたね。で、いま現在自分がやってることと似てるなっていうのと、近いなっていうのを感じました。

――コロッセオでの闘いの現代版が『PRIDE』じゃないかと。

美濃輪　一番の違いは、当時は殺し合いだったということですけど、レフェリーがいなかったら殺し合いみたいなもんなんで。僕らもやってることは、そういう意味では近いなっていう気持ちはありましたね。だから、二日間で3回コロッセオに足を運んだんですけど、コロッセオほしいなって思いましたね。

――コロッセオがほしい！（笑）。

美濃輪　日本にもこういう会場ができるといいな、そこで闘ってみたいなって。最大で15万人ぐらい収容できて、席が可動式で屋根が開いたりして。やっぱり当時のコロッセオもいろいろ仕掛けがあったんですよ。

――そうなんですか？

美濃輪　人力のエレベーター機能がついてて、地下からグラジエーターがせり上がってきて闘技場に登場してたんですよ。それでお客さんがワーッとなって闘うっていう。当時からそういうエンターテインメントの要素があった上でホントの殺し合いをしてたらしいんですよ。

―まさに現代でいうところの『PRIDE』だったわけですね。

美濃輪　それで試合の決着がついたあと、敗者がまだ生きてるときは、とどめを刺すか刺さないかは、貴賓席の皇帝が決めてたんです。親指を上に向けたら生かす、下に向けたら殺すってことで、つまらない試合をしたらとどめを刺されちゃうんですよ。

―なるほど。そういう意味でも、つまらない試合をしたら選手生命を絶たれるということに通じるものがありますね。

美濃輪　通じますね。あと、やっぱり闘うのは奴隷なんですよ。そう考えると、僕もある意味奴隷なんだなって。いい試合して勝っても、また地獄のような練習があって、また勝って天国に行ってという繰り返しで。当時のグラジエーターも命を懸けて闘うだけの人生で、生きるために練習して、試合に放り込まれて、勝って一瞬の栄光をつかんで、また地獄のような練習が待っている。だから自分たちも奴隷と同じなんだな、苦しい思いをして当たり前なんだなって思いましたね。

―かつてのグラジエーターたちの生き様に自分を照らし合わせた、と。その前のイギリスではどうでした？

美濃輪　ケイジレイジの試合がありまして。試合の準備期間も入れて4泊6日で行ったんですけど。

ミルコの〝ロングホーン〟を折るには、ウォーズマンの戦法が参考になりますね

―タワーブリッジには行ってきました？

美濃輪　行きました！　タワーブリッジでタワーブリッジしてきました（笑）。

―やっぱり（笑）。

美濃輪　タワーブリッジをバックにタワーブリッジして。で、今度はタワーブリッジがガチャッて開くセンターでタワーブリッジ。

―それ誰にかけたんですか？

美濃輪　高田道場の高橋（渉）君が松井（大二郎）さんのセコンドで来てたんで、ちょっとお願いして。「どうしてもやりたいから」って。みんなけっこう自由行動だったんですけど、「ちょっとタワーブリッジどうしても行きたいんですよ」って。

―イギリスに行ったからには、タワーブリッジは外せませんか（笑）。

美濃輪　はい。「ロビンマスクも絶対にここでタワーブリッジの練習をしたんだろうな」と思ったら、やらずにはいられなかったですね。

―ロビンの追体験をしたと（笑）。

美濃輪　そのあと、橋の上からテムズ川をのぞき込んで「ここに喧嘩マンが飛び込んだんだな」って思って、「ということはこの河の中にビッグ・ザ・武道がいたのか」とか考えてたら、自分が漫画の世界の中にいるような、イギリスの歴史と漫画の世界を同時に感じるような不思議な感覚でしたね。あの光景は忘れられないです。

―で、日本に帰ってきたあとは、地元岐阜でマラソン大会に出場したらしいですね？

美濃輪　そうですね。

―シルバ戦前の煽り映像でも使われてましたけど、いきなり最初から全力疾走だったらしいですけど（笑）。

美濃輪　僕は小学校の頃からマラソン大会は最初っから全力疾走でしたから。

―ダハハハハ！　子どもの頃からずっとそうだったんですか（笑）。

美濃輪　ずっとそうでしたね。だいたい最初のトラック1周目は必ずトップで。あの先頭をトップで走る快感が味わいたくてやるんですけど、だんだん失速していくのがパターンでしたね。

―まぁ、当然そうなりますよね（笑）。

美濃輪　今回もけっこうお子さんとか、家族連れとかが参加する2キロマラソンだったんですけど、僕はちゃんと時計してサングラスして、最初のダッシュが大事だろうと思って、クラウチングスタートしましたね。

―ダハハハハ！　マラソンなのにクラウチングスタート（笑）。

美濃輪　最初のトラック1周は完全にぶっちぎりで。競技場出たところで一人もの凄い速い子どもに抜かれて（笑）。これは2位でキープして、最後にまた追い抜こうと思ったら、またすぐ抜かれて。気づいたら4、5、6って抜かれて。お爺さんとかにも抜かれて。

―お爺さんにまで（笑）。

美濃輪　それから若いお姉さんとか、子どもにも何人も抜かれて。「頑張って」とか「ファイト」とか声かけられて。

―最初トップなのに励まされちゃって（笑）。

美濃輪　結局最後にトラック入ったら、子ども二人連れて手をつないで一緒に走ってるお母さんに抜かされたんですよ。

―ダハハハハ！

美濃輪　その子どもは泣きながら「走りたくないよ、走りたくないよ」とか言ってるんですよ。それに抜か

[PRIDE武士道ー其の拾一]
○美濃輪育久 vs ジャイアント・シルバ×
（1R 2分23秒 TKO）
身長差45cmという、まさに漫画のような一戦は、美濃輪は森光子もビックリのでんぐり返しタックルでシルバを倒し、パウンドの雨を降らせ見事KO!

れた僕は、「あ、これじゃダメだ」って。

―それはダメですね（笑）。

美濃輪 そこから僕はまた最後にゴボウ抜きで15人ぐらい抜きましたね、本気でトラック1周してゴールしたんですけど。

―最初と最後の快感を味わって。

美濃輪 快感だけですね。で、子どもに「サングラス意味なかったね」とか言われて（笑）。

―「あ、最初速かった人だ」とか言われたんですよね（笑）。結局何位だったんですか？

美濃輪 400人中300位ぐらいですね。番号もらってないんで、よくわかんないですけど。完走賞っていう賞状はもらいましたけど。でも、30歳になって初めてのマラソン大会だったんで、いい経験になりました。

―あ、もう30歳になられたんですか。30歳になるっていうのは、自分の中で何か感じるものはありましたか？

美濃輪 子どもの頃は30歳っていうのは凄く大人に見えたんですけど、実際なってみて、イメージした30歳と全然違ってて。このままでいいのかって思いましたね（笑）。

―30歳って美濃輪選手の中ではどんなイメージでした？

美濃輪 ちゃんと結婚して子どもがいて、ちゃんと社会人として自立して、もっと漢字とかも書けて、社会常識がわかってて、ある程度なんでもできるっていうイメージあったんですけど。自分はプロレスしかわからないんですよ（笑）。

―社会生活はちょっと苦手ですか（笑）。

美濃輪 全然わかんないですね。それもあって「これでいいのか⁉」っていうのはありましたけど、「いや、年齢は関係ないな」って思い直しましたね。僕自身、不老不死がテーマなんで。常に進化して、常に育ち続けるっていうのがあるので、そう考えたら関係ないかなって。超人目指してますから。超人ってそういうもんじゃないかなって。

―では、いよいよ『PRIDE』のリングで"超人"の異名を持つミルコとの対戦が近づいてきましたけど、ミルコとは前からやりたいと思ってたんですよね？

美濃輪 はい。5年ぐらい前ですかね。たしかミルコがシウバとやったときぐらいからですけど。

―あ、そういえば、その頃『PRIDE』にパンクラスが初めて参戦するってことで、実際そういう話があったんですよね。

美濃輪 そうです、あったんですけど。僕はパンクラスの社長とか、船木さんに「ミルコとやりたい」って言うしかなくて。やっぱり僕の知名度なり経験では実現できなかったんですけど、とりあえず自分がプロレスラーであるっていう気持ちでいる以上、いつかは出会うっていうのを信じて、気づいたら巡ってきましたね。だから僕的にはけっこう必然的な流れな気がしましたね。運命を切り開いたというか。

―じゃあ、ミルコ戦の話が来たときも「やはり来たか」って感じですか。

美濃輪 そうですね、「あ、ここだったのか」と。だから僕にとってミルコと闘うことが夢じゃなくて、勝つことが夢なんで、そういう意味ではまだ喜べないですね。

ミルコのハイキックには“肉のカーテン”が有効だと思うんですよ!!

―「ミルコはバッファローマンのイメージ」と言ってましたけど、そうするといままでミルコに負けたプロレスラーは、みんなウォーズマンに見えたりしてたわけですか？

美濃輪 そうですね。それからやっぱり100万パワーを持っているだけのことはあるなって。

―ちなみに美濃輪さんは超人強度何万パワーぐらいだと自分では思ってますか？

美濃輪 僕はたぶん……85万パワーですね。

―キン肉マンと同じくらいですか？（笑）。

美濃輪 いや、キン肉マンは95万パワーなんで、たぶんブロッケンJr.と同じぐらいですね。

―美濃輪さんの超人強度はブロッケンJr.と同じ（笑）。では、85万パワーの美濃輪選手が1000万パワーのミルコに勝つための秘策はあるんですか？

美濃輪 やっぱり火事場のクソ力ですね。火事場のクソ力は強度7000万パワー以上のものを持ってるんで。漫画の中のバッファローマンもキン肉マンのエネルギーを吸い取ろうとしたけど、火事場のクソ力が身体に入ったらパンクしましたからね。いろんな方法はあると思うんですよ。

―ネオ・キン肉バスターが爆発したりとか（笑）。

美濃輪 あとはウォーズマンの闘い方も参考になりますね。ウォーズマンは自分が強度100万パワーで、ダブルベアクローにすることで×2。さらに2倍の高さまで飛び上がって、3倍の回転スピードを加えることで100×2×2×3＝1200万パワーのスクリュードライバーでバッファローマンの角を折りましたからね。

―そんなエピソードもありましたね（笑）。

美濃輪 あれはロングホーンに当たったから折れただけですみましたけど、胸だったら突き刺さって死んでましたからね。だから、僕もいろんな方法があると思うんですけど、相手の超人強度を超えれば勝てますね（キッパリ）。

―いや〜、まさに「言葉の意味はよくわからんが、とにかく凄い自信だ！」って感じですけど（笑）、『PRIDE無差別級GP』という、まさに"リアル超人オリンピック"のような大会に出るというのはどんな気持ちですか？

美濃輪 出れること自体幸せだと思うんですけど、やっぱり勝ってもっと大きな幸せになって、僕の中で自由を勝ち取りたいですね。PRIDE無差別級のベルトというのも、僕が目指しているリアル・プロレスに一番近いベルトだなと思ってるんで。ただ、これに優勝したからって僕は天下最強だとは思わないですけど、そこに最も近づけると思うんで、勝ち抜きたいですね。

―わかりました。では、まずは5・5大阪ドームの美濃輪育久vs"バッファローマン"戦、アデランスの中野さんばりに、女房を質に入れてでも観に行かせていただきます！

【06年4月7日／kamipro編集部にて収録】

奇跡を目撃!!

ドブ川が清流に……
この男はいったい誰だ!?

4月某日、ブタのような覆面を被り、上半身裸の男が都内某所に出現。その動向を観察してみたところ、この男は、橋の上から思いつめた表情でしばし川面を見つめたあと、おもむろに被っていた覆面を脱ぎだした。すると……マスクの下から現われた素顔から、まばゆいばかりの光を放ち、なんと、その光を浴びたドブ川が一瞬にして奇麗な清流へと姿を変えてしまったのだ! いったいこれはどうなっているのだ!? まさに奇跡としか呼びようがないこの光景。

そういえば、日本から遠く離れたとある星の王子は、自らの顔から光を放ち、その光を浴びたものは皆、かつての美しい姿に蘇るという話を聞いたことがある。たしか、その星の名はキン肉星と呼ばれていたはずだが……。まさか、この橋の上の男こそ、あの伝説の超人・キン肉マンだったのだろうか?

この男の正体を確かめるべく、彼に近づこうとすると、覆面を被り直したこの男は、ニンニクを口に含むと、お尻からオナラを吹き出しながら、どこかへ飛んでいってしまった……。

いや超人だ!!

美濃輪育久 公開特訓セレクション

『PRIDE』に参戦するようになってから、お馴染みとなっているのが大会前の美濃輪の公開特訓だ。4・2『武士道-其の拾-』の煽り映像で流された地元岐阜でのマラソン全力疾走も抜群だったが、他にも独自かつ奇抜な特訓法を次々と生み出し、日々鍛錬を重ねる美濃輪。その特訓風景を振り返ってみた!

「PRIDE」の煽り映像で美濃輪のキャラを最も印象づけたといえるのが、この海岸特訓だろう。05年5月の「武士道・其の七」でのフィル・バローニ戦前に都内の海岸で滑川康仁と海の中でのスパーリングを敢行した美濃輪。それから数十分後、上空に飛行機を見つけた美濃輪は突如ダッシュ! 会見後には「遊泳禁止」の看板を発見し、しばし呆然と立ちつくすなど最後の最後まで完璧な特訓だった!

05年7月、「武士道・其の八」でのキモ戦を前に美濃輪が現われたのは都内の山中。指定された場所に着くと美濃輪はすでに500回以上のスクワットをこなしていた。小枝を拾い上げるとフェンシングのように突きを何度も繰り返した美濃輪は、その後、報道陣も追いつけないほどのスピードで山の奥深くへと姿を消したのだった!

05年6月、初の総合挑戦となる大向美智子のコーチ役を買って出た美濃輪。公開スパーでは大向のドロップキックをモロに食らうシーンも。さすがはリアルプロレスラー!?

昨年大晦日の「男祭り」前に行なわれた公開特訓の場は、なんと都内のバッティングセンター! 美濃輪はホームベース上でファイティングポーズをとると次々と向かってくるボールを寸前でかわす「何かの漫画で読んだ」という仰天特訓を披露。ちなみに、この特訓は一般人はやってはいけない行為なので、くれぐれも真似しないように!

一番最近の特訓はこれ。武士道・其の拾」でのジャイアント・シルバ戦を前にした美濃輪は、戦闘竜が滑川を肩車した〝仮想シルバ〟相手にスパーリングを披露。美濃輪は3メートルの高さから振り下ろす竹刀をかわし、パンチやタックルに入るなどシルバ対策は完璧!?

今年2月には、公開特訓の練習パートナーでもある滑川の結婚披露宴にコスチューム姿のまま登場した美濃輪。出番前には披露宴会場控室で入念にスクワットを繰り返していた。

05年4月、「武士道-其の六-」でのギルバート・アイブル戦前の特訓の場は多摩川の河川敷。公開スパーはパートナーの滑川と戦場を河原から川の中まで移動しエニウェアマッチ状態。ちなみにアイブルは『キン肉マン』の登場人物にたとえると悪魔超人とのこと。

ヘブンな頭脳を読み解くための30の質問

美濃輪といえば「ヘブン」や「ヨーソロー!」、「天空!」、「リアルプロレスラー」などオリジナリティあふれる言語感覚も魅力の一つ。そんな美濃輪の頭の中はいったいどうなっているのか？ いまさら聞きづらい、あんなことから、こんなことまで、たっぷりと聞いてみました!

聞き手／松澤チョロ　撮影／乾晋也　designed by matsu (TwoThree)

Q1★名前の由来を教えてください。

A 由来は聞いたことないですけど、「育久」っていうのは京都のお坊さんが付けてくれたみたいです。

Q2★子どもの頃のアダ名を教えてください。

A アダ名は「ミノちゃん」とか、そのまんま「プロレス馬鹿」とか。あとは、「キ●●イ」とか「病気」とかも言われてましたね（笑）。美濃輪なんで「チクワ」っていうのもありました。イジメられるっていうかバカにされてましたね。

Q3★座右の銘（好きな言葉）は？

A "天下最強"ですね。

Q4★自分で自分の性格をどう思いますか？

A 自分ではまともだと思いますね（笑）。

Q5★他人にはなんて言われますか？

A 外国人からは「クレイジー」。日本人からは「変わってる」。あとは「天然」とか「ニュータイプ」……これは自分が言ってるからなんですけど（笑）。

Q6★好きな食べ物、嫌いな食べ物は？

A 好きなのは桃です。嫌いなモノはないですね。なんでも食べます。

Q7★好きな飲み物、嫌いな飲み物は？

A 好きなのは水です。あと最近はコーラ半分と100%のオレンジジュースを半分ミックスさせたモノですね。コーラは炭酸がキツいんで、100%のオレンジが加わると、ほどよい炭酸具合になってうまいんです。嫌いな飲み物はお酒ですね。体質もありますし、味的にもダメです。パンクラス時代に飲まされたりしたこともありますけど、いいことはないですね。お酒はヘブンと言うよりヘルって感じです（笑）。

お酒は"ヘブン"というより"ヘル"って感じです（笑）

Q8★得意な料理はなんですか？

A 味噌汁です。ちょっと前まではずっと外食だったんですけど、最近は自炊してますね。あとはカレーライスも得意です。

Q9★好きな音楽は？

A スタークラブ、ストラマーズ、ライダースですね。あとはモンスターズっていうバンドも好きです。

Q10★好きな本は？

A 『キン肉マン』、『魁!!男

塾』、『バガボンド』の3つですね。『キン肉マン』は自分のプロレスの教科書で、男の教科書が『男塾』で、侍の教科書が『バガボンド』だと思ってます。

Q11★携帯電話はメール派、それとも電話派？

A 両方ですね。メールとかのほうが早いときもありますし、メールのほうが言いたいことだけ書いて待ってればいいんで。顔文字とか絵文字は人によりますね。使ってくる相手に対しては使います。

Q12★誰も見てないところで100万円拾ったらどうします？

A 使いますね（キッパリ）。でも、家に持って帰ってしばらく置いておきますね。持って帰るけど、使い道が思いつかないんで、もし何かあったら返せるように何日かは様子を見ます（笑）。

Q13★明日地球が滅亡するとしたら何をします？

A 試合をしますね。それか、滅亡を防ぎますね。とりあえず、防いだり、生き延びる方法を考えます。

ニュースを見ても意味がわからないっていうのが心配です（笑）

Q14★生まれ変わったら何になりたいですか？

A 生まれ変わってもプロレスラーになります。パーフェクト・リアル・プロレスラーになりたいです。

Q15★いま一番カッコいいと思う人は誰ですか？

A 最近だと織田信長ですね。NHKの大河ドラマを観て信長はカッコいいなと。このあいだ、京都に行ったときに信長の墓にお参りに行ってきました。あと、坂本龍馬もカッコいいと思いますね。

Q16★ここ最近、気になったニュースはなんですか？

A あんまりニュースは見ないんですよね。気になってるニュースというより、ニュースを見ても意味がわからないっていうのが、ちょっと心配ですね（笑）。

Q17★好きな異性のタイプは？

A 健康で、家庭的で、あげまんがいいですね。巨乳とか細かいパーツを言ってしまったらキリがないんで（笑）。もちろん、理想を言ったらスタイルは完璧なほうがいいですけど。でも、外せないのはあげまんです。

Q18★結婚願望はありますか？

A いまはないです。子どもはほしいとは思いますけど、まだ自分自身が完全に大人になってないんで、子どもができたら、たぶんたいへんなことになるかなって思うんで（笑）。もうちょっと自分自身、生活面でも精神的にも人間的にも大人にならないと無理でしょうね。

Q19★初恋の思い出を教えてください。

A たぶん、小学校2年生のときだと思いますね。片想いだったんですけど、ダブルの三つ編みで可愛い子でしたね。中学生になったら巨乳になってましたね（笑）。「なるほど、そういうことか！」と思いましたけど（笑）。

Q20★ファーストキスと初体験の思い出を聞かせてください。

A それ答えなきゃいけないんですか？（笑）。ファーストキスも初体験もけっこう遅かったと思います。

Q21★女性の胸とお尻、どちらが好きですか？

A ふぅ～（考え込む）。難しい質問ですねぇ。歳とともに変わってきてて、昔は胸でしたけど、最近はお尻がかなり追い上げてきましたねぇ。いまはデッドヒートになってきて……51対49で、いまはお尻ですね（笑）。もう少ししたら、友だちとかが言うように、ふくらはぎとかになってるかもしれないですけど。

Q22★好きな匂いを教えてください。

A エロい匂いです（笑）。

Q23★一日が25時間あったら、余った1時間は何をしますか？

A ランニングをします。このあいだのマラソンの屈辱（74ページからのインタビュー参照）もあるんで。

Q24★あなたが一番犯しやすそうな罪はなんですか？

A （しばらく考え込んだあと意味深に笑い）……ちょっと言えないことが頭に浮かびました（笑）。

Q25★大地震が起きました。何を持ち出しますか？

A 試合道具。コスチューム一式ですね。それさえあれば、とりあえず食っていけると思うんで。

Q26★いままでの人生で一番高い買い物はなんですか？

A たぶんバイクだと思います。それか日本刀ですね。刀を買ったのは5年前ぐらいなんですけど、なんか興味があって。触ってみないとわかんないと思って買いました。

Q27★一番身体の中で自身があるところはどこですか？

A （しばらく考え込み）……う～ん、難しいですねぇ。言えない部分？（下半身をのぞき込み）いやいや、そこまで自信ないんで（笑）、ちょっと挙げられないですね。

Q28★いま現在、一番の必殺技はなんですか？

A 最近だと、やっぱりスローモーションですね。

Q29★対異性への必殺技はなんですか？

A それはちょっと、ここでは言えないですね（笑）。

Q30★2006年中に必ず実現させたいことは？

A 無差別級GPのチャンピオンになることです。

ロレスの軌跡

97年にパンクラスのリングで“メジャーデビュー”以来、常にファンの想像力を超える奇想天外な名勝負を見せてきた美濃輪。ここではそんな“リアル・プロレス”の数々を美濃輪本人に解説してもらった。

構成／堀江ガンツ

01 ×vs長谷川悟史

（10:00＋延長3:00 判定0-3）
1997.07.20 後楽園ホール
PANCRASE ネオブラッドトーナメント準決勝

これは僕が初めてパンクラスのリングに上がったときで、まだ誠ジム所属だった頃だったんで、「優勝して認められてパンクラスに入りたい」っていう気持ちと、やっぱり相手の長谷川さんはパンクラスに入って1年経ってる先輩なので、「なめられたくない」っていう気持ちの闘いでしたね。でも、自分の力が出し切れないというか“解放”できなくて、パンクラスに初めて出られた嬉しさ以上に悔しさがありましたね。

02 △vs山崎 進

（15:00 フルタイムドロー）
1999.04.08 後楽園ホール
格闘空手DREAM1999 THE WARS

これは初めてオープンフィンガーグローブを着けた試合だったんですよ。それで試合前にグローブをはめている自分の両手を見て、「何をやってるのかな」「プロレスラーがグローブ着けてていいのかな」っていう気持ちになったんですよ。でも、自分自身がプロレスラーであれば関係ないって思い直して、このときは「プロレスvs空手だ」「絶対プロレスラーが最強なんだ」っていう気持ちで闘った試合でしたね。あとアウェーだったんで、僕のことを「潰してしまえ!」と思ってるお客さんもいる中で闘ったんで、とても楽しい思いでしたね。ただ、完全に倒しきれなかったことをいまでも反省してますね。

©Bout Review.com

03 ○vs豊永 稔

（2:57 チョークスリーパー）
1999.08.01 後楽園ホール　PANCRASE ネオブラッドトーナメント決勝戦

これはトーナメントで一日3試合勝たないと優勝できなかったんで、最初から自分の中でカウントダウンのつもりで、「あと一歩!　あと一歩!　あと一歩!」と思いながら闘ってましたね。例えて言うならば、一回戦のときは数が「10」だったんですよ。それを一回勝ったら「5」になって、準決勝勝って「2」になって、決勝に勝って「0」にするって感じで、とにかく勝ち続けて「0」にしなければいけないものだって思ってましたね。控室にいるときから、ドアの向こうには自分のお客さんが待ってると思ってましたから。

04 ×vsセーム・シュルト

（15:00 判定 0-3）
1999.09.18　東京ベイN.K.ホール
PANCRASE BREAKTHROUGH TOUR

僕はプロレスラーになる前、プロレス団体入門の身長制限に届かなかったことがコンプレックスだったんですよ。だから、この試合は「プロレスラーに身長差、体格差は関係ない」っていうことを証明しなければならないと思って挑んだ最初の試合でしたね。身体が大きいヤツが強いっていう認識をぶち破りたかったんですよ。常識を覆す“革命”に挑んだ第一歩ですね。

05 ○vsジョー・スリック

（3R 2:02 TKO）
2000.04.14 国立代々木第二体育館
UFC-J

これは初めて金網のオクタゴンで闘ったんですけど、僕の中では試合が決まったときから、「うお～、金網デスマッチだぁ～～!」っていう嬉しさがこみ上げてきた試合でしたね。それにUFCという世界の舞台で、未知の選手で、しかも相手のジョー・スリック選手は僕の外国人の先輩であるジェイソン・デルーシア選手にアクシデントながら勝ってる選手だったんでパンクラスを代表してリベンジという気持ちもあって。自分の中ではvsUFC、vs金網、vs外敵っていうテーマがたくさんあって燃えましたね。とにかく勝って金網のてっぺんに登りたかったんですよ。あそこにたどり着きたかったんです。そして、実際にあの金網のてっぺんに立って、お客さんの姿を見渡したときは、“ヘブン”でしたね。

06 ○vsイズマイロフ・マゴメドフ

（1:31 腕ひしぎ十字固め）
2000.12.04 日本武道館
PANCRASE TRANS TOUR

この日は船木（誠勝）さんの引退式があったんですよ。だから、当時は口には出さなかったんですけど、僕自身の気持ちの中では「俺がパンクラスを引っ張っていってやる」っていう気持ちがありましたね、じつは。さすがに当時は言えなかったですけどね（笑）。そういう気持ちがあったからこそ、水車落としからの逆十字っていう技で極められたと思います。

07 △vsヒカルド・リボーリオ

（3R終了 フルタイムドロー）
2001.01.08 愛知県体育館　DEEP2001 1st IMPACT

リボーリオ選手は僕が初めて対戦する柔術家で、しかも凄く実績のある大物だったらしいんですけど、それもわからぬまま闘ってしまいましたね。自分の中ではプロレスラーvs柔術家というだけの気持ちで。ただ、リボーリオ選手の印象としては“柔術家”というより、“ブラジル人の闘争心”が凄いと思いましたね。リボーリオさんはいまはアメリカン・トップチームのボスで、普段会うと顔つきや雰囲気が優しい感じなんですけど、初めて会ったリング上では鬼みたいに感じましたね。やっぱりブラジル人って普段は陽気なのに、試合のときの闘争心って凄いんで、これは自分も身につけないといけないと思いました。

08 ×vs パウロ・フィリオ

（3R終了 判定 0-3）
2001.03.31 なみはやドーム
PANCRASE PROOF TOUR

パウロ・フィリオ選手は当時、僕が勝てなかったリボーリオ選手と同じチームで、しかも先輩の山宮さんに勝ってる選手だったんで、柔術家の手強さをわかった上で、よりいっそう「俺はプロレスラーだ!」っていう気持ちを入れて闘った試合ですね。最後、結局判定で負けてしまったんですど、終了直前にパイルドライバーを決めて、試合後にリング上で「俺はプロレスラーだ!」って叫んだんですよ。それまで自分自身ずっと迷いがあって、方向性とか考え方が間違ってるのかなと思ってたんですけど、お客さんの前で「俺はプロレスラーだ!」って叫んだことによって、「自分のプロレスをやっていくんだ」って決めた試合でもありましたね。

09 ○vs 佐々木有生

（3R 0.25 リバースアンクルホールド）
2001.05.13 後楽園ホール
PANCRASE PROOF TOUR

佐々木さんとはこれが初めてではなく、じつはアマチュア修斗で闘ってまして、これが4年ぶりの再戦だったんですよ。アマ時代は判定で僕が負けてるんですけど、それから佐々木さんは修斗で闘ってきて、僕はパンクラスで自分のプロレスをやってきて、改めて4年越しでパンクラスというプロの舞台で再戦するというのが不思議な気持ちでもあり、お互いの4年間を意識し合って闘った試合でしたね。

10 ○vs 秋山賢治

（3R 2:52 フロントチョーク）
2001.07.29 後楽園ホール　PANCRASE PROOF TOUR

これは初めて“ウルトラヘブン”を見た試合です。対戦相手の秋山さんは禅道会のチャンピオンであり、もともと大道塾のチャンピオンでもあった選手だったので、僕の中ではプロレスラーvs空手家というのを凄く意識して闘いましたね。それでお互いのプロレスと空手をぶつけあって、凄く噛み合ったという感じもあったし、最後はどうやって入ったかも覚えてないくらいの飛びつきフロントチョークで極めたんですけど、それが決まったときに、“ウルトラヘブン”の奇麗な光を見ましたね。秋山選手とはその後、対談とかもしたんですけど、秋山さんの格闘技に対する志とか気持ちに凄く共鳴して、ずっと語っていたかったぐらいで、引退されてしまいましたけど、僕の中では凄く心に残る選手ですね。

11 ×vs 菊田早苗

（2R 4:30 ドクターストップ）
2001.09.30 横浜文化体育館　PANCRASE PROOF TOUR

この試合は初のタイトルマッチだったんですけど、自分の中ではベルトよりも「菊田さんを倒す」っていう気持ちのほうが強かったですね。結局、顔面を蹴られたときに目の上が切れてしまって、ドクターストップ負けになったんですけど、蹴られた瞬間、僕にはどっか遠くのほうから「まだだよ」っていう声が聞こえたんですよ。この感覚は僕にしかわからないと思いますけど、それもあって「俺はまだできる」っていう思いがあって、試合後、暴れてしまいましたね（苦笑）。それにやっぱり、プロレスは流血してからお客さんも僕もヒートアップしていくところだったんで、もうちょっとやりたかったですね。

12 ○vs 大久保一樹

（1R 3:38 腕ひしぎ十字固め）
2001.12.23 ディファ有明
DEEP

大久保さんは田村（潔司）さんのお弟子さんということで、この試合の先に田村さんを見ていた試合でしたね。この頃、ボクはデスバレーボムという技を練習していて、それを決めるチャンスがあったんですけど、やっぱりキッチリ落とせなくて、それを失敗したおかげで自分も危ない場面ができちゃったりして、自分のやりたい技で決めるっていうのは難しいということを思い知らされて、勉強になりましたね。

13 ×vs 田村潔司

（3R終了　判定 0-3）
2002.09.07 有明コロシアム　DEEP

この試合は自分にとって大きなターニングポイントになった試合ですね。じつはこの試合から僕、スパッツから赤のショートタイツに変えたんですよ。それも含めて、やっぱり自分自身が目指すもの、なりたかったものに素直に大きく一歩近づいた試合でもあり、田村さんが相手だからこそ、そういうふうに自分自身をさせてくれたと思いましたね。入場も初めて着物で入場というのを自分で考えて作らせていただいて、曲も3分間くらい入場しないでかけっぱなしにしたんですよ。その3分間というのも僕のメッセージというか気持ちだったんですけど。そして3分経ったら26、25、24……カウントしていったんですよ。これはボクが26歳だったんで、26からカウントダウンさせたんですけど、それが「0」になることで、自分が生まれる前の“無”の自分になりたい願望があり、そこから自分が出ることによって、もう一度、新しく生まれることができるっていう気持ちがあって。それもあって、ここから新たな美濃輪育久が始まったと思いますね。

14 ×vs ヒカルド・アルメイダ

（3R終了 判定 0-3）
2003.02.16 グランキューブ大阪
PANCRASE HYBRID TOUR

この試合が結果的にパンクラス最後の試合になったんですけど、やる前から自分の前では、いったんここで自分の闘う場所が途切れるだろうなという気持ちがあって、燃え尽きなかった試合でもありましたね。なんかいろんな意味で悩んでる自分がいまして、それもあって、いままでの自分自身が出せなくて、その迷いが試合にも出てしまいましたね。ただ、この試合でオモプラッタを初めて知って、この危険なテクニックを自分のものにすることができたのは収穫でしたね。

美濃輪育久本人が解説する リアル・プロ

15 ○vsシルマー・ホドリゴ

（2R 3:01 腕ひしぎ十字固め）
2003.09.19 ブラジル ジガンティーニョ・ジムナジウム
第1回ブラジル・スーパーファイト

アルメイダ戦からいろんな悩みがあって、パンクラスを退団してブラジルに修行に出たんですけど、パンクラスを出たということは自分がプロレスをやる場所がなくなったということだったんで、試合がない7カ月間、凄く怖かったんですよ。何か、いままでの出来事がすべて夢だったような気もしてきて、いろいろもがき苦しんで気がついたらブラジルのリング上にいましたね。それで、やっぱりアウェーなんで、最初はホドリゴ選手に声援が集中してたんですけど、僕のアグレッシブな攻めで徐々にこっちにも声援が飛ぶようになって、相手をコーナーに押し込んだときに「あ、俺いまプロレスやってるじゃん」って凄い“リアル”を感じたんですね。「いま俺、生きてる」っていうか、子どもの頃、ぼーっと「プロレスやりたいな～」って思ってたことが、いま現実になってるというか、そんなような空間に感じて、この瞬間から「リアル・プロレスラー」という言葉が僕の心の中に入ってきたんです。あと、この試合では初めて「日本人」ということも感じましたね。それまでは日本の旗にそんな興味はなかったんですけど、試合に勝った後、マリオ・スペーヒー先生が日の丸をボクに渡してくれて、リング上で肩に日の丸を掛けて、会場を見渡したときに「俺は日本代表なんだ」という気がして、それ以来、どこの国に行っても日の丸を持っていくようになりましたね。

16 ×vsクイントン・“ランペイジ”・ジャクソン

（2R 1:05 TKO）
2003.12.31　さいたまスーパーアリーナ　PRIDE男祭り2003

これは完全に新しい自分の舞台というか、ヘブンの光を初めて見た試合でしたね。入場のステージに登場した瞬間、あのときは本当に自分の中で「プロレスラー参上!」という感じで、「いま俺はプロレスの舞台に上がったんだ」「夢のリングにたどり着いた」という感じでしたね。だからコンディション的には正直、100じゃなかったんですけど、そんなの関係ないやって突っ走って。あと、ブラジルに行って自分が見つけてきた「俺は日本人なんだ」っていう変えられないものを誇りに思って、初めて日本の旗を持って入場しましたね。そしてランペイジ・ジャクソンと向かい合ったときに“リアル・プロレス”を感じて、試合中、ずっと「リアル・プロレスラー」という言葉が頭を巡ってましたね。

17 ×vsヴァンダレイ・シウバ

（1R 1:09 KO負け）
2004.02.15 横浜アリーナ　PRIDE 武士道 -其の弐-

この試合は初めて失神させられて、記憶が飛んだんですけど、その記憶が飛んだ瞬間にリセットされた気がしましたね。これをきっかけに自分の肉体、精神両方に革命が起きんだって思えたんですよ。そしてこの試合は69秒で負けたんですけど。69ということは、シックスナインだったんで、いい数字だなっていうか、これ以降、試合タイムにも意味があるんじゃないかって、凄く気にするようになりましたね。

18 ×vsハイアン・グレイシー

（2R終了 判定 1-2）
2004.05.23　横浜アリーナ　PRIDE 武士道 -其の参-

グレイシーには思い入れが凄くあったので、その思いと、俺はプロレスラーだという思いをぶつけた試合でしたね。だから試合中に「俺はプロレスラーだ!」って叫んで感情を爆発させたんですけど、それまでもやっぱり迷いはあったんですよ。自分はこれまで「リアル・プロレス」の瞬間を見てしまって、自分はプロレスラーだと思ってるんですけど、「でも、この会場で行なわれていることは格闘技?」「いや、俺はプロレスをやっている、どっちなんだ?」そういうことを、凄く葛藤しながら闘ってたんですよ。試合前も試合中も「プロレスとはなんぞや」という問いかけが自分の頭の中を回っていて。でも、「俺はプロレスラーだ!」って叫ぶことによって、とことんいってやろう、とことん自分のプロレスをやってやろうという気持ちなりましたね。

19 ○vsエドゥアルド・チェラコフ

（1R 2:29 チョークスリーパー）
2004.06.26 韓国 ソウル・オリンピック公園第一体育館
GRADIATOR

この試合はとりあえず勝って良かったなって（笑）。ただ、韓国で初めての大きな大会だったので、大会自体を成功させたかったし、韓国でリアル・プロレスを見せてやろうと思いましたね。主催者の方も力が入っていて、入場ゲートを凄く奇麗に作っていただけたんですよ。それでけっこう、自分自身、韓国でのプロレスラーになりきることができましたね。

20 ○vs山本喧一

（1R 3:23 KO）
2004.07.19 名古屋レインボーホール　PRIDE 武士道 -其の四-

山本喧一さんはUWFインター出身の選手で、同じような修行をしてきたと思うんですよ。そういう意味では感じるものがありましたね。このとき勝ってマイクを持たされたんですけど、最初は何も言うつもりはなかったんですよ。でも、一方では以前から自分の気持ちを伝えたいという思いもあって、それがふっと頭をよぎったんですけど、「言っていいのか」「言ったら後戻りできないぞ」という葛藤があって、ビデオ見てもらうと、マイク持ってためらってるんですよ。「あ……こんにちは」とか言って、でも思い切ってマイクで「俺はプロレスラーだ!」叫んで、自分が見た、感じた“リアル・プロレス”というものをもっと追求していきたいと思ったし、もっと見せたいと思いましたね。

21 ○vs上山龍紀

（2R終了 判定2-1）
2004.10.14 大阪城ホール　PRIDE 武士道 -其の伍-

この試合は、ちょっとまだ自分の中で闘いにおいて実験中、勉強中なところがありまして、闘い方を模索してる中で、まだ自分のものになってないものを出してしまったんですよ。だからいい結果もついてこなくて、お客さんにも相手にもちょっと失礼な試合をしてしまいましたね。シウバにパウンドに負けて以来、ずっとパウンドばかりやってたということもあって、それにこだわりすぎたというか。本来の姿を出せなかったということが反省点ですね。でも、それもいまとなったら、いい勉強になりましたね。

22 ○vsステファン・レコ

（1R 0:27 ヒールホールド）
2004.12.31 さいたまスーパーアリーナ　PRIDE 男祭り 2004 -SADAME-

上山選手との試合の反省点で、試合はきっちり勝たなきゃいけないというのがあって、取れるとこ取って、いくとこいくって決めて、結果、ヒールホールドで勝てたんですけど、一瞬の夢でしたね。ワー、ワー、ワー、カンカンカンカン（ゴングの音）、ワーみたいな。やっぱり大晦日というパワーを感じましたね。

これぞパーフェクト・リアル・プロレス! 美濃輪育久全成績

2006.04.02 有明コロシアム PRIDE武士道 ―其の拾―
○vsジャイアント・シルバ （1R2分23秒 TKO）

2006.02.04 イギリス ロンドン "Cage Rage15 ―Adrenalin Rush―"
○vsデイブ・レゲノ （1R2分21秒 アキレス腱固め）

2005.12.31 さいたまスーパーアリーナ PRIDE男祭り2005 頂―ITADAKI―
×vs桜庭和志 （1R9分39秒 TKO 羽根折固め）

2005.09.25 有明コロシアム PRIDE武士道 ―其の九― ウェルター級トーナメント準決勝
×vsムリーロ・ブスタマンチ （1R9分51秒 KO）

2005.09.25 有明コロシアム PRIDE武士道 ―其の九― ウェルター級トーナメント1回戦
○vsフィル・バローニ （2R終了 判定勝ち 3-0）

2005.07.17 名古屋レインボーホール PRIDE武士道 ―其の八―
○vsキモ （1R3分11秒 アキレス腱固め）

2005.05.22 有明コロシアム PRIDE武士道 ―其の七―
×vsフィル・バローニ （2R2分4秒 KO）

2005.04.03 横浜アリーナ PRIDE武士道 ―其の六―
○vsギルバート・アイブル （1R1分15秒 アンクルロック）

2004.12.31 さいたまスーパーアリーナ PRIDE男祭り2004 ―SADAME―
○vsステファン・レコ （1R0分27秒 踵固め）

2004.10.14 大阪城ホール PRIDE武士道 ―其の伍―
○vs上山龍紀 （2R終了 判定勝ち 2-1）

2004.07.19 名古屋レインボーホール PRIDE武士道 ―其の四―
○vs山本喧一 （1R3分23秒 KO）

2004.06.26 韓国 ソウルオリンピック公園第1体育館
第1回 Gladiator Fighting Championship 2004
○vsエドゥアルト・チェラコフ （1R2分29秒 チョークスリーパー）

2004.05.23 横浜アリーナ PRIDE 武士道 ―其の参―
×vsハイアン・グレイシー （2R終了 判定負け 1-2）

2004.02.15 横浜アリーナ PRIDE 武士道 ―其の弐―
×vsヴァンダレイ・シウバ （1R1分9秒 KO）

2003.12.31 さいたまスーパーアリーナ 男祭り2003
×vsクイントン・"ランペイジ"・ジャクソン （2R1分5秒 TKO）

2003.9.19 ブラジル ジガンティーニョ・ジムナジウム 第1回ブラジルスーパーファイト
○vsジウマウ・ホドリゴ （2R3分1秒 腕十字固め）

2003.02.16 グランキューブ大阪
×vsヒカルド・アルメイダ （3R終了 判定負け 0-3）

2002.11.30 横浜文化体育館
○vs佐々木有生 （3R終了 判定勝ち2-0）

2002.09.07 有明コロシアム DEEP2001
×vs田村潔司 （3R終了 判定負け 0-3）

2002.05.28 後楽園ホール
×vs佐藤光芳 （3R終了 判定負け 0-2-1）

2002.03.25 後楽園ホール
△vs吉浦善規 （2R終了 0-1）

2001.12.23 ディファ有明 DEEP2001
○vs大久保一樹 （1R3分38秒 腕ひしぎ逆十字固め）

2001.12.01 横浜文化体育館
○vs柴田寛 （1R2分28秒 TKO）

2001.09.30 横浜文化体育館 ライトヘビー級キング・オブ・パンクラス・タイトルマッチ
×vs菊田早苗 （2R4分30秒 TKO）

2001.07.29（昼）後楽園ホール
○vs秋山賢治 （3R2分52秒 フロントチョーク）

2001.05.13 後楽園ホール
○vs佐々木有生 （3R0分25秒 リバースアンクルホールド）

2001.03.31 なみはやドーム
×vsパウロ・フィリオ （3R終了 判定負け 0-3）

2001.01.08 愛知県体育館 DEEP2001
△ヒカルド・リボーリオ （3R終了 時間切れ）

2000.12.04 日本武道館
○vsイズマイロフ・マゴメド （1R1分31秒 腕ひしぎ逆十字固め）

2000.09.24 横浜文化体育館 ライトヘビー級ランキングトーナメント決勝
×vsKEI山宮 （延長R 判定負け 0-3）
ライトヘビー級ランキングトーナメント決勝

2000.09.24 横浜文化体育館 ライトヘビー級ランキングトーナメント準決勝
○vsブライアン・ガサウェイ （1R5分0秒 アンクルホールド）
ライトヘビー級ランキングトーナメント準決勝

2000.07.23（夜）後楽園ホール ライトヘビー級ランキングトーナメントBブロック準々決勝
○vsトニー・ロス （1R1分32秒 腕ひしぎ逆十字固め）

2000.07.23（夜）後楽園ホール ライトヘビー級ランキングトーナメントBブロック1回戦
○vs小島正也 （1R1分42秒 アンクルホールド）

2000.04.14 代々木第2体育館 UFC-J
○vsジョー・スリック （3R2分2秒 TKO）

2000.02.27 梅田ステラホール
○vsマッシブ・イチ （1R1分21秒 スリーパーホールド）

1999.12.18 横浜文化体育館 パンクラチオンマッチ
△vsクリス・ライトル （1R終了 時間切れドロー）

1999.10.25 後楽園ホール パンクラチオンマッチ
○vsエイドリアン・セラーノ （1R11分38秒 ヒールホールド）

1999.09.18 東京ベイNKホール ランキング戦
×vsセーム・シュルト （1R終了 判定負け 0-3）

1999.08.01（夜） 後楽園ホール ネオブラッドトーナメント決勝
○vs豊永稔 （1R2分57秒 チョークスリーパー）

1999.08.01（夜） 後楽園ホール ネオブラッドトーナメント準決勝
○vs渡辺大介 （1R4分28秒 三角締め）

1999.08.01（昼） 後楽園ホール ネオブラッドトーナメント1回戦
○vs高瀬大樹 （1R7分59秒 三角絞め）

1999.06.11 後楽園ホール
×vsジェイソン・デルーシア （1R終了 判定負け 0-3）

1999.05.23 名古屋千種スポーツセンター
△vs渋谷修身 （延長R終了 0-0）

1999.04.08 後楽園ホール 格闘空手DREAM1999 THE WARS:パンクラチオンマッチ
△vs山崎進 （1R終了 フルタイムドロー）

1999.03.09 後楽園ホール
○vs窪田幸生 （1R終了 判定勝ち3-0）

1999.02.11 梅田ステラホール 東京・横浜道場対抗戦:中堅戦
○vs石井大輔 （1R終了 判定勝ち2-0）

1999.01.19 後楽園ホール
○vs渡辺大介 （1R3分18秒 腕ひしぎ逆十字固め）

1998.11.29 梅田ステラホール
○vs長谷川悟史 （1R2分43秒 腕ひしぎ逆十字固め）

1998.10.26 後楽園ホール
○vs石井大輔 （1R終了 判定勝ち3-0）

1998.10.04 後楽園ホール
△vsトラビス・フルトン （延長R終了 0-0）

1998.07.07 後楽園ホール ネオブラッドトーナメント1回戦
×vsエヴァン・タナー （1R4分5秒 肩固め）

1998.06.21 神戸ファッションマート 東京・横浜道場対抗戦:次鋒戦
△vs窪田幸生 （延長R終了 判定1-1）

1998.06.02 後楽園ホール
○vsエイドリアン・セラーノ （1R終了 判定勝ち ロストポイント差）

1998.04.26 横浜文化体育館
×vs長谷川悟史 （延長R終了 判定負け0-2）

1998.01.16 後楽園ホール
×vs長谷川悟史 （延長R1分10秒 足首固め）

1997.12.20 横浜文化体育館
×vsジェイソン・デルーシア （1R3分47秒 チョークスリーパー）

1997.11.16 神戸ファッションマート
×vs渋谷修身 （1R終了 判定負け ロストポイント差）

1997.10.29 後楽園ホール
×vs伊藤崇文 （1R6分34秒 足首固め）

1997.09.06 東京ベイNKホール
×vs窪田幸生 （延長R終了 判定負け0-1）

1997.08.09 梅田ステラホール
×vs近藤有己 （1R5分13秒 足首固め）

1997.07.20（夜）後楽園ホール ネオブラッドトーナメント3位決定戦
○vs窪田幸生 （不戦勝）

1997.07.20（夜）後楽園ホール ネオブラッドトーナメント準決勝
×vs長谷川悟史 （延長R終了 判定負け0-3）

1997.07.20（昼）後楽園ホール ネオブラッドトーナメント1回戦
○vsヘイガー・チン （1R2分24秒 ヒザ十字固め）

23 ○vsギルバート・アイブル

（1R 1:15 アンクルロック）
2005.04.03 横浜アリーナ
PRIDE 武士道 -其の六-

この試合の前、周りの人たちはボクが負けると思ってる人が多くて、セコンドの人も心配してくれたんですけど、思いっきり自分のやりたいことやったらアンクルホールドで勝てて、あのときの歓声は凄かったですね。このとき、SRF（スタンディング・リアル・フィスト）8回が生まれたんですよ。それまでもパンクラスの会場では「oi! oi!」っていうのをやってたんですけど、『PRIDE』の会場ではちょっと恥ずかしい気持ちもあったんですけど、アイブル選手に勝って、自然に自分の中でSRF8回が爆発しましたね。

24 ×vsフィル・バローニ

（2R 2:04 KO）
2005.05.22 有明コロシアム
PRIDE 武士道 -其の七-

これはスタンド勝負を2ラウンド目にかけて失敗しました（苦笑）。なんで殴り合うんだって言われたんですけど、一回、あの空間に飛び込んでみたかったんですよね。パンチが強い相手と"無"になって殴り合うという感覚を味わってみたかったんです。だから、最後は倒れてしまいましたけど、それを経験できたので、自分では必要な負けだったと思いますし、自分の中の経験値は確実にアップしましたね。見たことない世界を見てきたんで。

25 ○vsキモ

（1R 3:11 アキレス腱固め）
2005.07.17 名古屋レインボーホール
PRIDE 武士道 -其の八-

キモ選手も昔からプロレスラー・ハンターと言われていて、いつか倒さなきゃいけない相手だと思ってたんですよ。あと、昔あった「U-JAPAN」という大会を僕が所属していた誠ジムが協力していて、僕自身も本部席でタイム係とゴング係をやっていたんですけど、そのとき目の前でバンバン・ビガロ選手がキモ選手にやられて倒れていく姿を見て凄い悔しくて、それからキモっていう選手は気になっていましたね。そういった伝説の選手とやることができて、気後れすることはなく、向き合った瞬間に「いける」って思えた試合でしたね。

26 ○vsフィル・バローニ

（2R終了 判定 3-0）
有明コロシアム PRIDE 武士道 -其の九-2005.09.25

フィル・バローニには前回負けてるんで、今回こそは勝たなきゃいけないし、トーナメントなんで、かっちりきっちり相手の土俵に入らず、自分の土俵で闘おうと思いました。それでタックルで倒して寝技に持ち込んで関節、パウンドと攻めて、極めきれませんでしたけど、とにかく攻めて攻めて攻めまくった試合でしたね。前回、フィルとやったときも、この戦法でやればいいとわかっていたんですけど、あえて相手の土俵で試してみたかったんです。それから、この試合で相手と向き合ったときに初めて"スローモーション"を試してみたんです。映像みていただければ、スローモーション使ってるってわかると思うんで、皆さんビデオ、DVDで確認してみてください。

27 ×vsムリーロ・ブスタマンチ

（1R 9:51 KO負け） 2005.09.25 有明コロシアム PRIDE 武士道 -其の九-

ムリーロ・ブスタマンチさんはブラジル修行時代の自分の先生でもあった人なんですけど、気後れみたいなものはあんまなかったんですよ。でも、自分のコンディションが整えられませんでしたね。10日ぐらい前に熱が40℃ぐらい出て、扁桃腺が腫れて、なんとか治して出たんですけど、フィル・バローニ戦で力を使い果たしてしまって……。ファンの方に申し訳ない、情けない試合でしたね。

28 ×vs桜庭和志

（1R 9:39 ダブルリストロック）
2005.12.31 さいたまスーパーアリーナ
PRIDE 男祭り 2005 頂-ITADAKI-

この大晦日は自分の中で「20代最後の挑戦」というテーマがあって、本当は外国人選手が相手になるはずだったんで、日の丸をイメージした白のコスチュームにしたんですよ。それから、キン肉マンも原作では白のコスチュームを着ていますし、"白"という色がボクの心の中に入ってきたんですよね。結局、桜庭選手と闘わせていただけることになったんですけど、桜庭さんはやっぱり隙を逃さない選手であり、心の強さもあって、闘ってみて経験値が凄いアップした試合でしたね。この試合も自分の一つのターニングポイントになったと思います。

29 ○vsデイブ・レゲノ

（1R 2:21 アキレス腱固め） 2006.02.04 イギリス ロンドン "Cage Rage15 -Adrenalin Rush-"

この試合はアウェーということで、ボクにはブーイングだったんですね。その中で自分が闘っているのを感じると、"リアル・プロレスラー"というのもあったんですけど、"ニュータイプ"というものを感じましたね。というか、リアル・プロレスラーというのはニュータイプなんだなって発見しました。だから、このままニュータイプでどんどん新しい自分を見つけて出していければいいですね。海外ではまだ2試合しかやってないんですけど、これからもどんどんやっていきたいです。海外に出ると僕のこと知らない人ばかりなんで、僕にとっては毎回がデビュー戦、初陣なんですよ。次はぜひアメリカで"デビュー戦"を闘ってみたいですね。

アーリー美濃輪伝説を探れ！

かつてのライバル&恩師が語る

美濃輪の誠ジム時代

美濃輪がパンクラス入門前に所属していたのがCMA誠ジムである。このページでは、あまり表に出ていない誠ジム時代の知られざるエピソードを、格闘技界の育ての親ともいえる諸岡秀克CMA会長（アジャの左隣）と、ライバルとしてともに汗を流し現在はCMA戦ジム代表の木村参味夫氏（近藤の左隣）に語ってもらった。

聞き手／松澤チョロ　designed by nogu（Two three）

——今回は「知られざる美濃輪育久伝説」ということで、美濃輪さんの格闘技界の育ての親、CMA会長の諸岡さんと、ライバルでもあったという現CMA戦ジム代表で『PRIDE』等のレフェリーも務める木村参味夫さんに来てもらいました！

諸岡　「知られざる美濃輪伝説」って女関係の話とかすればいいの？（笑）。

——そちらも興味津々なんですけど、本人が嫌がると思うので、それ以外のお話ということでお願いします！（笑）。

諸岡　女関係の話だったら、いくらでもあるんだけどなぁ（笑）。

——それはまたの機会にということで（笑）。今回は、あまり表に出ていないプロデビュー前の話を聞かせてほしいんですよ。インディー団体で試合をしてた頃の話とか。

木村　はいはい。その当時で思い出すのは、U—JAPAN（96・11・17、有明コロシアム）のときにボクと美濃輪がゴング係とタイムキーパーをやってたことがあるんですよ。そのとき松永（光弘）さんが出てたじゃないですか？

——ダン・スバーンと闘ってましたね。残念な結果でしたけど。

木村　それで、松永さんが入場のときに、有刺鉄線バットを持って頭に有刺鉄線を巻いてきたじゃないですか？　アイツは仕事を忘れて身を乗り出してましたからね（笑）。

——タイムキーパーどころじゃなかったと？（笑）。

木村　そうなんですよ。完璧に仕事を忘れてたんで注意したんですけどね。で、それから何年かして、キモと美濃輪が『武士道』（05・7・17、名古屋レインボーホール）で闘ったじゃないですか？

——U—JAPANでプロレスラーのビガロがキモに敗れたので、美濃輪さん的には、ビガロの仇討ちという意味合いもあったみたいですね。

木村　あの試合はCMA関係者のあいだでは、ちょっと気持ち良かったなっていうのはありましたね。

——U—JAPANのときは裏方として一緒にやっていた選手が、そのときのメインイベンターと闘うっていうのは感慨深いでしょうね。

木村　そうですね。（諸岡）社長、剛軍団とかの話してもいいですかね？

諸岡　なんでも話していいよ。もう時効だろ（笑）。

木村　剛軍団の興行ではリング設営とかで地方とかもけっこう行ってたんですよ。バトラーツでお馴染みの千葉の多古町とかもボクらのほうが先に回ってましたから。

諸岡　あの頃は（タイガー・）ジェット・シンも出てたよなぁ……（しみじみと）。

——シンといえば、シンvs剛竜馬がメインで闘ったときに、美濃輪さんと菅沼修選手という選手がシングルで闘っているという記事を発見したんですよ。チョークスリーパーで美濃輪さんが勝ったみたいですけど。

木村　その試合の前にも、いっぱいやってますけどね。

——インターネットで調べた限りでは、その試合が美濃輪さんのデビュー戦となってたんですよ。

木村　当時は、お祭りの駐車場とかでも試合してますから。あと、スイミングスクールの駐車場とかでガチンコやってたのも覚えてますね。ボクらはプロレスだったんですけど（笑）。

美濃輪はジェット・シンに蹴られて怒ってたこともありましたね。

——美濃輪さんだけガチンコで？

木村　はい。道場生相手に三角絞めかなんかで勝ってましたからね。キッチリとしたプロレスはアイツには無理ですからね（笑）。ダイビング・ヘッドバッドとドロップキック、あとフランケンシュタイナーと、もう一個ぐらいの技しかなくて、試合もえらい早く終わってましたから。

——それ以上は覚えきれないと？（笑）。

木村　無理でしょうね（笑）。

諸岡　当時からこだわってたからな。「八百長は許さない」って（笑）。そういえば、一回、日高（郁人）にも負けてるんだよなぁ。

——はいはい。後楽園のルナパークで「誠ジムvsバトラーツ3対3対抗戦」で闘ってるんですよね。

木村　そのときの試合はエスケープがあった試合なんですけど、最初に美濃輪がチキンウイングで日高君からエスケープを奪ってるんですよ。

——その試合は美濃輪さんがヒザ十字で負けたみたいですけど、ファーストエスケープは奪ってるわけですね（笑）。

木村　いまの総合ルールなら勝ちですよね（笑）。そういえば、剛さんの大会に美濃輪が初めて出たときに、試合前に剛さんのところに挨拶させに連れていったんですよ。

——剛さんと美濃輪さんの初遭遇ですね。

木村　ウチの宮本（猛）さんとボクと3人で挨拶しにいったら、アイツ、いきなり剛さんの前でオナラしちゃったんですよ（笑）。

――アハハハハ！　一番最初がそれって凄いですよね（笑）。

木村　でも、剛さんもああいう人なんで（笑）、ずっと気づかなくて、そのへんをウロウロしてるんですよ。

――なんとなく目に浮かびます（笑）。

木村　それで、ちょっと時間経ってから「クセッ！　な、なんだお前は！　誰だ？」とか言って、「ウチの若いヤツで美濃輪です」って言って紹介したことありましたね（笑）。

――初遭遇から強烈なインパクトを残したんですね（笑）。

木村　あと、そのシリーズにシンが来てたときに、冴夢来（プロジェクト）とか若手はほとんどいなかったんで、いろいろ頼まれるんですよ。で、ジェット・シンが「コーヒーが飲みたい」って言ってたんで美濃輪に控室まで行かせたことがあって。

――ジェット・シンの使いっ走りを美濃輪さんがやってたんですか（笑）。

木村　そうです（笑）。で、控室に行ったら、いきなり蹴られたみたいで。それで、戻ってきたら凄い怒ってたんで「どうしたんだ？」って聞いたら「いや、シンに蹴られました。コーヒーを持ってけって言われて届けただけなのに、なんで蹴られなきゃいけないんですか？」って（笑）。

――アハハハハ！　そんな因縁がありましたか（笑）。

木村　だから、美濃輪 vs シンもちょっと見てみたいんですよ（笑）。

諸岡　アイツの悪いクセは、いつも帰ってきてから怒るんだよな。その場で本人に怒ったことないもんな。

――イメージ的にも、あまりカーッとなったりはしないタイプですよね？

木村　最初に会ったときから、いまに至るまで、まったく変わってないですからね。当時のまんまですね。

諸岡　アイツのいいとこは礼儀正しいのと、あと天狗にならないってとこ。そこはホントに変わらないよな。やっぱり、両親のしつけがしっかりしてたんだろうな。

木村　あとはやっぱり、誠ジムのやり方が凄く合ってたんだと思いますよ。社長と一緒に仕事とかさせていただくと、いろんなことをさせてもらえるんですよ。

諸岡　リング設営からレフェリーまで幅広くな（笑）。

木村　それもそうだし、いろんなことが身につくんですよ。そういう経験が何年か経って役に立つっていう。ボクもそうでしたけどアイツもそういうところがあると思いますよ。

諸岡　いいこと言うなぁ、参味夫。弁当、もう一つ食うか？（笑）。

木村　ありがとうございます（笑）。

こちらが諸岡会長が所有していた10年前に書かれた美濃輪の履歴書。プライベートはあまり語りたがらない美濃輪だけに熱心なファンでも美濃輪の最終学歴が「富山健康科学専門学校」というのは知らない人がほとんどだろう。履歴書によると美濃輪は講道館柔道の弐段を所持、趣味の欄には「プロレス観戦」「音楽鑑賞」と書かれている。

諸岡　美濃輪は鶴見（五郎）さんの興行にも出てなかった？

木村　たしか出ましたね。屋台村も出てるかもしれませんよ。

――インディーファンには伝説となっている、あの屋台村プロレスに美濃輪さんが出てましたか？（笑）。

木村　出てると思いますよ。大会が終わってから鶴見さんに「ドンドン食べていいよ」って言われて、ドンドン食べてたらスポンサーみたいな人に睨まれてましたからね（笑）。

――アハハハ！　剛竜馬と鶴見五郎と接点があるというのは、まさにリアルプロレスラーですね（笑）。

木村　ホントそうですね。あとよく覚えてるのは、アイツは仕事が終わる5時前になると、練習したくてそわそわしてるんですよ。それで社長が「もう行け！」って言うとジムまでダッシュしてましたね（笑）。

――それだけ練習するのが楽しみだったんでしょうね。

木村　そうでしょうね。ボクらがあとから行くとウェイトとかやってて「木村さん、ちょっと補助ついてください」って言って。当時からボクらが補助につかないと上がらないぐらいの重さを挙げてましたからね。あと、スクワットとかも、足が張ってくると踏ん張りが効かなくなって倒れちゃうじゃないですか。自分一人で、そこまで追い込んでやってましたから。ある意味、限界を知らないというか、限界が来てても気づいてないというか（笑）。

――アハハハハ！　じつに美濃輪さんらしいエピソードです（笑）。

諸岡　このあいだ、韓国に練習に行ったとき、エレベーターに乗ったら故障したって言ってて、「それで何やってたの？」って聞いたら「非常ボタン押したら、なんか韓国語で言ってましたけど、スクワットやってました」って言ってからな（笑）。

――故障中のエレベーターの中でスクワット！（笑）。

諸岡　美濃輪もそうだけど、コイツらの時代は練習の虫だったよな、みんな。ハンパじゃなかったよな。

木村　中でも一番凄かったのは美濃輪でした。それは間違いないです。

――当時から変わってないとのことですが、いまのようにブレイクするっていうのは感じてました？

木村　あんまりそういうのは感じなかったですけど（笑）、もしパンクラスに入れなかったとしても何かはするだろうなっていうのはありましたね。目的意識を持って、そこを目がけて突き進む力っていうのは見たことがないぐらいでしたから。そういう魅力は当時からありましたね。

諸岡　たしかに美濃輪は、あの頃と全然変わってないけど、一つだけ変わったことがあるよな？

――なんでしょうか？

諸岡　スケベになったよなぁ（笑）。

――アハハハハ！

諸岡　当時はあんまり女の話とかは聞かなかったけど、最近は凄いもんなぁ。言ったらアイツに怒られるかもしれないけど（笑）。

――女性関係も一回ハマッたら突き進んでしまうタイプなんでしょうね（笑）。

諸岡　そんな美濃輪がミルコと闘いますので皆さんの後押しお願いします。それと、ついでで申し訳ないんですけど、5月24日のCMAフェスティバルもよろしくお願いします！

【06年4月1日／都内ホテルにて収録】

約10年ほど前、CMA主催興行の入場式での一枚（美濃輪は写真左）。CMAらしくマスクマンから空手ファイターまで幅広いメンバーだ。

お宝写真発掘！　こちらは美濃輪がCMA認定KPW王座を保持していたときのもの。左隣には近藤有己、右側には稲垣、冨宅の姿も見られる。

こちらも約10年前、誠ジムの道場開きでの一枚。リング上には諸岡会長と、パンクラス入門が決まった美濃輪と尾崎社長のスリーショットだ。

パンクラスを退団した美濃輪が最初の海外修業の地として選んだのがブラジルのBTT。美濃輪はノゲイラ兄弟らと積極的に交流を図った。

アマ時代、美濃輪と対決していた
日高郁人を直撃！

前ページの対談でも話題に上っていた美濃輪vs日高戦。いまからちょうど10年前の1996年、真夏の後楽園で実現していたアマチュア時代の二人による“伝説の一戦”（by田中稔）、さらに無差別級GPで激突するミルコvs美濃輪戦について、05年プロレス大賞最優秀タッグを受賞した“リアルプロレスラー”日高郁人に語ってもらった。

聞き手／松澤チョロ

——ちょうど10年前に日高選手が美濃輪選手と闘っていたとのことで、話を聞かせてもらえればと思ってます。

日高　わかりました。ブログとかでちょっと書いたこともあるんですけど、知らない人がほとんどでしょうね。

——当時、後楽園にあったルナパークでの試合だったんですよね。

日高　そうですね。ボクはそのときは、まだ練習生で人前で闘うのは初めてだったんですよ。島田（裕二）さんが持ってきた話で、たしか誠ジムvsバトラーツの3対3の対抗戦って形で。一人は芳賀元太さん（※バトラーツ伝説の男。詳細は各自調査）で、もう一人はジムの会員の子でしたね。勝ったのはボクだけでしたけど（笑）。

——ルールはどんな感じでした？

日高　基本はパンクラスルールで、たしかグラウンドでの掌底はなしだったんですよ。まだグローブは着けてなかった時代で。あと3エスケープ制だったと思います。試合前に諸岡さんと島田さんとで顔合わせをしたんですけど、諸岡さんはボクのほうを見て「美濃輪、これはもらったな」ってニヤリと笑ったんですよ（笑）。

——え、それはどういう意味だったんですか？

日高「余裕で勝ったな」みたいな感じで（笑）。モロに聞こえるようにですよ。それを聞いた島田さんは自分に「日高、わかってるな!?」って（笑）。

——ホントに殺伐とした対抗戦だったわけですね。試合はヒザ十字固めで日高選手の一本勝ちという結果だったみたいですけど。

日高　はい。なんかの間違いかもしれませんけど（笑）。

——いやいや、そんなことはないはずです（笑）。でも、聞くところによると、ファーストエスケープは美濃輪さんが取っているとか。

日高　そうなんですよ。ボクのヒジが美濃輪君のチキンウイングで外れちゃって。エスケープしたかそれぐらいの瞬間にグッて捻られて完全脱臼じゃないんですけど、ちょっとずれちゃったんです。「あ〜！」って思いながら闘ってたんですけど、最後にスポッとヒザ十字が入ったんですよね。そういう意味では痛み分けでしたね（笑）。

——その試合のとき、セコンドの臼田勝美さんが酒臭かったらしいですけど（笑）。

日高　何言ってるのかはわからなかったんですけど、妙に酒臭かったのはよく覚えてますね（笑）。

——期待を裏切らないですね（笑）。

日高　そういえば、その試合の数日前に島田裕二氏とスパーリングをして、アンクルかなんかで内足（靭帯）を損傷してたんですよ（苦笑）。

——ニンジャ2号のアンクルホールドで足を破壊されていたと（笑）。それから10年経って、お互い道は違えましたけど、二人ともトップで活躍しているというのは予想できました？

日高　伊藤（崇文※日高の10年来の親友&ライバル）の後輩になるのも予想できなかったですからね。最近、美濃輪君は〝リアルプロレスラー〟ってよく言ってますけど、ただ闘うだけじゃなくて、お客さんを喜ばせる闘いをしているというか。ある意味、ボクなんかと一緒だと思うんですよ。ボクもただ試合をして自分の技を繰り出すだけじゃなく、いかにお客さんを惹きつけたり、考えてもいないところから技を出したりっていうことを頭に入れながら闘ってるんで。ジャンルは違いますけど、プロ意識としては似たようなことを考えてますよね。そういう意味では凄いプロレスラーだと思います。

——そんな美濃輪さんが今度『無差別級GP』で〝プロレスラーハンター〟と言われたミルコと闘うことになったんですけど、どう思いますか？

日高　勝ち負けに関しては偉そうなことを言えるような立場じゃないんですけど、美濃輪君は何かをやってくれるんじゃないかってことを抱かせる人じゃないですか。そういう意味で、美濃輪君は素晴らしいプロレスラーだと思うし、プロレスラーとして、ミルコ戦も期待したいですね。

【4月8日／ZERO1-MAX会場にて収録】

「CMAフェスティバル 日本対韓国11vs11全面対抗戦」
東京・後楽園ホール
5月24日（水）試合開始18:30（開場17:30）

【日本選抜vs韓国選抜11対11全面対抗戦】

①田中・フラビオ・一年（フラビオ・バーリトゥードチーム）vs キム ハンウ（CMA正進ジム）
②谷村光教(S-FACTORY OKUMURA-GYM）vs キム ドンヒョン（CMA争心館）
③鬼木貴典（Team-ROKEN）vs ジョン ムンソク（CMA KPW）
④窪田幸生（フリー）vs パク ジェキョン（CMA正進ジム）
⑤濱村健（CMA京都成蹊館）vs キム チョンヒョン（CMA KPW）
⑥濱田順平（CMA誠ジム）vs ナ ムジン（CMA KPW）

【キックルール 3分2R】

⑦せり（SOD女子格闘技道場）vs ジョン ヨンシル（CMA正進ジム）
⑧薮下めぐみ（SOD女子格闘技道場）vs キム ヒョンソン（CMA正進ジム）

⑨高橋洋子（SOD女子格闘技道場）vs イ ヨンジュ（CMA KOREA）
⑩恩田剛徳（CMA拳術会）vs キム ジョンチョル（CMA正進ジム）
⑪**美濃輪育久**（フリー）vs **バク ヒョンガップ**（CMA KOREA MARC）

［チケット料金］
SRS席 ¥12.000/指定A席 ¥10.000/指定B席 ¥8.000/指定C席 ¥6.000
※当日500円アップ

［問い合わせ］DEEP事務局 TEL.052-339-0303

バッファローマンの次はゴーリキ！
5・24 美濃輪育久 聖地凱旋!!

5・5『PRIDE無差別級GP』でミルコとの対戦が決まっている美濃輪の次なる闘いが早くも決定！　5月24日に後楽園ホールで開催される「CMAフェスティバル 日本対韓国11vs11全面対抗戦」のメインで韓国のバク ヒョンガップとの対戦が4月4日に都内で行なわれた会見で発表された。約4年ぶりに聖地凱旋となる美濃輪の相手バクはベースが韓国合気道で総合戦績は15勝5敗のファイター。報道陣からの「キン肉マンの登場キャラで例えると？」と質問が飛ぶと「ゴーリキ」と即答した美濃輪。生ヘブンを体感しに5・24は後楽園に大集合！

2006年―ハッスルと吉本が急接近!?

検証 “お笑い”はハッスルの未来像なのか?

HGの大活躍、RGM就任だけじゃない!
ハッスルとお笑いの接点を大阪で探る!

今号が発売される頃にはすでに終わっているが、ハッスル16(大阪府立体育会館)で
吉本興業のスターがリング上で激突するという試合が行なわれる。
プロレス界の枠からはみ出し、HGをエースとして起用することでお笑いとの距離を縮めてきたハッスルが、
つい対岸に到達したという意味で大きな意味を持つ試合となるだろう。
単なるお笑いではなく、単なるプロレスでもない、そんなハッスルの未来像に最も近いのはお笑いの枠を越えて
エンターテインメントを席巻する吉本興業なのか?　そんな仮説のもとに大阪突撃取材を慣行しました!!

構成/坂井ノブ　撮影/山口比佐夫　写真提供/DSE　designed by Tani-yan(Two Three)

TAJIRI

お笑い界のスーパースターHGと
プロレス界のスーパースターTAJIRI——。
ハッスル軍の仲間として闘う両者が、プロレスとお笑いの共通点を探りながらハッスルの未来像を探る！　エンターテインメントの神髄を知る男たちによるハッスル対談です！

聞き手／坂井ノブ

長いあいだちゃんとしたことをやった者にしか社会はキャラクターを容認しない（TAJIRI）

——今回はプロレス界のスーパースターとお笑い界のスーパースターの対談です！

HG　いや〜、本当に光栄ですよ。TAJIRIさんとタッグを組ませていただいて、コーナーで試合を見てると素になっちゃいますからね。「うわぁ、テレビで観てた人や！」って、ダウンタウンさんに初めてお会いしたときの感覚に近いです（笑）。初めてお会いしたときは「オオ〜ッ！」ってなりましたね。完全なファンの目線になっちゃいました。

——TAJIRIさんから見たHGさんはいかがですか？

TAJIRI　いまの日本のプロレスは技から技へとつながっていくムーブ中心の試合が主流でそういうものをお客さんが喜ぶ傾向にあるんですけど、HGさんの出現によってちょっとした仕草とかリアクションとか一瞬の輝きといったプロレスが本来持っていたオールドスクールな魅力にみんなが注目するようなキッカケとなったんじゃないかと思います。パワーボムやジャーマンスープレックスみたいな危険な技をやるわけじゃないのに、あれだけ盛り上げてるわけですから。本来のプロレスの持ち味に一番近い存在ですよね。

HG　そんなに褒めていただいて、恐縮フォ〜ッ‼　個人的には僕が好きなのもそういうクラシカルなアメリカンプロレスのスタイルなんですね。そういうものに少しでもかすっているのであれば嬉しいですね。

——もともとどういうプロレスが好きだったんですか？

HG　ブレット・ハートとショーン・マイケルズが60分間闘ったアイアンマンマッチなんです。大技をほとんど出すことなくずーっと試合をしていたのが、一番感動した試合だったんですね。もちろん、大技が飛び出す日本のプロレスも凄いと思いますし、プロレスラーは強いなぁと思うんです。でも、僕は本物のプロレスラーではないので本格的なトレーニングの時間が取れるわけでもないですから、数少ない技でどうしたらいいかということを考えていまのスタイルに行き着いたんです。

TAJIRI　お笑いの本業があるから練習に時間が割けないという状況で、自分をどういうふうにアピールしたらいいかという工夫をされてますよ。だからHGさんはいまの生活のまま、いまのスタイルを崩さずにやったほうがいいです。毎日道場に来てバンプをしっかり取るようになったら、HGの持ち味が消えちゃうと思います。そのジャンルではかなわない領域に自分から飛び込んでいく必要はないと思うんですよ。

——HGさんがわざわざお笑いの要素をなくしたシリアスなパワーファイトをやり始めたら、たしかにおもしろくないですからね（笑）。

HG　セイセイセイ！　私から下ネタを奪ったら何も残らないですよ！　それだけは検便……セイ！　勘弁してください〜。

TAJIRI　お笑い芸人HGという存在がプロレス界にひょっこり入ってきたという構図は、僕がアメリカの社会に異質な日本人として一人で入っていった姿と似てると思うんですね。

——なるほど。たしかにそうですね。ただ、今度は吉本興業の芸人さんが大勢でハッスルのリングに乗り込んでくることになったんですけど（笑）。じつは昨日、その会見が行なわれたbaseよしもとという劇場に行ってきたんですけど、そこにはNSC（※1）という芸人養成学校が併設されているんですね。そこでは生徒が発声練習をやってるんですよ。

TAJIRI　WWEとOVW（※2）の関係みたいですね。

——そうなんですよ！　お笑いの聖地で非常にプロレスと近い空気を感じたんですよね。

TAJIRI　僕もなんばグランド花月（NGK）の周辺を初めて歩いてみたんですけど、いろんなタレントさんの人形焼きやグッズが売られてたりしてWWEのグッズ展開と似てるんですよ。キャラクターを凄く大事にしてるなぁと思いました。NGK周辺は人をハッピーにするような空気が流れてますね。最近のプロレス界は見てる人をハッピーにさせるよりも、疲れさせてしまうような場合も多いですけど。

HG　最終的にNGKに上がることが大阪でやってる芸人の目標みたいになってますね。

——いつか『WRESTLEMANIA』のリングに上がることを目標とするプロレスラーの心理に近いものがありますね。

HG　NSCみたいな養成所もプロレス界にありましたよね。WWEで一時期やってた『タフ・イナフ』って選手養成の番組をやってたじゃないですか。あれはもう終わっちゃったんですか？

TAJIRI　もうやってないですね。あれで優勝して採用された人ってみんな辞めちゃったんですよ。

HG　そうなんですか？

TAJIRI　一回オーディションを通ったぐらいでは、その人が本当に続けていけるかどうかは判断できないってことなんでしょうね。むしろ、『タフ・イナフ』の選考過程で落とされて補欠で採用された人のほうが頑張ってますからね。

HG　芸人の世界も同じですね。僕らもNSCを出たわけじゃないんですけど、補欠合格みたいな形でこの世界に入って、NSC出身者には対抗意識じゃないんですけど、負けたくないという気持ちでやってきましたから。

——ところで、TAJIRIさん。今度のハッスルでは吉本の芸人さんだけで組まれる試合があるんですね。もうこの号が発売される頃には試合は終わっているんですが……。

TAJIRI　いままでお客さんが見たことがないような試合になるんじゃないですかね。僕も見て学びたいと思います。

HG　キャラクター的にも濃い人たちばかりですから、私も負けないようにハッスルしたいですね。

TAJIRI　昔、谷津（嘉章）さんのSPWFの2部リーグで吉本プロレスっていうのがあったんですよ。マスクを被って素顔を隠した芸人さんが、普通のプロレスを一生懸命やってるんですけど、お客さんは何を楽しんでいいんだかさっぱりわからなかったんです。

——それは身も蓋もないですね（笑）。

TAJIRI　でも、今回登場する芸人

※1　NSC＝吉本総合芸能学院、New Star Creation の略　※2　OVW＝オハイオ・バレー・レスリング。WWEの下部組織

さんたちは「ネタを見せるんだ！」ということで意気込んでくるでしょうから、SPWFみたいなことにはならないでしょうね。

――TAJIRIさんとしてはHGさんにこれからリング上でどんなことを表現してもらいたいと思いますか？

TAJIRI 時代とともにこれからどんどん事件が起こったり、話題が変わっていきますよね。せっかくテレビのお仕事をされてるんですから、そういうものを敏感にリングの上に取り入れてほしいですね。ハッスルと実社会をつなぐパイプになれる唯一の人だと思うんですよ。そういう役割を期待したいですね。

HG いや～、実社会では生きられないから、お笑いの世界やプロレスの世界に来たはずなんですけどねぇ（笑）。ただ、ハッスルをいろんな人に見てもらいたい、プロレスはおもしろいんだよとわかってもらいたいという思いはありますね。芸能界で言えばくりぃむしちゅーさん、今田（耕司）さん、東野（幸治）という先輩方もプロレスは観てはるんですよ。でも、テレビでしゃべっても伝わらないからプロレスの話はほとんどしない。それが寂しいですよね。これを機にもう一回プロレスが世間的なエンターテインメントになればうれしいです。でも、そんな大役をやるつもりでハッスルに出たわけではないんですけどね（笑）。

――いつの間にかそういうことになってたわけですけど（笑）。

HG うれしいですよ。コンビ名にレイザーラモンという名前を付けた時点でプロレスからは逃れることはできないと思いますし、最初の頃にやってたコントは、プロレスの試合をしながら何か言うという内容ですからね。それが伝わらないから路線変更を余儀なくされたんですけど。プロレス好きの先輩も周りにはいっぱいいて、その方たちと今回一緒にハッスルで仕事をすることができてホントにうれしいですね。こっちから世間に対してアピールしていきたいと思います。

――では話題を変えて、お笑いから見たハッスルという視点でうかがいたいんですが、高田総統ってしゃべる相手としてはいかがですか？

HG 絡みやすいですよ。人が言ったことに対してツッコミも入れてくるし、もちろん普通におしゃべりもできますし。

TAJIRI 聞いてるうちに陶酔してしまうようなおしゃべりですよね。こないだ後楽園ホールでは葉巻の話をしてましたけど、ああいう話をもっとしていただいて豆知識を増やしていきたいですね。

――川田さんはいかがですか？

HG たとえば新喜劇だと、もの凄く怖いヤ●ザふうの男が出てきて「フェ～」ってマヌケな声を出すだけで大爆笑を取れるんです。〝モンスターK〟は長年ゴツゴツした激しいプロレスをやってきた人なんで、ちょっとおもしろいことをやるだけで爆笑が取れるんですよね。振りがメチャクチャ長いですから、そりゃおもしろいですよ。あれに勝つのは難しいですね（笑）。振りがあるからボケが生きてくる、お笑いの基本中の基本ですね。

――なるほど。キャラクター込みでおもしろいということですね。

TAJIRI いまの話を聞いててふと思ったんですけど、キャラクターというのはその人が生きていく中で積み重ねてきた歴史をある日、突然どのようにいじって変えるかということなんでしょうね。

HG 川田さんや高田総統なんて、まさにそういう積み重ねがある日、突然変異したような怪物的なキャラですからね。

――HGさん、総統は生まれたときから高田総統だったそうです（笑）。選手をキャラクター化することにかけてはWWEが凄いなぁと思うんですけど。

TAJIRI ただ、最近のキャラクターはあんまりファンに浸透しないものも多いんですよね。というのは、その選手がOVWでどんなキャラクターをやってたのかお客さんはほとんど知らないわけですよ。そういう歴史を知らない人の前にいきなり登場させられても選手のキャラクターの魅力が半減しちゃいますよね。

――たしかにそうですね。歴史を知れば当然、もっと楽しめますよね。

TAJIRI 長いあいだちゃんとしたことをやった者にしか、社会はキャラクターを容認しないということなのかもしれないですね。ハッスルはキャラクターの宝庫と言われてますけど、ひょっとしたらこれは一番大変な作業かもしれないですよ。

――そうですね。でも、キャラといえばハッスルの中ではTAJIRIさんの腰が低いままましゃべり続けるというキャラクターも確立されつつありますよね。

HG これは頼もしいですよね。僕の相方になっていただきたいぐらいです（笑）。RGがあぁいう状況なんで。

――アハハハハ！ マイクアピールでもHGさんとの呼吸はしっかり合ってますよね。

HG TAJIRIさんがわかりやすいボケをしてくれるんで、非常にやりやすいです。

TAJIRI さっきのキャラクターの話の続きなんですけど、僕はここまでずっと本心からHGさんのことをベタ褒めしてきたわけです。そういう歴史を少しずつ積み重ねてきてるわけですけど、これがある日突然180度ひっくり返ったらすごいストーリーが作れるんじゃないかなと、ふと思ったんです（ニヤリ）。

HG （驚いて）えっ……!?

TAJIRI な～んてことも考えたんですけど、そんなことはありませんのでご心配なく。これからもHGさんとハッスルを盛り上げていきたいと思います！

【06年4月4日、大阪・梅田『モンゴリアンチョップ阪急東通り店にて収録】

振りがあるからボケが生きてくる これがお笑いの基本中の基本（HG）

ハッスル スーパースター対談

HG×TA

見とハッスル

の芸　人さん大集合座談会

お笑い芸人にはプロレスファンが数多くいるが、その中でも筋金入りの方々が大集結！　この号が発売される頃にはハッスル16の吉本興業提供試合も終わっているのだが、ハッスルの目指すべき世界のヒントがこの座談会には隠されている。

聞き手／坂井ノブ　撮影／山口比佐夫

ユウキロック

キャプテン★ボンバー

――今回の吉本興業とハッスルのコラボは非常に画期的ですよね。

ユウキロック（以下ユウキ）　ものすごく怖いですねぇ。プロレスが好きであるがゆえに、不安になるんです。LLPWのリングに上がっただけで中山秀ちゃんがファンの反感を買ったこともあったし。

ケンドーコバヤシ（以下ケンコバ）　一番みんなの記憶に残ってるのはビートたけしさんのTPGやと思うんですけど、僕はいまだにあの事件のトラウマが消えなくて黒革のコートが着られないですから。凄くほしい黒革のコートがあったんですけど、買えなかったなぁ（しみじみ）。

――まあ、でもハッスルは従来のプロレスとは違う形で盛り上がってますからね。実際、去年のハッスル大阪大会は非常に盛り上がったんです。

浅越ゴエ（以下ゴエ）　私、行かせていただきました。一緒に「シー！」ってやってました（笑）。

――すばらしい（笑）。あの凄い盛り上がりを見て、ハッスルは大阪に合ってるんじゃないかと思ったんですよ。

ケンコバ　プロレス業界では「大阪の客は厳しい」っていうイメージがあるらしいですね。パッケージがしっかりしてれば、大阪が一番やりやすいと思うんですけどね。でも、最近はお笑いでハッスルに勝つのはなかなか難しいですよ。こないだのハッスル15（愛知県体育館）を観たとき「〝モンスターK〟はお笑いがうますぎるな」と思ったんです。

キャプテン☆ボンバー（以下ボンバー）　そんなに凄いんですか？

ケンコバ　髙田総統の決めゼリフの「バッドラック！」を先に言っちゃうっていうネタなんだけど、それを言うタイミングは練習すれば誰でもつかめるんですよ。ただ、ボケたあとの総統を見るモンスターKの目線は完璧やったから。RGの1000倍うまかった！

ゴエ　それはRGが下手すぎるんじゃないですか（笑）。

――RGさんも会場を一体にするぐらいの大ブーイングを浴びてるんですけど。

ゴエ　「ワッツ・アップ⁉」っていうRGの決めゼリフを会場のみんなで大合唱してるんですよね？

ケンコバ　……まあ、コアな人だけね。

ユウキ　こないだ会ったときは「会場のみんなが大合唱してくれるんですよ」って本人が言うてたけど。

ケンコバ　RGはホントにビッグマウス・ラウドなところがあるから（笑）。

――あの「ワッツ・アップ？」はRGが独自で生み出したネタなんですか？

ケンコバ　少なくともお笑いの世界で編み出したネタではないですね（笑）。

ユウキ　正直、あいつはいままで何のネタも生み出してないからね。全部誰かの便乗ですよ。

ボンバー　唯一、〝おジャーマン〟ぐらいじゃないですか。

ケンコバ　吉本新喜劇って「ごめんやして、おくれやして、ごめんやっしゃ～」とか登場ギャグがあると強いんですけど、あいつは吉本新喜劇に入団したての頃に飛び級を狙ったんでしょうね。普通はある程度の地位を築いた人が登場ギャグをやるんですけど、あいつはいきなり〝おジャーマン〟をやったんですよ。でも、脳天を打ちつける大きな音にお客さんが引くしかなかったという（笑）。

ボンバー　新喜劇でも一日3回公演のときは、舞台が終わると真っ青な顔してぐったりしてますからね。まったくウケてないのにやり続けるんですよ。

ユウキ　まあ、こうやって俺たちがRGの話をすると、またHGのイライラが募るわけですけど（笑）。

ケンコバ　いま本当に仲が悪いですよ。

ボンバー　あるネタ番組で、RGは「僕、ネタがないんでHGの暴露ネタをしゃべります」って言って、それで成立させてましたからね（笑）。

ケンコバ　HGにも「RGの暴露したら？　いつか引き金を引いたらええねん」って言うんですけど、「いや、それだけはできません」って頑なにやらないんですよ。まあ、それには理由があって……。これは『kamipro』さんだから話しますけど、RGの暴露ネタってホントにえげつないんですよ。●●●に●●するまで●●●●くれって言ったりとかね（笑）。

――うわっ（笑）。とても暴露できるレベルの話じゃないですね。

ケンコバ　淀川で（以下、自主規制）。

ボンバー　これはちょっと活字にできないですけど、（以下、自主規制）。そんなことをやっておきながら「悩むことはない」って豪語してましたね（笑）。

ケンコバ　あいつはホントに霊長類ヒト科最低の男ですよ（しみじみ）。

――RGさんの活字にできない話はこへんにして（笑）、HGさんの活躍は芸人仲間から見ていかがですか？

ケンコバ　じつはハッスルに上がる前に本人から「不安だ」と相談を受けたんですよ。まあ、でも僕はハッスルだったらカチッとはまりそうな気がしてたんで、無責任に「絶対大丈夫や」って言ってたんです。失敗したら猪木さんばりに「オレは触ってねえですから」って言おうと思ってたんですけどね（笑）。

ゴエ　ハッスルはどこのプロレス団体よりも彼の魅力が生きるところですよね。

ユウキ　もともと『PRIDE』ひかり道の仕事でDSEに行ったとき、関係者の人から「HGさんの電話番号を教えて！」って言われて僕が教えたのがキ

4月3日、baseよしもとで行なわれた会見では大乱闘も勃発！　集団でのドタバタは吉本新喜劇などの舞台でもよく見られるが、芸人ならではの瞬発力を発揮した乱闘を目の当たりにすると報道陣のテンションも一気に上がった。

ハッスルGM・RG怒りの反論「そんなことするわけない！」

――HGとの仲が最悪だと言われてますが？

RG　そうですね。きっかけは『銭金』というテレビ番組でHGにドッキリを仕掛けて元彼女を連れてきたりしたことですかねぇ。そこからは悪化の一途をたどりましたね。芸人だったらそれぐらいバンプ取れよ、と言いたいですけど。

――なるほど。じつは吉本の先輩芸人の方々からRGMの極秘情報を入手しまして「●●●に●●するまで●●●●くれって言った」とか、「淀川で（以下、自主規制）」とかいう話が入ってきてるんですけど（笑）。

RG　ヨゥヨゥヨゥヨゥ、ヨヨゥヨゥ！　それは話が大きくなりすぎてます！

――そうなんですか？

RG　おもしろおかしく話がすり替わってますヨゥヨゥヨゥ！　淀川はみんなの淀川！　そんなことするわけないじゃないですか～。もう勘弁してください。バンプ取れないですから。

――さっきご自分で「バンプ取れよ」ってませんでしたっけ？（笑）。

INTERVIEW

★キャプテン☆ボンバー　アメリカ・ノースカロライナ出身／好きな食べ物：Tボーンステーキ　★ユウキロック（ハリガネロック）　1972年4月16日／大阪府池田市出身／177cm 68kg／NSC 11期生

芸人から見た

プロレスファンの芸　人さん

浅越ゴエ

ケンドーコバヤシ

ッカケですからね。10パーセントはほしいなぁ。

ケンコバ それを言ったら、俺はあのキャラクターを与えた男だから。70パーセントはほしいわ！

ボンバー HGに5000万円を要求してるんですよね？

ケンコバ いまは7000万円まで高騰してる（笑）。ミニスカポリスとどうこうなれたのは2000万円の価値があるでしょ。世の中には「2000万円を払ってでも」っていう人はおるからな（笑）。

ボンバー 僕……じゃなくて、なかやまきんに君は、たまたまHGのデビュー戦を会場で見たらしいんですけど。あの日の盛り上がりは本当に凄くて、あまりに凄すぎて圧倒されて楽しめなかったと言ってましたね。

——HGさんがあれだけの活躍したことで、あらためて芸人さんは凄いなと思ったんですけど芸人とプロレスラーでは精神的な部分で非常に似通ったところもありますよね。

ユウキ 似てますねぇ。舞台で若手にネタを振るときも「こいつなら大丈夫や」っていう相手じゃないと大けがしちゃいますから。お笑いも相手との信頼関係ができてないと成立しない世界ですよ。

ゴエ 間とかお客さんとの呼吸で技を出すタイミングも変わりますから、そのへんも似てるかもしれないですね。

ケンコバ あと、僕らが若手芸人だった頃は、飲み屋で客がこっちを見てたらガラスのコップをバリバリ食べたもんですけどね。「プロレスラーっちゅうのはこういうもんじゃ！」っていうのを僕らが見せてました。

——なぜだ（笑）。

ゴエ （ボンバーを指差して）でも、きんに君はホントに車を引っ張ってましたからね。

ボンバー きんに君じゃないです、キャプテン☆ボンバーです！ まあ、でも友人のきんに君は営業で週3回も車を引っ張ったことがあるって言ってました。

——プロレスラーだって週3回も車を引っ張らないですよ（笑）。

ボンバー 電話がかかってきて「すいません、今度の車なんですけどトラックって言ってたのが観光バスに変更になりました」とか（笑）。

ケンコバ 今回のような形で交流をするというのは、お互いの世界にとって勉強になると思いますね。僕でよければ客寄せパンダに使ってほしいなと思いますね。そうすることによって僕らも助かりますから。お笑いのお客さんにプロレスの雰囲気を知ってもらえれば、僕らもやりやすくなると思うんですよ。

ゴエ ああ、そうだね。いまのお客さんはプロレスを知らん人は多いからね。

ユウキ HGがハッスルに出て売れてますけど、僕もハッスルで売れたいんですよ。だから、いまも売れずに声がかかるのを待ってるんですけどね（笑）。

——他にも吉本でプロレス好きの芸人さんは多いですよね。

ユウキ バッファロー吾郎さん、リットン調査団さん。

ゴエ フットボールアワーの岩尾さんも好きですね。

——プラン9さんも劇中でプロレスのムーブを取り入れてますよね。

ユウキ 僕とコバヤシは漫才コンビを組んでたんですけど、プロレス技ばっかりやってましたよ。

ケンコバ ネタ中の誤爆で3日間、何も見えなくなったこともありますからね。

ゴエ 何それ？（笑）。

ユウキ ネタ見せのオーディションがあって、僕が普通のツッコミじゃなくてライガーがやるような浴びせ蹴りをやったんですよ（笑）。しかもそのときはブーツを履いてて。

ケンコバ 踵が眼球を直撃ですよ。本来はそんなツッコミするはずじゃなかったのに（笑）。あのときはあそこで何かをつかんでやろうと必死でしたね。

ゴエ そりゃ解散するわ（笑）。

——ハリガネロックが渋谷公会堂でやったときは舞台でローリング・クレイドルをやってましたよね（笑）。

ユウキ 大きい会場ですから、一番うしろの席でも何をやってるかわかるようなネタをやらんといかんなと思って取り入れたんですけどね。

ケンコバ それがローリング・クレイドル？（笑）。

ユウキ そうや。あと吉野正人が使ってる相手の周りをぐるっと回って卍固めになってる技もやったしね。相方の大上と一緒に新宿スポーツ会館に練習しに行ったもん。

ケンコバ もう一つの新宿スポーツ会館伝説だ（笑）。

ユウキ コバヤシと組んでるときに前方回転エビ固めでツッコミ入れるっていうネタがあったんですけど、それはウケるというよりもあまりにきれいに決まったんで「おおっ！」ってため息が出てたよな。それを受けて「感心されとるがな！」ってツッコミを入れるという。

ケンコバ そのときも打ち合わせのときより勢いよく突っ込んできたから、僕は頸椎を強打しました（笑）。

——シャレにならないところばかり打ってますね（笑）。

ゴエ 逆に新喜劇にハッスルのレスラーが登場するというのもおもしろいんじゃないですか？

——いいですねぇ！ 誰が出たら一番盛り上がりますかね。

ゴエ 髙田総統がいいんじゃないですか。我々から見ても総統のしゃべりは完璧ですからね。

ケンコバ 野次も見事に切り返すからなぁ。ぜひ新喜劇で見たいですね。

——いろんな形でお笑いとプロレスの交流が進むといいですね。

ケンコバ まあ、今回こうしてハッスルに携わることで何よりうれしいのは、スケジュールを押さえて第1試合からしっかり会場で見られるということですね。僕らの仕事は夕方の時間帯が多いんで、何かの理由をつけないと観に行けないんですよ。ホントに渡りに船ですわ（笑）。

【06年4月3日、大阪・吉本興業本社にて収録】

大阪・千日前で見たハッスルが目指す世界

今回、ハッスル・吉本コラボ会見の取材で一泊二日の大阪出張に行ってきた。行き先は大阪府立体育会館や大阪ドームといったプロレス・格闘技で使ういつもの会場ではない。会見場のbaseよしもとに入ると、ドア一枚隔てた向こうから数多くのスターを輩出してきた名門NSC（吉本のお笑い専門学校）の生徒たちの発声練習が聞こえてきた。基礎中の基礎なのだろうが、ドアの向こうから伝わってくる熱気にお笑い帝国・吉本の底力を感じて、まるでプロレスラーの腕立て伏せやブリッジの練習を見たときのような畏怖に近い感情が湧いてくる。おかげで直後に会見で繰り広げられたバチバチパンチやボンバープンプンといった芸がいままでよりも桁違いに深く感じられた。ホテルに帰って会見の記事を書きながら関西ローカルのワイドショーを見ていると、ちょうど松本竜介さんの葬儀の模様が中継されており、ザ・ぼんちや西川のりおが涙ながらに棺に向かって絶叫している姿を映していた。それはまるで"お笑い道"の出発点から頂点、そして終着点までを一気に巡る"お笑いランドスケープ"とでも言うべき体験だった。お笑いの世界も選び抜かれた者だけが舞台に立つことが許される厳しい世界であることが、ほんの少しだけ垣間見ることができた。大阪に3つ、東京に一つある常打ちの会場では毎日芸人たちのお笑いステージが繰り広げられ、そこで競争を勝ち抜いた者がトップスターとなっていく。千日前にあるなんばグランド花月周辺では、そんなトップスターたちの写真やグッズが飾られ、お笑いテーマパークのような空間になっている。ある意味、プロレス界以上に過酷なピラミッド社会であるお笑いの世界は大きな夢を見せてくれる世界だった。ハッスルが目指すべきはこういう世界であろう。

（坂井ノブ）

★浅越ゴエ（ザ・プラン9）1973年12月20日／岡山県岡山市出身／177cm 70kg B型／NSC16期生　★ケンドーコバヤシ 1972年7月4日／大阪府大阪市出身／172cm 77kg O型／NSC 11期生

「いろんな選手にプロレスのサイコロジーを教えてあげられる機会があればいいなと思う」

TAJIRIがハッスルする理由【後編】

WWEを退団したTAJIRIがハッスルになぜ加入したのか？ 本誌前号に掲載されたインタビュー前編では、数多くのオファーを断りTAJIRIのプロレス観と最も近いハッスルのリングを選ぶまでを語ってくれたが、今号もバズソートークが炸裂！ TAJIRIはハッスルのリング、そして日本のプロレス界で何を成し遂げようとしているのかを語る！

聞き手／坂井ノブ、真下義之　撮影／菊池茂夫　試合写真／平工幸雄

——最近、WWEを辞めた選手が続々と日本のプロレス団体に登場してますよね。ハッスルにも3Dが来て、かなりハードな試合をやってましたけど。

TAJIRI　うん、激しい試合でしたね。たぶん、いまの彼らは日本のファンが思ってるような試合はあんまりしないと思いますよ。WWE時代からさらに進化してるんで、昔のダッドリーズのイメージでいたら「全然違うよ」って印象を受けるんじゃないですか？ アイテムは重要なところでしか使わないで、もっとサイコロジーを用いた試合をすると思いますよ。

——凶器バンバンっていう試合じゃないんですね。

TAJIRI　才能は徐々に発揮していったほうがいいんじゃないかと思うんですよ。最初があまりにも良すぎると、あとで苦しくなるでしょう。手の内をすべてひけらかすんじゃなくて、レスラーが小出しにしていくプロセスを楽しみながら試合ができれば、お客さんも楽しむことができる思うんですよ。僕の場合は帰国第一戦（ハッスル14）でHGさんと組ませてもらって、脇役になったのは凄くよかったと思うんです。

——毒霧とタランチュラは出ましたけど、試合のほとんどはHGが出ずっぱりでしたよね。

TAJIRI　僕は手の内を7割～8割を見せていくのがいいと思うんですね。だから日本のプロレス界にありがちな、自分の持ってる技をなんでもかんでも全部出そうとする傾向はよくないと思うんです。

——ある意味、カードゲームに似たようなところがありますよね。いかに効果的にカードを切っていくというような。

TAJIRI　そういうのをプロレスのサイコロジーって言うんです。

——なるほど。ネットでファンの意見を見ると「なぜ帰国第一戦でTAJIRIにシングルマッチをやらせないんだ？」というような意見があったりするんですよ。じっくり試合を見せてくれ、ということなんでしょうけど。

TAJIRI　僕自身がそういう考え方をしていたら、とっくに他団体のオファーを受けて、さっさとタイトルに挑戦してますよ。でも、そんなのつまんないですよ（笑）。

——当たり前すぎますよね。いままでサイコロジーがうまいなぁと思った選手はどなたですか？

TAJIRI　う～ん、やっぱWWEはみんなうまいですよね。カート・アングル、トリプルH、ショーン・マイケルズ、ジョン・シナもプロレス自体はヘタですけどサイコロジーはたいしたもんですよ。日本では……まだ試合でちょっとしか触れてないけど、間違いなくうまいのは髙田モンスター軍のアン・ジョー司令長官ですね。

——おお～！ それは興味深い意見ですね。じつは司令長官がお忍びで今年の2月のWWE日本大会を観に行ったとき、クリス・ベノワvsフィンレーの試合で非常に感心してたんですよ。「あんなに技が少なくてもいいんデスカ？ ミーより技が少ないデ～ス！」って（笑）。

TAJIRI　そうなんですよね。司令長官はそこがわかってるんですよ。日本のたいていのプロレスは、僕から見

この業界がなくなったら自分も食えなくなるんだから もうそろそろ真剣に考えたほうがいいんじゃないかな

たら技の数なんか3分の1でいいと思うんです。要するに出しすぎなんです。

——技を乱発して失敗するよりも厳選した技だけで組み立てられれば、試合の質も向上しますよね。

TAJIRI そういうことを誰かが言語化してプロレスの百科事典みたいなのを作ったらいいんじゃないかなと思うんですよね。

——TAJIRIさん、作りましょうよ！（笑）。

TAJIRI じつは前から考えてるんですよね。でも、それってある意味では暴露本になっちゃうのかな（笑）。

——それは絶対おもしろいですよ！映画のDVDにはメイキング映像が付いてるじゃないですか。プロレスにも試合が組み立てられていくまでの理論書やサブテキストがあってもいいと思うんですけどね。スキャンダラスな意味じゃなく、そういうものが出せればプロレスの深みも増すと思いますから。

TAJIRI まあ、本が無理なら若い選手を集めてサイコロジー講習会みたいなものをやってもいいんじゃないかなって思うんですけどね。

——日本では道場がない団体が増えて、そういうことを教えられる場所も機会も少なくなってますよね。

TAJIRI 教えることができる人もあんまりいないと思いますよ。意外と（グレート）小鹿さんとか、昔の人は知ってるんですよ。じつは、先日仙台に行って小鹿さんと話してきたんですけど、プロレスのサイコロジーの部分を、さすがによくご存じだったのでビックリしちゃったんですよ。「あ、俺も昔はこんな話を小鹿さんから聞いてたけど、あのときは響かなかったんだな」と思ったんですけどね。

——小鹿さんの世代はアメリカ武者修行で転戦しながら、本当の意味で揉まれてきたわけですからね。

TAJIRI 昔の日本プロレスラーには、そういうものが備わってたんでしょうね。（アントニオ）猪木さんの試合なんか、もろにアメリカンプロレスの試合ですからね。猪木さんが試合しなくなり、（ジャイアント）馬場さんが亡くなって以降、日本のプロレス界からサイコロジーがだんだん失なわれてるのかもしれないです。それもここ数年のことだと思うんですよね。テッド・デビアスがいまWWEのエージェントをやってるんですけど、話をしたら「ババが生きてたときに日本に行ったら、ちゃんとしたプロレスをやれた。ババが亡くなってから数年ぶりに別の団体に行ったらプロレスがメチャクチャになっててビックリした」って言うんですよ。

——お目付役は必要なんですね。

TAJIRI だからWWEが採用してるエージェント制みたいなものが、日本にも絶対必要だと思うんです。そうすれば引退したレスラーだって優秀な人材なら職があるわけでしょ？　たとえプロレスしかできない人でもそういう道があるわけです。もうそろそろ自分のことばっかり考えないで、この業界がなくなったら自分も食えなくなっちゃうんだから、みんなで真剣に考えたほうがいいんじゃないかなって思っちゃうんですけどね。

——とくにメジャー団体は考えてほしいですね（笑）。TAJIRIさんがいままで仕事をしたエージェントの中で「この人は凄いな」っていう方はいらっしゃいます？

TAJIRI リッキー・スティムボートとかアーン・アンダーソンですね。

——やっぱり選手を論理で納得させられるっていう部分が凄いんですか？

TAJIRI そうですね。すべて理詰めなんですよ。だけど日本のプロレスは、そうでない試合も多い。

——たとえば、どんな部分ですか？

TAJIRI わかりやすく言えば、足を攻められてたヤツが急に足で蹴っちゃうような感じですね。試合の中のストーリーがムチャクチャなんですよ。なぜK―1とか『PRIDE』の人気が出たかというと、彼らの試合のほうがよっぽど理詰めだからだと思うんですよ。彼らはたとえば相手が腕をケガしたら徹底的に腕を狙っていくでしょ？　そっちのほうがよっぽど理詰めですよ。そのへんで差がついちゃってるなと思うんですよね。

——ローを蹴られたら足が腫れるわけですからね。

TAJIRI 本来、それが一番表現できるのはプロレスのはずなんですけどね。それをやらないというのは、レスラーが誤った道に進んでしまったっていうことですよ。

——そういう論理が積み重なって、いまのWWEができてるんですね。

TAJIRI そうですね。僕は毒霧を噴くときだって必ずレフェリーが見ない場面で噴くし、ちょっと相手の足を引っ張るときだってレフェリーは絶対見てないですよ。

——以前、インタビューした和田京平さんも言ってましたよ。「俺が見てるのに反則するな！」って。

TAJIRI ホント、そうなんですよ。それが一番重大な基本なのに、多くの選手ができてないっていうのがおかしいんですよね。

——昔はできてたんじゃないですか？　だって、新日本プロレスは反則負けっていう裁定が多かったでしょ。

TAJIRI そうですね。いざレフェリーが見てるときにやるとなったら、それは試合を壊すときなんですね。

——ストーリーの作りようがないんですよ。

TAJIRI そうそう。じゃなきゃ

——そういうプロレス観を積み重ねていくことで、またプロレスが盛り上がってくると思いますか？

TAJIRI そうですね。それと『ハッスル』のプロレス観を最初から注入した選手を育成するのがじつは一番手っ取り早いんじゃないかなと思うんですよね。たぶん10年やって完成された選手を3年かけて洗脳していくよりも、0から教えて3年かけて育てる選手のほうがよっぽど対応できると思いますから。

【06年3月7日、東京・竹芝にて収録】

TAJIRIの試合は動き、表情、指先ひとつにいたるまでじっくり見ると、より深くおもしろさが伝わってくるはずだ。

たじり■1970年9月29日、熊本県玉名市出身。94年にIWAジャパンでデビュー後、大日本プロレス、メキシコ、ECWを経てWWEに入団。昨年末に退団して拠点を日本に移して活動する。175cm、88kg。

衝撃！カイヤが『ハッスル・エイド2006』参戦！必殺技を引っさげ「大きい男と闘いたい！」

（必殺技：カイヤボンバー）

本当にあのカイヤ？

第一報を聞いたとき、誰もがこう思ったはずだ。川崎麻世の妻でありタレントのカイヤがハッスルに参戦する。これは本当だ。

『ハッスル・マニア』と並ぶハッスルの年間二大イベントのひとつとなる『ハッスル・エイド2006』の開催発表記者会見で、榊原信行DSE代表が投入を予告していた「世間がアッと驚くような大物芸能人」とはカイヤのことだったのだ！

4月12日、都内ホテルで行なわれた会見に登場したカイヤはハッスル参戦を決意した経緯を次のように語った。

「私は6月の『ハッスル・エイド2006』に参戦します。なぜ参戦するかというと、以前からWWEが好きでケーブルテレビで観てました。とくにディーバという存在には興味がありました。昨年の『ハッスル・マニア』における和泉元彌さんの活躍を見て、私もやりたいと思いました。『ハッスル・エイド』のテーマである『骨髄バンク8万人登録運動』にも賛同して、応援させてもらいたいと思います」自分の意図を正確に伝えるために、カイヤは英語でこの決意を語った。「マジメに出たい」と強調したカイヤは本気でファイティング・オペラに取り組もうとしている。

すでにカイヤは「カイヤボンバー」という必殺技を考案している。本格的なダイエットも成功させており、毎日、朝1時間のランニングと元世界王者・戸高秀樹のボクシングジム通いを欠かさず、週3回はウェイトトレーニングに励んでいる。基礎体力はしっかりしていると言ってもいいだろう。

「大きい男と闘いたい」というカイヤだが、どこまで通用するのか興味深い。

芸能人といえば顔が命だが「ケガをするのはしょうがない、スポーツだから。ただ相手もケガするかもしれないヨ」と不敵に笑った。

カイヤといえば麻世の恐妻として知られているが、今回の決断には「インディペンデント（独立・自立）した女性として自分のことは自分で決めます」と麻世への相談なしに参戦を決め、当日もセコンドには呼ばないつもりであることを明かした。「芸能界に入ったときも、お店を始めるときも内緒で決めた。決めたあとで麻世に話す」と語り、いつも通りの手順だという。

まだ会場でハッスルを観たことがないというカイヤは4月22日か23日の後楽園ホール大会に来場する予定になっている。

本名 CAROLYN KAWASAKI。5月25日、アメリカ・シカゴ出身。1983年より、ファッションモデルとしてアメリカ、イタリア、フランス、ドイツ、日本など世界各国で活躍する。1990年、俳優の川崎麻世と結婚。一男一女の母。「痛快！知らぬはオトコばかりなり」への出演をキッカケに芸能界入り。陸上、バスケットボールなどスポーツは得意。現在もWBA2階級制覇の元世界チャンピオン・戸高秀樹のジムでトレーニングに励んでいる。

GOTO
ゴトウ

人生バックドロップ
後藤達俊

危男(アブオス)なポン刀オヤジの基本のキ!
日本酒には刃物でキマリ!!

ちょいワルオヤジがひれ伏す

極ワルオヤジの生き方、教えます!!

『LEON』ふうに言えば、世の中の男性は「艶男(アデオス)」と「駄目男(ダメオス)」に分類されるわけだが、我々は声を大にして主張したいね。マット界にはギラギラした危険な魅力を持つ「危男(アブオス)」がいるってことを！　改めて言うまでもなく、日本酒にポン刀という艶女(アデージョ)ジャラシな振る舞いが宇宙イチ似合う男・後藤達俊は、文句なしに「危男」と称えるべき豪傑プロレスラー。そんな極ワルオヤジの人生をたっぷりと味わってほしい。

聞き手／ジャン斉藤(駄目男)　撮影／吉場正和(目には目を、歯に歯をな危男)　designed by shiraki (TwoThree)

—以前から後藤さんのことは取材したくてしょうがなかったんですが、『kamipro』は新日本プロレスから取材拒否を受けていたのでなかなか実現できなかったんです。
後藤　あ、そうなの。会社と何かあったんですか？
—ズバリ、新日本のことをおもしろおかしく書きすぎたからなんですけど（笑）。
後藤　それはコエ〜なあ（笑）。でも、雑誌は悪く書いたほうがおもしろいからね。
—いや、恐縮です！
後藤　そこはお互い持ちつ持たれつですから。だってマスコミがいなけりゃあ、プロレスが世間に広まらないじゃない。いらんことまで書かれるから問題になるんだけど、それをやらないと雑誌は売れないもんね。そこはしょうがないっすよ。ま、俺のことは、なんでも書いてかまわないから。
—あ、本当ですか。
後藤　俺は、おもしろいことなら、ウソ書いてもいいから！（キッパリ）。
—ワハハハ！　それで憶えてらっしゃるどうかわかりませんが、後藤さんにはウチがまだ『紙のプロレス』だった頃に登場していただいたことがあるんです。
後藤　（当時掲載されたスキンヘッドの写真を見ながら）……そういえば、俺、この頭で嫁さんの実家へ結婚の申し込みに行ったんですよ。
—ワハハハ！　それはチャレンジジャーですね！
後藤　うん。でも、嫁さんのお母さんは普通に接してくれたから、「あれ〜、俺のこと怖くないのかな？」って思ったんですよね。で、あとで聞いてみたら、やっぱり「本当は怖かった!!」って（笑）。
—そりゃそうですよ！　このビジュアルでかしこまって「お母さん、娘さんをボクにください!!」なんて言われたら（笑）。
後藤　ホント怖いですよ！　だって自分でも怖いですもん（笑）。

スキンヘッド時代、嫁さんを北海道のラベンダー畑デートに誘ったんすよ

—しかし、奥さんもよくその頭で来ることを許しましたよね。
後藤　北海道巡業のときなんて、この頭で嫁さんをラベンダー畑のデートに誘ったんすよ。
—ラベンダー畑でデートですか！（笑）。
後藤　でも、仕事で来れなかったんで、しょうがねえからリング屋さんと、男二人でラベンダー畑へ行ったんですよ。そしたら親子連れがいて、その子どもが「お父さん、のっぺらぼうがいるよ！」って言ってるんです。俺も「どこだ？　どこだ？」って探したんだけど……最終的に「俺か、コノヤロー！」って（笑）。
—ワハハハハ！　今日はそんな感じで、後藤さんのプロレスラー人生に迫らせてください！
後藤　はい。
—まず、後藤さんと言えば、やっぱりバックボーンの寛水流のことからおうかがいしないと。

説明しよう！　寛水流とは、"東海の殺人拳"水谷征夫（故人）とアントニオ猪木が創設した空手流派。そこに至るきっかけは、鎖鎌の達人でもある水谷氏がアントンに鎖鎌VS素手の果たし合いを申し込んだことだった。その後、二人は和解し、意気投合。水谷氏は自分の流派を猪木寛至の「寛」と水谷征夫の「水」を取って、寛水流と名付けたのだった。ちなみにI編集長は84年に水谷氏をテーマにした小説「やさぐれ必殺拳」を執筆している。おそらく水谷氏に"殺し"を感じて、筆を走らせたのだろう。

後藤　ああ、俺は高校、大学と重量挙げをやってたんですけど、その大学のOBが寛水流の初代会長だったんですよ。
—そうすると、水谷会長と何かしら接点があったんですか？
後藤　いや、重量挙げの監督が初代会長と知り合いでしたけど、俺は面識なかったです。で、いざ会ってみたら怖かったですねえ。
—水谷会長の痺れるエピソードは数多いですよね。とりわけ有名なのは花火と犬が大嫌いだったという話ですけど。
後藤　ハンパじゃないです。道場にはいつも"花火番"が待機してたんですけど、近所で誰かが花火を上げようもんなら、「上げんな、コラ！」って注意しに行くんですよ（笑）。
—「上げんな、コラ！」って（笑）。
後藤　あと、近所の犬が鳴き続けるときも大変でしたよ。さすがに犬を殺すことはできないから、その家に「犬を静かにさせろ！」って怒鳴り込んで（笑）。
—そういう役回りをこなしていたら、精神的に強くなりますよね。
後藤　なりますよ。俺は通いでしたけど、住み込みは見るからに厳しそうでしたしねえ。
—はたから見てても厳しさが伝わってきましたか。
後藤　俺は週二回かならず会長の家へ挨拶に行ってたんですけど、それがまたたまんないんですよ。靴はしっかり並べて、姿勢はこうでって、そういう礼儀作法ができてないと、いきなり蹴りが飛んできますからね。
—しかし、後藤さんに通う気がなかったら、べつに通わなくてもよかったわけですよね。

後藤　そうですけど……あのときは完全に呑まれてましたね、初代会長の雰囲気に(笑)。

――行かざるをえないオーラがあったんでしょうね。もともと後藤さんはプロレス入りするため寛水流に入ったんじゃないんですか?

後藤　いや、初代会長から「お前、そんないい体格してるんだから、プロレスにいけよ!」って言われたんです。それでたまたま自分は猪木さんと知り合いだったんですけど、新間（寿）さんにもプロレス入りを強く勧められてたんですよ。で、自分でもかなり悩んだんですけど、最終的にはノストラダムスにダメ押しされまして。

――……は?　ノストラダムス?

後藤　たまたまノストラダムスの本を読んだんですよ。で、「1999年に地球が滅亡する」っていうのを信じちゃったんですねえ。だったら地球が滅亡するまでは好きなことをやんなきゃ!　って思って。

――どんな決定打ですか!（笑）。

後藤　笑ってますけど、これはホントの話ですよ!（大真面目）。

――じゃあノストラダムスの予言がなかったら、まったく違った人生を歩んでたんですかね。

後藤　間違いなく別の人生でしたね。

――はあ（笑）。ちなみにプロレスにはどういうイメージがあったんですか?

後藤　俺の中では、プロレスっていうとタイガーマスクのイメージしかなかったですからね。

――タイガーマスクのイメージというと?

後藤　タイガーマスクは〝虎の穴〟でいろいろ過酷な修行をするじゃないですか。寒風吹きすさむ中でトレーニングしたり、川でワニと闘ったりと、ファンタスティックなイメージがあったんですよね。

――でも、かつての寛水流もどちらかというと〝虎の穴〟に近いイメージだったんじゃないですか?

後藤　ああ、近いですねぇ。たまに合宿に行かされるんですけど、それがつらかったですよ。いきなり、もの凄い急な山道を20キロ走ったりして。子どもと女は10キロぐらいだったけど。

――10キロとはいえ、女性や子どもまで!

後藤　で、それが終わったら基礎トレーニングをみっちりやって、最後は組手をやって、練習が終わるのは夜中ですからね。「こんなことやってたら身体がもたねえや!」って思いながらも、でも、「プロレスの練習はもっとスゲエんだろうな……」って思ってました。

――あと昔の寛水流って、真剣を使った型稽古があったというじゃないですか。

後藤　そう。剣の型を練習してるんですけど……どう見ても真剣なんですよ、真剣!

――ワハハハハハ!　よく見ると真剣でしたか（笑）。

後藤　いやあ〜、「これは俺にはできねえよ!」って思いましたよ（笑）。

――後藤さんはやらなかったんですか?

後藤　やりません。危ないから（笑）。そういえば、松永（光弘）も寛水流にいたらしいですね。俺のだいぶあとに入ったみたいだけど。

――松永さんが新日本入りした後藤さんに手紙を送ったのは、かなり有名な話ですね。松永さんも後藤さんと同じように、寛水流からプロレス入りしたかったみたいで。

後藤　そんな手紙、来たかな?　悪いけど、全然憶えてないな（笑）。

――松永さんはプロレス入りまで紆余曲折あったわけですけど、後藤さんの新日本入りはすんなり決まったんですか?

後藤　そうですね。寛水流（出身ということ）で入門テストもなくオッケーでした。それで寛水流から俺が来るってことで、みんなかなりビビッてましたし。

――あの寛水流からやってくる!!　ということで（笑）。

後藤　そうそう。あとから聞いた話だと、髙田（延彦）さんや仲野（信市）さんは「ヤバイ奴が入ってくる!!」って、大騒ぎしてたみたいですよ（笑）。

――そんなに警戒されてたら、イジメられることもなかったんじゃないですか?

後藤　ないっす!　みんな良くしてくれました。それに寛水流と比べて「プロレスの練習ってけっこう普通じゃん」って思いましたね。

――昭和・新日本をしても寛水流にはかなわなかったんですね。

後藤　思ったよりきつくはありませんでしたね。新日本って、100人くらい新弟子が入っても、練習が厳しくてほとんど逃げちゃうんです。俺は「こんな楽な練習で、おまけに金も貰えんのに!!」って思ってましたけどねえ（笑）。

――寛水流に比べたら、きっとどんな練習も楽なんでしょうね（笑）。じゃあ、新弟子時代から余裕を持って遊び歩いたりしたんですか?

後藤　いや、さすがに新弟子は自分からは飲みには行けなかったです。誘ってもらったら行きましたけど。

――当時の新日本は酒豪揃いだったから、酒にまつわるエピソードは尽きなそうですよね。

後藤　いやあ〜、メチャクチャでしたからね（笑）。髙田さんは『マハラジャ』で暴れて出入り禁止になったし、水俣ではみんなで旅館を一軒壊したし、俺が猪木さんに向かって日本刀を振り回しましたし（笑）。

――ワハハハハハ!　道場で練習が終わると、後藤さんがなぜか出刃包丁を片手に酒盛りを始めていたとも聞いてます。

後藤　（すかさず）やってた。

――で、若手相手に「当たらん、当たらん!」とか言いながら出刃包丁を振り回していたという（笑）。

後藤　いや、あれはたいしたことじゃないよ（キッパリ）。

――いや、充分たいしたことだと思うんですけど（笑）。他人を怪我させたことはなかったんですか?

後藤　ああ、ライガーの腕を切ったな（あっさり）。

――やっぱり、たいしたことあるじゃないですか!（笑）。そのときのことは憶えてるんですか?

後藤　俺は憶えてますよ。ライガーの腕に包丁が当たったとき、とっさに刃を引いちゃって。「あ〜、引いちゃったよ!」って（笑）。

――ワハハハハハ!　さすがに引いたらマズイですよ!

後藤　（頭をかきながら）「やってもうた!」って感じでね（笑）。

――話をまとめると、後藤さんって噂通り、酒癖が相当悪いんですね。

後藤　でも、飲むときは、俺はちゃんと相手に聞きますから。「俺、酒乱ですけど、大丈夫ですか?」って（真顔で）。

――嫌な確認ですね（笑）。

後藤　「酒乱でよかったら、付き合いますよ」って（笑）。それで知り合いが「大丈夫」と言うから、小原（道由）を連れて飲みに行ったときもやっちゃいましたね。お店の洗面台をブチ壊して、あと圧力鍋を押し潰しちゃったらしいんですよ。

どーですか、このビジュアルインパクト!　まだちっちゃい判型だった『紙のプロレス』の16号に登場していた、スキンヘッド時代の後藤達俊さん（〝さん〟付けしないとなんだかコワイ）。こんな高利貸しの取り立て屋チックな風貌で、なんと結婚の申し込みに出向いたそうだからステキすぎるぜ!

——あ、圧力鍋を!!　まあ、洒落で済む話ですけど……。
後藤　あと、飲んでて急にプチンってキれて、女の子をバックドロップで投げちゃったんですよ。
——ワハハハ！　今度はまったく洒落になってないです（笑）。
後藤　そのまま救急車で運ばれたみたいです。でも、それはホント憶えてないんですよね～（あっけらかんと）。
——……そんなに暴れていたら、警察のお世話になるのはしょっちゅうだったんじゃないですか？
後藤　いや、それは一回だけ。あれは髙田さんと一緒に飲んでたときかな。そのへんの若い奴が俺らに「うるせえ！」って言ったから、二人でボコボコにしちゃったんですよ。「やべえ！」と思って逃げようとしたときにはもう警察が到着しちゃって。
——そんな後藤さんを上回る酒乱って誰かいましたか？
後藤　（即座に）保永（昇男）さん。
——それは意外ですね。
後藤　一番酒が強いのは、やっぱり坂口（征二）さんですかね。どんだけ飲んでも全然変わらない。
——後藤さんが付き人を務めていた猪木さんはどうでした？　飲めば底なしって聞いてますけど。
後藤　飲みます、飲みます。猪木さんは凄いですよ。ただ、猪木さんは早朝ランニングが日課だったから。
——あまり夜遊びをしなかったわけですね。
後藤　巡業中とか、いつも俺が猪木さんを起こしにいってランニングをするんですけど、ランニングが終わったら食事をして、洗濯をして、マッサージをしてって。
——マッサージといえば、当時猪木夫人だった倍賞美津子さんのエピソードもおもしろいですよね。
後藤　いやあ～、マッサージを頼まれたんですけど……反応しそうになりましたよねえ（笑）。
——ワハハハ！　その美津子さんから後藤さんは「おだんごちゃん」って呼ばれてたそうで（笑）。
後藤　何が「おだんごちゃん」だかわかんねえんだけど（笑）。いつも「おだんごちゃん、おだんごちゃん」ってね。
——美津子さんと猪木さんは最高の夫婦だったんじゃないですかね。
後藤　うん。なんで別れちゃったんでしょうね。でも、しょうがないですね。それは当の夫婦じゃないとわかんないから。
——話を戻すと、後藤さんはリング内外で全盛期だった猪木さんとほぼ一日中、一緒だったわけですよね。
後藤　そうですね。それで猪木さんはいつ何を言い出すかわからないんですよ。いきなり「俺を極めてみろ！」とか言うのはしょっちゅうだし。
——いつ何時、誰の挑戦でも受けていた、と（笑）。
後藤　試合でちょっとでもだらしないと、通路から「いけよ、コノヤロー！」って怒鳴りますから。控室に戻ると同時に右ストレートをいただいたこともありましたし。猪木さんにおもいきり殴られたのは、俺が最後なんじゃないかなあ。
——そのあとの猪木さんの付き人には、そこまで愛情が込められた選手はいなかったということなんですね。
後藤　いないですもんね。俺の次は蝶野（正洋）で、その次はライガーだったんだけど。
——後藤さんも後輩レスラーをしょっちゅうカチ食らわしていたっていう話を聞いてますよ。鉄拳制裁を受けなかった後輩レスラーはいなかったって。
後藤　やったね（あっさり）。橋本（真也）にも蝶野にもやりましたね。武藤（敬司）だけはやってないけど。武藤は要領がいいんですよ。
——逆に橋本さんと蝶野さんはかなりズボラなほうですもんね。
後藤　そういえば、橋本が慰安旅行の宴会で坂口さんをおちょくった芸をやったんですよ。それで「……これはやんなきゃな！」って、橋本を殴ったこともありましたね。その芸はたしかにおもしろかったんだけど（笑）。
——心では笑いながらも鬼の形相で（笑）。
後藤　懐かしいですね。その橋本は亡くなっちゃって。あれ、相当ショックでしたよ……（しみじみと）。
——橋本さんの訃報はどういうかたちで知られたんですか？
後藤　三澤（威士、元新日本プロレス、現メディカルトレーナー）から電話がかかってきたんですよ。「橋本さんが亡くなったらしいですよ」って。でも、「ありえねえよ、ウソだろ」って信じなかったら、ライガーからも「本当に亡くなったらしいですよ」って電話があって。それで車で（遺体を）確認に行きました。そしたら亡くなってて……信じられなかったですね。
——いまでも、信じらんないですよね。
後藤　ホントそう。あいつのことだからさ、

フリー宣言後、新日本に単発参戦しながらあらゆるリングに登場している後藤の兄貴。最近では靖国奉納プロレスに参戦！　いぶし銀な佇まいに観客から「ゴットオー!!」コール（not強盗）が発生した!　女にはモテないとこぼす後藤の兄貴だけど、男子のハートを鷲づかみだから問題ねえんですよ！

俺のプロレス人生は裏家業みたいなもんだから。まったくモテないですよ（笑）

絶対に起き上がってくると思ってましたよ。『どっきりカメラ』みたいに「ウソだよ～ん！」って言って。うん。あいつは死ぬタマじゃないのにね……。でも、あいつは好きなことをやったから、悔いはないでしょう。

――橋本さんは道場でムチャばかりやっていたそうだから、思い出はたくさんありそうですね。

後藤　いっぱいありますよ。天山（広吉）なんか橋本のいいターゲットでしたよね。改造したエアガンでガンガン撃たれて（笑）。あと、荒川（真）さんと橋本はいいコンビだったなあ。

――トンパチ師弟ですね（笑）。

後藤　荒川さんはスーパートンパチです（笑）。ムチャなことやるのは朝飯前でね。

――昔の新日本って、そういう馬鹿が許されているからおもしろいですよね。

後藤　いまでは考えられない（笑）。

――その一方では、酔っ払った後藤さんが包丁を振り回しているわけですし（笑）。

後藤　いやいや、あれは20代までのことだから。

――年齢の問題じゃないですよ！（笑）。あと昔の新日本のレスラーって、女性関係もかなり派手だったみたいですね。

後藤　そうですね。だって、道場にかならずファンの女がいっぱい集まってましたから。もう、よりどりみどりですよ。

――それはすばらしい環境ですね（笑）。

後藤　いまはあんまりいないですけどね。そりゃ昔は凄かったっすよ。土日なんか、女の子がいっぱいですよ。で、ちょっと話しかけたら、すぐですよ！

――もちろん後藤さんも？

後藤　いやいや、俺はまったくモテなかったけど！（笑）。

――ホントですか（笑）。ちなみに一番モテたのは誰ですか？

後藤　やっぱ髙田さんじゃないですか。

――さすが本部長ですね（笑）。そういえば、新日本の道場の近くに『紅蘭』っていう中華料理屋さんがあるじゃないですか。そこに後藤さんが居候されてたっていう話を聞いたんですけど。

後藤　してた。なんでだったかなあ？（新日本の）寮は嫌だったのかなあ。『紅蘭』は便利なんですよ、飯も食えるし。あそこのオヤジは俺の東京の親代わりですからね。

――『紅蘭』のマスターはおもしろいですよね。絵に描いたような江戸っ子で。

後藤　いまでもしょっちゅう行ってますよ。

――それで、そろそろリング内の話もお聞きしたいんですが、後藤さんって、ずっとヒールの道を歩んできましたよね。

後藤　そうなんですよねえ。いつのまにか知らないうちに（笑）。

――ブロンド・アウトローズ、レイジング・スタッフ、反選手会同盟……。

後藤　（さえぎって）あと犬軍団とかね。裏家業みたいなもんですよ。まったくモテない（笑）。

――いやいや、ボクらのようなプロレスファンの琴線に触れまくりですよ！

後藤　ああ、そう（笑）。俺の師匠はヒロ（斉藤）さんだったんですけど、「ヒールは楽しいけど、キツイぞ！」ってよく言ってました。極端なこと言うと、ベビーはとにかくヒールにやられていればいいじゃないですか。でも、ヒールは試合を組み立てないといけないですからね。でも、いまヒールの仕事がきっちりできるのは邪外（邪道&外道）だけですよ。

――あの二人も凄いですけど、ヒロさんや後藤さんも文句なしに名人芸の域に達してますよね。

後藤　ああ、ヒロさんとは〝あうん〟の呼吸でしたね。お互いに何も言わなくても、勝手に身体が動いてましたから。

――それに後藤さんって、ビジュアルからしてヒールにピッタリですもんね。凶悪スキンヘッドが世界一似合ってて（笑）。

後藤　スキンヘッドはいいんですけど、金髪のときのほうが恥ずかしかったんです。

――でも、昔はずっと金髪だったじゃないですか？

後藤　いや、なんか、いい歳こいてさあ、何チャラチャラしてんだよって感じで。金髪に比べたら、スキンヘッドはなんとも思わなかったですけど。

――結婚の申し込みをするぐらいですし（笑）。ビジュアルを強化することでキャラクターを完成しようという意識はあったんですか？

後藤　ないですよ。ただ自分のやりたいように、たまたまやっちゃっただけです。坊主にするんだったら、眉毛まで剃らなきゃいけないだろうって感じで。

――でも、さすがにお子さんの私立小学校受験の父兄面接のときは、金髪を黒髪に戻したみたいですね。

後藤　それは、あの～……嫁さん命令ですから（笑）。

――ワハハハハ！　お子さんの入学のためにも（笑）。

後藤　子どもとリングは別です（笑）。あのとき、俺も面接の勉強してたんですよ。子どもは塾に通って、両親は面接の練習をして。挨拶とか、何を話したらいいかとか、とにかくさんざん勉強したんですよ。

――その成果は本番で表われたんですか？

後藤　いや……結局、そこの小学校の校長先生が大のプロレスファンで、俺のことを知ってて。面接はずっとプロレスの話（笑）。

――どんな面接ですか、いったい（笑）。

後藤　受かったからよかったけどさ。それで落ちたらたまんねえぞ！　って（笑）。ま

ブロンド・アウトローズは平成元年に結成されたヒールユニット（メンバーはマシン、ヒロ斉藤、後藤達俊、保永昇男）。当時は地味な悪者という存在感しかなかったが、きっと彼らこそが早すぎた“ちょいワルオヤジ”集団だったのだろう。のちにレイジング・スタッフへとチーム名を変更したが、タイツの色がちょっとカラフルになったぐらい。

新日本プロレスの選手会に反発するというヒール軍団史上に残るテーマで結成された「反選手会同盟」。労働組合とも一味も二味も違う渋さを求心力に（それはこの写真からも伝わってくる!）、徐々に反選手会なレスラーを増殖させ一大勢力に。そしていまや伝説になった「平成維震軍」に改名。自主興行シリーズを展開する勢いを見せた。覇ッ!

いつのまにやらヒール像も様変わり。スタイリッシュなヒールユニットが幅を利かせ始めたが、やっぱり後藤の兄貴は違う！ クレイジー・ドッグス、通称・犬軍団をヒロさんや小原道由と結成。格好いいことがどういうことかわかっているぜ！ そして魔界倶楽部とこれまた通好みな抗争を勃発。魔界倶楽部vs犬軍団。なんてファンタスティックな字面なんだ!

あ、プロレスラーでよかったところがあったよね。

――で、そのプロレスラー後藤達俊の代名詞といえば、やっぱりバックドロップに尽きると思うんですけど。

後藤 ああ、そう？

――いま後藤さんを超える使い手って見当たらないじゃないですか。パワフルなぶっこ抜き、ひねりの角度、着地のインパクトのどれもが超一級品で。誰かに教わったりしたんですか？

後藤 いや、原点は高校のときの柔道なんですよ。柔道部の顧問が「何をやってもいいから、俺をぶん投げてみろ！」って言うから、バックドロップで投げたんですよ。そしたら顧問がノビちゃって（笑）。

――それが原点でしたか（笑）。

後藤 で、一番のきっかけは、俺のバックドロップでライガーの肩をぶっ壊しちゃったことで、「やっぱ、バックドロップは効くんだなあ！」って感心して。俺は重量挙げをやってたから背筋が強いし、身体も柔らかいから、反りかえられるんですよ。

――かつての新日本だと、マサ（斉藤）さんや長州（力）さんなんかがバックドロップの名手として有名でしたけど、二人から何かアドバイスはあったんですか？

後藤 いや、とくになかったです。そこはもう見て覚えて。参考にしてたのは長州さんとマサさんと、あとジャンボ鶴田さん。

――ああ、ジャンボのへそ投げバックドロップも盗んでたんですね。

90年6月26日、新日本プロレス福岡大会で起こったアクシデント!! 後藤の急降下バックドロップで馳は側頭部から落下。写真を見ればその危険さは一目瞭然、馳の首がマットにのめり込んだ。試合中は異常が見られなかった馳だが、控室通路で倒れて心臓が一時停止する緊急事態に……。

もし馳があそこで死んでいたら、俺はプロレスをやってなかった

後藤 （うなずきながら）ジャンボ鶴田さんのバックドロップは、大きな円を描いて、長州さんやマサさんのは引き上げて落とす。俺のバックドロップはその3人のをミックスしたんですよ。

――そうはいっても、自分のものにするまでかなり練習されたんでしょうね。

後藤 とにかく実戦で経験を重ねてね。練習だと、みんな怪我したくないから嫌がるでしょ。

――後藤さんのバックドロップは本当にデンジャラスですからね……。それを決定づけたのは、馳（浩）さんとの試合だと思うんですけど。

後藤 あの試合ね。俺が体勢をひねったから、馳が頭から横に落ちたやつ。

――それで大会終了後の控室で、馳さんが意識不明になって、救急車の中で心臓が一旦止まる騒ぎになって。

後藤 ……俺、その騒ぎを全然知らなかったんですよ。「危ない」っていう連絡が入って、もうどうしたらいいかわからなくって。あそこで、もしあいつが死んでたら、もう俺はプロレスをやってなかっただろうよ……（表情を曇らせて）。

――馳さんが助かって、本当に良かったですね。

後藤 うん。でも、あそこから馳は変わったでしょ？

――そうですね。それまではなんかパッとしない感じでしたけど、あの事件以降、吹っ切れた感じで大活躍し始めましたね。

後藤 いまや国会の先生だからねえ。俺のバックドロップのおかげでいい転機になったというか、ありがたく思えってんだ（笑）。

――ワハハハハ！ 逆に後藤さんはバックドロップを仕掛けづらくなりませんでした？

後藤 ちょっとのあいだ、会社からバックドロップ禁止令が出ましたけどね。それであの試合以降、一番最初にバックドロップを使った相手は、その馳だったんですよ。「馳に使わないと、もう絶対にバックドロップはできないだろう」と思って。で、馳におもいきり使ってから解禁になったと。

――じゃあ、そこはもう以前と変わらない感じで。

後藤 ですね。最近は相手（の力量）を見て、コイツはどういう落とし方をすればいいのかって分析しながら角度を変えてます。コイツは大丈夫だと思ったら、おもいっきりいきますから。

――100パーセントの力で見舞っても大丈夫な選手って誰になります？

後藤 新日本（のレスラー）はだいたい大丈夫。一番、大丈夫なのは、（エル・）サムライかな（笑）。

――サムライさんは受身の達人ですもんね。初対決の相手なんかは力量がわからないから、かなり加減するんですか？

後藤 いや、組んだ瞬間にそれはわかりますから（キッパリ）。それは実力がわかるってことなんですけど。

――ロックアップすれば、相手の実力がわかるといいますけど。

後藤 うん。こないだZERO1・MAXで乱闘になったときも、田中（将斗）と組んだ瞬間に、「……コイツ、できるな」と思ったし。田中はできますね。……できるな。

――たしかに田中さんはできるレスラーですけど、乱闘の最中にわかるとは驚きですね！

後藤 プロレスラーならそれは当たり前のことなんですけどね（再びキッパリ）。まあ、それまで田中のことは知らなかったですけど。俺、あまりほかの団体の試合を観ないんですよ。

――でも、後藤さんが『PRIDE』とか総合格闘技はかならず観てるっていう噂を聞いたことがあるんですよ。

後藤　いや、テレビでは観てますけど。会場へ行ったのは、小原のときだけですから。

――『PRIDE』でのヘンゾ戦とランデルマン戦ですね。二試合とも判定で負けちゃいましたけど。

後藤　小原は強いんですけどねえ。なんで『PRIDE』で負けたかなと思って（首をかしげて）。

――小原さんなら負けるわけがなかったと？

後藤　ありえない。まあ、KOはされてないんだけどね。ホント強いんだよ、小原は。ああいう雰囲気に呑まれたのかなあ……。

――いずれにせよ、あの『PRIDE』の敗戦が小原さんのプロレス人生をも狂わせたところはありますよね。

後藤　うん。狂わせたよね。あそこで勝っていれば、もうスターになれたでしょ。

――小原さんは負けたあと、後藤さんに何かおっしゃってました？

後藤　「すいません！　すいません！」ってずっと言ってましたね。俺があんまりいろいろ言ってもしょうがないし。小原の練習とか見てて「コイツは強えわ。絶対に勝つだろうな」って思ってたんですけどね。藤田（和之）も「強い」って言っていたし、だって練習で●●●●と互角にやってんですよ？

――当時、ボクもそんな噂を耳にしてたんですよ。

後藤　なのに、なんでランデルマンあたりに負けるのって。わからんな～。

――最近の新日本で一番、総合向きなのは中邑真輔ぐらいですけど、彼と比べて小原さんはどうですか？

後藤　そんなの小原のほうができるでしょ（あっさり）。

――そう考えると、もったいないですよね。いま小原さんはリングから遠ざかっていて、整体師に専念されてるみたいですから。

後藤　そうですね。たま～に酔っ払って電話かけてくるよ（笑）。

――同じく新日本から『PRIDE』に出られた石澤（常光）さんや藤田（和之）さんは、後藤さんの目から見てどうですか？

後藤　石澤はああ見えて計算高いところがあるから、ちゃんと相手を分析すれば強い。藤田は野獣ですよね。何も考えてないもん（笑）。動物みたいに勘で生きてるんすよ。

――中西（学）さんにも動物的なところがありますよね。

後藤　……ああ、あれは、いろいろな意味で凄いですよ（笑）。

――ワハハハ！　いろいろな意味で凄い人ですよね（笑）。

後藤　最近はテレビでも人気者になって、本領発揮してるけどさ（笑）。

――それに永田（裕志）さんも含めて、新日本の第三世代ってレスリングの良い人材が集まってましたよね。

後藤　いや～、あんなバケモノたちはなかなか集まらないですよ。レベルが高い。だって全員アマレス育ちで、全日本の代表選手ばっかりなんだから。

――あきらかに強いはずなんですよね。

後藤　強い、強い。だから平気で（総合を）やってたんですよ。

――後藤さんも、「自分がもっと若かったら『PRIDE』に出たい！」という思いがあるんじゃないですか？

後藤　それはありますね（キッパリ）。でも、もうこの歳だからねえ。もうちょっと若かったらさ。

――本当に観たかったですね。バックボーンに「レスリング」や「サンボ」がマークされる選手が集う『PRIDE』で、後藤さんが「寛水流」出身として出場される姿は。

後藤　俺も出たかったなあ（笑）。

――ちなみに総合格闘家で「コイツは凄いな！」っていう選手は誰かいますか？

ぶっこ抜きから角度まで投げのキモはちょいタイト
極「ロク（ロクデナシ）」オヤジは落としてナンボ!!

その構えを見せただけで場内がドッと沸く、極ワルオヤジの殺人バックドロップ。ぶっこ抜き具合に危険な角度、フィニッシュのインパクトはまさしく一級品！　ヒョードルをバックドロップで追いつめたランデルマンが後藤に教えを受けていれば、おそらく打倒ヒョードルを果たしていたに違いない!!

後藤　ん？　みんな凄いじゃん!!
―たしかに（笑）。
後藤　まあ、日本人選手だと、所（英男）選手はいいですよね。グレイシーにうしろを取られてもなんとか逃げ切ったし、おもしろいよね～。俺もやってみたいけど、もう歳だし家族もいるし、それなり保証してもらわないとね。
―プロレスとは違った意味で一歩間違えたら、という世界ですし。そういえば、最近、後藤さんは生死に関わる怪我をされていたとか。
後藤　そうそう。俺もビックリしちゃったんだけど、今年1月のリキプロ後楽園で頭切っちゃって。それで検査したら、なんか頭蓋骨が骨折してたみたいなんだよ。
―骨折していたみたいって、まるで他人事じゃないですか！（笑）。
後藤　俺も全然、知らなくて。その医者も「後頭部を骨折している。緊急手術をしないといけない」ってビビっちゃって。でも、おっかしいなあと思ってね。そんなに痛みはないから。で、よくよく調べてみたら、骨折が過去のものであることがわかって。しかも、すでに完治してたんだよ。
―自然治癒！　人間の可能性を広げるエピソードですね（笑）。
後藤　医者は驚いていたけどね。「手術もしないで、生きている人を初めて見た」って。
―タフガイですね……。でも、そんな事実が発覚した直後に、新日本プロレスを退団されることになって。話していただける範囲で、辞められたいきさつをおうかがいさせてください。
後藤　やっぱり昨年の11月に（ユークスに）買収されてから、ちょっと（会社の中が）ガタガタしちゃってね。それで長州さんとかが戻ってきたけど、それもいまいちよくわかんなかったですね。会社は何をしたいのか、そのときはよくわかんなかったですね。
―春の契約更改も厳しいものになることは、うすうすわかってたんですか？
後藤　それはわかっていただけど、その想像を超えていたところがあったから。だったら最初から「辞めてくれ！」って言ってくんねえかなと思った。
―それほど厳しい提示内容だった、と。
後藤　だって、ウチに子どもがいることもわかってて、そんな条件で生活できるわけがないっていうか。だったら最初から「辞めてくれ」って言えばいいのに「会社が厳しい状況だから」の一点張りだから。こっちも最悪の状況ってことはわかってんすよ。でも、それはねえだろうと思って。何人かギャラが上がったヤツもいるんですよ。名前は言わないですけどね。ま、それはいいんだけど、この下げ方はないだろうと思って。生活できるわけねえじゃん。
―後藤さんもかなり長いあいだ新日本に在籍されましたけど、黄金時代と呼ばれる時期が何度かあったわけじゃないですか。
後藤　ああ、ありましたね。
―その新日本がなぜこうなってしまったと思いますか？
後藤　なんですかねえ。やっぱ、トップの社長とかがコロコロ変わりすぎちゃったじゃないですか。
―それもあって経営方針を一貫できないところがあったと？
後藤　コロコロ変わって、また変わって。それだと社員も選手もついていけないじゃないですか。まあ、選手はとにかく一回、一回、いい試合をやろうと思ってるんですけど。
―契約更改の最中、一部選手による新団体設立みたいな話もあったみたいですね。
後藤　それはないと思うよ。いまのこの時期に団体を旗揚げしてもしょうがないですよ。

頭蓋骨骨折が知らないあいだに完治していた。医者が驚いていたよ

―藤波さん主導でやるんじゃないかっていう話を耳に挟んだんですが……。
後藤　いや～、新団体は無理でしょう。
―そういう動きがあったことはたしかなんですか？
後藤　あったとしても無理ですよ。だっていま、こんだけたくさんの団体があるんですよ。選手だっていっぱいいるし。俺、ZERO1・MAXの大会に行って、選手の名前がコールされても誰だか全然わかんないですもん。選手に「どうも」とか挨拶しても、誰だか全然知らない（笑）。
―とりあえず適当に会釈して（笑）。
後藤　そうそう（笑）。もうこんだけ団体があるんだから、新団体の旗揚げは無理ですよ。
―それで、これまでの新日本って、ドタバタが起きてもそれが一種の起爆剤となって作用していたと思うんです。たとえばUWF軍団であったり、長州さんたちの離脱が起きても、騒動をプラスに転化していた歴史があったんじゃないか、と。
後藤　そういうことがあって会社が団結するんだったら、また次につながるんだろうけど、今回の場合は団結できないじゃないですか。そこで団結できるか、できないかで、全然意味が違ってくる。
―金銭や経営状況の悪化が主問題だから、イデオロギーのぶつかり合いが生んだこれまでの騒動とは違いますよね。
後藤　何かあったらみんなでガッと集まって、選手で団結して盛り上がって。でも今回の場合は団結できないじゃないですか。そこが難しいですね。金が絡むとやっぱり……でも金は必要ですからね（笑）。
―そこは難しいところですね。
後藤　難しいですよ。金がないと生活できないし、かといって金だけを追及したら客は離れていくし。
―いまは保守系マスコミからもとやかく言われる時代になりましたけど、何か思うところはありますか？
後藤　書いてもらいたいけど、そこは書かれたくないというとこもあるし。う～ん。まあ、俺はマイペースだから関係ないけど。
―なるほど（笑）。後藤さんって、記事に対してカチンときたことはないんですか？
後藤　いや、俺はオールマイティだから（笑）。なんでもオッケーなんです。気にしませんから、好きに書いてください。
―女性関係とかでも大丈夫ですか？
後藤　（即座に）そりゃ、マズいっす！　いやあ、嫁さんがいるから、それだけはちょっと……。
―そこが弱点だったりするんですね（笑）。
後藤　いま木更津に住んでるんですけど、嫁さんの実家ですから。つまり、"マスオさん"っす（笑）。
―ワハハハ！　これからも頑張ってください！

【06年3月5日／都内某所にて収録】

ごとう・たつとし■1956年5月25日、愛知県出身。日産自動車のサラリーマンを経て、26歳という遅い年齢で新日本プロレスに入門。06年1月に退団。その後も同団体へ単発参戦しながら、ZERO1・MAXなどに登場。タイトル履歴もとことん渋く、IWGPタッグ王座、WAR6人タッグのベルトを腰に巻いている。ちなみに奥さんは元スポーツ紙記者で現在フリーライター。180cm、115kg。

タブー破りか？
原点回帰か？

検証 プロレスと靖国神社を考える

「靖国神社参拝問題」がいまも論議を呼ぶ場所〝靖国〟。
だが靖国は大正時代に日本で最初にプロレスラーが試合し、
45年前に力道山が奉納プロレスをした〝プロレス発祥の地〟。
今年も靖国で開催されたZERO1・MAXの奉納プロレス。
「靖国でプロレスすること」は靖国にとって、
プロレスにとってどんな意味があるのか？
識者と関係者の証言で「プロレスと靖国神社」を徹底検証！

構成／真下義之、ささきぃ、ジャン斉藤
撮影／吉場正和　写真協力／靖国神社
design by さおとめの事務所

06年4月1日 靖国神社相撲場

論議の場所でプロレスの〝いかがわしさ〟がぶちまかれた

奉納プロレス試合開始前、靖国神社の神主が祝詞をあげて、リングの上を清める。この儀式にはZERO1・MAXから大谷、大森、日高に藤田が参加。一瞬の静寂が会場を包んだ。

ある意味、MVP級の活躍を見せたのが中国人であり、「酔えば、酔うほど強くなる」酔拳の使い手、王拳聖。2年連続の参加だが、練りに練られた攻防で会場を沸かせまくった。

メインは古き良きマナーに乗っ取った、こってり味のAWA世界ヘビー級戦。このとき会場はかなり肌寒くなっており、リングとそれを見つめる観客とのサバイバルマッチ的様相となった。

検証 プロレスと靖国神社を考える

超満開、といって差し支えないお花見日和の4月1日。靖国神社相撲場でZERO1・MAXの奉納プロレス、『大和神州ちから祭り』を観た。お花見客でごったがえす境内の、さらに奥まった場所に、想像したよりひっそりとそれはあった。立派な桜の木のトンネルをくぐる。その向こうに靖国の相撲場が眼前に現われる。

前日の3月31日、中国政府は小泉首相の靖国参拝に関して「これ以上、参拝をしなければ、首脳会談を開く用意がある」と発言した、らしい。政治にうとくても、靖国が長らく国際的論議の場所になっていることは、誰もが知っている。

参拝をすませ、報道陣に囲まれた大仁田厚自民党参議院議員があくまでプロレスラーとして、カメラ目線で熱弁している。大正10年、日本で初めてプロレスの試合が行なわれた場所。昭和30年、力道山が馬場、猪木らと奉納プロレスを行なった場所。「原点に返らなきゃいけない」大仁田は何度もそう口にした。

さかのぼること1年と10ヵ月。04年6月に橋本真也によって靖国神社の奉納プロレスはぶち上げられた。このとき報道陣から「時代背景も変わっている。実際に試合をやることは大丈夫か?」と質問が飛んだ。

橋本は「大丈夫の意味がオレには……口には出せない。いまの社会的なことを言ってるの?」と返しつつ「オレらは日本人であることに誇りを持ってるし、それに対して各国、いろんな宗教や神様があると思います。そこに参拝に出かけるのは、当たり前のこと。日本人であるオレらが神社に参拝に行くのに、なんの遠慮がいるものか」と言葉を選びつつもキッパリと力強い口調で語った。だが橋本真也が靖国のリングに立つことは一度もなかった。

試合前、やや唐突に国旗掲揚が行なわれた。目の前の鈴木邦男さんの背筋がしゃんと伸びる。さまざまな論争、過剰なメディア報道によって靖国のイメージは増幅され、誇張される。みんなおっかなびっくりでしか靖国のことを話さない。

この日、靖国では革ジャンを着た国会議員が場外乱闘、パイプイスで相手をメッタ打ちにし、机上パイルドライバーで場内を総立ちにさせた。ハゲヅラと女性用の下着をつけた武藤敬司のモノマネレスラー、ランジェリー武藤が抜群のタイミングでシャイニング・ウィザードを炸裂させると大武藤コールが発生した。

怪しい雰囲気を全身にまとった中国人、王拳聖は最初は苦笑まじりだった空気を、見事な三節棍さばきと、酔拳の攻防で魅了した。この幻想的なロケーションでは、自己の存在、怪しさをあえてぶちまけた選手こそが観客の心をつかんだ。

やがて夕闇が訪れ、冷たい空気が相撲場を囲み、かがり火の焚かれる中、大谷晋二郎と大森隆男によるAWA世界ヘビー選手権がこってりした味つけで行なわれた。境内の隅に位置する相撲場で、世間的に決して大きなニュースにはならない。この異形の者たちの聖なる祭りは、狂い咲きの桜の下で靖国の「ハレ」の側面を浮き彫りにした。

大会の3日後、麻生太郎外相が中国側の発言に不快感を示した同じ日、王拳聖は「中国人も神社にみんなお花見行く。だから靖国くればみんな日本のことわかるよ!」とカタコトの日本語で力説した。

なぜ、靖国神社でプロレスなのか? タブー破りか? 原点回帰か? この特集は現在も論議の渦中であり、かつて芸能や文化が集結したという靖国神社で今年も行われた奉納プロレスを識者の立場、イベントの当事者たちと、靖国神社の証言を集めたドキュメントである。

(真下義之)

奉納プロレスとは何か？

靖国神社へ直撃FAXインタビュー!!

靖国神社・奉納プロレスを特集する上で、どうしても聞きたいのが実施会場となった靖国神社側の見解。『Kamipro』編集部ではFAXによるインタビューを要請！　失礼にも取れるようなこちらの質問に対し、返ってきたのは……読んでいるだけで背筋が真っ直ぐに伸びるような美しい日本語の回答ばかり。編集部一同、普段使っている言葉について振り返らずにはいられなかった。必読!!（質問事項作成／ささきい）

Q1 昨年、靖国神社での奉納プロレスが実現したきっかけを教えてください。

A1 プロレス試合の「御奉納」という事でお受け致しました。昭和三十六年に力道山、ジャイアント馬場、猪木さん等の御奉納の歴史がありましたので、お受け致しました。

Q2 昨年の大会に対する、参拝客からの反応はどんなものでしたか。

A2 参拝者へのインタビュー、アンケートは致してはおりません。ただ、御祭神を自らの職分でお慰めしたいとのレスラーの方々の思いはご理解戴けるものと思います。

Q3 今年も実施することになった決め手はどんなところにありましたか。

A3 国の為に尊い生命を捧げられた方々に、プロレスの試合を御覧戴きたいという奉納の申し出がありましたので、お受け致しました。

Q4 来年以降も実施していきたいとお考えですか。

A4 御奉納のお申し出があれば、お受け申し上げます。

Q5 奉納プロレス実施決定前は、ZERO1・MAXという団体をご存じでしたでしょうか。また、どのような団体だととらえていらっしゃいましたか。

A5 **プロレス団体の中の一団体**として認識致しております。

Q6 神主様ほか、靖国神社関係者の皆様もご覧になっていたようですが、どのような感想をお持ちになりましたか。

A6 **真剣な勝負に息つまる思い**で、拝見させて戴きました。高められた芸能はみたまに響きます。御祭神も御嘉納の事と拝察致します。

Q7 とくに印象的だった選手、試合などがあれば教えてください。

A7 **すべてのレスラーの方々の懸命な姿に、非常に心打たれました。**

Q8. 総合格闘技、ボクシングなどではなく、プロレスの大会を実施するという判断の基準はどのようなところにありますか。

A8 神社では年中、能楽堂に於いて様々な芸能が神様に奉納されています。合気道や居合、空手等の演武あり、詩吟あり、舞あり、浪曲あり、吹奏楽あり、それから相撲場での奉納相撲ありです。そういう奉納芸能の中の一つとして、お受け致しました。

Q9 プロレスを日本の文化の一つとして捉えていらっしゃいますか。

A9 **「文化」の概念をどう規定するかにより、答えは異なると思います。**

Q10 スティーブ・コリノ選手、王拳聖選手をはじめ外国人選手も多数参戦していますが、その点についてはどうお考えですか。

A10 大正時代に既に境内で、アメリカのプロレスラーと柔道家の「異種格闘技戦」があったと聞いています。特に違和感はありません。

Q11 ランジェリー武藤選手についてどのような感想をお持ちになりましたか。

A11 **奇抜なコスチュームであったと記憶します。**しかし、プロレスは覆面レスラーもいますし、そのルールに則っていればよいのではないでしょうか。

Q12 大仁田厚選手はプロレスラーとして、また議員として活躍なさっていますが、今回の試合はどのようにご覧になりましたか。

A12 レスラーとして立派に闘われたと思います。試合の前に参拝され、みたまに御奉納申し上げるというお気持ちが伝わってまいりました。

Q13 ZERO1・MAXではなく、他団体の奉納プロレスを実施する考えはありますか。また、その理由を教えてください。

A13 特に他団体からの申し出がないので、実施の予定はありません。

Q14 この質問をお願いしているのは「kamipro（紙のプロレス）」という雑誌なのですが、弊社のこの雑誌のことはご存じでしたでしょうか。

A14 **存じませんでした。**今後の御隆昌をお祈り申し上げます。

―――靖国神社の皆様、ご協力どうもありがとうございました!!

500回、靖国に参拝した男

新右翼の考える人

鈴木邦男が観た奉納プロレス

聞き手／ジャン斉藤、真下義之　撮影／吉場正和　写真協力／靖国神社

——鈴木さんは、小さい判型の『紙のプロレス』以来のご登場になります！

鈴木　いやあ、昔は連載もしてたんですけど、本当にひさしぶりだよね（笑）。

——ひさしぶりとなる今回は、先ほどまで観戦いただいた靖国神社・奉納プロレスのことについていろいろとお聞きしたいんですが、やっぱり鈴木さんの靖国神社へのこだわりは相当深いんですよね。

鈴木　それはありますね。昔は本当にガチガチの右翼でしたから（キッパリ）。靖国神社には何百回も行ってますし。だいたい500回くらい行ってますよ。

——ご、500回ですか！

鈴木　うん。だから愛国者としてのノルマは果たしたかな、なんてね（笑）。

——なるほど（笑）。そんな鈴木さんの奉納プロレスのご感想をうかがえますでしょうか？

鈴木　いや〜、おもしろかったです。きっと靖国の英霊も喜んでますよ（ニッコリ）。

——英霊の方々も喜んでますか！

鈴木　英霊に成り代わってお礼を言いたいですねえ（しみじみと）。今日は本当にいいものを観せてもらいましたよ。去年の靖国大会には行けなかったんですが、だいぶ前に新宿ロフトのイベントで東城英機（注1）のお孫さんの由布子さんとお会いしたとき、彼女も「靖国でプロレスをやったんですね」とおっしゃってましたね。気にはなっていたんですよ。

——去年の大会が力道山時代の靖国大会（注2）からじつに44年ぶりの奉納プロレスになりました。

鈴木　しかし、よく靖国もプロレスに貸してくれたなあと思ってね。

——44年前ならいざ知らず、これだけ中国側と議論になってる最中のことですから。ボクは靖国の知識に乏しいので、単純に「大丈夫なのかな？」なんて思ったんですけど。

鈴木　それなのに国会議員（大仁田厚）がパイプイスを持って暴れたりしたわけでしょう。あれを観たら「中国側はなんと言うんだろう……？」って心配になる人もいますよ（笑）。

——その中国政府側にこういったニュースは届かないんでしょうか？

鈴木　届かないでしょう。政府主導でやっているわけじゃなくて、あくまで民間人がやっていることだからね。大仁田厚にしても、彼がとくに政治的な発言をするわけでもないし。

——中国といえば、酔拳の使い手である中国人・王拳聖も大活躍しましたね。

鈴木　ああ、あの酔拳の試合が一番おもしろかったよねえ。

——本当におもしろかったですよね！「プロレス対……酔拳！」という出だしの大げさなコールからして、お客さんたちは大爆笑でしたから（笑）。

鈴木　あの試合だけは先の展開が全然予想がつかなかったし、『PRIDE』やK−1じゃ絶対に観れない試合だよね（笑）。

——三節棍とかで普通に攻撃しているわけですからね（笑）。奉納プロレスは普通のレスラーより、その王拳聖や大仁田厚、バゲズラで下着姿のランジェリー武藤とか、いかがわしい選手がより映えてましたね。

鈴木　そういう部分も含めて、全体的にプロレスの原点回帰的なところはあったよね。

——原点回帰でいえば、靖国の相撲場は大正時代に日本で初めてプロレスの試合（注3）が行なわれた場所でもあるんですけれど、鈴木さんは相撲場のことはもちろんご存知だったんですよね。

鈴木　ええ。実際に入ったのは今回が初めてでしたけど、ロケーションは本当にすばらしかったですね。夜はかなり冷えこんだけども、桜も満開だったし、場外乱闘すると砂ぼこりが巻き起こって……そこも野外らしくていいよね。

——あの場所では、奉納相撲もやってますよね。

鈴木　もともと相撲の歴史というものは、神社から始まってるんですよ。奉納相撲がスタートなんですね。

——つまり、神社で格闘技を行なうというのは由緒正しいものなんですね。

鈴木　でも、いまは相撲よりプロレスのほうが、英霊は喜んでますよ。だって、いまの相撲はモンゴルとかヨーロッパの力士ばかりでしょ。

——ああ、最近は外国人力士の台頭が甚だしいですよね。

鈴木　かつて力道山はプロレスで活躍することによって、日本の敗戦ショックを吹っ飛ばした。そういうこともあって、44年前に靖国神社も喜んで貸したんでしょう。でも、これは坪内祐三さんの『靖国』（注4）という本に詳しいんだけども、あのときは日米対決という構図の試合を

小泉首相が参拝するより、プロレスのほうが英霊は喜びますよ！

上／昭和36年4月23日、力道山やジャイアント馬場、アントニオ猪木らが奉納プロレスを実施し、靖国神社に参拝したときの模様。右／それから45年後の平成17年4月1日、同じく奉納プロレスの奉告参拝をすませた大仁田厚、大谷晋二郎らの姿。

検証 プロレスと靖国神社を考える

やってないんだよね。

――ナショナリズムを高揚させる試合をやっていたように思えるけど、じつはそうではない、と。坪内さんの著書を読むと、当時は小人プロレスの試合とかもやっていたみたいですね。

鈴木　うん。靖国って昔はいろいろなイベントをやっていたそうなんだよ。競馬やサーカスもやっていたり、昔の多目的スペースみたいな場所だったんだよね。

――プロレスの開催も、とくになんらおかしくないことなんですね。

鈴木　だから靖国はもっともっと懐が深い場所なんだよ。みんな、へんに遠慮してるんだけど。今日だって、お花見客がたくさん来ていたしね。桜の季節はとくに賑やかなんですよ。

――靖国のことを何も知らないで来たら、花見スポットぐらいのイメージしか湧かないですよね。僕は今回、初めて靖国神社へ行ったんですけど、メディアで騒がれているイメージとはかなりギャップを感じて。

鈴木　終戦記念日の前後に首相が参拝したりすると、警察がものものしく警備してたりするからね。あと旧軍人が軍隊の格好で参拝したりとか、右翼団体が隊列を組んで参拝したりとか。

――そういったイメージだけが拡大され、誇張されているきらいはあるんですかね。

鈴木　やっぱり、外国の記者もそういう絵ばっかり報道するでしょ。すると海外でも「日本は戦争を肯定してるんだ」とか勘違いしちゃうよね。そんなこと全然なくて、もともと靖国は親しみやすい場所なんですよ。だから首相が参拝するより、奉納プロレスをやるほうが英霊は喜んでますよ。

――あと靖国だけではなく、イベント自体にも思想的な背景が見えませんでしたね。昨年もそうだったみたいですけど。

鈴木　それは佐山聡がやったほうが思想的になるのかもしれないね。

――ああ、たしかに（笑）。右寄りの思想活動で知られる佐山さんだったら、まったく違う興行になるでしょうね。

鈴木　佐山の弟子で掣圏真陰流の桜木裕司選手（注5）の試合を後楽園ホールで観たことあるけど、リング上で「今年は日露戦争勝利100周年です！　この勝利を靖国に眠る英霊たちに捧げます！」って言っていたよ。

――もし佐山さんが開催したら、ZERO1・MAXとはまったく色合いが違うものになりそうですね。

鈴木　それに前田（日明）さんだって、思想的なものはあるじゃない。前田さんもやればいいんだよ。ほかにも靖国でやりたい人はけっこういるだろうし。

――靖国側の受け入れ基準はどうなっているのか興味深いですよね。

鈴木　そこは靖国側に聞いてみたいところだよね（注6）。もともとこのイベントをやりたがっていたのは、橋本（真也）なんでしょ？

――橋本さんが在籍されていた当時のZERO―ONEで計画したイベントになりますね（※靖国大会の企画を立案したプロデューサー、小路谷秀樹さんのインタビューは113ページ参照）。

鈴木　橋本は靖国に映えたろうねえ……（しみじみと）。先日、映画の『力道山』（注7）を観たけど、橋本が東富士役で出演してて、かなりいい味を出してたよ。

――そのあと、橋本さんはいまのZERO1・MAXと関係が破綻してしまったので、残念ながら靖国大会に出場することはできなかったんですが、相当悔しがってたみたいで。

鈴木　それは残念だったねえ。

――あと、これは一般的にあまり知られてないことなんですが……酔拳の王拳聖は親日家ですけど、もともとZERO―ONEに初登場したときは、「奉納プロレスをやる」という橋本さんに「中国人が抗議をしてきた」という設定で登場したんです。

鈴木　あ、そうなんだ。それやったらおもしろかったのに。

――当時のプロレスマスコミは書き方や扱い方が難しいことで尻込みしちゃって、まったく報道されてませんでしたけど。

鈴木　そこはべつに報道してもいいんじゃないの？

――橋本さんはそこにも苛立っていたみたいなんですよね。

鈴木　いや、問題ないでしょう。"プロレスを通しての靖国論争"というある種の問題提起という感じでいいじゃないですか。

――たしかにそれはそうですね。

鈴木　橋本がやりたがった詳しい動機はわからないけど、プロレス人気が下火になってきて「力道山時代の原点に戻ろう」という気持ちがあったんじゃないかな。力道山は「シャープ兄弟を招致して日本のナショナリズムを高揚させ、敗戦コンプレックスを払拭した」というのが定説だけど、それ以上に外国の様々なプロレスラーを呼んだことで、戦後の日本人の目を世界の国に対して開かせたんですよ。単純な日米対決ばかりじゃなく、ほかの外国にもすばらしい選手はいる、と。だから僕はプロレスがもし戦前に行なわれていたら、戦争は起こらなかったと思うんですよ（キッパリ）。

――プロレスは選手への愛着を持たせやすいエンターテインメントだから、ガイジン選手を観て外国の理解が深まったか

ZERO1・MAX昨年の靖国大会（05年4月10日、『大和神州ちから祭り』）

ランジェリーじゃない武藤（敬司）も来場していた！　当日発表の大物ゲストとして佐々木健介VS佐藤耕平のみをリングサイドで観戦。靖国の独特なムードに注目していた。

去年は小川直也も来場！　小川は「プロレス発祥の地でハッスルやっていいですか!?」通常のハッスルポーズのあと「よぉ～、ハッスル!!」と締める"ハッスル一本締め"を披露。

キング・アダモとテングカイザーの異次元対決も実現。テングは「今日は葉っぱ（お守り）持ってきた。神聖な日しか持たないんだ。その効果でお客さんが入った」とコメント。

なにげに2年連続でメイン登場（AWAヘビー級選手権）している大森さんこそ"靖国男"にふさわしい。この日は横井宏考相手にアックスボンバーを連発して勝利をもぎとった。

戦前にプロレスがあったら、日本の戦争は起こらなかった

もしれませんね。

鈴木　テリー・ファンクとドリー・ファンクの絶頂時なんか、ジャイアント馬場やジャンボ鶴田より全然、人気があったでしょ。逆にファンが鶴田にブーイングしたりしてるから、当時ボクはガッチガチの右翼だったから、「コイツら、愛国心がないのか？」と怒ってたけど（笑）。

——ダハハハ！　意図せずに日本人が悪役になる。あらためて振り返ってみると、じつに珍しい逆転の構図ですね。

鈴木　敵国人であろうと、外国人であろうと"いい奴"にはみんなで声援を送る。そういう意味では、広い意味の"高度な愛国心"なんです。だから戦前にテリー・ファンクが来日してたら、きっと戦争なんか起きませんよ。

大会の5日前に参戦を志願した大仁田厚は、場外乱闘中心の猛ファイトを展開するも試合中に愛用の革ジャンが盗難！ 後日29歳の男性ファンが大仁田の母が経営する長崎のレストランに届け出た。

——つまり、プロレスって世界の理解につながるツールだった、と。そういう要素って、ほかのスポーツってあまりなさそうですね。

鈴木　野球なんて最初から外国人枠が決まっているしね。ブッチャーとかテリーみたいに愛着を持たれた外人選手は限られてくるよね。それから、どうしてもたいていのスポーツは国別対抗戦になっちゃうでしょ。「国別で競技をやる」というのは、一番原始的な感情なんだよね。オリンピックなんかの報道も、どうしても日本人選手中心になるどころか、おもいきり偏ってしまうところはあるでしょう。

——違う国同士の試合を放送するのは稀ですね。

鈴木　これは日本だけじゃなくて、ほかの国もオリンピックのときは自国以外の試合はまったく流さないんですよ。だからその点、プロレスや『PRIDE』を観ている日本の観客の意識がかなり高いんですよ。おそらく観客は「世界の一流選手が集結して一番を決定する」という歴史的な現場に立ち合っているという面で満足しているんでしょうね。これは"進化した愛国心"なんですよ。

——その"愛国心"というキーワードをすくい上げると、最近行なわれたWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）は、ナショナリズムを持って日本国民が盛り上がりました。鈴木さんはああいう動きをどう思われましたか？

鈴木　野球人気がなくなってきたから国別にやったんだろうけど、あれは言うなれば"退化"ですよ。

——つまり、退化の盛り上がり。

鈴木　こないだ、新宿ロフトの言論イベントで「イチローは愛国者だ」とか「WBCを蹴った松井は非国民だ」とかやってましたけどね。

検証 プロレスと靖国神社を考える

——うわ〜、なんか短絡的ですねえ。

鈴木　ねえ。彼らは純粋にスポーツをやって、努力した成功者だからね。それを愛国心と言われるのは「どうもなあ」って思いますよ。オリンピックだって本来は「世界と仲良くする」ためにやってるわけですから。「自分の国さえよければいい」という安易なナショナリズムを煽るのは意識が低いですよ。だから日本の格闘技の観客のほうが成熟してるんじゃないですかね。

——大晦日に、ヴァンダレイ・シウバvsヒカルド・アローナというガイジン同士の一戦で盛り上がっているのは、他国からしたら成熟というか、異常なのかもしれないですけど（笑）。

鈴木　ヨソの国だったらありえないだろうねえ。

——それでは最後に、鈴木さんに「奉納」の意義をわかりやすく教えていただけないでしょうか。

鈴木　基本的には亡くなった方々、英霊の人たちに芸能や競技で喜んでもらおうと。それと同時にいま生きてる人が一緒になって楽しもうということですよね。"奉納盆踊り"とかたくさん行なわれているでしょ。だから死者を弔いつつ、現世の人もつなぐような、両方の意味があるんじゃないですかね。そういう意味でも奉納プロレスはもっと増えていってほしいね。これは悪い意味じゃなくて、いまの人は現実的に「過去を振り返ってどうのこうの」っていう思いはないでしょ。振り返るべき自分たちの"核"もない。だから「全部ゼロからやり直そう」っていうので、ZERO-ONEなんじゃないの。

——橋本さんも「ゼロから一番に登り詰める」という意味でつけたみたいですからね。

鈴木　力道山の原点に戻って「ここからまた始めるんだ」というのが橋本のやりたかった靖国プロレスだったんじゃないかな。

——靖国を見すえて橋本さんがZERO-ONEというネーミングをしたとしたら、それはとてつもないファンタジーですね！（笑）。そういった意思を経て、いまのZERO1・MAXもあると思いますし。

鈴木　この原点回帰は決して昔を懐かしむだけの後ろ向きのものじゃなくて、非常に前向きですよ。いまはZERO1・MAXしかないですけど、これからどんどん増えるでしょう。大仁田だって、前田だって、佐山だって。おそらく貸すと思いますよ（笑）。

——今後の靖国プロレスの動向を観守っていきたいと思います。今日はどうもありがとうございました！

【4月1日、『喫茶室ルノアール』四谷店にて収録】

【すずき・くにお】1943年、福岡県生まれ。早稲田政治経済学部卒業。学生時代から右翼・民族運動に参加し、産経新聞社に勤務した後、72年「一水会」創設。新右翼の代表的存在に。99年12月に「一水会」代表を辞任し顧問に。格闘技の論客としても知られる。著書に『夕刻のコペルニクス』(扶養社文庫)、『言論の覚悟』(創出版)など。

注釈

注1＝東條英機
1884〜1948（明治17年〜昭和23年）。昭和前期の軍人で大東亜戦争を開戦した人物という見方が一般的。昭和天皇によって親任され首相になった後、内務大臣、陸軍大臣を兼任して独裁的権限を握った。戦後は侵略戦争を計画・実行したA級戦犯としてGHQに処刑され、その遺骨は靖国神社に祀られている。

注2＝力道山時代の靖国大会
昭和36年4月23日、力道山率いる日本プロレスが靖国神社相撲場特設リングで開催。ジャイアント馬場、アントニオ猪木ら力道山門下生が出場。メインは「土佐ノ海＆長沢秀幸vsジャイアント馬場＆大木金太郎」。力道山はバトルロイヤルのレフェリーとして登場。小人レスラーの試合も行なわれ、1万5000人の大観衆を動員。

注3＝大正時代に日本で初めてプロレスの試合
大正10年3月5日、アメリカのプロレスラー、アド・サンテルとヘンリー・ウエーバーが来日。柔道の講道館に挑戦状を出し、靖国神社相撲場にて庄司彦男四段、清水一四段、永田礼次郎三段、増田宗太郎二段の柔道勢らと対戦。引き分けに終わるも、柔道勢は講道館から破門された。

注4＝『靖国』坪内祐三（新潮文庫）
論議を呼ぶ靖国神社が、本来はサーカスや競馬、博覧会、相撲など「芸能と文化」が集結する娯楽施設として機能していた事実を、膨大な資料からひも解いた名著。大正時代のプロレスラー登場や、昭和36年の力道山の奉納プロレスも詳細に記述されている。坪内氏自身もプロレスファンとして知られ、『en-taxi』No.13（扶桑社）では「去年の春、桜舞う靖国神社の奉納プロレスで私はプロレスの死を見とどけた」という原稿を寄稿している。

注5＝桜木裕司
1977年7月20日、宮崎県出身。目黒ジムなどを経て、初代タイガーマスク・佐山聡が「市街戦型護身術」として創設した新格闘技「掣圏道」に参加。全日本キックボクシングやパンクラスにも参戦。寄せ書きされた日の丸の旗と日本刀を持って登場するなど、入場がかなりの迫力に満ちてることでも有名。

注6＝そこは靖国側に聞いてみたい
今回、編集部は靖国神社側へのファクスインタビューを実施（107ページ参照）。他団体の奉納プロレス実施の可能性について「特に他団体からの要請がないので、実施の予定はありません」とのこと。

注7＝映画の『力道山』
06年3月公開。日韓両国のスタッフが日本プロレス界の祖・力道山を描いた作品。監督はソン・ヘソン。力道山には韓国ナンバーワンの実力派俳優ソル・ギョング。試合も本人が演じている。共演は中谷美紀、藤辰也。数々の名勝負を演じるレスラーには、船木誠勝、武藤敬司、秋山準らプロレスラーが多数出演。橋本真也はこの作品が遺作となった。

靖国のリングに二度、上がった中国人
王拳聖

1965年中華人民共和国北京市出身。中国武術代表団として世界各地を訪問。全国武術選手権試合で何度も優勝するなど、実力者は折り紙付き。俳優、武術指導としてカンフー映画のオファーも殺到中。

「小泉首相の靖国神社参拝」をめぐり中国と日本が緊張状態にある中、靖国大会に2年連続出場した中国人、酔拳の王拳聖選手は、中国の武術大会のチャンピオンだったり、あのジェット・リーさんの兄弟子だったり、香港のカンフー映画の武術指導や俳優である王さんに、靖国大会参戦の真意を聞いた！

聞き手／**真下義之**

「靖国大会に抗議する」キャラには疑問があったね

王 カミプロのミナサン、ヒサシブリ！

――こちらこそおひさしぶりです。今日は王さんが大活躍された4月1日、ZERO1・MAXの靖国大会についてうかがいたいと思います。

王 ハイ。僕はこの試合のため、わざわざ中国に帰って特殊部隊の戦士と練習積んできたね。

――お？ そうなんですか。その成果か当日は酔拳だけじゃなく、三節棍まで出されてましたね！

王 酔拳だけじゃない、新しい〝王拳聖ワールド〟を観てもらいたかったね。

――王さんは本場、中国武術大会のチャンピオンだけに、あの三節棍さばきだけで観客はどよめいてましたよ！

王 あれこそがリアル・カンフーね！

――ところで王さんが2年続けて試合された靖国神社は、中国と日本のあいだでいまなお論議になってる場所なんですが。

王 もちろん知ってるよ。「靖国神社の参拝問題」は中国政府や東南アジアで問題になってる。でも靖国でプロレスやることは政治とは別のこと。プロレスは文化でありスポーツだから、政治とは関係ない。

――ただ、王さんは橋本真也さんが在籍された時代のZERO－ONEに、最初に登場されたときは「靖国神社大会に中国人が抗議する」という設定で登場されましたけど。

王 そうね。僕自身はやっぱり「靖国に抗議する」というキャラクターには疑問もありました。でも44年ぶりに靖国でプロレスをする。これは大変な注目の舞台になるということ。そして橋本真也という日本のプロレスの代表選手から声をかけてもらったことも大きかったね。

――ある意味、誤解を生むことさえ、話題にして転がしていくという意味では、橋本さんは本当にタフな人物でしたね。

王 最初は誤解もあるかもしれないけど、「これは大きな意味で文化交流になる」と思った。自分でも「やりたい」という気持ちが強かったので、了解しました。

――では最終的には、王さんも納得した上で引き受けられたんですね。そのあとのZERO1・MAXではそういったキャラから離れた、いち個人の王拳聖として闘ってますよね。

王の闇のプロモーター MK 靖国問題は本当に難しい部分がありますけど、逆に注目される場だからこそ、王拳聖のワールドワイドなカンフーを見せたいと思ったんですね。とくに今回は入場テーマ（ヒップホップに合わせて王拳聖！ 王拳聖！とシュプレヒコールが流れる）も演出しましたし。……アレは僕が作ったんですけど（笑）。

――あ、そうなんですか？（笑） あの音楽は編集部でも話題騒然でしたよ！

王 彼はかなり、才能あるよ！

――ただ中国では去年、大規模な反日デモがあったりして、中国の人は本当のところ日本をどう思ってるんでしょうか？

王 中国の人は日本のコトをニュースでしか知らない。だから誤解も多いと思うよ。でも日本に来ればわかる。僕は靖国神社には1974年に少年武術代表団で日本に来たとき初めて行きました。それから沖縄の大きな戦争の慰霊碑にも行きました。靖国もそこも素晴らしい場所で、本当に純粋に感動しましたから。

――中国に戻ったときに靖国神社の話はされました？

王 やっぱり、みんな話せばわかってくれる。ニュースとかで全然違うイメージを持ってますから。……それに日本人も毎日毎日、靖国のことは考えてないでしょ？ 普段の仕事も生活もある、それは中国人も同じ。いつも靖国のこと考えて「小泉よくない！」なんて思ってないよ。戦争から60年も経ってるし、中国も日本も新しい時代を考えなきゃいけないね。

――そんな親日家の王さんは、中国ではどんなご家庭に育ったんでしょうか？

王 僕のお父さんは軍人の偉い人だった。僕は父から厳しく育てられて、人間として〝礼〟を勉強しました。

――王さんが日本にいらっしゃることに反対はなかったんでしょうか。

王 軍人の家庭だけど「大きくなって日本に仕返ししろ！」とか一切なし。たしかに戦争ではいろんな国がひどいことした。それは真実。でもいまは戦争じゃない。現実の社会が大事。僕は日本の太極拳連盟から「日本で中国武術を教えてください」って頼まれて日本に来た。僕は日本に来てたくさんの方にお世話になった。凄く感謝してるし、何か日本にお返ししたいんです。とくに少林寺拳法連盟には中国武術発展のために、協力していただき心から感謝しています。

――そういう気持ちがあったからこそ、今回もいい試合になった気がしますね。

王 ボクのユメは、中国と日本の合作のアクション映画を撮ること。去年も香港で3本、アクション映画撮りました。『キル・ビル』に出たゴードン・リュウや、『カンフーハッスル』のブルース・リャンさんと共演しましたし、台湾のスターのヴィネス・ウォンさんとは『小林カンフー』という映画を撮りました。そういうふうに映画ならいろんな文化交流ができるし、僕も関わってる日本との合作も少しずつ形になってきてるね。

――それは、映画の完成が楽しみですねえ。

王 中国人は日本に来れば日本が理解できるよ。だっていまの時期、中国人もお花見行く。北京市民はみんな大きなお寺にお花見に行きますからね。

――靖国神社とまったく同じですね。

王 同じですよ！ 人間なんだから一緒なんだよ！ 問題に考える人が問題にしちゃうんだよ。

――いや～。じつにいいお話をうかがえてうれしいです。今後もZERO1・MAXでのご活躍を期待してます！

【4月4日、都内某所にて収録】

アチョー！ 三節棍！ 酔拳！ カンフー映画！ これが王拳聖ワールドだ！

台湾のスター、ヴィネス・ウォン（左）と共演した映画『小林カンフー』の上映も控える世界のスターだ、王拳聖！（右）

王拳聖軍団のメンバー集結！ 謎の部下に美人マネージャー、そして取材に同行した闇のプロモーター、MK氏！（右）

試合中盤、ついに酔拳が炸裂。だが本物の酒を使用してるため「たまに酔っちゃう」らしいぞ、王拳聖！

どよめき……そして感激!! 王さんのスピーディーすぎる三節棍さばきでつかみはオーケー、王拳聖！

日本唯一の「奉納プロレス実施団体」取締役

中村祥之

(株)ファースト・オン・ステージ代表取締役。新日本プロレスを退社後、(有)ゼロワンを経て、(株)ファースト・オン・ステージ代表へ。「今年は表に出ず裏方に徹して、イベンターの勉強をしたい」。

44年ぶりの奉納プロレス実施、そして定例化をめざして二度目の実施……。他団体には思いもよらない「靖国神社でのプロレス」実現のためには、プロレス界きってのアイデアマン・中村祥之氏の英断と実行力があったことを忘れてはならない。ZERO1・MAX運営に携わる中村氏の目から見た奉納プロレスとは？

聞き手／さささぃ

来年はバトルロイヤル、5年後までには無料開催したい

——靖国大会、お疲れさまでした！　今年も晴れて良かったですね。

中村　一日ずれたらやばかったねぇ。次の日は横殴りの雨が振ってたしね。

——去年も翌日は雨でしたよね。

中村　まぁ、ＺＥＲＯ1・ＭＡＸは普段の行ないがいいんで、靖国の神様も許してくれるみたいだね。

——桜の開花もちょうど良い時期にあたりましたよね。

中村　ただ気温が5度足りなかったね。

——そうですね（笑）。

中村　そのあたりは神様に与えられた試練だと思うしかない。いまのＺＥＲＯ1・ＭＡＸには5度足りないということですよ。

——去年は強風が吹いていましたけど（笑）。

中村　そうそう（笑）。去年の靖国大会は風がびゅうびゅう吹いていた。今年は団体が一年生きのびたことによって少し慣れが生じて、熱が5度足りない。

——そういうことも読めてくると（笑）。では昨年に続いて、今年も開催できたというそのあたりについておうかがいしたいんですが、きっかけというのはどういうところなんですか？

中村　去年の年末にこちらから奉納のお願いに行きましたね。来週から奉納相撲が始まるんで、日程としては今週しかないっていうことでしたけど、また快く受けていただきましたね。

——カードは昨年よりさらに実験的な感じがしましたけど、内容について靖国側からは何も指定はないんですか？

中村　中身については、中国の選手が出ようと、女子選手が出ようと、自由にやってくださいという感じだったね。

——「これはちょっと」とかはないんですか？

中村　なんにも（笑）。大仁田さんが出ると言っても「あぁ、そうですか」と。ダメって言われたことは一度もないですね。事務所の方とかにかなりプロレス通の方がいて、ランジェリー武藤を知っていたりしてね。

——ランジェリー武藤を知っているのは相当マニアですよ！（笑）。靖国側も好意的に見てくれているということなんですかね。

中村　こちらとしてはそう思うよ（笑）。

——昨年、今年と連続して開催できたわけですから、やはり靖国大会は定例化していきたいとお考えですか？

中村　もちろんそうだし、目標を言えばやっぱりお客さんの無料開放だよね。できれば大相撲みたいに無料でやりたいよ。なんとか、5回目までには無料でできる会社の体力を整えたいね。

——5年後までに無料開催と。

中村　あとはバトルロイヤルをやりたいね。

——靖国バトルロイヤルですか！

中村　うん、地方の良きプロレスを東京に持ってきたいね。あとは夏あたりにもう一回できるといいんだけどね。冬だと寒いじゃん。だから春の奉納、夏祭り、秋祭り、みたいなさ。夕方の5時くらいに開始して、7時半くらいに終わるような。もしくは春はＺＥＲＯ1・ＭＡＸ、夏はハッスルみたいな。靖国を使ったハッスルがどうなるのか、興味があるよね。

——ハッスル音頭もありますしね。

中村　そうそう。（笑）。でも、おかげさまでというかなんというか、お祭りのオファーは殺到してますよ、地方の神社から。「ただなんでしょ、やってよ」みたいな。

——そんな誤解もされつつ（笑）。

中村　「ちょっとご相談させてください」って（笑）。でもまぁ、プロレスっていうのはコアなファン層のものでもありながら、一般大衆娯楽という側面も持っているからさ。で、うちの団体は大谷晋二郎をはじめとして、そういう両面をカバーできる団体だよね。

——昔から、マニアだけじゃなくて子ども、おじいちゃんおばあちゃんまでの幅広い層が観客に多い団体ですよね。

中村　うちの方針として、とにかく子どもは大事にすると。後楽園でも親子招待をやってますし、今回の「小中学生無料」っていうのも、他団体には嫌がられるかもしれないけど、正しいことをやっていると思いますよ。

——靖国であらためて感じましたけど、子どもが走り回るプロレス会場はいいですよね。

中村　そうそう、子どもが選手を追いかけて、さわったとかさわらないとかっていう、そういうのが思い出になっているわけだからさ。まずは5年後までに無料開催ができるような、そういう会社の体力は整えておきたいね。

【4月3日、ファースト・オン・ステージ事務所にて収録】

大仁田厚
プロレス界"再入学"宣言!!

靖国大会で特別カムバックをはたした大仁田厚が試合後、報道陣の取材に応じた。コメントの中で大仁田は「"卒業"したって"入学"すりゃいいじゃねぇか！」と、プロレス界へ再び"入学"することを宣言。さらに「俺は永田議員じゃないけどメールは打っちゃいないからな！　俺が打ってないってことは、サーバーで判明したからな！　ナメんなよ『フライデー』！」と、昨年『フライデー』誌で取り上げられたセッド・ジニアス氏への恐喝メール送信を否定。また、昨年事故で亡くなった未来さんの遺影を持ち「彼女も俺に憧れてレスラーになってくれたみたいなんですけど、去年事故で亡くなってしまって。未来っていう名前はいいじゃないですか。プロレスの未来は大事」と語る場面もあった。大仁田と未来さんは直接の交流はなかったが、未来さんはデスマッチを志望してレスラーを志したと言われている。

「昭和から平成のアタマ、古い時代のプロレスを支えたオールディーズを全部呼んでもいいかなと。栗栖（正伸）さんとか青柳（政司）さんとか、ヤマハブラザーズとか呼んでさ。一夜限りだけど若手に対して、刺激を与えても面白いじゃない？　夏をメドに後楽園ホールとかで。長嶋（茂雄）さんの言葉じゃないけど、プロレスは永遠に不滅です。プロレスはボクらの故郷ですから、大事にしてやってください」

大森隆男
AWA王者へ返り咲き!!

靖国大会メインでは、大森隆男と大谷晋二郎のAWAタイトルマッチが実現。アックスボンバーズを引きつれて大森隆男入場。大谷の左ヒザを攻め、反撃のチャンスを与えない。徹底したヒザ攻撃に対し、大谷は大森の右腕を狙い打ちに。エプロンで大森がアックスギロチンドライバー、さらにリング内でスープレックス。続いてのアックスボンバーは大谷がかわし、ドラゴンスープレックス。続いて放たれたアックスギロチンを1カウントで返し、王者としての意地を見せた大谷だったが、さらに放たれたアックスボンバーでついに大の字。AWAベルトを大森が奪還した

大森「プロレス界も非常に厳しい現状がある中、リングに集中できたのはスタッフの人のおかげだと思う。一年、自分の中で教えられたものは大きかった。スケールの大きいチャンピオンになりたい。アメリカ、イギリス、ヨーロッパ。同じ団体の中での争いも大事だけれど、その一つ上の闘いができたらと思う。アックスボンバーズのメンバーがセコンドにいてくれたのも心強かった。（アックスボンバーズが着ている）斧爆弾のTシャツを見て、励みになった。（新日本参戦は）視野に入れている。俺が乗り込んだら、中西学も嫌な顔はできないだろう」

検証 プロレスと靖国神社を考える

靖国大会を"仕掛けた"男

『大和神州ちから祭り』大会総合演出

小路谷秀樹

ZERO1・MAX、靖国大会の重要なキーマンとして記者会見に出席。大会の総合演出を手掛けているのが、小路谷秀樹氏だ。プロレスビデオ制作でプロレス界に太いパイプを持つ小路谷氏がこの企画に関わった理由。実現に至る過程を直撃した。

聞き手／ささきぃ、真下義之

1959年、京都生まれ。ビデオ制作会社、ヴァリス社長。「宇宙企画」立ち上げに参加。フリー活動の後、91年にヴァリスを設立。数々のプロレスビデオを発売。05年の日本シナリオ大賞で奨励賞を受賞するなど精力的に活動中。

靖国側に話を持っていったら、その場で〝即決〟してくれたんです

——小路谷さんはプロレスビデオ制作を手掛ける会社、「ヴァリス」の社長さんであり、奉納プロレスの総合演出として参加されているんですが、この大会に関わったきっかけを教えてくれますか?

小路谷　この企画が立ち上がる一年ぐらい前、何かで「日本人が初めてプロレスラーの試合を観た場所が靖国神社だった」という記事を偶然読んだんですね。

——大正時代にアメリカのレスラーと柔道家が試合したと言われてますね。

小路谷　ちょうどその頃、自分が全日本プロレスとの映像契約が切れたときだったんです。そこでタイミングよく、ZERO-ONE（当時）の中村祥之さんと出会って「何か企画を持ってきてほしい」と話をもらった。そこで「靖国神社の奉納プロレス」という企画書を持っていった。内心「断られるだろう」と思ったんですが、中村さんは「おもしろい」と言ってくれた。そこが始まりですね。

——そうなんですか。一般的には04年の6月に橋本（真也）さんが靖国で会見されて派手にぶち上げた印象が強かったんですけど。

小路谷　もともと靖国は大谷晋二郎が主役の企画だったんです。大谷さんって『火祭り』や火祭り刀とか和風なイメージがあるし。ただ当時って橋本さんが小川直也の陰に隠れがちな時期だったんです。

——ハッスルがスタートして小川さんにスポットが当たって、一方の橋本さんは肩の負傷で不調なときでしたしね。

小路谷　そこで中村さんが「靖国で橋本さんを盛り上げるきっかけにしよう!!」ということで、一度は橋本さん中心の企画にスライドしたんです。……残念ながらZERO-ONEが分裂しちゃって、結果的にZERO1・MAXの大谷さん中心の企画になったんです。

——そういう経緯があったんですか。大会の実現に至るまで、小路谷さんは靖国側への交渉にも関わったんでしょうか?

小路谷　そうですね。最初、自分が靖国側に提案したんですが、靖国の担当者も「大正時代にプロレスラーが試合をやった」ということを知らなかった。そこで資料室で確認したら本当だった、と。そのインパクトもあって実現に向かってスタートしたんですね。でも一番驚いたのは、じつはその最初の交渉で開催が決定しちゃったことなんです。

——えっ、その場で即決ですか? 普通は一度、預かって検討しそうですけど。

小路谷　即決でしたね。その潔さには驚きましたよ! だって僕らはコネも下交渉もなかったし、そのときが本当の初対面だったしね。

——ただ、04年というのは靖国神社は政治的な意味でも、改めて注目された年ですよね。

小路谷　そのタイミングで企画を靖国に持っていくこと自体が「尋常じゃない」って空気はあった。それに企画が通ったとしても「何か危険が待ち受けてるんじゃないか?」って心配はありました。橋本さんだってマスコミに強気なこと言ってはいたけど、「本当に大丈夫?」って心配してたからね。……だけど、結果的に本当に何もなかったんです。

——何かしら、抗議みたいなものもなかったんですか?

小路谷　何もなかった（キッパリ）。でもよく考えると実際、抗議されるようなものはないと思うんですけどね（笑）。

——そうですね。メディアが騒ぎ立ててるから、必要以上に警戒しちゃう部分があるのかもしれないですね。

小路谷　靖国神社の関係者も本当に協力的でしたし、舞台裏のトラブルはまったくないです。イベントとして関わっていくなかで、僕も靖国側のイメージがどんどん変わっていったし、一般的なイメージとのギャップを凄く感じましたね。

——では運営的には本当にスムーズにいったんですね。

小路谷　うん。むしろ自分がナーバスになったのは内面的な部分ですね。「英霊が奉られてる」ということでヘタなことはできない。失礼がないようにいろいろな本を読んだりして……。

——そういった面のプレッシャーや葛藤が大きかったわけですか?

小路谷　『霊魂は実在するか?』っていう本まで読みましたからね。もちろん「実在する」という前提でやらなくてはいけないんだけど。もっと踏み込んで勉強したかったし、坪内祐三さんの『靖国』も含めて、あらゆる資料を読みあさりましたね。さらに大会の一週間前からは、水行をしたり、『中臣寿詞（なかとみのよごと）』の祝詞（神を称え、崇敬の意を表わす内容を神に奏上することで、ご加護や利益を得る文章）を詠んだりしましたから。

——もう、かなり凄いことになってたんですね……。でも「靖国の桜がどこよりも綺麗なのは、英霊のかたたちの御霊が宿ってるからだ」という話を聞くと、納得しちゃう部分はありますし。いい意味で幻想性がある場所ですよね。相撲場の雰囲気も本当にいいですし。

小路谷　お客さんがお弁当持って、シートを持ってきてたりね。じつは僕が最初に観たプロレスも野外会場だったんですよ。だから少年時代にタイムスリップしたような気持ちになったりね。

——演出の面で小路谷さんが目指したところはなんですか?

小路谷　最近はどの団体もアメリカ的なテイストの大会が多いじゃないですか? 独自性がないし、個人的にそういう傾向が凄くイヤで「自分がやるんなら和風だな」と思ってました。

——演出的にも水墨画のライブペインティングや諏訪太鼓を大がかりに入れたりしてますね。

小路谷　ああいうムードを大事にしつつ、これから日本各地のお祭りの特色を取り入れたい。やりたいことはたくさんありますね。それに僕らがプロレスをやったことで、この前は演劇も靖国神社でやったみたいですし、本来の祝祭空間に回帰し始めているみたいです。

——芸能文化としての奉納プロレスに期待しています。本日はありがとうございました!

【4月5日、ダブルクロスにて収録】

奉納プロレスで披露された太鼓は「諏訪太鼓」。戦国時代にはかの武田信玄が合戦の際に、兵士の士気を鼓舞するために打ち鳴らし、諏訪神社（長野県）では奉納太鼓が有名。まさに今大会にうってつけの太鼓といえる。

Back Number

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49 '02.04 880 yen

和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田/アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?/破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐり!

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 '02.05 880 yen

「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!/ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 '02.06 880 yen

両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也/『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子/天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談/新・超獣ザ・プレデター

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 '02.07 880 yen

全身プロレスラー・高山善廣/USAの渡世人ドン・フライ/『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム/戦慄の『LEGEND』前夜!

『Dynamite』を大総括!
no.54 '02.08 880 yen

"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー/"青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット/純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

受け継げ、Uインター魂!!
no.56 '02.10 880 yen

田村戦直前! その覚悟を読み解け!! 髙田延彦/蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山/『紙プロ』に世界一性格の悪い男が登場! 鈴木みのる

驚ガクの6周年記念号
no.57 '02.11 840 yen

サップとタイマン勝負!! 高山善廣/新たなる"U"が始動!! 田村/悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ/北尾戦・セメントマッチの真実ジョン・テンタ

夢の対談、大連発号!
no.58 '03.01 880 yen

夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×高阪/Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健/カルガリー師弟対談 ヒト×ハシフ・カーン

最後の皇帝、PRIDE上陸
no.59 '03.02 880 yen

いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス/爆発!! WJマグマ語録/吉田道場の秘密兵器 中村和裕/UWFの再興と再考 田村

PRIDEは変貌&再生する!
no.60 '03.03 880 yen

ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気/あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし/全日本中継の真実!! 倉持隆夫

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 '03.04 880 yen

裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也/1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン/プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光

地殻変動の予兆アリ!!
no.62 '03.05 880 yen

ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介/現役復帰間近!? 船木誠勝/藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル/新日本バードを徹底検証!!

マット界、超絶リボーン!!
no.63 '03.06 880 yen

「お前は男だ」劇場炸裂! 高田延彦/『PRIDE』REBORNを大総括!!/憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー/芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 '03.07 900 yen

"異次元格闘技戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー/ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"

田村vs吉田、徹底検証!!
no.65 '03.08 880 yen

"最後の皇帝"燃え上がる! ヒョードル/"反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ/吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司/闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

『PRIDE武士道』誕生!!
no.66 '03.09 880 yen

緊急独占インタビュー! ミルコ/マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮/"天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦/『東スポ』とは何か?

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 '03.10 880 yen

ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ/『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー/アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 '03.11 880 yen

大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦/曙とは何者か!?/一年ぶりの勝利でニコニコインタビュー 桜庭和志/"野良犬"『紙プロ』初登場! 小林 聡

ハッスル1開催、ド直前!!
no.69 '03.12 900 yen

出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也/『泣き虫』著者登場! 金子達仁/大晦日直前インタビュー! 田村潔司/アイアム リアルプロレスラー 美濃輪育久

紙プロ大賞'03発表!!
no.70 '04.01 880 yen

PRIDE征服宣言! ミルコ/シウバに宣戦布告! 近藤有己/ド真ん中の真実を語る! 佐々木健介&北斗晶/発表! 紙プロ大賞&マット界語録2003

ハッスル2で大フィーバー!
no.71 '04.02 880 yen

『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/待望の『紙プロ』初登場! 川田利明/理想のプロレスを追い求める! AKIRA/幻の猪木vsアミン戦の真実!!

PRIDEに格闘ロマンを見よ!
no.72 '04.03 840 yen

GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル/K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁/全て見せます!!『突撃! 佐々木健介邸』

最も過酷な道を行く男!!
no.73 '04.04 880 yen

GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也/PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド/キックの名伯楽登場! 伊原信一/魔界のニューリーダー 村上和成

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 '04.05 880 yen

PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/"ハードコアのカリスマ"ミック・フォーリー/掣圏会館皇帝 佐山サトル激語り!!

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 '04.06 880 yen

シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也/奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統/インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン/年金未納からUFOまで

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 '04.07 880 yen

小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志/新連載『月刊PG談(仮)』吉田豪×掟ポルシェ

小川vsヒョードル決定!!
no.77 '04.08 880 yen

「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也/狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ/サンボの神様降臨!! ビクトル古賀

PRIDE GP徹底総括号
no.78 '04.09 840 yen

衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦/K-1のトップが小川を語る 谷川貞治/壮絶インディー人生! 田中将斗

高田総統がビターンと降臨!
no.79 '04.09 840 yen

キャプテンに休息なし! 小川直也/特別付録・髙田総統ポスター/谷川さん推薦企画『曙は是か非か?』/ビビッたか? ボヤいたか!? 金原モンスター軍

守護神ミルコが外敵狩りへ!
no.80 '04.10 880 yen

独占ロングインタビュー ミルコ/ハッスル軍お家騒動を激白!! 小川直也/新連載! 佐山サトルの右流タン探訪紀/袋とじ企画 元全女・グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81 '04.10 880 yen

ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/スーパーひとし君登場! 草野仁/佐山サトル×船木誠勝

男たちの祭りは激化する!!
no.82 '04.12 890 yen

"道場破り"の全てを激白! 安生洋二/WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪/伝説の悪徳レフェリー降臨! 阿部四郎

大晦日格闘技戦争、大爆発!
no.83 '05.01 880 yen

『PRIDE 男祭り』怒濤の大総括!/蘇る新日本黄金伝説!! 橋本真也×船木誠勝/『シベ超5』公開記念SP対談! 水野晴郎×サスケ

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 '05.02 880 yen

"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ/"頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司/"起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か? 前田日明復活大特集!!

PRIDEvsHERO'S開戦!!
no.85 '05.03 860 yen

PRIDE GP2005特集! 桜庭和志、田村潔司、髙田延彦/パンクラス2大王者が揃い踏み! 髙阪剛×近藤有己/HBKが大暴れ!? 草野仁×浅草キッド

PRIDE GP直前大解剖号
no.86 '05.04 860 yen

大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散の真実を語る!!/PRIDE GP&K-1 MAX 出場全選手パーフェクトガイド

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87 '05.05 860 yen

敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦/船木誠勝のマッドネス対談シリーズ!! ゲスト・宇野薫/蘇れ! 新日本プロレス学校対談 金原弘光×池田大輔

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。

①『紙プロHand』で注文　②電話注文 03-5368-1797
③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。
※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。

ご注意 郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

5・5大阪ドーム PRIDE無差別級GP開幕戦

ウルトラ・ヘブン到達か？

VSミルコ・クロコップ戦
勝て！ 勝つんだ！ 美濃輪!!

高山善廣と美濃輪育久のプロレスバカ対談は紙のプロレスRADICALで読める!!

美濃輪育久と高山善廣の夢対談掲載!!

"ノーフィアー"と"無謀"が運命の遭遇
高山善廣
NO FEAR × RECK LESS
美濃輪育久
激談！プロレスバカ一代

no.53 '02.08

★"ノー・フィアー×無謀"が夢の対談！ 高山善廣と美濃輪育久のプロレスバカ一代の両名が熱く・暑く語り合った、運命の遭遇。いまこそ、読むしかない！（聞き手／堀江ガンツ）
★02年9月のDEEP有明大会で行われた田村潔司 vs 美濃輪育久を読む解く直前記事も満載！

サク熱のバイオハザード!!

880yen

注 新装刊となった「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。
http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます！
03-5368-1797
平日 15:00～22:00
販売元 (株)ダブルクロス

本誌 Back Number

格闘ノストラダムス!
no.16 '99.03 780yen
アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!／引退後初！前田日明インタビュー／相撲多重アリバイ 石川孝司／語ろうジャンボ鶴田

特集 神秘とは何か？
no.14
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー
780yen⇒390yen 50%OFF

特集 インディペンデントの逆襲
no.15
あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－1とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー
780yen⇒390yen 50%OFF

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」
780yen⇒390yen 50%OFF

パンクラス公式読本
矛・盾
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターザンも炎上してますよォォ!!
各1260yen⇒630yen 50%OFF

純プロ王国NOAHに迫る!!
no.29 '00.07 840yen
三沢、秋山『紙プロ』初登場!!／プロレススーパースター列伝 仲野信市／本誌独占ジャンボ鶴田夫人最愛の夫の真実を語る!!／TKおかん

"新"プロレスとは何か？
no.32 '00.10 840yen
田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村／"和製カレリン"本田多聞

純プロレスを徹底検証!
no.35 '01.02 840yen
ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／"ノアの怪物"杉浦貴／UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36 '01.02 840yen
ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言／W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く／吉田豪に"ドラゴンの呪い"が襲う!!

純プロレス戦国絵巻!
no.37 '01.04 840yen
安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る!／アブダビコンバット01一大探検記!／シュート活字Xファンタジー活字／比類なきプロレスがWWFにはある!

小川直也は是か非か？
no.38 '01.05 840yen
忘れ物の正体は――。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル／プロレススーパースター列伝 阿修羅原／死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

前田日明は是か非か？
no.39 '01.06 840yen
前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男／プロレススーパースター列伝・田上明

地上最強のプロレスとは？
no.40 '01.07 880yen
蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎／プロレススーパースター列伝 グラン浜田

"最後の黒船"WWF来襲!!
no.41 '01.08 880yen
リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!／W☆INGの真実・茨城清志／毒舌知能犯 秋山準語録

アントンパワー大爆発!!
no.42 '01.09 880yen
ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／"ヒャッホーの真実"辻よしなり／蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣X宮戸優光×金原弘光

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43 '01.10 880yen
ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会／野武士が語るんだよな 中野巽耀

サク連敗とPRIDEの未来
no.44 '01.11 880yen
その修羅場の数々! シーザー武志／怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴／ハンス・ナイマン&ディック・フライ／闘龍門大特集

一寸先はハプニング!!
no.45 '01.12 880yen
悪魔の書、現る! ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談／プロレススパースター列伝 グレート小鹿／語録で振り返るマット界2001

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47 '02.02 880yen
"天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!／噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!／プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

桜庭、満開の日は近い!
no.48 '02.03 880yen
奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ＆スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光／伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン

マット界の掲示板
kamipro
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

ハミ出し情報局

4月23日、"リアルタイガーマスク"勝村周一朗がブシドー・リトアニアのメインに出場! レミーガはK-1MAXで魔裟斗相手に敗れたものの、『HERO'S』でメインを張った所に続いて、初代ZST GP王者・アウレリオがPRIDEライト級王者・五味を破るなど新旧ZST勢は大躍進中。世界最高のラウンドガールと世界最強の軽量級はZSTが決める! 担当は上杉です。

プロレスの向こう側に行ってしまったマッスルが再びプロレスの聖地に戻ってくる!!

マッスル9では、本多が父であり、たけし映画等でお馴染みの俳優・渡辺哲に恐る恐るプロレスをやっていることをカミングアウト!! 了承した父と一緒にマッスル・ポーズ!!

マッスル『マッスルハウス2』
★日時 5月4日(木・祝) 19:00開始 ★会場 東京・後楽園ホール
★出場予定選手 マッスル坂井ほか ★総合演出 鶴見亜門
※ハウスまでの道のりはコチラをチェック!! →http://www.ddttec.com/muscle

同日開催! こちらも見逃すな!
ケロちゃんの行方は? そして後藤達俊のパートナーはどうなる!?
DDT『MAX BUMP 2006』
★日時 5月4日(木・祝) 12:00開始 ★会場 東京・後楽園ホール
★問 DDT 03-5360-6653

キング・オブ・スポーツに地殻変動!! 新日本がついに2ブランド新設!!

長州ワールド全開! リキプロ勢も大集結!!
『LOCK UP』
★日時 5月21日(金)18:30開始 ★会場 東京・新木場1stRING
★出場予定選手
長州力、石井智宏、宇野和貴史、金村キンタロー、BADBOY非道、黒田哲広、邪道、外道、影虎、ラッセ

「ついに開園! プロレスハッピーランド」!?
『WRESTLE LAND』
★日時 5月13日(土) 18:30開始 ★会場 東京・新宿FACE
★主要対戦カード 棚橋弘至 vs タイガーマスク、愚乱・浪花 vs つぼ原人
★その他出場予定選手 邪道、外道、スーパー・ストロング・マシン
★問 エンターテイメントワークス 03-5464-2220

目指すはプロレス界の黄金郷!! 元ドラドア勢がプレ旗揚げ戦開催!!

El Dorado
『BREAK THE DOOR OPEN』
★日時 4月27日 19:00開始
★会場 東京・新宿FACE
★主要対戦カード
大鷲透 & 高木省吾 vs 菅原拓也 & 景虎
★その他出場予定選手
近藤修司、"Brother"YASSHI、石森太二、ミラニートコレクションa.t.、清水基嗣、パイナップル華井、佐藤秀、佐藤恵
★問 闘龍門 03-5683-5022

大ちゃんがバチバチファイターの育成へ!! 客席はなんと3列のみ!! イナズマッ!!

フーテン・プロモーション『バチバチの穴』
★日時 5月2日(火) 18:30開始 ★会場 東京・北千住シアター1010
★全対戦カード
池田大輔 vs 佐々木恭介、イナズマ・ジュンジ vs 飯伏幸太
橋本友彦 vs 伊藤博之、原学 vs 栗原強、吉川祐太 vs 澤宗紀
★問 フーテン・プロモーション 03-3373-7939

Fight & Ticket

「リアル・プロレスラーは俺ですよ!」 "歩く狂気"二見社長がワンマッチ興行を開催!!

前号で特集を組んだT-1だが、伝説はまだまだ続く! 3・19『ONLY ONE』後楽園大会に乱入した二見社長は因縁の深い堀田&前川組のトーナメント優勝トロフィーをコナゴナに破壊! さらに「こんな興行がおもしれえのかよ! 潰れてしまえ!!」と捨てゼリフを吐いて自身の経営するT-1へと帰った。怒りの収まらない堀田はコスチューム姿のままT-1へ直行! 観客を後楽園ホールに置き去りにしたまま、店内で取っ組み合いを繰り広げ店をグチャグチャに。これを受けて4月3日、二見社長は「また店に乗り込まれても困るんで場所を用意した」と第3回大会開催を発表。「闘う場もあまりないんで、必ず出てくると思います」と堀田らの参加を確信している。果たして第3回興行の行方は!?

7階にある店を破壊された二見代表は1階に降りた堀田に向かって、「覚えとけよ、コノヤロー!」と約30メートルの高さから挑発するという前代未聞の大空中戦を展開!!

『リアルプロフェッショナルレスリング T-1スペシャル～ワンマッチ興行～』
★日時 5月3日(水・祝) 18:39開始 ★会場 埼玉・バトルスフィア越谷
★出場予定選手 堀田祐美子、阿部幸江、T-1マスク1号&2号、X、XX
※これまでの経緯は公式HPで→http://www.t-1.jp/
※試合前に第1回&2回大会の上映会や堀田に壊されたサングラスのオークションを行なう予定
★問 チケット&トラベル T-1 03-5275-2778

腕相撲世界選手権3位の剛力女戦士が辻ちゃんの首を狙う!!

SMACK GIRL『女王凱旋』
★日時 4月22日(土) 18:00開始
★会場 大阪・アゼリア大正
★主要対戦カード
【スマックガールライト級女王タイトルマッチ】
辻結花(初代女王/総合格闘技闇愚羅) vs
キャミー・ホステットラー(挑戦者/チャーリーズ・コンバットクラブ)
茂木康子(ストライプル) vs 長嶺妙子(禅道会広島支部)
Edge(総合格闘技闇愚羅) vs 大山陽子(総合格闘技道場コブラ会)
大室奈緒子(和術慧舟會東京本部) vs
井上明子(SHOOTO JAM WATER)
HARI(フリー) vs 亀井奈津子(総合格闘技闇愚羅)
【ネクストシンデレラトーナメント ミドル級1回戦】
佐々木絹加(総合格闘技闇愚羅) vs 中村さくら(禅道会広島支部)
【KING OF THE KICK実験マッチ】辻麻里(T.K.D兵庫) vs 花岡けい子(T.K.D兵庫)
★その他出場予定選手
MIKU(クラブバーバリアン)、浜田福子(総合格闘技闇愚羅)、花澤直(総合格闘技道場コブラ会)ほか
★問 スマックガール実行委員会 03-3331-7426

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5385-8285
〒164-0001 東京都中野区中野3-17-1 コーポフロンティア301
http://www.cbox100.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002　大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■我闘姑娘　03-3524-1071
〒104-0061
東京都中央区銀座4-14-17 渡辺ビル4F JNT事務局内
http://www.gtkn.com

■キングスロード
03-3403-7344
〒106-0032　東京都港区東六本木7-5-11-605
http://www.kings-road.jp

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025　東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011　東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏会館　075-352-3109
〒600-8216　京都市下京区東塩小路町600-38-101
http://www.seikenshinkageryu.com

■仙台ガールズ・プロレスリング
022-785-7755
〒984-0065　宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073　東京都千代田区九段北1-5-10 九段有楽ビル6F
http://alljapan.keyblog.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■高田道場　03-5749-5030
〒142-0062　東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■ドリームステージエンターテインメント
03-5464-1531（PRIDE）
03-5464-1731（ハッスル）
〒107-0061　東京都港区北青山3-12-9　花茂ビル3F
http://www.prideofficial.com
http://www.hustlehustle.com

■バトラーツ 0489-63-0005
〒343-0807　埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047　東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063　東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065　宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.net

■DDT　03-5360-6653
〒106-0022　東京都新宿区新宿1-23-6 グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071　愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP：http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp

■GIRLS DOOR
03 - 3907 - 2909
東京都新宿区西新宿7-2-6 西新宿K－1ビル6F
株式会社EWF

■G-SHOOTO
03-5380-3295
〒165-0026
東京都中野区新井1-3-6 セントラルパレス中野202

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061　東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004　東京都新宿区新宿2-15-13　第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JDスター 03-5524-2339
〒107-0052　東京都港区銀座1-8-21　第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052　東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001　千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014　東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号

■NEO
044-422-8344
〒211-0011　神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014　神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■UFO
0467-82-2034
〒253-0053　神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.K.R
044-833-7042
〒213-0027　神奈川県川崎市高津区野川2193－11
http://www.hiromitsu-kanehara.com

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002　東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WWS
0270-24-8991
〒372-0812 群馬県伊勢崎市連取町1669-2 グリーン・シティ・マンション103号

■ZERO1・MAX
03-5730-3966
〒105-0014　東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
03-5388-0808
〒106-0023　東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

Talk

世界のトコロがアキラ兄さんに一歩近づいた!!

所がトークショーに出演！
『コーセーアンニュアージュ トーク』

★日時
5月22日（月）19:00開始

★会場
恵比寿ガーデンプレイス
ザ・ガーデンホール

★出演者　所英男、
Bugs Under Groove
（ダンスユニット）

★チケット
2,000円前売り（発売日4月22日）
2,600円当日

■問　マークアイ　03-3464-0761

前田日明HERO'Sスーパーバイザーが、かつて吉川晃司や杉本彩と出演したトークライブに所が登場!!　対談相手は世界に挑むダンスユニットだ

Photo

『男祭り』舞台裏とオーちゃんの軌跡を撮った写真展開催!!

本誌"小川直也公式出入り禁止カメラマン"森モーリー鷹博が茅ヶ崎で写真展を開催!　会場では森モーリーが前年末に撮影した『PRIDE男祭り2005』出場前の小川直也の練習風景や試合当日の様子、また大会の舞台裏などを中心にこれまで未公開の写真を展示。オーちゃんファンもPRIDEファンも集まれ!　入場無料!!

小川道場オープン記念写真展
『森モーリー鷹博が見た小川直也の軌跡』

★日時　4月15日（土）～23日（日）　12:00～19:00

★会場　リトルキング
神奈川県茅ヶ崎市東海岸北1-7-25（小川道場向かい）

★入場料　無料

★問　エバー・グリーン・ホーム（担当:猪狩）0467-88-3403

『ウルティモ・スーパースター』の須田信太郎が新連載!

ザ・グレート・サスケやウルティモ・ドラゴンも絶賛のルチャマンガ『ウルティモ・スーパースター』（エンターブレイン刊）の作者でハッスルのパンフレットでも『ハッスル物語』を不定期連載中の須田信太郎が月刊『コミックビーム』で待望の新連載『地下鉄のランナー』をスタート！　深夜の地下鉄で起こったちょっと不思議な体験から始まる物語……。前作『ハードコア・パパ』で熱い男を描いた須田信太郎の新たな作風に期待!!

『地下鉄のランナー』
★作者　須田信太郎
★月刊『コミックビーム』連載中
★問　エンターブレイン　0570-060-555

Dvd&Book

新作DVD、フォーッ!!

ハッスルの第3弾DVDのリリースが決定！　プロレス界に残る画期的な試みとなった『観客ジャッジシステム』が行なわれた『ハッスル8』から川田がまさかのヒールターンをはたした『ハッスル12』まで『ハッスル・ハウス』を含む全9大会のダイジェストを収録!　さらに、ハッスル軍の救世主となるHGのプロレス参戦表明会見も必見だ!!　ジャケットイラストは"平成の絵師"こと金子ナンペイ!!

『ハッスル注入DVD第3弾』
★本編　本編約240分＋特典映像（インリン様M字ビターン集）収録予定
★価格　5,040円（税込）　★発売日　4月28日
★問　メディアファクトリー　カスタマーセンター　03-5469-4880

プロレスインタビュー本の最濃傑作!! 吉田豪新刊発売!!

本誌終身名誉バイザー＆プロインタビュアーの吉田豪が『紙プロRADICAL』誌上で聞き手を務めたインタビューの中からその一部を完全再録した『吉田豪のセメント!!スーパースター列伝 パート1』が発売中!!　ストロング小林、田代まさし、猪木快守、イーデス・ハンソン、阿修羅原、鶴見五郎、サムソン・クツワダ、康芳夫、倉持隆夫、田中健一、小川宏といった強者たちに"下調べの鬼"がセメント・インタビューを挑む!!　『紙プロ』で読み損ねた人はマスト・バイ!

『吉田豪のセメント!!　スーパースター列伝 パート1』
★著者　吉田豪　★発売中　★価格　1,890円（税込）
★問　エンターブレイン　0570-060-555

本誌でもおなじみ、水道橋博士が贈る前代未聞の健康読本!!

稀代の健康マニア、浅草キッドの水道橋博士が"異常"な健康読本を執筆。「健康本とは、死をゴールと見据えた『遺書』であり、生への執着を後世に残す『医書』である。そして、この本の目指すところは、完全なる実用書であり、有限の貴方の余命すらも、劇的に変えうる可能性もある、"平成の解体新書"を自負するものだ（まえがきより）」というコンセプト通り、近視矯正、胎盤エキス、ファスティング、加圧トレーニングなど話題の健康法を博士自身が体験！　その脅威のレポートは必読!!

『博士の異常な健康』
★著者　水道橋博士　★発売中　★価格　¥1,365（税込）
★問　アスペクト　03-5281-2551

Hand

携帯サイト『Kamipro Hand』に"リアル・プロレスラー"美濃輪育久が動画で登場!!　5・5『PRIDE 無差別級GP』に向けての意気込みを披露!!　さらにHandユーザー限定のサイン入り日の丸プレゼントもあり!!　いずれも開始時期・応募詳細はサイトをチェック！　6月からはPHSキャリア「ウィルコム」にプロレス・格闘技コンテンツとして初参入が決定!!　開始時期および詳細は次号でお知らせ！　写真は中川画伯の"世界のTK"イラストカレンダー。Kamipro Handは今後も宇宙一面白い携帯サイトとして、ブッチギリで"Go to ヘブン"します！

Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技

紙プロHand

新 卓球少女(似)松下ミワの
ハガキ愛ランド

もうすぐゴールデンウィークですね。そんな誘惑に躍らされ、会社にいても学校にいても心ここにあらずな読者の方々は、気をつけろ!!　向かいのビルからあの男が狙っているぞ!　というわけで、あんまり気を抜くと一気に5月病になるので注意しましょう。スケジュール未定な人は、ぜひ空手の伝承者を訪ねて旅に出よう!　というわけで、今月もはりきっていきますよ。3、2、1、遺言、遺言、う～、真に受けた!!(遭難)。

kamipro97号へのお便り紹介

熱血マーク・コールマン、最高!　「タックルがとれないとダメだぁ～」と試合中でも諦めちゃうのも含めて最高だよ。「コールマンの熱々人生相談」とかやってほしいなあ。
【東京都・寺田純さん・豆腐売り・24歳】

↓「筋肉があればなんでもできる!」的な人生相談で、みなぎるパワーをぜひ分けてわけてもらいたい!!

西島洋介のインタビューがおもしろかったです。西島選手はあまりインタビューに出るような選手じゃないような気がするんですが、いざしゃべるとけっこう毒舌でおもしろいと思います。
【青森県・リンゴ乃城さん・リンゴ・23歳】

↓PRIDE無差別級GPも、8オンスのグローブを着けて闘うと言いだした西島選手。いくら無差別だからって、よくばりすぎです!!

田中秀和インタビューがよかった。まさかのケロちゃんの退団。これで、かつてのファン感謝デーでのリングアナコンテスト優勝のボクにリングアナのオファーが来るかと待っているけど、いまだに音沙汰なし。
【東京都・津田裕章さん・教師・37歳】

↓津田先生の素敵なボイスを、ぜひ編集部に送ってください。

おもしろかったのは『格闘技専門誌に何が起こったか?』。『kamipro』はプロレスの記事が多いので毎号買わないけど、ゴン格のことが書いてあったのでつい買ってしまった。
【徳島県・竹内博史さん・会社員・44歳】

↓ゴン格愛読者の方におもしろかったと思っていただけてよかったです。

大仁田議員のプロレス現場復帰に反対です。いきなり現役復帰するのは、プロレスには訓練が必要という約束ごとが、マボロシだと思われてしまうんじゃないでしょうか。僕はプロレスというジャンルを守りたいのですよ。
【市場さん(kamiproHand投稿)】

↓市場さんのような反対派が会場にいたんでしょうか。試合後、大仁田選手は革ジャンを盗まれて盗難届を出したそうです。(その後、犯人は大仁田の母の経営するレストランを訪れ、返却&謝罪したという。)

リオデジャネイロのファベーラ潜入リポートが凄かった。最近、各国の習慣や生活、文化の違いなどに興味があるので。
【千葉県・八角宗一さん・店員・47歳】

↓というより、〝一歩間違えばさようなら〟な場所に潜入して無事に帰ってこられたことが凄い!

レミギウス・モリカビュチスとは何者か?　に興味があった。最近テレビで観たが、それまではレミギウスの試合をあまりみたことがなかったので「KO劇」を見れてよかった。
【和歌山県・杉若はるかさん・学生・14歳】

↓残念ながら『K―1 MAX』魔裟斗戦で逆にKOされてしまったレミギウス。試合後は「言い訳はしたくない……」と、水をもらえない花のようにしょんぼりしてました。

『T―1グランプリの真実』がおもしろかった。某記者が最近ではナンバーワンの興行だったと言っていたが、ボクはこの20年間でナンバーワンの興行だと思いました。はっきり言って、T―1グランプリで期待しているのは二見社長の動向に尽きます。
【東京都・伊藤志さん・会社員・30歳】

↓ちなみに、T―1の二見さんからは、ほぼ毎日のように編集部(チョロさんご指名)に電話がかかってきます。話の内容は不明。

来月号では、今年新日本プロレスを退団した後藤達俊選手が『kamipro』に出るということで、とても楽しみです。後藤さんの伝説は酒を飲んで酔っぱらって猪木さんにケンカを売ったとか、酔っぱらって人をボコボコにしたとか、そういう伝説を聞いたことがあります。どうか、後藤さんと仲良

美濃輪育久

神奈川県・大内和彦さん・会社員・31歳
➡ミラクル回転タックルでジャイアント・シルバに勝利した美濃輪選手。無差別級GPは果たしてどうなるのか!?

97号・面白かった記事ランキング

順位	記事
1位	五味隆典インタビュー
2位	田中秀和インタビュー
2位	T-1グランプリの真実
3位	風雲急を告げるPRIDE無差別級GP
3位	髙阪剛インタビュー
5位	格闘技専門誌に何が起こっているのか?

なんと、『武士道-其の拾-』で武士道初、衝撃の敗戦を喫した五味選手が1位にランクイン。それだけファンの期待が大きかったということでしょうか。そして、第2位に輝いたのがケロちゃんインタビュー。今号もぜひ新日本プロレスの真相話に注目せよ!　さらに、今号は『T-1グランプリの真実』『格闘技専門誌に何が起こっているのか?』と、事件系のネタが上位にランクイン。やっぱり、マット界の事件はリアルでおもしろい!?

緊急企画 PRIDEわっしょい!! ランキング

3月28日発売『PRIDEわっしょい』のランキングも発表します!　全128ページやりたい放題の一冊への感想、苦情、文句はこちらだ!!

高島彩インタビューがおもしろかった。高島アナがどんなふうに『PRIDE』が好きになったのかや派手な試合や寝技も見たいという意外な素顔が見られて、ファンとして嬉しかった。
【大阪府・松井祐治さん・家事手伝い・33歳】

▽アヤパンのあまりの人気っぷりには編集部もビックリ。聡明でキュートなアヤパンをこれからも応援しよう!

笹原さんと佐伯さんの座談会がおもしろかった。『PRIDE』の歴史を改めてみると、山あり谷ありだったというのがわかった。よくここまで続いたなと思いました。あと、佐伯さんは健康に気を遣っていただきたい。
【長野県・塩川皓生さん・学生・15歳】

▽賞賛からご心配まで、ありがとうございます。佐伯さんにはぜひ健康に気を遣っていただきたいですね。

PRIDEなんでもランキングは〝スペシャル〟ならではの嬉しい企画でした。勉強になる!!
【石川県・浅井清治さん・会社員・33歳】

▽こんなんで、勉強すると頭がおかしくなりますよ。

シウバとインリンの対談がおもしろかった。二人が同級生だったとはビックリです。シウバ選手のHGに対しての話が最高でした!
【福島県・紺野豊さん・会社員・20歳】

▽とにかく、インリンさんを前にしたシウバのご機嫌っぷりが、わかりやすすぎなインタビューでした。しかし、HGのゲイはヴァンダレイにも届いていた。もはやハードゲイは世界共通!!

レニー・ハートさんのインタビューはよかった。凄く賢くて頭が良さそうで、魅力的な方だということがわかりました。
【千葉県・八角宗一さん・店員・41歳】

▽魅力的といえば、胸元の空き過ぎた大胆すぎる衣裳にも目が釘付けでした。

PRIDEまんが道のヒョードルの絵がやばい。今度『kamipro』でアニメを始めてくれ!!
【埼玉県・藤井佑樹さん・学生・22歳】

▽この『kamiproわっしょい!!』がきっかけで、ヒョードルのイラストは某テレビ番組でも放送されたというウワサ。

桜庭とHGの対談がよかった。小川×吉田とは違う『PRID

しである小原道由さんとヒロ斉藤さんにもインタビューをしてください。『kami-pro』最高！
【青森県・匿名希望】

⬇酔っぱらって財布を落としたり、酔っぱらって路上で寝てたりするチョロさんの武勇伝は聞かなくて大丈夫ですか？

教えてください。ハッスルナビゲーターのCHIZ

URUちゃんはどこに行ってしまったのですか？ もう長いあいだ仕事に身が入りません……。開脚&リボンにどれだけ癒されていたか。
【長野県・神吉保さん・会社員・33歳】

⬇関係者に聞いたところ、「もしかしたらハッスル星に帰ってしまったのかもしれない」という証言をいただきました。

大阪府・えりかなおずみさん
➲田村選手への愛のムチ＆期待感満載!? それより、桜吹雪の切り絵はお花見を逃した上杉どんぐりの心を癒してくれました。

埼玉県・大崎洋二さん
➲試合だけでなく、サイン会やイベントでも引っ張りだこの所選手。5月22日にもトークショーがあります。

大阪県・上村務さん
➲強烈なリアルイラストをどうもありがとうございます。でも、近くで見ると恐いです。

東京都・YAーさん
➲我闘姑娘で大活躍中の（左から）あいかちゃん、きのこちゃん、ひなたちゃん。屈託のない笑顔がまぶしいぜ!!

スクープ！ ザ・目撃!!

●某金色ジムで、田中将斗選手に会いました!! 額にデスマッチで負ったと思われる傷が残っていたので間違いありません！ 心の中で「あ、田中将斗だ！」と絶叫しました。内気な自分は声をかけられず、動揺を必死に隠して通り過ぎました。その後、エレベーターに乗って帰ろうとしたところ、なんと！ またまた小走りでエレベーターに駆け込んでくる田中将斗選手と鉢合わせになるではありませんか!! 田中選手から申し訳なさそうに会釈されたので、自分はもう倒れそうになりました。そして、頭の中に「声かけてみろよ」という天使の自分と「やめとけ」という悪魔の自分が対立し始めました。が、田中将斗選手の再登場に平常心取り戻せず、結局、声をかけることもできずに離ればなれになってしまいました。
【稲葉聡さん（kamipriHand投稿）】

●4月1日、神楽坂でアントーニオ本多選手を見ました。 坂を自転車でかっ飛ばしてきたアントーニオ本多選手は、独り言を言いながらハイテンションで走っていきました。「マッスル」そのままのキャラで走っていく姿に、プロレスラー魂を感じました。 ゼロワンの靖国プロレスには行けなかったんですが、アントーニオ本多選手を見たおかげで充分満足できました。
【狭山さん（kamiproHand投稿）】

●芸能界一のプロレスファンは斉藤清六!! 後楽園では南側中段あたりにいらっしゃる姿をよく見かけました。200回以上！……というのはオーバーかもしれませんが、ホントにいろんな団体で見かけます。
【いちさん（kamipriHand投稿）】

●4月2日『武士道-其の拾-』の会場でボクも斉藤清六さんを見かけました。そのときもスタンド席の真ん中ぐらいで観戦されていました。【匿名希望】

●3月21日宇野商店にて、店長・宇野薫さんにお会いしました。じつは、私の友人が宇野さんの先輩で、「とにかく礼儀正しくものすごくいい人だから、お店に行ってまた応援してくれ」と言われていました。「まさか会えないだろう」と思いながらお店に行ったのですが、いました！ 話してみると、本当に素晴らしく礼儀正しく腰も低く、先輩が言われた通りでした!! それまでもファンでしたが、もう大大大ファンになってしまいました。
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・31歳】

●4月1日、U-FILE CAMP.comの大久保ちゃんを見かけました。新宿駅から武蔵小金井止まりのJR総武線（最終電車）に駆け込んできた大久保ちゃんは、どうやらまだまだその先の駅に行きたかった様子。電車には乗ったものの、困った大久保ちゃんは捨てられた子犬のように泣きそうな顔で友人か誰かに電話していました。きっと、その日の寝床を確保しようと必死だったのだと思います。
【匿名希望】

●4月2日『武士道-其の拾-』の会場でユン・ドンシクを見ました。ユン・ドンシクは韓国の報道陣に取材をされてたのかどーなのかわかりませんが、有明コロシアムの隅っこのかなり暗い場所で記者とカメラマンに囲まれていました。
【東京都・I♥武士道さん】

---

kamipro 事件簿

衝撃!! RGMが編集部に降臨!?

4月某日、『kamiproコラム』でおなじみのRG、改めRGMが編集部を突然襲来!! さらに、鬼畜編集長の部屋を見つけるやいなや、イスに深々と腰をかけ、なんと受話器をとってこのきめポーズ！ と絶好調すぎるRGMだったが、編集部に貼ってある4月5日『ハッスル』会見のリリースを発見するやいなや、「こんなの聞いてないッス」とポツリ。そのまま帰ってゆく背中が妙に寂しげでした。

読者に聞く 忘れられない入学&入社の思い出

●高校の入学式のとき、自分の席がありませんでした。
（東京都・野村直人さん・宣伝マン・37歳）

●面接で「趣味は？」と聞かれ、「格闘技です」と答えると、社長も「私も格闘技が好きだ！」と言って意気投合したことです。無事、受かりました。
（香川県・斉藤英喜さん・大工・23歳）

●前の会社は厳しかったけど、いい勉強ができました。なぜか鈴木みのるさんご実家にも行けたし……。
（神奈川県・大内和彦さん・会社員・31歳）

●高校の入学式で、友だちが先生に間違えられた。
（東京都・最上正光さん・会社員・31歳）

E』、ハッスル対決というので、内容も写真もすべて良かった。
【群馬県・反町光宏さん・34歳】

▽この対談にはHGも桜庭選手もノリノリだったそうです。もちろん、ハッスルする、しないで揉めたりもしてません。

高田本部長とノゲイラ兄弟の企画がよかった。予告は見ていましたが、まさかブラザーズとは!! ビビってたじろいでしまいました。また、ふんどしを〝タカダショーツ〟って（笑）。おもしろい！
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・31歳】

▽ホジェリオにあの姿をさせたのは、じつはノゲイラ兄。しかも「一人じゃ恥ずかしいから」という理由で。ずばり、ホジェリオは巻きぞえです。

ジョー・サンのインタビューが気持ち悪かった。
【匿名希望×7名】

▽しかし、ジョー・サンの写真には、あのDSE榊原代表がいたく感動したとのこと。ジョー・サン、『PRIDE』参戦も夢じゃない!?

面白かった記事ランキング

順位	記事
1位	ヴァンダレイ・シウバ×インリン・オブ・ジョイトイ
2位	髙田本部長×ノゲイラ兄弟
3位	高島彩インタビュー
4位	桜庭和志×HG
5位	PRIDEなんでもランキング

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでも結構！ お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストのあて先&メールアドレスは
「radical@kamipro.com」
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス kamipro編集部
「RMG降臨」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。

kamipro calendar

4 April

22 SAT.
ハッスル■東京・後楽園ホール(19:00)
新日本■福岡・豊前市民体育館(18:00)
大日本■北海道・札幌テイセンホール(17:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■愛知・名古屋西区ワンダーシティ(18:30)
SPWF■東京・西調布アリーナ(18:30)
ガッツワールド■東京・新木場1stRING(18:30)
GIRLS DOOR■福島・いわき市平体育館(18:00)
OYAZI BATTLE■大阪・アゼリア大正(12:30)
スマックガール■大阪・アゼリア大正(18:30)

23 SUN.
ハッスル■東京・後楽園ホール(12:00)
NOAH■東京・日本武道館(17:00)
新日本■宮崎・宮崎県武道館(16:00)
DRAGON GATE■東京・大田区体育館(15:00)
大日本■北海道・札幌テイセンホール(15:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
K-DOJO■大阪・デルフィンアリーナ(17:00)
JWP■東京・キネマ倶楽部(13:00)
NEO■東京・キネマ倶楽部(17:00)
JD■東京・新木場1stRING(12:30)
風間ルミ自主興行■東京・後楽園ホール(18:30)
ZST■リトアニア/ビリュニス・フォーラムパレス

24 MON.
大日本■宮城・ちゃんこ小鹿特設リング(18:00)

25 TUE.
新日本■福岡・大牟田市体育館(18:30)

26 WED.
新日本■鹿児島・鹿児島アリーナ(18:30)

27 THU.
El Dorado■東京・新宿FACE(19:00)
S-ARENA■東京・新木場1stRING(19:30)

28 FRI.
新日本■鳥取・米子コンベンションセンター(18:30)
リングソウル■東京・新宿FACE(18:30)
大日本■東京・後楽園ホール(19:00)
LLPW■宮崎・日南市体育館(18:30)
TITANS■東京・代々木競技場第二体育館(16:45)

29 SAT.
K-1■米国/ラスベガス・ミラージュホテル
新日本■鳥取・鳥取産業体育館(17:00)
ZERO1・MAX■群馬・グリーンドーム前橋(18:30)
DRAGON GATE■佐賀・佐賀諸富文化体育館(17:00)
華☆激■福岡・Zepp Fukuoka(18:30)
NEO■東京・板橋グリーンホール(17:00)
我闘姑娘■東京・板橋グリーンホール(12:30)
M's Style■東京・新宿FACE(18:00)
MARS■韓国/ソウル・奨忠体育館
MAキック■東京・ディファ有明(17:00)

30 SUN.
新日本■兵庫・尼崎記念公園総合体育館(16:00)
DRAGON GATE■長崎・佐世保市体育館(17:00)
大阪プロ■広島・県立広島産業会館(14:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
華☆激■福岡・さざんぴあ博多(13:00)
FUCK!■和歌山・和歌山県立体育館(15:00)
R.I.S.E.■東京・ゴールドジムサウス大森

5 May

1 MON.
DRAGON GATE■福岡・TNC放送会館(19:30)

2 TUE.
新日本■福岡・宗像ユリックス(18:30)
DRAGON GATE■山口・下松市民体育館(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(19:00)
フーテン■東京・北千住シアター(18:30)
パンクラス■東京・後楽園ホール(19:00)

3 WED.
HERO'S■東京・代々木競技場第一体育館(15:00)
新日本■福岡・福岡国際センター(15:00)
ZERO1・MAX■長崎・足立区六木横特設会場(15:00)
DRAGON GATE■岡山・オレンジホール(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
大阪プロ■大阪・岸和田競輪場(11:10)
T-1■埼玉・越谷バトルスフィア(18:39)
JWP■東京・キネマ倶楽部(17:00)
ONLY ONE■東京・後楽園ホール(12:00)
スマックガール■東京・キネマ倶楽部(13:00)
NJKF■東京・後楽園ホール(17:00)

4 THU.
DDT■東京・後楽園ホール(12:00)
マッスル■東京・後楽園ホール(19:00)
DRAGON GATE■福井・ウェルサンピア敦賀(17:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
東海プロ■岐阜・木曽三川公園特設リング(13:00)
JD■東京・新木場1stRING(13:00&17:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)

5 FRI.
PRIDE■大阪・大阪ドーム(17:00予定)
ZERO1・MAX■東京・後楽園ホール(18:30)
大日本■神奈川・横浜赤レンガ倉庫(18:00)
アパッチ■東京・新宿FACE(12:00)
DRAGON GATE■京都・三段池公園体育館(17:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
NEO■東京・後楽園ホール(12:00)
THE WOMAN■東京・新宿FACE(18:00)

6 SAT.
新日本■香川・高松市総合体育館(18:00)
DRAGON GATE■兵庫・明石産業交流センター(17:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
息吹■神奈川・横浜赤レンガ倉庫(13:00)
JWP&NEO■神奈川・横浜赤レンガ倉庫(18:00)

7 SUN.
新日本■京都・京都市体育館(16:00)
DRAGON GATE■愛知・名古屋国際会議場(16:00)
みちのく■神奈川・横浜赤レンガ倉庫(18:00)
大阪プロ■大阪・和泉市民体育館(13:00)
ユニオン■神奈川・横浜赤レンガ倉庫(13:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)

10 WED.
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール(18:30)

12 FRI.
LLPW■長崎・長崎NCCスタジオ(18:30)
修斗■東京・後楽園ホール(18:30)

13 SAT.
ハッスル■宮城・仙台市体育館(17:00)
K-1■オランダ/アムステルダム・アムステルダムアリーナ
WRESTLE LAND■東京・新宿FACE(18:30)
DRAGON GATE■愛知・あいおいホール(18:30)
闘龍門■メキシコ/メキシコシティ・アレナメヒコ
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
JWP■山口・海峡メッセ下関(18:00)
JD■東京・新木場1stRING(18:30)
MARS■千葉・幕張メッセ(17:30)

14 SUN.
DRAGON GATE■兵庫・神戸サンボーホール(17:00)
大阪プロ■東京・新宿FACE(13:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(13:00&16:30)
LLPW■東京・後楽園ホール(12:30)
NEO■東京・板橋グリーンホール(18:00)
EXCITING・BOX■幕張メッセ
AtoZ&CMA■愛知・岡崎竜美ヶ丘会館(15:30&17:00)
修斗■広島・県立広島産業会館(14:00)
全日本キック■東京・後楽園ホール(18:30予定)

17 WED.
アパッチ■東京・新木場1stRING(19:30)

19 FRI.
NOAH■東京・後楽園ホール(18:30)
ZERO1・MAX■大阪・大阪市中央公会堂(18:30)
DDT■東京・新木場1stRING(19:30)

20 SAT.
NOAH■新潟・新潟市体育館(18:00)
大日本■横浜・六角橋商店街特設リング(17:00)
DRAGON GATE■沖縄・那覇簡易保険センター(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(18:30)
NEO■東京・板橋グリーンホール(18:30)

21 SUN.
NOAH■埼玉・本川越ペペホール(16:00)
LOCK UP■東京・新木場1stRING(18:30)
ZERO1・MAX■長崎・長崎NCCスタジオ(18:30)
DRAGON GATE■沖縄・那覇簡易保険センター(13:00)
グレート■埼玉・バトルスフィア(18:30)
東海プロ■愛知・名古屋総合体育館(13:00)
DEEP■愛知・Zepp Nagoya(16:00)
新日本キック■東京・後楽園ホール(17:00)

※主催者側の都合により、時間等変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。 また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

KAMIPRO column

kamipro.column

イラスト◎師岡とおる

黄金週間ド直前!! 五月病には〝耐えて燃えろ!〟

RGMのレイザーラモン 英知自慰（えいちじい）

第7回 惨劇! RGMがババ・レイのチョップで瀕死寸前!

イラスト◎出渕誠

「マンガじゃないんだから……」ありえないことが起きたとき、人はそう言う。「格闘マンガじゃないんだから……」これはあんまり言わないですよね。しかしその言葉に値する出来事が起きた。

3月9日『ハッスル・ハウスvol・12』（後楽園ホール）、RGのプロレスデビュー直前の控室。僕はガチガチに緊張していた。無理もない、HGと違ってRGはただの小太りのオッサンだ。しかも〝聖地〟後楽園で世界のケンゾー・スズキとシングル! 落ち着かないので部屋の隅っこで黙って座っていた。

すると、ある選手がチーム3Dのババ・レイ選手を呼び、こう言った。「RGがババの悪口言ってるぞ!」ヨーヨーヨー、悪ノリすぎますヨー! 言ってないですヨー! すると選手たちが「RGがババはプロレス下手、だって!」「おまえなんかすぐ勝てる、だって!」とつぎつぎウソをチクリ始めた。

ついにババがもの凄い形相でこっちにきた! やばい。冗談通じないのかな。あの極太の身体が眼前で僕を睨みつけてる。あぁ、俺死ぬわ……。嫁、子どもごめん……。プロレスファンとして後楽園で、元WWEスーパースターに殴られて死ぬなら本望。覚悟を決めよう!

と、そのとき破顔一笑。ババが満面の笑みで握手を求めてきた。なんだぁ〜ノリわかる人じゃん! だが握手をしようとした瞬間、バッツィィィーーーーン!! 「ギャアアアア!」RGの胸にチョップが炸裂! 控え室は大爆笑だ。たしかに笑いは緊張と緩和の使い分けが重要だけども。

激痛の中、発した言葉は「I will die……」。それ聞いて、ババはゲラゲラ笑ってる。痛さのあまり倒れこんだが、骨や筋肉ではなく、表皮が尋常でない痛さ。

このとき人気格闘漫画『バキ』（板垣恵介）を思い出した。柳龍光というキャラの〝鞭打（べんだ）〟という技だ。腕が液体になったようなイメージで鞭のように叩きつける。柳の師匠曰く「鞭打ちの刑というのはたいてい数発、鞭で打たれるだけで人は死んでしまう。ショック死である。激痛のあまり、脳が死を選んでしまう。（中略）鍛え上げられた筋肉があっても耐えられぬ痛み、それが人間の全身を被う、皮膚への攻撃である」。主人公のバキは鞭打をくらって皮膚が裂け激痛に襲われた、というエピソード。

まさにいまのチョップと一緒だよ! 胸は紫色になり、ところどころ皮膚が裂けてる! 僕は心の中で「格闘漫画じゃないんだから……ありえない!」と叫んだ。

レスラーの方々が言うにはババのチョップは世界トップクラスの痛さらしい。実際、ババのチョップを受けた田中将斗選手の胸も皮膚が裂けていた。僕があと何発かチョップを受けたら、脳は死を選んでたかもしれない。

でも、試合直前、廊下でババとすれ違ったとき、ババは僕の肩を叩いて「ユー・アー・ウォリアー!」と言ってくれた。涙が出そうになった。試合前なのに胸にアザができてたので不思議がられたが、そんな嬉しい激痛を伴うエピソードがあったんですよ。

試合では健想選手のチョークスラムをくらい……。世界の痛みを知った、マンガのような一日だった。だが世界の痛みは数日間続いた……。ヨーヨーヨー……。

Izubuchi Makoto◎出渕誠（レイザーラモン）
吉本興業のお笑いコンビ。『レイザーラモン』HGの相方、RG。「ヨーヨーヨー!」「フォフォフォフォー!」をキメ言葉に絶賛活動中。ハッスルではついにGM職である“RGM”にまで登り詰めた。

第7回

キニョネス、レイスそしてハンセン

立ち読み注意されたから、チェーンソーで暴れるって凄いね

花くまゆうさく

リングの汁

週プロ、週ゴン、ファイトなどの速読立ち読みをしなくなり、テレビでやってても見ないし、もうすっかりプロレスがなくても平気な人生になってますが、それでもビクター・キニョネス急死をサムライTVの『ニュース侍』で聞いたときは動揺した。

本屋でハーリー・レイス自伝を目にしたときも、思わず手に取った。レイスは最高だよね。レイスだけのDVDとかクエストで作ってくれないかな、ヒストリー・オブ・レイス。

ガセネタメール西澤（孝）氏ですが、私が10年前に体育館とかでグループで柔術の練習してたとき、一回だけ彼が練習に参加してたことを最近知りました。全然、覚えてないけど、だったらスパーしてたのかしら？　あと、ちょっと前に捕まった一部で有名な演劇ストーカー加藤（康介）も、去年うちに変な電話してきたなあ。と、最近ビミョーに事件とミニリンクしてます。

最近といえば、練習前や試合前など運動前にストレッチするのはダメだって理論を知って、戸惑ってます。みんな、いまどうしてますか？

十段欠場で夢のカードが消えてしまった『PRIDE武士道』をPPV。石田光洋選手の入場曲が『さくら』（森山直太朗）でなくてよかったぁ。こないだの修斗代々木大会で『さくら』が3回流れたときは、どんよりげんなりしたから（石田選手は好青年で好印象だけど、個人的にあの曲は苦手）。その石田選手、快勝＆好青年マイクで幸先よいPRIDEデビューとなりましたね。つぎの煽りVは、好青年キャラを前面に出すのかな？

アライケンジのショートタイツとルイス・アゼレードの髪型に、なにか理由なき違和感を感じたり、やっぱヨアキム・ハンセンはステキだと思ったり、アゼレードは五味戦、ハンセン戦と倒れっぷりが芸術的で名勝負製造機だな、とか。近藤残念＆美濃輪おいしいなぁ、とかいろいろ感じつつ、メインの五味完敗へ。

パンチにドンピシャリ合わせたマーカス・アウレリオのタックルがすべてでしたね。グラウンドで上になったらアウレリオの独断場。お見事お見事。でも五味選手に柔術が完勝したのは嬉しいけど、いまの五味に勝つのはハンセンでいてほしかったなぁ。あとKIDにもこういう感じで誰か寝技で完勝してほしいな。

Hanakuma Yusaku◎またロシアに行ってきます。

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの ぶっかけ！ 格闘裏情報

第6回

私だけが知っているUFCの舞台裏

ここ最近はリアリティ・ショー効果も手伝って、一般的な知名度が高まり飛ぶ鳥を落とす勢いのUFC。それに比例するかたちでプロモーション・クオリティも高まりつつあります。しかし、かつて私が何人かの日本人選手をブッキングしていた当時のUFCは、彼らの強引でちょっぴりズサンな手法に唖然とさせられたこともしばしばでした。

なかでも印象深いエピソードと言いますか、苦い思い出として心に残っているのは、高瀬大樹選手が参戦したときのことです。99年7月26日、UFC26。高瀬選手はジェレミー・ホーンの対戦相手として渡米するも、もともと中・軽量級のカテゴリーされるファイターであったため、ホーンとは15キロ近く体重差がありました。そこで試合は前日に迫りながらも、運営側が地元のコミッションから安全面を含んだ疑問が投げかけられたのは必然でした。あらためてほかのカードとシャッフルする案も検討されましたが、その大会のコンセプトは、オハイオ州出身の選手が外敵ファイターを迎え撃つというラインアップ。

カードの組み替えはコンセプトを破壊する行為につながるため、どうしても高瀬選手はオハイオ出身のホーンと向き合わなければならない状況にさらされました。

結果、高瀬選手は善戦むなしくホーンに敗れました。ヒジ打ちありのUFCルールに加えて、圧倒的な体重差。まさに凄惨という二文字が当てはまるデンジャラスな試合内容の影に、じつはUFC25のレフェリングも潜んでいました。

というのは、前回の放映でPPV視聴者から「ストップが早い！」というクレームが殺到したため、UFC26では全体を通してストップが遅めのレフェリングが施されたのです。ひいてはそれが試合の凄惨さを助長させることになったのでした。

試合後、私は顔面を負傷した高瀬選手とともに病院へ直行しました。不幸中の幸いとでもいいますか、高瀬選手は大事には至らなかったですが（高瀬選手を残し、宇野君と小路を連れて帰りにTKのいたAMCに寄って帰りました）、そこでまた予想外のトラブルが発生したのです。

当時は500ドル以上の治療費の場合はUFCが補填し、その額を超えれば選手当人の支払い。そのままファイトマネーから差し引かれることになっていたのですが、なんということでしょう。UFCは私に治療費の明細書すら見せることなく、TAXが引かれ、病院に直行したため尿検査ができなかったことを理由にそのぶんも差し引かれ、なんと高瀬選手に100ドルしか支払う意思がないことを一方的に通達してきたのです。

ちなみにその試合のファイトマネーはたったの1000ドル。当時のUFCの組織規模ではそれが当たり前の価格でした。あまりの仕打ちにその後UFCとは幾度となくやりとりを交わしましたが、何かがやっとエアメールで送られてきたかと思えば、それは明細書どころか尿検査キット！。

高瀬選手はたしかに試合後の尿検査ができなかったのですが、そんなマメさを総合的に行き届けてほしいと思ったものでした（笑）。

椎名基樹のサムライ三昧

第4回

女子プロの現状とグレートな男

ワイドショー等でご覧になった方は多いと思うが、シンガポールの武道家一族が、極真空手の秘伝書を探して、青森県の山で遭難し保護された事件には、久々にロマンを感じさせられた。なんでも、父親が亡くなるとき、盗まれた秘伝書を日本の空手家から譲り受けてほしいと頼んだそうであるが、極真には秘伝書はないそうで、流派が違うか、もしくは大山倍達総裁の著書「Ｔｈｉｓ ｉｓ Ｋａｒａｔｅ」（日本語翻訳書名『秘伝 極真空手』）の可能性もあるそうだ。

僕もその可能性は非常に高いのではないかと思う。だとしたら、秘伝書として珍重していたものは、ただの出版物であり、それほど価値があるものではなかったということになる。そのマヌケさに感動してしまう。ドラえもんで、のび太にビー玉をもらった宇宙人が、ビー玉は彼の星ではタイヤモンドの価値があり、凄く喜ぶ話があったかと思うが、普段自分が価値ありとみなし、そうすることで同時に自分の価値も計られてしまうような基準が崩壊することで、気持ちが解放され楽になるような気がする。根本敬氏いうところの「ゴミの中にこそ宝がある」といったところだろうか。

そんなロマンを久々に全女のメンバーが集まった「前川久美子引退記念興行」に感じた。前川の最後の相手を高橋奈苗が務めたワケであるが、高橋勝利で試合終了後、前川に握手と見せかけて高橋がさらに攻撃、「みんな入ってこいよ」と呼びかけて、他のメンバーがリングインして、次々と前川をなぶる全女引退マッチのお約束！　最後は右目を青タンで腫らした前川にキャメルクラッチをかけて口や鼻に指を突っ込んで「へんな顔」にして全員で記念撮影！　熱すぎる、濃すぎる、バカバカしすぎる。いまどき、こんなダサいことをしている人たちが他にいるだろうか？　僕が彼女たちに釘付けになってしまうのは、愛おしいという感情なのだろうか？　前川の最後のコメントは「会社が倒産していい思い出はあまりない。でも全女魂は不滅」。こんなに昭和な全女魂が不滅であってほしいと僕も切に思う。そして今後を聞かれて前川は、総合、キックの参戦を視野に入れながら「しばらくは海の家でバイトでもしたい」そうである。完璧すぎるよ。心が洗われる思いです。

サムライＴＶを観ていて、最近僕がこんなふうに心を奪われてしまうほとんどは、女子プロレスラーだったりする。たとえば、植松寿絵選手。最近は常に前髪を4本真上に立てていて、なんだかバイキンマンか虫歯のキャラクターみたいである。それにしても、思い切ったキャラ作りである。髪型だけでなく、醸し出す雰囲気も、ズバリ言って男性ホルモンむんむんというか、とても常人には見えない。やはりこのシャバっ気のなさは、プロとして立派であり、圧倒される。ここでも女子プロの世間から離れた、異様な迫力を感じる。

さらに先月号の本誌でレポートがあったが、女子プロの興行を手がけた二見氏という人の暴走ぶりも凄かった。自分の手がけた興行での前川だか堀田だかの態度が気に入らなかったとかでキレているのだが、どう見てもガチに見える。完全に狂っているように見える。だから思わず見入ってしまったワケであるが、でも堀田との言い争いは完全なガチとも言いがたく見え、どこか違和感がある。それは堀田のほうが二見氏と絡むことがまんざらでもなさそうに見えるからだ。「まんざらでもない」というのは、自分の興行のアングルとして、少しでも盛り上がる材料として、完全ガチに狂った二見氏を利用しようというふうに見えるのだ。たしかにそのおかげでサムライＴＶが取材に行き、僕の目に届き、ちょっとした事件を見たやじうま的興奮を味わったワケだが、もし堀田がそうした意図で二見氏にからんでいるのなら、なんと末期的な女子プロレスの現状だろう。この寂れた感じが、僕を惹きつけるのかもしれないが、植松を見ても他の若い選手を見ても、プロレスの技術は素晴らしいし、男子よりも客を相手に試合ができるし、他のジャンルにない普通じゃないプロの怪人を作り出す熱意が女子プロにはあるし、それを求める客もいるのだから、誰かが一つにまとめてあげないと、なんだか選手が可哀想な気がする。

そして、男子プロレスラーで、唯一僕を惹きつけて止まないのは、やはりこの人、グレートことザ・グレート・サスケだ。最近のサスケは本当に狂ってる。何かこの人は周期的に狂うんじゃないかと思う。試合で、なんだか高いところに登って飛び技を出すでもなくじっとしていて、椅子を投げつけられカクタス・ジャックばりの勢いで床に叩きつけられたり、自転車でもの凄い勢いで階段を降りクラッシュしたり、ゴミ用ポリバケツに自分から頭から突っ込んでみたり、道路にまで出て乱闘したり、いったい何がしたいんだかさっぱりわからない。だからこそ見ていて最高におもしろい。それは全盛期のとんねるず・木梨憲武を彷彿させるスラップスティックぶりである。何かの怒りをプロレスに、自分自身の身体にぶつけているように見える。サスケには近々何かやらかすような気配がある。

比較的熱心なサムライTV視聴者の椎名さんも気になる存在だというT-1の二見社長。3・19ONLY ONE後楽園大会では因縁の堀田祐美子と大乱闘。怒りの収まらない堀田は、その後、コスチューム姿で後楽園から徒歩5分の二見社長経営のチケットショップに乗り込み、またしても大舌戦。その後、二見社長は5月3日にワンマッチ興行の開催をブチ上げた。

ここ最近のサスケは本当に狂っている！　高いところからの転落、ママチャリでの爆走&クラッシュ！　路上での乱闘も当たり前！　とにかく、一瞬たりとも目が離せません!!　サスケ、ボンバイエ&グレート!!

Motoki Shiina
◎なんだかんだ言ってサムライ三昧な毎日と言えるかも。あとはとくにありません。以上。

世界に羽ばたく夫婦コラム

チーム鈴木の明るい未来

KENZO HIROKO

メキシコCMLLは日本の大相撲!?

Suzuki Kenzo&Hiroko
◎アメリカ・フロリダ州在住。WWE退団後、ハッスルを主戦場に活躍し、春からはメキシコCMLLにも参戦する。

浩子　今年の春はメキシコで新しいことが始まるじゃない？　試合はこれまでもしてるけど″レギュラー参戦″は初めてだもんね。

健想　そこなんだよ。ちょこっと行って、何試合かしてくることと″レギュラー参戦″するのは別。友人としてやビジネスとして人間関係で呼んでる″ゲスト″の場合、絶対悪い扱いなんてしない。そこそこの取組みを一つ、二つ組んでやりゃ良いって感じで。けどそのレスラーをレギュラーで雇うかとなったら話は別。一番大切なことは、″客を沸かせられるか″ってこと。日本みたいに″とりあえず雇っておこう″はない。一、二試合来るだけなら良いけど、雇うとなれば経費だってかかる。だからそこで本当にレギュラーで雇ってもらって初めて″参戦″なんだと僕は思う。

浩子　確かに、実際に海外の団体にいたとき、そういうのを感じたね。日本側では″特別で丁重な扱い″って受け取ってて、向こう側では″お付き合い″で、そこまで力を入れてないっていう……。ところが、日本では″大反響″みたいに書かれるからガッカリするというか……。

健想　ダメなときは「ダメだった。全然沸かず」でいいはず。そうすれば、本気で行って、本気でやってる人間の糧になる。みんな「俺は絶対沸かせる！」ってモチベーションになるんだから。そういう意味で、俺はメキシコ行きを楽しみにしてる。メキシコはレギュラーで参戦するってことに凄い意味のある場所だと思うよ。現場の空気は人からまた聞きしてたのとは違っていて、刺激的で、僕の知らないプロレスだった。

浩子　メキシコではプロレスが国技でしょ。ずいぶん浸透してる気がするし、そのぶん、進化しててルチャっていうアクロバティックなプロレスしてるのかなって。

健想　ところがそうじゃないんだよ。アメリカもそうだけど、浸透してるからこそ、もの凄くプロレスはシンプル。力道山、猪木さんのあの時代のような一見客のファンや子どもたちも大喜びするシンプルなプロレスを好む。

浩子　進化しちゃったのは日本のプロレスのほうなんだよね。

健想　そもそもプロレスは戦争に深く結びついて発展してる。日本も第二次大戦でアメリカに負けて、力道山がアメリカ人をなぎ倒すのに民衆は熱狂した。メキシコも、スペインの侵略にあって。古代アステカの戦士がマスクを被って戦っていたことから、メキシカンは英雄のマスクを被って小さい身体で敵をなぎ倒す。

浩子　ドでかいアジア人の君は本当にわかりやすい悪役なわけだ。

健想　しかも会場では一日中プロレスショーをやってる。休憩が30分位あって。

浩子　日本の大相撲みたい。

健想　その間、子どもたちがリングに上がって遊んでるんだよ（笑）。レイ（・ミステリオ）も昔、リングで遊んでたって。

浩子　そうして子どもたちの中に小さな頃からプロレスが根付くんだね。

健想　ファンは一日中会場でプロレスを観てる。

浩子　国技なんだねぇ。健ちゃんも去年はメキシコの最優秀外国人賞獲ったんでしょ。大手の新聞にまで大きく取り上げてもらって。

健想　でも、去年はスポット参戦だったから話が別。ここからが本当のメキシコ挑戦。どうなるか、こうご期待！

イナズマKの

第7回

頭の″剣山″は男の証！　佐々木貴

Inazuma K
◎5月4日に外苑前OFFICEでDJイベントやります！一緒に宇宙行きましょう！

長いあいだ、同じ団体を見続けていると最初はあまり気にもかけてなかったような選手がある日突然、「おや、この人いいんじゃないの？」的にバケる瞬間に出会うことがある。「全然嫌いだったアイツが、こんなに俺のハートをくすぐるヤツだったなんて……」こんな瞬間に出会えるからこそプロレス（格闘技もだけど）を観るのをやめらんねーのかもしれません。

で、今回ピックアップする佐々木貴も先日のアブドーラ小林とのデスマッチ・チャンピオン戦で、めでたく我々のハートをがっちりつかむ選手の仲間入りを果たしたのです。

彼はもともとDDT生え抜き選手として活躍、タノムサク鳥羽らと良い試合をしてたわけだが、やがてエンタメ色の強いDDTではなく、違うフィールドで自分を試したいと思いDDTを退団。アパッチプロレス軍入りした経緯がある。

元々レスリングのうまい選手ではあったけれど、そういうプロレスラーなら上には上がいるわけで、いまひとつ殻から抜けきれない印象もあった。それが一線級のデスマッチファイター揃いの大日本プロレスに参戦したあたりから、彼の心に変化が現われた。

最初はGENTAROとのアカレンジャーズとして前座を温めていたが、地方の会場に行っても毎日のように蛍光灯で血まみれ全力ファイトをする伊東竜二の姿にどんどん惹かれていった、という。

「DDTを飛び出しながら、中堅に収まっていたら意味がない」と感じていた彼は昨年、突如デスマッチ戦線に名乗りをあげる。

だが当初の大日本ファンの反応といえばブーイング。それは「デスマッチなんて、蛍光灯や有刺鉄線に突っ込みゃ誰でもできるでしょ」という見方に「そんな簡単なもんじゃないんだよ、もっと奥が深いんだよ！」と異を唱えるデスマッチファイター&デスマッチフリークが多いという背景がある。

このころの佐々木にも大日本ファンの大半は「デスマッチをなめるな！」的な見方が多かった。だが彼は本気だった。半年くらいで身体は傷だらけ。念願の伊東との「蛍光灯300本マッチ」では壮絶なファイトで観客の支持を集めたが、一部にはブーイングを飛ばすファンが残っていたのも事実。

そして今回のアブドーラ小林との「蛍光灯&剣山（210個！）マッチ」。これが想像以上の魔裟斗vsレミーガ戦のような突き合いとなった。なんと脳天から剣山の上に落とされた佐々木は、頭と背中に剣山5個がグッサリ。頭に突き刺さった剣山はどんどんめり込んでいく。

そのまんまで小林と2・9プロレスを展開し、会場は大タカシコール爆発。そして勝利を奪取したのだ。巻き起こる大日本コールの中、マイクを握って「オレが大日本を熱くする！」「頭の剣山？　改造人間みたいでかっこいいじゃないかよ！」と発言。アパッチプロレス軍でありながら大日本を心から愛する彼の思いは、ついにすべての大日本ファンの心をつかんだ。

プロレスの魅力が受けの美学だとするなら、剣山を頭に突き刺したまま壮絶レスリングを展開した彼を賞賛しない手はないでしょ。この人、ここからさらに凄いとこまでいっちゃいそう。本間が抜けた穴をどこか引きずってる大日本ファンってじつはまだいて、その人たちの溜飲すら下げてくれるかも。そんな期待すら感じてしまう佐々木の狂い咲きマンセー!!

3月31日、大日本プロレス（後楽園大会）のメイン「蛍光灯&剣山デスマッチ」vsアブドーラ小林戦に勝利した佐々木貴の勇姿。左は試合後も佐々木の頭部に突き刺さった剣山！

掟ポルシェの萌え萌え女々苑

イラスト◎ゴローちゃん

鷲沢萌！　佳村萌！　ついでにもひとつ山口もえ！　世に蔓延する萌えブームの火付け役コーナー、それが『萌え萌え女々苑』（明らかな嘘）！　今回のゲストはKAIENTAI—DOJO所属のバンビ！　そこのお父さん、山本淳一とカン違いしてないでしょうね！　それはバンジ！　試合用コスチュームに白いワンピースをあえて選んだ、バンビの心意気に萌死にさせてもらいまっす！

掟　最近、コスチュームを白いワンピースに変えて一部ではミミ萩原二世なんて呼ばれてるみたいですけど。

バンビ　やっぱり、どうせなら目立ちたいじゃないですか。それに私は前回出てた風香ちゃんじゃないんで、ズルイんですよ（笑）。一番強くなんなくていいけど、一番目立ちたいんで。

掟　最近の女子プロ選手の水着は、ヒラヒラとかフリンジが付いてるのが多いんで、逆に新鮮ですよ。

バンビ　意外とみんな似てるんですよね。ワンピースもなんか着させられてる感じだし。じゃあ、あえて着ちゃえって。それで私、ミミ萩原のファンサイトとか見たんですよ。

掟　おっ、勉強熱心！

バンビ　そこで見たミミさんのコスチューム姿がすっごい美しくて。白い布一枚がこんなに美しいのかって。いまは誰も着てないし、ちょっといただこうって思って作ったんです。ただ、当時の映像を見て勉強したいんですけど、なかなかなくて。それにホントはミミさんを完全コピーしたいんですけど（笑）。

掟　ミミ萩原完コピ！　バンドマンの発想ですよね、それ。

バンビ　近い時代の人とかだと「真似」とか言われますけど、そこまで古いと知らないだろうし、当時見てた人は嬉しいんじゃないかなと思って。

掟　このページでお願いしておきましょうか。ミミ萩原の昔の映像をお持ちの方はぜひ、『kamipro』編集部まで送ってください！　そんなバンビ選手ですけど、元々は全日本プロレスに入りたかったんですよね？

バンビ　全日本というか超世代軍に入りたかったんです（笑）。

掟　一言で言うのもなんですが、無理ですよね（笑）。

バンビ　進路相談のときに言ったんですよ。「超世代軍に入ります」って（笑）。

掟　ガハハハハ！　就職先として激しく不適当です！　ちなみに、先生はなんて言ってました？

バンビ　「いやいや、そういうことじゃなくて！」って（笑）。

掟　実際に全日本には履歴書を送ったんですよね？

バンビ　馬場さん宛てに送ったんですけど、和田京平さんから「女の子はダメです」って手紙が来ました（笑）。

掟　トチ狂った手紙にちゃんとした返事が（笑）。でも、そんな枠はないっていうのは自分でもわかりますよね？

バンビ　なんとなく。あきらめが悪くて（笑）。やらないで後悔するんだったら、やってみようと。

掟　でも、それって俺がモーニング娘。に入りたくて、履歴書をつんく♂に送るようなもんですよね（笑）。

バンビ　近いですね（笑）。でも可能性はまったくないわけじゃないじゃないですか（真顔で）。それによって日本初の女子マネージャーになれたかもしれないし。スタッフじゃダメなんですよ。あくまでも超世代軍でありたかった（笑）。

掟　それ、進路指導の先生じゃなくて病院の先生が必要なレベルです！

バンビ　最近ようやくわかってきました（笑）。

掟　ちなみに、超世代軍にもし入れたらどのへんのポジションを狙ってたんですか？

バンビ　自分のイメージでは……小橋さんの下ぐらいの感じで。

掟　菊地選手よりは上なんだ（笑）。

バンビ　イメージではそんな感じでしたね（笑）。

掟　ゼロ戦キックもナメられたもんです！　学生時代はどんな子だったんですか？

バンビ　友だちが一人もいなくて……。

掟　あら。風香選手と近いですね。やっぱり……イジメられたり？

バンビ　イジメられる人っていうのは、まだ相手にされてると思うんですよ。中学のときとか、私に話しかけた人が、違う人に「何、アイツに話しかけてんだよ！」って言われるような子でした。話しかけてもいけないグループみたいな。

掟　うーん……それじゃあ、学校行っても楽しくないでしょうね。

バンビ　はい。だから、大人になるまで「友だちっていいな」とかっていうのが全然わかんなくて、そのまんまおっきくなったって感じで（笑）。

掟　その当時、一人で何して遊んでました？

バンビ　絵を描いてました。スプラッタ系の漫画とか。

掟　「みんな死ね！」って（笑）。

バンビ　無差別殺人な感じで（笑）。

掟　良かったですね、プロレスに出会えて。これまでさんざんイジメられてきたみたいですけど、女子プロ界は強くなればイジメられなくなる世界ですからね。

バンビ　でも、逆にいまはちょっとイジメられたいぐらいなんですよ。なんでかっていったら「バンビ、負けない！（可愛らしく）」ってやりたくて。ミミ萩原みたいに（笑）。そのためには誰かやっかんでくれたりとかしてくれたほうがいいかなって思うんですけど。

掟　潰しにかかってくれるヒールがいて、初めてベビーフェイスが輝くわけですからね。あの、いまの目標ってありますか？

バンビ　女子レスラーって、犬飼いますよね。なんかみんな寂しがり屋で、ちっちゃい犬飼って。あれって王道ですよね。

掟　犬を飼うのは女子レスラーのステータスですからね！

バンビ　女子レスラーになったからは、1回は犬飼わなきゃいけないと思ってます（笑）。ベルト獲る目標とか、そういうのちょっと下のほうの目標（笑）。

掟　正しいです！　一日も早く、後輩がバンビさんの飼ってる犬を「さん」付けで呼ぶことを祈ってます！

第6回
バンビ（K-DOJO）の巻

■ばんび。本名は非公開。9月21日生まれ。乙女座O型。170cm、60kg。平成12年にDDTに入門、「昭和」子として活躍。4年被っていたマスクを脱ぎK-DOJOに練習生として入門。平成17年5月21日、千葉・Blue Fieldでのvsお船&中川ともか戦で再デビュー（パートナーはアップルみゆき）。GET所属。K-DOJO以外にも息吹、GIRLS DOOR、格闘美など様々なリングで活躍中！　バンビ公式サイト→ http://www.uran.org/bambi/

こちらが噂のバンビのコスチューム姿。『kamipro』NO96で登場したミミ萩原（現・聖矢）を意識したという、ここ最近では珍しい白のワンピースタイプ。バンビとしては『kamipro』初登場だが、かつては別名でピンナップやコラム、観戦記も執筆経験あり。"21世紀のセクシーパンサー"のさらなる活躍に期待！　3、2、1、バンビ、バンビ！

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）
ロマンポルシェ。ライブ情報！　6・17三軒茶屋ヘブンズドア。対バンはこけしDo−l（from札幌）など。現在フジテレビ系毎週土曜23時〜の新番組『くるくるドカン』に思い出したようにたびたび出演中。その他諸々の出演情報などは掟ポルシェBLOGをご参照ください！　【http://blog.excite.co.jp/porsche】

アメプロ★ウワサルーン
～特別編～

WRESTLEMANIA22 in Chicagoに

世界最高のプロレスの祭典でWWE最大の遺恨は決着したのか!?

地上最高のプロレス祭典『WRESTLEMANIA』(『WM』)にホセとミゲルが殴り込み！　現地アメリカのプロレス熱を肌で感じた二人が今月は熱く語ります！　さらに『WM』前日に行なわれたROHの大会にも潜入したので、その違いも堪能してください！

ホセ　口は悪いがプロレス魂を持つ熱い男。広い情報網を持ち、行動力もある。

ミゲル　プロレス業界内部と太いパイプがあるクールな男。最新情報をいちはやく握る。

パンチョ　他の二人の情報に「へぇ～」とか「はぁ～」とか言ってることが多い。

イラスト○エロコエロオ／Photo○George Napolitano

大歓声のブレットと大ブーイングのシナ

パンチョ　え～、今月は『WRESTLEMANIA22』を観戦したホセとミゲルの土産話スペシャルということで、なんと大幅増の3ページですよ！

ホセ　お土産も買ってきたから、読者プレゼントに出してくれ。

パンチョ　うわっ、ビンスがフィットネス雑誌の表紙になってる！（笑）。

ミゲル　とても60歳になる人間とは思えない肉体だろ。まあ、あとでじっくり話すけど、ビンスは凄かったよ。

パンチョ　今回の会場はシカゴですよね？

ミゲル　そう。大都市なんだけどあまり盛り上がってなかったなぁ。地下鉄に中吊り広告がいくつかあるぐらいで街全体で盛り上がってるような感じではなかったね。会場は郊外で周辺には何もないところだったから、余計に寂しかった。

ホセ　となりのスーパーマーケットよりも小さい施設だったから、ホントにここでやるのか？　と思ったけど、中に入ったら大きかったよ。まあ、でも『WM20』のNYの盛り上がりに比べると寂しかったな。俺もほとんど街の中でプロレス関連のものを見かけなかった。唯一、ふらっと入ったレコード屋でもらったフリーペーパーで、クリス・キャニオンが「俺はゲイだ」ってカミングアウトしてるのを見たぐらいだよ。

パンチョ　キャニオンはWWEを退団してるから『WM』とまったく関係ないじゃないですか（笑）。まあ、それはともかく『WM』前日に殿堂入りのパーティがあったんですよね？

ホセ　俺は行けなかったんだけど。盛り上がってたんだろ？

ミゲル　盛り上がってたよ。ブレット・ハートがスピーチしたかな。

ホセ　ちなみにブレットはノーギャラだったらしい。送られてきた小切手はすべて拒否して、それに同封されてきた契約書も白紙で送り返したらしいよ。

ミゲル　徹底してるなぁ（笑）。会場にはHBKも来てたんだけど、ファンからは「YOU SCREW BRET！（お前はブレットをはめた）」の大合唱だったな。聞いたところによるとHBKはブレットが登場する前には会場を出てたみたいだね。

ホセ　今年殿堂入りしたのはブレット・ハート、エディ・ゲレロ、トニー・アトラス、シェリー・マーテル、ブラックジャック・ランザとブラックジャック・マリガン、ミーン・ジーン・オークランド、そして『WM2』のバトルロイヤルに出たアメフト選手のウイリアム・ペリー……。

パンチョ　シカゴ・ベアーズ在籍だったから、今年表彰されたんですかね（笑）。

ホセ　あと、〝帝王〟バーン・ガニア！　歴代のNWA王者とともにAWAの象徴までもがWWEの歴史に飲み込まれるわけだよ。

ミゲル　ミーン・ジーンのプレゼンターとしてハルク・ホーガンが登場して喝采を浴びたんだけど、現役王者のジョン・シナには凄いブーイングが飛んでた。

ホセ　シナは今回の『WM』でメインだったけど、やっぱり凄いブーイングだったからね。対戦相手がトリプルHだから、どうにかしてくれるだろうという期待もあったんだけど、それでもダメだったな。

パンチョ　ヒールじゃないのにそこまでブーイングを食らう原因は何なんですか？

ミゲル　前から言われているように試合はあまりおもしろくないんだけど、もうファンのアレルギーみたいになってるよ。

パンチョ　それでもベルトを巻き続けるんだから凄いですね。

ホセ　まあ、誰しもが通る道だからな。ブ

スピーチでブレットは「プロレスとは信用と尊敬の芸術だ」と語り、97年のモントリオール事件をチクリ。

「ビンスには感謝したい」ブレット・ハートかく語りき
～4･1WWE殿堂入りパーティーより～

ストーンコールドに紹介され、ブレット・“ヒットマン”・ハートが姿を現わしたその瞬間、会場を埋め尽くしたファンの興奮が一気にはじけた。「偉大なるレジェンドたちの仲間入りができることを誇りに思う。犠牲を払いもしたが、与えられたものはそれ以上。チャンスを与えてくれたビンスに感謝したい」とブレットが話し出すと、一言も聞き逃すまいとファンは静まりかえる。この日食べたフォーチュン・クッキーに“旧友との再会は吉”と書いてあったというブレットは、父スチュ・ハートが経営した道場や亡き弟オーエン・ハートとの逸話を数々披露。「We love Bret」「We love Owen」とチャントが起こる中、遠征先でオーエンと訪れたストリップ・クラブにビンス・マクマホンが登場した話になると、会場スクリーンにはバツの悪そうなビンスの顔が大映しに。また、ファンから「One more match!」との声が上がると、「闘いたいところだけど」とやんわり否定。“スクリュー・ジョブ”に言及する場面はなかったが、レスリングへの愛と、家族、ファン、WWE、そしてビンスへの感謝を述べたブレット。8分以上にもわたったスピーチは終始笑いに包まれ、割れるような歓声と拍手の中、Hallof Fame式典は幕を閉じた。

（フリーライター・サトウナオコ）

今回のアメリカツアーMVPはコルト・カバーナだった!?

ーイングを跳ね返すには試合の質を上げないとね。

パンチョ では、今回の『WM』で一番試合の質が高かったのは?

ホセ エッジvsミック・フォーリーでしょう。この試合はまったく期待してなかったんだけど、凄かった! エッジが画鋲の山にバンプしたり、エッジのスピアーが決まって二人で炎のテーブルに突っ込んだり、結構ハードな試合だったんだよ。エッジがグシャグシャにやられたことで、観客のハートを完全につかんだ試合だったな。

ミゲル 「HOLY SHIT」の大合唱だよ。

ホセ 以前、ランディ・オートンがミックとの試合でグシャグシャにやられて評価を上げたけど、まさにあんな感じ。

パンチョ まさにメインイベンターへの通過儀礼ですね。こういう試合がないと、シナも評価が上がらないんだろうなぁ。

ミゲル あとマネー・イン・ザ・バンク戦のシェルトン・ベンジャミンも凄かったよ。あの身体能力の高さはハンパじゃない。

パンチョ なるほど。じゃあ、わりとキャラクターやストーリーで楽しませるというよりも、純粋な試合内容で魅せる試合のほうが良かったということですか?

ホセ たしかにリッキー・スティムボートやダスティ・ローデスをエージェントに起用して古き良きレスリングに回帰しようという試合もある。でも、自分たちが築いてきたハードコアやキャラクターの試合も楽しめた。全体的なバランスは良かったな。

パンチョ サプライズはあったんですか?

ホセ ないね。残念だったのはストーンコールド、ザ・ロック、そしてブレット・ハート『WM』の会場には出てこなかったことかな。現有勢力だけで盛り上げようという意気込みだったのかもしれないけど。

パンチョ 日本で結果を知った僕が一番驚いたのはミステリオがヘビー級のベルトを巻いちゃったことなんですけど。

ホセ 甘い! 俺を含め、あの会場にいた誰もがミステリオが勝つと確信してたよ。あれはミステリオのための試合だった。ちょっと試合が大味で消化不良気味だった感は否めないけど。

ミゲル ミステリオは場外の619を失敗したのも痛かったなぁ。勝ってエディへのトリビュートっていう内容だったんだけど、一部からはブーイングも飛んでたよ。

パンチョ そろそろ「いつまでエディに頼ってんだ?」って言いたくもなりますよね。ビンスの試合はどうだったんですか?

ホセ おう、凄かったぞ! イスでガンガン殴られて流血してたよ。ビンスがあそこまでやっちゃったら他の選手も気合いが入ると思うぞ。

ミゲル 息子のシェイン・マクマホンも出てきてHBKに手錠をかけようとしたところでやられて、そこからフィニッシュまで一気に雪崩込んでいく感じだったよ。

ホセ ただ、ビンスとHBKの物語にはやっぱりブレット・ハートが不可欠だったと思う。ブレットの不在でぽっかりと穴が空いてしまったな。去年からビンスがHBKをいじめ始めてて、長い時間をかけてきたわりには決着がアッサリとした印象だった。

ミゲル 試合も攻防はほとんどなくて、途中から一方的な展開だったからね。もうちょっと仕掛けがあったら言うことなかったんだけど……。

WWE以外のオールスター戦 ROHがシカゴで大爆発!

パンチョ ホセは殿堂入りパーティーに行かずに、ROHの試合を観に行ってたんですよね?

ホセ そうだ。シカゴで大会をやってたから観に行ったんだけど、ハッキリ言ってこっちのほうが印象が強かったな。やっぱりROHに集まるファンのメンタリティは基本的にアンチWWEなんだ。『WM』に行きたくないヤツらと行きたくても行けないヤツらが集結しちゃって、エネルギーの発散の場をROHに求めちゃってるんだよ。

パンチョ 凄い濃密な空間ですね。

ホセ 試合前から凄い盛り上がりだったよ。リングサイドに鉄板が張ってあるんだけど、試合開始前から観客がそれをガンガン叩き始めて(笑)。TNAで活躍してる一線級の活躍をしてる選手が大挙参戦してた。

パンチョ 今回はドラゴンゲートの選手も出てませんでしたっけ?

ホセ CIMA、ドラゴンキッド、堀口元気とかあのへんの選手が来て、ROHと対抗戦をやってたな。

ミゲル WWE以外のアメリカンプロレスのおもしろい要素を全部集めたような大会だね。

パンチョ その中で一番良かったのは?

ホセ コルト・カバーナ(笑)。

パンチョ うおっ! ZERO1・MAXにも来ていて、中村(祥之)さんも「あいつは今年中にWWEに行きますよ」と太鼓判を押していたカバーナですね。

ホセ 凄いぞ、こいつ。ROHに出て、『WM』には出てなかったけど、翌日の『RAW』とさらに翌日の『SMACKDOWN!』のダークマッチにも出てたから。大車輪の活躍だよ。

パンチョ アメリカでの評価はどうなんですか?

ホセ 評価は高いね。やっぱりおちゃらけキャラにもシリアスなキャラにもなれるし、身体もしっかりしてるからバンプも取れる。ROHでも初めは何もないところから段々と評価を積み重ねて、いよいよ頂点に登り詰めるという試合が俺が観に行った4月1日の試合だったんだ。その日はCZW代表のホミサイドと、"シカゴ・ストリート・ファイト・マッチ"で激突したんだけど……。

パンチョ 試合のタイトルだけで、やばそうな匂いがプンプンしますね(笑)。

ホセ だろ? イス、画鋲、火、漂白剤がアリという内容だったんだけど、素晴らしい試合だったね。この日のハイライトはホミサイドが場外にエスケープしたときに「このままじゃ俺は勝てないからお前らが座ってるイスを投げてくれ!」って煽ったらリングサイドの四方八方からイスがリングに投げ込まれて、リングサイドのイスがほとんどなくなったんだよ。

ミゲル あぶねえなぁ(笑)。

ホセ 冗談じゃなく俺の頭の上をバンバンイスが飛んでたから(笑)。リング内はサードロープの高さまでイスが積もってるんだけど、その上で最後まで試合をやってたよ。試合の終盤からフィニッシュまで「HOLY SHIT」の大合唱で、最後はカバーナが自分の得意技コルト45でキッチリ

ベビーフェイスのラッパーキャラとして王座に君臨するシナだが苦境に立たされているがトリプルH相手にベルト防衛。

ビンスとキャンディスの肉体美をプレゼント!

ホセのアメリカ土産はなんとキャンディスが表紙の『PLAYBOY』誌とビンスが表紙の『MUSCLE&FITNESS』誌! 力強くマシンでトレーニングするビンスの姿がカラー8ページに渡って紹介されているぞ! この貴重な2冊をセットにして1名様にプレゼント! 応募方法はP.156を参照!

●毎年恒例のWWEディーバの『PLAYBOY』ヌード。今年はキャンディスがやってくれました!(写真右)
●ビンスも『MUSCLE&FITNESS』誌で肉体を披露! 奇跡の肉体を作るワークアウトを紹介している。(写真左)

締めくくったよ。フィニッシュも完璧で、ホミサイドも潔くカバーナのことを認めたから完璧なハッピーエンドだったな。

パンチョ それはたまらないですねぇ。

ホセ サモア・ジョーvsAJスタイルズvsクリストファー・ダニエルズvsジミー・ヤンっていうTNAのトップでやってる選手たちが六角形のリングじゃない普通の四角いリングで試合をやったんだけど、これも凄かった。ずっとハイフライング&ハイスパートの連続で20分以上の試合をやってたよ。時差ボケも吹っ飛んだな。

パンチョ それは見たかったなぁ。ドラゲー勢はどうだったんですか?

ホセ 吉野正人とジミー・レイブとアレックス・シェリーが組んで堀口元気&ドラゴンキッド&斉藤了という6人タッグがあって、ドラゲー勢は日本でやるよりも引き出しの多さが目立ってたよ。CIMA&土井がTNAのXディビジョンの選手にタイトルマッチで挑んだ試合もすごく良かったな。負けたあと、CIMAがマイクで「ROHのベルトはいま一番欲しいベルトだから何度でもお前らに挑戦する」ってアピールしたら、観客からは「また来いよ!」って温かい声援が飛んでたよ。

パンチョ アメリカの目の肥えたファンにも認められたんですね。

ホセ そうだな。正直言って、俺はROHで燃え尽きちゃったな。夕方6時半から試合が始まって12時までやってたからお腹いっぱいだよ。まあ、それはROHの「お前らに殿堂入りパーティは見せないぞ」っていう意地なのかもしれないけどな(笑)。

パンチョ でも、それは最高のプロレス空間じゃないですか。

ホセ そうだな。あらゆる面でWWEよりすばらしいものを提供しようというROHの意地、選手それぞれの意地、観客の期待が爆発した結果だな。日本でもああいう大会はなかなかお目にかかれない。競争相手がいるとそれだけ燃えるというけど、わざわざイベントをぶつけていったROHの意地が選手にも観客にも伝わったってことだろうな。

パンチョ こうやって日本やアメリカでWWE以外の凄い選手が一堂に集まる団体やイベントがあれば、WWEと対抗できる組織になるかもしれないですね。

ホセ まあ、試合の質では勝負できるかもしれないけど、会社としての規模はまだまだ比べものにならんだろう。ビンスも「TNAは競争相手じゃない」と言い切ってるように、まったく相手にしてないんだ。TNAのテレビマッチを見てもストーリーがないし、Xディビジョンで活躍してる選手もフリー選手が多いからな。そう考えるとホントにWWEは凄い団体なんだ。なんだかんだ言いながら会場の盛り上がりも『WM』と『RAW』に関しては凄かったよ。16ヵ国、アメリカ43州から1万7115人が会場に来てるわけだから。

ミゲル 国はともかく、43州っていうのはどうやって調べたんだろうな(笑)。

ホセ チケットの総売上は250万ドル……約3億円だ。会場となったオールステートアリーナの最高動員記録樹立だよ。その模様が90カ国で放映される。最近はテレビの視聴率も上がってるから、ますます勢いが出てきてるよ。

『WM』後のニューカマー登場! ジャマール&ジャイアント・シン

パンチョ 『WM』以後は新たに登場する選手も増えますよね。今年は誰が出てきたんですか?

ホセ 全日本に出てたジャマールがWWEに復帰したな。ただ、以前のジャマールのようなキャラではなくて、K—1に上がってたTOAのような感じのUMAGAってという新キャラになってたよ。あと、OVWでウサマっていう、まんま中東系のキャラだったヤツが出てきて……。

パンチョ ええっ!? そんなことが可能なんですか(笑)。

ホセ さすがに名前もアルマンド・アレハンドロ・エストラーダに変わって、衣裳もスーツになってたけどね。『WM』翌日の『RAW』に出てくる選手は、過去の例を見るとゴールドバーグ、ブロック・レスナー、ステファニーとプッシュを受けた人たちばかりなんだ。だからジャマールも期待していいんじゃないか。さらに驚いたのは『SMACKDOWN!』に出てきたジャイアント・シンだけどな。

ミゲル アンダーテイカーに襲いかかったんでしょ?

ホセ 『SMACKDOWN!』の最後にディバリが連れてきたんだ。あと、サプライズと言えば『RAW』でチャボが引退をほのめかしたことかな。「なんで『WM』で俺の試合が組まれないんだ!」って憤って、『RAW』の試合後は「俺の居場所はここにはない」って出ていくシーンがあったから、なんらかのアクションがあるかもしれない。

パンチョ 『WM』でエディ追悼とかやっといて、凄いことするなぁ(笑)。さあ、そろそろ誌面も尽きてきたので最後に今回のツアーを総括してもらいましょうか。

ミゲル さすがWWEだな、という印象だね。試合だけなら去年よりよっぽどおもしろかったと思うよ。いま出せる選手で精一杯のことをやり切ったと思うからね。

ホセ 一歩間違えるとまったく注目を浴びない『WM』になってたと思うんだけど、そこは選手が踏ん張ったかな。それはそうと、俺はずっと会場でカリートのコスプレをしてたんだよ。

パンチョ は?(笑)。

ホセ カリートのかつらをWWEのネット通販で買って、ホテルにあった朝食のリンゴを持って、カリートTシャツを着てったら「YOU ARE COOL」ってバンバン叩かれたよ。そのたびに「THAT'S COOL」って答えてたんだけどな(笑)。

パンチョ 何やってんですか(笑)。

ホセ 日本とノリが全然違うからね。向こうの人はちゃんといじってくれるし。

パンチョ 日本だってWWEが来日するたびに現われる〝代々木ロック〟(※注:ロックのコスプレをしたファン)がいるじゃないですか。みんな「ロック! ロック!」って大喝采ですよ。

ホセ ……あそこまで目立たなくてもいいんだ、俺は。

パンチョ 何を言ってるんですか。これからは〝シカゴ・クール〟として日本でもやりましょう。

ホセ ……勘弁してくれ。

【06年4月某日、都内某所にて収録】

(写真上)HBKはビンスにキッチリ制裁を加えて見事に勝利!(写真下)線の細い印象だったエッジがミックと激闘を繰り広げた。画鋲バンプは何度見ても痛そうだ。

クルーザー級のミステリオが世界ヘビー級王座を奪取! 天国のエディ・ゲレロに勝利を捧げた。

ひとりで、
悩まないで。

レイチュ

アデランス
ベスト
アドバイス
ブック

THE BEST
ADVICE BOOK

今さら聞けない髪のことはこの一冊で。

ベストアドバイスブック

24時間OK ケータイからも無料

もれなくプレゼント 0120-68-9696

「レイチュ」のテレホンヘアチェック 0120-02-1960

24時間ネットでヘアチェック e-check! 09696.jp

アデランス
www.aderans.co.jp
J-Hair 日本毛髪業協会加盟

小さな団体ZSTが生んだ2大ヒーロー
国境を越えた親友対談実現!!

所英男×レミギウス・モリカビュチス

"小さなヴォルク・ハン"
Hideo Tokoro

"小さなミルコ"
Remigijus Morkevicius

ともに小さな団体ZSTで育ち、いまや『HERO'S』やK－1 MAXのメインイベントを張るまでに成長した世界の所さんとレミーガ。ほんの少しの英語とジェスチャーでの会話で、リングを降りても仲がいい親友同士の二人が、初めて通訳を介してたっぷり語り合います！

聞き手／堀江ガンツ
撮影／乾晋也
通訳／浜田良太
design by さおとめの事務所

――今日は日本とリトアニアが誇る2大スター1の対談が実現できて、たいへん光栄です！

所　そんな全然、大スターじゃないですけど……。

――何を言ってるんですか、片やK－1 MAXのメイン、片や『HERO'S』のメインを張った二人ですからね。これはもう格闘技界の頂上対決ですよ（笑）。

レミギウス　ボクはまだメインイベントのリングに上がってないから（この対談は魔裟斗戦の3日前に収録）、大スターはトコロのほうだね（笑）。

所　いや、レミギウスのほうは魔裟斗選手と闘うホントのメインですけど、僕の場合は『HERO'S』のメインというか、試合の順番が最後だっただけのような気がするんですけど……（笑）。

――日本武道館のメインぐらいじゃ満足できませんか？

所　いやいや、全然そんなことないです！　でも、武道館のメインって改めて考えると凄いですよね。高田さんvs北尾さんとか、そういう凄い試合をやる場所なんで。

――もっとさかのぼれば、アントニオ猪木vsモハメド・アリも武道館ですからね。

所　あ！　そういえば、そうですね。うわぁ……。

――でも、じつは猪木vsアリはメインじゃなくて、なぜか最後はヤマハブラザーズ（山本小鉄＆星野勘太郎）の試合だったんですけど（笑）。

所　そうなんですか。じゃあ、僕は山本小鉄さんの立場だと思います（笑）。

――それにしても、このお二人がK－1、『HERO'S』といったメジャーな舞台で大活躍するというのは、冗談抜きで感慨深いですよね。

所　はぁい、そうですね。

BRUCE
JUNFAN GUNG FU
JEET KUNE DO
LEE'S
adidas
これより先は
ご遠慮ください。
Do not enter beyond this point.

レミギウス　やっぱりトコロとボクはZSTの第1回大会から上がって、ずっと一緒に頑張ってここまでのし上がってきたわけだから、トコロが『HERO'S』で勝ったときは身内が勝ったかように凄く嬉しかったし、負けたときはとても悲しかったからね。

所　ボクもレミギウスが勝ったら嬉しいし、負けたら悔しいというのはありますね。それにレミギウスがいなかったら、前田さんや谷川さんがZSTを観に来ることもなかったと思うんで、ボクが『HERO'S』に上げていただけるようになったのはレミギウスのおかげでもあるんですよ。

――そういえば、前田さんと谷川さんはレミギウスをスカウトに来たんでしたよね。そして、ついでにその日いい試合をしていた所さんも（『HERO'S』に）上げちゃおうか、と（笑）。

所「いまならレミギウスと一緒に所がついてくる」って感じで、『HERO'S』に上がれることになりました（笑）。

――前田さんというのは、リトアニアでも有名なんですよね？

レミギウス　そうです。リトアニアのMMAは、まだできて間もないんだけど、そもそもMMAが根づくきっかけはリングスのテレビ放送だったんだ。だからマエダさんは、ヴォルク・ハンと並んで、リトアニア格闘技界のゴッドファーザーのような存在だよ。

――前田さんとハンはゴッドファーザーですか。ちなみに所選手は日本で"小さなヴォルク・ハン"というニックネームがついているんですけど、それについてはどう思いますか？

レミギウス　それはいいニックネームだと思う。もともと、"ヴォルク"というのはロシア語で"狼"という意味で、トコロは動きが速くてデンジャラスだから、トコロが名乗ってもいいんじゃないかな。

――"ヴォルク"を襲名してもいい（笑）。

レミギウス　ヴォルク・トコロだね（ニッコリと笑って）。

所　いやぁ～、嬉しいですね。

――そのニックネームから派生して、レミギウス選手は"小さなミルコ"と呼ばれているのですけど……それはあんまり気に入ってないらしいですね？（笑）。

レミギウス　レミギウスはレミギウスだよ。ボクはミルコじゃない。たしかにボクもミルコもキック出身でMMAでも闘っているからファイトスタイルは似ているし、それに顔も似ているかもしれないけど、もう一回言わせてもらうと、ボクはレミギウスだ！

――わかりました。次のZSTの大会からは"小さなミルコ"のキャッチは外したほうがいいかもしれないですね（笑）。

上原（ZST広報）でも、谷川さんも「似てる」って言ってましたよ（笑）。顔もそうだし、性格も似てるって。

僕が『HERO'S』に上がれたのは レミギウスのおかげなんですよ

"ヴォルク"はロシア語で"狼"の意味 トコロにピッタリの名前だと思う

レミギウス　ボクはすべての選手を尊敬しているし、中でもミルコはとてもいいファイターで、トップ選手の中でも5本の指に入るかもしれないけど、ボクはボク、レミギウスなんだ。

――では、レミギウス選手はもともと憧れていたファイターというのはいるんですか？

レミギウス　ブルース・リーだね！　彼の映画は全部観たし、本も読んだし、ボクは彼の人生のすべてを知っているんだ。寝ているときには、彼が夢に出てくるぐらいだからね。（ポケットからブルース・リーのケータイストラップを出しながら）これはいつもお守り代わりにポケットに入れてるんだけど、ボクのファンはボクがブルース・リーが好きだってことを知っているんで、こういったものをたくさん送ってくれるんだ。

所　へ～。

――所選手はファンからどんなモノをもらうのですか？

所　あんまりモノはもらわないんですよね。前に時計とかはもらいましたけど。

レミギウス　そういえば、ときどき、トコロはボクにスペシャルなDVDをプレゼントしてくれるんだ。

――それは日本の格闘技のDVD？

レミギウス　そうだね。たまに違うのも混じってるけど（笑）。

――もしかして、"所セレクション"をプレゼントしてるんですか（笑）。

所　いや、あの……日本をもっと知ってもらおうと思って（笑）。

――何をしているん

4・5K-1 WORLD MAX 2006 ～世界一決定トーナメント開幕戦～　東京・国立代々木競技場第一体育館

○佐藤嘉洋vsマイク・ザンビディス×［3R 判定3-0］

MAX日本王者の佐藤が山本KIDをKOしたザンビディスの一戦は、優勝賞金で株を買うため負けられない佐藤が"MAXのセーム・シュルト"ぶりをいかんなく発揮し、完封勝利！

○ドラゴvsオーレ・ローセン×［3R 判定3-0］

3月の『HERO'S』で須藤元気を追いつめたローセンが、今大会のダークホース、ドラゴと対戦。紛争が絶えない祖国アルメニアのためにも負けられないドラゴが判定勝ちを収めた。

○アンディ・サワーvs"SHINOBU"ツグト・アマラ×［延長1R 判定3-0］

シュートボクシングのS-cup王者と元・全日本キックライト級王者の対決は、今大会ナンバーワンの好勝負の末、愛する家族のために負けられないサワーが僅差の判定勝ち！

だ（笑）。

レミギウス　トコロは女の子のファンからプレゼントもらったりはしないの？

所　モノはあんまりなくて、もらうのは手紙が多いですね。

――プリクラつきの（笑）。

所　はぁい、けっこう多いです（笑）。

レミギウス　トコロは女の子にモテるからね。ボクの彼女もトコロの大ファンだから。

――そうなんですか!?

所　前にレミギウスの彼女に会わせてもらったことあるんですよ。

レミギウス　トコロがリトアニアに来たときに、ボクの彼女を紹介したんだ。彼女が「トコロに会いたい」って言うからさ（笑）。

所　それで逆にレミギウスが日本に来たとき、ボクの友だちを紹介したら、レミギウスに「アイ・ラブ・ユー」って言われて喜んでました（笑）。

――なんだか非常に複雑な関係なんですね（笑）。所選手はリトアニアでも人気があるんですか？

レミギウス　凄く人気があるよ。とくに女性にね。（レミギウスの所属する）ブシドー・リトアニアHP内のBBSでトコロのことをよく聞かれるぐらいだから。

――へ～。ちなみに、リトアニアの女性はどんな質問をするんですか？

○魔裟斗vsレミギウス・モリカビチュス×［2R 1:46 TKO］
念願の魔裟斗戦が実現し、気合満点のレミギウスは1R序盤から猛ラッシュ！　素早い踏み込みからのストレート、さらに得意の飛びヒザ蹴りで客席を爆発させるが、反逆のカリスマはそれを落ち着いて対処。徐々にペースを取り返し、2R、パンチのラッシュでレミギウスの動きが止まったところで、リトアニア・ドナタス代表がタオル投入。魔裟斗が3年ぶりのV奪還へ万全の滑りだしを見せた。

○ブアカーオ・ポー.プラムックvsヴァージル・カラコダ×［延長R　判定3－0］
妹が高校に進学しその学費のためにも負けられないブアカーオだったが、"つかみ"が禁じられた新ルールと、素早く懐に入るカラコダのフットワークに大苦戦。辛くも延長判定で勝利した。

○アルバート・クラウスvsアリ・グンヤー×［3R 判定3-0］
かつて無名時代にアリ・グンヤーに敗れており負けられないクラウスが、積極的に攻めようとするアリに対して、終始横綱相撲で貫禄の判定勝ち。順当に決勝トーナメントに駒を進めた。

○小比類巻貴之vsイム・チビン×［3R 2:46 KO］
MAX版日韓戦は、WBCに続いて日本に負けるわけにはいかないイムが2Rまでコヒと互角に渡り合うが、3Rに入るとローキックが効きだし、3ノックダウンでコヒが見事KO！

レミギウス　「トコロはガールフレンドがいるの？」とか「この前リトアニアに来たときにトコロに会ったんだけど、私のことを覚えているかしら？」とか聞かれるんだ。

――凄いですねぇ！

レミギウス　あと、トコロの試合に対する質問とか試合中の態度や試合後の喜び方に対する賛美の声が多いかな。

所　（照れながら）いや～、光栄です。

レミギウス　ブシドーのHPにトコロの写真つきのページがあるんだけど、そこにトコロへの質問がくると、「ボクはレミーガです。たぶん、トコロはこうだよ」って、勝手にボクが返事を書いたりしてるんだよ（笑）。

――ダハハハ！　なぜかレミギウス選手が代筆してますか（笑）。

所　ボクも、そのBBSがあるのは知っていたんだけど、何が書き込んであるかはわかんなかったんですよ。英語なら翻訳ソフトがありますけど、リトアニア語はさすがにないんで。でも、レミギウスが代わりに答えてくれていたのは初めて知りました（笑）。

――所選手はリトアニアに何週間か練習に行きたいって言ってましたよね？

所　あー、はい。ぜひ行きたいです。

レミギウス　ボクのジムに来てくれたら大歓迎するよ。これはお互いにとっていいことだからね。ボクらがトコロに打撃を教える代わりに、トコロにグラウンドを教えてもらうっていうことができるから。

所　ホントは5月の試合前にも行きたかったんですけど、レミギウスが魔裟斗さんとの試合が決まっちゃったり、タイミングが悪くてなかなか。

レミギウス　じゃ、今度だね。なんか前から「今度、今度」って言ってる気がするけど（笑）。

所　リトアニアに行くと、いっつも試合で痛い目に遭ってすぐ帰ってくるって感じだったんで、ホント一度ゆっくり行きたいですね。

――所選手が見たリトアニアの印象ってどんな感じですか？

所　リトアニアに行くと、いつも凄くいい待遇というか、ドナタス代表に気を遣っていただいてたんで、ありがたいというか、申し訳ないくらいで。凄くいい印象しかないですね。

レミギウス　ボクらも日本人には感謝しているよ。いつもよくしてもらっているからね。どちらかというと、日本にいるときのほうがリトアニアにいるときよりも好きかな。ボクはもともと、小さい頃に叔母さんから日本のことをいろいろ聞いていて、日本に強い憧れがあったんだ。だからZSTの第1回大会に呼んでもらえたときは、本当に嬉しかった。じつはそのとき試合中にヒザを痛めてしまったんだけど、日本の街が見たかったので、痛い足を引きずりながら東京中を歩いて見て回ったんだ。日本に来るのもこれが最初で最後になるかもしれないと思っていたからね。

――あの時点では、まさか日本にこれだけ頻繁に来るようになるとは、夢にも思わなかったでしょうね。

レミギウス　でも、いまでも日本の街を見て回るのは、ボクの一番の楽しみだよ。時差があるので寝られないことがあるんだけど、朝早くとか夜遅くに出歩いて、車がどうやってパーキングされているかとか、木がどういうふうに生えているかとか、ウエハラさんに連れていってもらった場所で人混みを眺めたりとかして、日本とリトアニアの文化を比較するのが楽しいんだ。日本はこうだし、リトアニアはこうだなとか。もちろん文化圏が違うからすべてが違うんだけど、でも同時にいろいろと似ているところもあって、それを哲学的に見ているんだよね。なんだかうまく説明できないけど。

トコロからたまに“スペシャルなDVD”をもらうんだ（笑）（レミーガ）

――マジメですねぇ。ちなみに所選手のリトアニアでの楽しみは？

所　あっ……え～と……。

――ここではとても言えませんか（笑）。

所　いや、現地の方と……異文化交流を。

――夜の異文化交流（笑）。

所　そんなことは……。

レミギウス　日本とリトアニアの夜はどっちが楽しいの？

所　いや、ボクも哲学的に見ているんで……うまく説明できない（笑）。

――ダハハハハ！　どんな哲学ですか（笑）。

レミギウス　いい答えだね（笑）。

――レミギウス選手から見た日本の女性はいかがですか？

レミギウス　ちょっと怖いね（笑）。美しいし、危険だからね。

――危険というのはどういうことですか？

レミギウス　リトアニア人なら顔を見れば「ボクことをこう思っているな」とか何を考えているのかだいたいわかるんだけど、日本だと言葉の差もあって、何を考えているからわからないところがあって、ちょっとビビってしまうんだ（テレ笑い）。

――でも日本人からすると、ロシア系というかバルト三国の女性は凄い美人ってイメージがありますね。

所　顔がホントにキレイですよね。

レミギウス　ボクらも（日本の女性を見ると）美しいと思うよ（笑）。

いまや“夢のカード”とも言える所英男vsレミギウスはZSTマットで二度実現。一度目はレミギウスがヒザ蹴り連打でKO勝ち。2度目は三角絞めで所が雪辱。大きな舞台で二人の決着戦が見たいところだ。

――何か通じ合うモノがあるわけですね。ちなみにお二人は歴代ZSTガールでは誰が一番好みですか？

レミギウス　アイチャンだね！

――おお、小野寺愛ちゃんですか。日本もリトアニアも一番人気は一緒ですね。所選手は？

所　みんなかわいいんですけど……初代ZSTガールの一人が、いまメイド服着てがんばってるって聞いたんで、ちょっと応援したいなって（笑）。

レミギウス　ボクはアイチャンとは連絡を取り合ってて、一緒にディズニーランドに行ったこともあるんだぜ！

――えぇ～！　所選手、聞きましたか!?

所　いつの間に……。

――ちょっと差をつけられましたね。

所　（呆然と）もの凄い差ですよ。なんでそんなことが……。

――しかし残念ながら、これでレミギウス選手はZSTの男性ファンを敵に回したかもしれませんね（笑）。

レミギウス　敵になるんだったら、いつでもかかってこいと言いたいね。誰でもやってやるよ（笑）。

――それは嫌だなぁ。じゃあ、所選手はZSTファンの思いを背負って、レミギウスと3度目の一騎打ちというのはどうですか？（笑）。

所　いや、レミギウスは恐ろしいんで、しばらく時間をおきたいんですけど（笑）。

――これまでお二人は1勝1敗だから、ブレイクしたいまこそ決着戦を見たいという声もあるみたいですけどね。レミギウス選手はどうですか？

レミギウス　闘いたいとも闘いたくないとも言えないけど、1勝1敗の結果からだからこそ得たものがあるんだ。それは友情が芽生えたこと。ボクは一度試合で勝ったことよりも、闘いの中で得たこの友情こそが真の勝利だと思っているんだ。

――いいこと言いますね～。

上原　所英男には絶対言えないセリフですね（笑）。

所　ボクが思ってることをレミギウスが言ってくれたことにしといてください（笑）。

レミギウス　トコロに負けたとき、小さい仏像をプレゼントしたのは覚えているかい？

所　あ、凄いしっかりとした仏像だったんで、家に飾ってあるけど……。

レミギウス　あの仏像はタイ人の友だちからもらったものだったんだけど、ボクにとって凄く大事なモノで常に肌身離さず持っていたんだ。それをトコロにプレゼントしたのは、闘いを通じてそれだけ共感するものが生まれたからなんだ。

――所選手はそんな大事なモノだって知ってました？

所　いやぁ……知らなかったんですけど、ちゃんととっておいてよかったです（笑）。

レミギウス　あの仏像は23年前に作られた

リトアニア唯一の格闘技専門誌『BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS』編集長
ギエドレ・シマナイティスさんが語る最新のリトアニア格闘技事情

ギエドレ・シマナイティス

リトアニア唯一の格闘技雑誌『BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS』編集長。『ブシドー・リトアニア（リングス・リトアニア）』のイベント運営にも携わっている。夫はドナタス『ブシドー・リトアニア』代表。

じつは本誌提携誌でもあるリトアニア唯一の格闘技専門誌『BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS』女性編集長、ギエドレ・シマナイティスさんがこのたび来日。最新のリトアニア格闘技事情をうかがってみました。（聞き手／上杉再検査）

――遠路はるばるの来日、お疲れさまです。

ギエドレ　ありがとうございます。日本は暖かくていいわね。

――今回は、明日（4・5K―1 MAX）行なわれる魔裟斗vsレミギウスの試合の取材でいらしたとのことですが。

ギエドレ　そう、この試合はリトアニアでもとても注目が高いですから。レミーガには勝ってほしいですね。

――昨日は『PRIDE武士道』も取材されたそうですが、ご感想は？

ギエドレ　凄かったわ。出場選手みんながビッグネームで（笑）。運営面では、基本的には同じことをやっているんですけど、学ぶべき点がたくさんある、と思いました。私たちにとっていい目標ですね。

――ところで、雑誌のほうは売れてますか？

ギエドレ　おかげさまで。うまくいってるわ。いまリトアニアではMMAの人気が高いのよ。いまは会場売りも含めて、各号で1万部ぐらい売れてます。日本では大きな数字じゃないかもしれないですけど、リトアニアは人口の小さい国ですからいい数字ですよ。

――大丈夫です。日本の格闘技専門誌の中には、あまり変わらないところもありますから（笑）。

ギエドレ　雑誌は大会のプロモーションとしても重要ですし、最初は投資でしたけど、いまは利益を生んでいるの。ビジネス的には軌道に乗ったところですね。

――凄いですね！　誌面を拝見すると扱っているのはMMAだけでないようですね。

ギエドレ　なんでも扱うわ。レスリングとかボクシングとかリトアニア人が好きそうなものなら。ブルース・リーの特集もやったのよ。でもMMAは本当に人気が高くて、スポーツではバスケ、サッカーに続いてMMAが来るくらいね。よくストリートでも練習しているのを見かけるわ。

――それはケンカじゃなくて、あくまで練習なんですね（笑）。

ギエドレ　スポーツとして普及しているの。前・大統領も大ファンで、在職中にドナタスは（ニコライ・）ズーエフらとともによくランチに誘われたりしたわ。

――ところで、リトアニア国内で日本の試合への注目度は？

ギエドレ　『ユーロ・スポーツ』というヨーロッパのスポーツをカバーしている人気の衛星テレビ局があって、そこがK―1を放映しているの。だからK―1の人気は凄いわ。

同席していたドナタス　去年『HERO'S』のリトアニア大会を主催したんだけど、ポスターに〝K―1ファイティングネットワーク〟って書いたんだ。実際そうだしね。そしたらお客から「これはK―1と違うじゃないか」と怒られたんだ。彼らは立ち技を期待していたんだ。『HERO'S』はまだ名前が売れてないからね。

ギエドレ　もちろんMMAファンは『PRIDE』や修斗を観てるけど、一般の人にはK―1が人気ですね。

――なるほど。そこは日本と同じですね。日本人で人気の選手というと？

ギエドレ　やっぱり一番はサクラバ（桜庭和志）ね。いつかブシドー・リトアニアに来てほしいけど（笑）。あと、日本人で人気が高いのはタムラ（田村潔司）、コーサカ（高阪剛）ね。リングスのテレビ放映を3年間やっていたので。だからヴォルク・ハンとか（イリューヒン・）ミーシャとか旧リングス勢は人気があるわ。あとリトアニアではトコロ（所英男）は有名ですよ。素晴らしいファイターとプレイボーイの両面で（笑）。

――〝世界の所さん〟はリトアニアではプレイボーイ!!（笑）。

ギエドレ　カッコいいですからね。

――それでもやっぱり一番人気があるのは、雑誌でも何度も表紙にしているレミーガですか？

ギエドレ　レミーガを表紙にするのは大会のプロモーションよ（あっさり）。雑誌的には、ミーシャを表紙にしたほうが売れるのよ（笑）。

――では、リトアニア人で人気が高いのは？

ギエドレ　ヴァレンティノ・コルボーシャス。彼は88キロ級で無敗の選手よ。その次にエギリウス・ヴァラビーチェスがきて、そこに人気の上がってきているレミーガが並ぶというところかしら。

――そうなんですか。ヴァレンティノは日本人には馴染みの薄い選手ですね。いま日本ではレミーガやダリウス・スクリアウディスら強豪を輩出しているティターナスに注目が集まってますが、彼もティターナスですか？

ギエドレ　いいえ、違うわ。

ドナタス　ティターナスは、べつにリトアニアで一番強いジムというわけでもないんだ。ただ、レミーガがいるから有名だけどね。ほかにも〝ターミネーター〟ヴァルダス・ポルチェビスとかペトラス・モリカビチュスとかティターナス以外で強い選手はたくさんいるんだよ。

ギエドレ　加えて、いま18～19歳のニュージェネレーションが台頭してきているの。

――では、これからも続々と未知なる強豪がリトアニアから出てくるということですね。いま挙げられた名前は、覚えにくそうですけどがんばって頭に入れておきます。では最後に『kamipro』読者にメッセージをお願いします。

――日本のファンは世界最高のイベントを間近で見られて幸せだと思います。でもリトアニアでもヨーロッパ・ナンバーワンイベントを目指していい大会を開催してますので、ぜひ来てくださいね。

もので、自分と同じ年齢なんだよ。本当に大事なものなんで、家に帰ったらキレイにしてくれよ。

所　はい、もちろん。

――所選手もレミギウスに友情の印として、大事なモノをプレゼントしたほうがいいんじゃないですか？

所　そこまで大事なお守りとか持ってないんですけど……これでお返しにDVDとかプレゼントしたら、ホントにダメ人間ですよね（笑）。

――ダハハハハ！　大事な〝所セレクション〟をプレゼント（笑）。

レミギウス　べつにお返しをもらうために仏像をあげたわけじゃないから気にしなくていいよ。ボクの気持ちだからね。

レミギウスのトレーナー（突然）じゃあ、そのDVDは私がもらうことにしよう（笑）。

一同　ダハハハハ！

――では、そろそろ時間もないので、お二人のこれからの目標をうかがいたいのですが。

レミギウス　人生においては、「いまここにいる」ということが、すでにある意味でゴールなんだ。だから、あまり物事を大きくは捉えてないけれど、格闘技だけに関することなら、マサトを倒すことが目下の大きな目標だね。

所　なんか、またレミギウスがいいこと言ったあとなんで、言いにくいんですけど（苦笑）、今回レミギウスが魔裟斗戦という大きなことをやるんで、ボクも一緒に成長してきたわけだし、やっぱり負けてられないという思いがありますね。ボクも何かでっかいことをやりたいなと思ってるんですけど、具体的な目標としては、『HERO'S』の上の3人、KIDさん、元気さん、宇野さんを倒したいですね。

――では、最後に所選手からレミギウス選手に聞いてみたいことがあれば質問をお願いします。

所　え!?　ボクですか？　え～と、聞きたいことは……もう『ホテル○○』に泊まるのは嫌ですか？（笑）。

上原　お前、余計なこと言うんじゃないよ！

――なんですか、『ホテル○○』って？

所　前にZSTが外人選手用に使ってたホテルなんですけど、最近レミギウスはK―1が取ってくれた高級ホテルにずっと泊まってるんで、もう向こうに戻るのは嫌かなと（笑）。

――そういうことですか（笑）。

レミギウス　いや、全然キライじゃないよ。何度でも泊まるよ。それに当時は東京に来ることが一番の夢だったから、まったく問題はなかったよ。

所　でも、いつも「狭い、狭い」って言ってたから（笑）。

レミギウス　でも問題はなかったよ。それに、もしかしたら、いつの日か昔を振り返って、ホテルの部屋は狭かったけど東京に来られてよかったなと言えるようになると思うよ。そして、そのときの一瞬一瞬がとても大事だったということを思い出すんだ。たぶん『ホテル○○』のこともいい思い出となってね。

――は～、いいこと言いますねぇ。

所　なんかカッコいいですね。ボクもいつか大きな家に住んで、いま住んでるアパートのことをいい思い出として振り返ることがあるんですかね（笑）。

――風呂なしアパートでの一瞬一瞬がとても大事だったと（笑）。

レミギウス　きっとそうなると思うよ（笑）。

――では、いい思い出として振り返ることができるように、お二人のさらなる活躍を期待してます！

【06年4月2日／都内・某ホテルにて収録】

友情の印としてトコロにボクの大事なお守りをプレゼントしたんだ

これでお返しでDVDとかプレゼントしたらダメ人間ですよね（笑）

Hideo Tokoro

1977年8月22日、岐阜県揖斐郡出身。昨年、修斗世界王者ペケーニョを破り大ブレイクしたシンデレラボーイ。ハンドルネームは“闘うフリーター”。170cm、66kg。

Remigijus Morkevicius

1982年8月10日、リトアニア・カウナス出身。総合格闘技ではあり得ないほど強烈な打撃を武器に“小さなミルコ”の異名を持つZST外国人エース。168cm、66kg

『HERO'S』、70kgと85kgの二階級でトーナメント開催！5月大会にはKID、所参戦!!

4月10日、東京・お台場ジョイポリスで記者会見が行なわれ、5月3日『HERO'S』代々木大会の対戦カードおよび、今年のトーナメント開催概要があらためて発表された。

5月大会で開催が予定されていた85kgトーナメントは、参戦予定選手のコンディションを鑑みて8月大会に一回戦、10月大会で準決勝および決勝を実施。70kgトーナメントについては、参戦選手8人のうち王者・山本"KID"徳郁とファイナリストの須藤元気の2名はシードとして参戦決定。残り6名中1枠は主催者推薦で5つの出場枠を争う闘いが5月3日行なわれることになる。

会見で発表されたのは、85kgトーナメントの中心となる秋山成勲と永田克彦の激突。注目の日本人2名がトーナメントに先駆けていきなり闘うことになる。この日は2試合のカードのほか、参戦決定選手として宇野薫、所英男、上山龍紀、門馬秀貴らの名前が発表され、所用で欠席した宇野を除く日本人3選手が会見に出席。ジョイポリスを訪れた一般客やファンからは、KID、所の入場にひときわ大きな歓声があがっていた。

スーツ姿で会見に出席した所は「大会の中で一番いい試合をして、その上で一本勝ちしたいです！」とコメント。会見後のカコミ取材で王者・KIDは「花粉症になった。未知だったから、なんだろうって思った」と、リング外で思わぬ強敵に襲われていたことを明かしていた。

HERO'S大会情報

5月3日(祝・水)　東京・国立代々木第一体育館
『Sammy Presents HERO'S 2006』
【決定カード】
山本"KID"徳郁 vs 宮田和幸　秋山成勲 vs 永田克彦
【70kgトーナメント一回戦・出場予定選手】
所英男、宇野薫、上山龍紀、門馬秀貴、ヴィトー・"シャオリン"・ヒベイロ、アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ、アイヴァン・メンジバー、ブラックマンバ、オーレ・ローセンほか

8月5日(土)　東京・有明コロシアム
『HERO'S 2006』
【70kgトーナメント準々決勝】
※5月3日開幕戦で勝利した選手5名に、主催者推薦選手1名、シード選手の山本"KID"徳郁、須藤元気を加えた8名トーナメントの組み合わせ4試合を実施。
【85kgトーナメント準々決勝】
※海外の強豪を含む8名によるトーナメント初戦、4試合を実施。

10月9日(祝・月)　神奈川・横浜アリーナ
『HERO'S 2006』
【70kgトーナメント準決勝・決勝】
【85kgトーナメント準決勝・決勝】
■各大会のチケットに関する問い合わせ
株式会社キョードー東京 TEL.03-3498-9999
■各大会に関する問い合わせ
HERO'S実行委員会 TEL.03-5775-5065

韓国相撲・シルムの強豪3名がK-1転向！シルム横綱は曙と激突!?

4月7日、東京・六本木ヒルズのK―1オフィシャルジムで行なわれた記者会見で、韓国シルム相撲出身の3強豪がK―1へ参戦することが発表された。チェ・ホンマンの活躍によって韓国でK―1人気がにわかに高まったことを受け、3名はK―1参戦を決意。シルム・ヘビー級横綱のキム・ドンウック(写真中央)は195センチ165キロ、同じくヘビー級関脇のキム・ゾンソックは200センチ180キロというスーパーヘビー級の体格とパワーをひっさげて参戦。90キロ以下級王者に18回輝いた実績のあるシン・ヒョンピョも183センチ90キロと他2名よりは小柄だが、相手を持ち上げて叩きつけるテイクダウン技術に優れているという。昨年K―1 GPを引っかき回したチェ・ホンマンに続き、今年もK―1にシルム旋風が吹き荒れそうだ。

3名は、6月3日開催の韓国K―1 GPでデビューする予定だが、横綱ドンウックと90キロのシン・ヒョンピョは、5月の『HERO'S』でデビューする可能性もあるという。曙との"元横綱"対決の可能性について質問されたドンウックは、照れ笑いをうかべながら「どんな相手とでもやりたい」と語った。

3人は写真撮影のあと、Tシャツ姿で軽いミット打ちも披露。K―1転向に向け、なみなみならぬ気合いを汗とともににじませていた。

右端に居るのはシルム王者たちの所属する『Team Lazenca(仮)』のリ・サンギュン代表。代表は「選りすぐりの3名を出場させる」と自信たっぷりに語った。

4・29K-1ラスベガス大会で青鬼vs超獣、"男の中の男"の参戦も決定!!

30日、都内ホテルでFEGが会見を開き、4月29日(現地時間)に米国・ラスベガスで開催される「K―1 WORLD GP2006 IN LAS VEGAS」の全対戦カードを発表した。

谷川貞治K―1イベントプロデューサーから発表されたスーパーファイトは3試合。今年初戦となる武蔵が昨年のGP王者セーム・シュルトに挑む一戦。さらには昨年11月のWORLD GPでレミー・ボンヤスキー戦以来の試合となるチェ・ホンマンが、『Dynamite!!』でレミー相手にあわやの場面を作り出したプレデターと激突する。そして昨年5月のラスベガス大会で優勝し11月のGPで決勝戦まで勝ち上がったグラウベが、同じく8月のラスベガス大会で優勝するなど昨年、急成長を遂げたルスラン・カラエフと対戦する。

同大会で開催されるUSA GPにはK―1ルール初挑戦となる謙吾が参戦。谷川Pによると謙吾は現在ロスのキックボクシングのジムでトレーニングを積んでおり、本人もやる気満々だという。

谷川Pは「対戦相手はもともと総合の選手のゲーリー選手ということで、いい試合になると思います。K―ID選手や元気選手がMAXに挑戦して総合でも輝いたように、謙吾選手もヘビー級として活躍を期待したい。当然、いい結果が出たらジャパンGPにも出てもらいたい」と期待を寄せていた。

4・29K-1ラスベガス大会

4月29日(土・現地時間)
『FieLDS K-1 WORLD GP2006 IN LAS VEGAS』
アメリカ・ミラージュホテル
開場17:30 開始19:00

【リザーブファイト】
[K-1ルール/3分3R延長1R]
スコット・ライティ(USA)
vs アレキサンダー・ピチュクノフ(ロシア)

【スーパーファイト】
[K-1ルール/3分3R延長1R]
セーム・シュルト(オランダ) vs 武蔵(日本)
グラウベ・フェイトーザ(ブラジル)
vs ルスラン・カラエフ(ロシア)
チェ・ホンマン(韓国) vs ザ・プレデター(USA)

テレビ放送日程／4月30日(日)22時～23時45分、フジテレビ系列にて放送！

大会に関する問い合わせ
(株)FEG　TEL.03-3796-5060

【USA GP】トーナメント

- ゲーリー・グッドリッジ(トリニダード・トバゴ)
- 謙吾(日本)
- ステファン・"ブリッツ"・レコ(ドイツ)
- デューウィー・クーパー(USA)
- 藤本祐介(日本)
- カーター・ウィリアムス(USA)
- ハリッド"ディ・ファウスト"(ドイツ)
- ショーン・オヘア(USA)

→ 優勝

優勝者は9月30日開催の「FieLDS K-1 WORLD GP2006開幕戦」への出場権を獲得する。

PRIDEの星、堕つ――!

昨年の大晦日、日本人初のPRIDE王座に輝き、今年いよいよ真のスーパースターへの道を歩み始めるはずだった五味隆典が、4・2『PRIDE武士道―其の拾―』で伏兵マーカス・アウレリオにまさかの敗戦! しかも、「判定? ダメだよ、KOじゃなきゃ」の五味が、逆に完璧な一本負けを喫するという、衝撃的な結末となった。この“絶対王者”の早すぎるつまずきに、ライト級戦線は再び混沌とした戦国時代突入の様相を呈し始めた。この乱世を制するのは果たして誰なのか?

[PRIDE武士道ー其の拾ー]
○マーカス・アウレリオ vs 五味隆典×
(1R 4分34秒 肩固め)

まさかの完敗を喫した五味は試合後しばし呆然。PRIDE王者となって初の大事な試合だったが、なんと“天下無双”と呼ばれた男が、チャンピオンとして一度も勝たずに敗北を味わってしまった。どうする五味!?

歓喜のアウレリオに対し、フィニッシュの肩固めのシーンがリプレイされている場内の大型ビジョンを見つめる五味。勝者と敗者の強烈なコントラストだ。

4.2『武士道』に大異変発生！

PRIDEの星、堕つ――!!

五味隆典 衝撃の完敗!!

絶対王者が柔術の罠にハマった!!

4・2『PRIDE武士道』大異変!
五味隆典
完敗の波紋!

s Aurelio

―PRIDEライト級の"絶対王者"五味選手に勝利して一夜明けたわけですけど、いまどんな気分ですか？

アウレリオ　どんな気分って、とにかく眠いね（苦笑）。昨日は寝てないから。

―一晩中祝勝会ですか？（笑）。

アウレリオ　そうそう、帰ってきたのは朝の8時だからね。太陽の光がまぶしいよ（笑）。

―でも、最高の夜だったんじゃないですか？

アウレリオ　そうだね。これ以上ない夜だったよ。PRIDE王者に勝てたんだから、いままで自分がやってきたこと、努力してきたことがすべて報われたと思う。

―昨日の試合は「自分の人生で最も重要な一戦」という思いで挑んだ試合だったと聞きましたけど。

アウレリオ　もちろん自分にとって一番大事な試合だったと思う。五味は自分の階級で世界ナンバー1の選手だし、あれだけのメンバーを揃えた『PRIDEライト級GP』で優勝している素晴らしいファイターだからね。だからボクは彼と闘えるだけで光栄だったし、しかも一本勝ちできたわけだから、こんなに嬉しいことはないね。

―五味選手はこれまでライト級のブラジル人強豪選手を総なめにするぐらい勝ち続けてきたわけですけど、アウレリオ選手と五味選手に負けたほかのブラジル人ファイターとは何が違ったんでしょうか？

アウレリオ　大きな違いはゲームプランにあったと思う。これまで五味に負けたほかのブラジル人ファイターも技術的には本当に素晴らしいファイターばかりだと思うけれど、ゲームプランがよくなかった。五味は試合中、どんどん自分のペースに試合内容自体を持っていく選手なので、それを阻止することが大事なんだけど、これまでの選手は知らず知らずのうちに五味のペースで闘ってしまっていた。そういうことも含めて、昨日の自分のゲームプラン、そして試合内容は完璧だったと思う。

―そのゲームプランをさらに詳しく聞きたいんですけど、五味選手とは絶対に打ち合わない、打ち合わずに懐に入って倒すということだったんでしょうか？

アウレリオ　打撃で打ち合わないというわけではないんだけど、自分からパンチを出しても、それは五味が前に攻め込んでくるのを待つためだった。ジャブで誘って、五味が大きく踏み込んでパンチを打ってきた瞬間にカウンターでタックルを合わせる、ここが勝負の分かれ目だと最初から思っていた。それも五味の試合をビデオで何回も見て研究した結果、五味は大きなフックを出したあと、すかさず次のパンチを打ってくることがわかったので、その最初のフックのときにタックルに行けば絶対に倒せると思っていたんだ。

―五味選手最大の武器である左右のフック連打を打ってきたそのときこそ、タックルに入る最も大きなチャンスだったと。

アウレリオ　そうだね。失敗すれば、こちらがKOされるリスクは大きいけど、やるしかないと思ったよ。

―戦前に言っていた五味選手の弱点というのはやはり寝技だったんですか？

アウレリオ　そうだね。五味はべつに寝技が弱いというわけじゃないが、寝技になればボクのほうが絶対に上だと思っていた。だからなんとか、その体勢に持ち込むこと、

"絶対王者"五味隆典を倒した男が語る 貧困から栄光への軌跡

パライーバの誇り

豪腕フックに合わせた絶妙なタックルと、卓越した柔術テクニックで"絶対王者"五味隆典に一本勝ち！　一世一代のチャンスを見事にモノにし、一躍PRIDEライト級戦線のトップに躍り出たアウレリオ。32歳、遅咲きの実力者が勝利から一夜明けた4月3日、その半生を語ってくれた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

designed by matsu (TwoThree)

マーカス・アウレリオ

Marucus

そこが一番重要だったんだ。

──戦前のインタビューでは、五味選手に勝つために必要なのは、戦略と過剰な練習と語っていましたが、どんな練習を行なってきたんですか？

アウレリオ　本当にハードなトレーニングをやってきたよ。技術面ではボクシング、レスリング、そして柔術を重点的にやってきたんだけど、そのほかにもフィジカル、メンタル両面についてもやってきた。ただ、この試合に関しては試合が決まってから4週間しかなかったので、その短期間で全部をこなさなければならなかったので、過剰なトレーニングになったと思う。もっと時間があったら、さらにいいパフォーマンスが見せられたと思うけど、急なオファーとはいえ、自分にとってこんなチャンスはないと思ったので、とにかくできる限りの準備をしたつもりだよ。

──この勝利によって自分は世界一になったと思いますか？

アウレリオ　もちろん。世界一の男に勝ったんだから、そう名乗ってもさしつかえないと思う。ただ、自分が世界一だということをみんなに認めさせるためにも、その証であるベルトがほしいよ。

──わかりました。では、昨日の勝利で一気にライト級トップコンデンターとなったアウレリオ選手のプロフィール的なことも聞いていきたいんですけど、生まれはブラジルの北部だそうですね？

アウレリオ　そうなんだ。ボクはブラジル東北部のセアラ州出身で、ここは貧困が大きな問題となっていて、ボク自身、子どもの頃からとても生活が苦しかった。でも、両親が共働きをしてくれたおかげで、なんとか学校にも通え、住む家もあったという状態だったね。そのためにも、自分も何かやらなければならないと思って、1987年、9歳のときに柔術を習い始めたんだ。だから自分にとって柔術とは、人生のすべてだと思っている。いま自分が持っているものすべてが柔術のおかげだと思っているし、柔術には感謝の気持ちでいっぱいなんだ。

これまで数々のライト級強豪を葬ってきた、五味の強打をかいくぐり、紙一重のタイミングで絶妙な胴タックルを決めたアウレリオ。この一瞬が勝負の行方を分けた。

〝貧しい田舎者〟は自分が優れた人間だと勝って証明しなければならないんだ

──両親はどんなお仕事をしていたんですか？

アウレリオ　父は公務員のような仕事で、母はメイドだね。

──柔術はどなたに師事されていたんですか？

アウレリオ　柔術に関しては最初は父の友人であるサー先生に習い始めたんだ。そのときから柔術が気に入って、ボクにとってのスタートだった。ただ、ボクはセアラ州のフォルタレーザ市に住んでいたんだけど、そこだけでは本当に強くはなれないと思ったので、地元で練習しながらお金を貯めて、お金ができたらリオのカーウソン・グレイシー道場に練習に行って、またセアラ州に帰ってきてお金を貯める、その繰り返しだったね。

──本当に柔術のための生活だったんですね。

アウレリオ　でも、いま思うとそれは凄く良かったと思う。リオで練習ができるのは、本当に限られた時間だけだったから、誰よりも集中して練習していたからね。

──そんな通いの生活の中で96年には、あのホイラー・グレイシーを柔術の試合で下すという快挙を成し遂げたわけですか。

アウレリオ　そうだね。このときはホイラーというエリートに対しての意地だよ。当時、ボクたち北部出身の人間は、ブラジルでは〝パライーバ〟と呼ばれていたんだけど、それは〝田舎者〟だとか〝貧しい連中〟という意味が含まれていて、ボクたちは常に低く見られていたんだ。でも、そう呼ばれることがボクたちの負けん気にも繋がったし、自分たちが優れた人間なんだと証明しなくてはならないと思い続けていた。その反骨心があったからこそホイラーに勝つことができたと思う。そして、いまでは多くのパライーバが素晴らしい成績を収めている。それは自分もそうだし、ミノタウロとミノトゥーロのノゲイラ兄弟もそう、ブスカペなんかもそうだね。彼らもみんな〝パライーバ〟なんだけれども、いまはみんなパライーバの強さを証明できたと思う。

──アウレリオ選手がアメリカン・トップチーム（以下・ATT）に入ったのは、ど

04年、第1回『ZST・GP』に出場したアウレリオは、タクミ、今成正和、レミギウス・モリカビュチス、リッチ・クレメンテを破り、ブッチギリの優勝。傍らにはブレイク前の所英男の姿も。

ういったきっかけがあったんですか？

アウレリオ　そもそもATTは、ダン・ランバート（米国でMMAイベントなどをスポンサードしていた富豪）が「アメリカに柔術とMMAのチームを作りたい」とブラジルからヒカルド・リボーリオを呼んだのがチームが設立されるきっかけだったんだけど、そのときリボーリオに呼ばれたのがボクであり、ウィルソン・ゴベイアだね。

――リボーリオさんの誘いだったんですか。

アウレリオ　だからリボーリオはボクの恩人だね。このチームに入って本当に良かったと思う。ATTはできてから4年と、まだ歴史の浅いチームだけど、すでに格闘技界のトップの一つに数えられると思う。それはやはり、いままでやってきたさまざまな努力、目的意識の賜物だし、本当にATTは成長著しいチームだと思う。

――ATTとBTTは姉妹チームというか、友好関係にあるチームなんですか？

アウレリオ　その通りだね。もともとBTTはリボーリオとマリオ・スペーヒー、ムリーロ・ブスタマンチ、そしてベベオの4人でスタートしたチームだからね。当然、我々は深い関係にあるよ。だからボク自身、パウロ・フィリォ、ミノタウロ、ミノトゥーロ、ヒカルド・アローナたちとも仲がいいよ。そして実際、今回もATTとBTTが協力して控室で練習したり、作戦を考えたりしていたからね。

――アウレリオ選手の今後の目標はなんですか？

アウレリオ　もちろん、いま一番の目標は五味ともう一度闘って、自分がPRIDEチャンピオンになることだね。そのあとは、誰の挑戦でも受けるよ。

――ZSTでチャンピオンになったときから、アウレリオ選手の実力は高く評価されていたんですけど、試合内容が安全運転というか、物足りないという声が多かったんですよ。それが昨日はやるかやられるかの試合になったということは、意識が変わった部分もあったんですか？

アウレリオ　たしかに、あの頃から自分の考え方は変わったよ。いまは自分の試合は自分が満足するだけじゃダメなんだ、やっぱり観に来てくれたファンに満足してもらわないと、闘う意味がないと思っている。やはりファンはエキサイティングな試合を求めているので、自分もプロであるからには、ファンが喜んでくれる闘いをしなければいけないという気持ちに変わったよ。

――では最後に、昨日の勝利でアウレリオ選手の人生は変わると思いますか？

アウレリオ　変わることを祈っているよ。昨日の試合は自分のすべてを出したつもりだし、自分がこれまで努力してきた証だと思っている。だからこそ、昨日の勝利を機に人生を変えたいし、変えてみせるよ！

【06年4月3日／都内・某ホテルにて収録】

五味戦の勝利は自分の努力の証 これを機に人生を変えたいと思う

いつもは五味が行なうはずの、トップロープの上に立ち上がっての勝利のガッツポーズをこの日はアウレリオが披露！　五味にとっては屈辱的な光景だ。

Marucus Aurelio

まーかす・あうれりお■1973年８月18日、ブラジル・セアラ州出身。9歳から柔術を始め95年にはホイラー・グレイシーに勝利。04年『ZST・GP』では、今成正和、レミギウス、リッチ・クレメンテらを破り優勝。178cm、72.8kg。

まさかの五味敗戦——!!
雌伏の男の目にはどう写ったか？

「〝あの瞬間〟、五味くんが負けると思いました」

五味隆典の敗戦で一気に混迷感を増した『武士道』ライト級シーン。昨年、五味との死闘で『武士道』の底上げに一役も二役も買った川尻達也の目にはどのように写っているのか？雌伏の修斗王者が五味vsアウレリオ戦について語った!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也
designed by matsu（TwoThree）

ハンセンの髪型にビビってたじろいだ
修斗世界ウエルター級王者
川尻達也

Kawajiri

—川尻さんは、こないだの五味選手の試合を会場のどこでご覧になってたんですか？

川尻　セコンドに付いた石田（光洋）くんの控室で観ましたね。ボクは五味くんがKOであっさり勝つと思ってたんですよ。それぐらいのアウレリオとの実力差はあるんじゃないかと思ってましたし。

—じゃあ勝敗の興味はそれほどなかったということですか？

川尻　興味がないというか、五味くんにとってアウレリオはそんなに危機感がある相手ではないだろうと思ってたんですよ。それよりも、ベルトを獲ってからの五味くんが観客相手にどれだけ魅せられるのか、という点を意識して観てました。

—当然、あの結果に驚きはあったわけですよね？

川尻　けっこう、ありましたね。本当にビックリしましたね。

—どのタイミングから五味さんが危ないなと思いましたか？　テイクダウンされたときですか？

川尻　そうですねぇ……。五味くんのセコンドが「レスリングだよ！」って言った時点かな。

—へ？　それはどういうことですか？

川尻　ボクは控室のモニターで観てたから、セコンドの声も聞こえたんですよ。で、五味くんが倒されて下になってる状態で、セコンドが「レスリングだよ！」って叫んだんです。要はレスリングであの体勢を返せってことなんだと思うんですけど、その瞬間に「あ、これは危ないな！」って。で、そのあとにすぐ肩固めを取られて。

【試合映像を振り返ると、「五味さん、レスリングだよ！」という声を受けて、五味がハーフガードを返そうと下から反り返ったところを、アウレリオの右腕がタイミングよく五味の首にスッポリ絡みついた。そのまま完璧な肩固めの体勢に……!!】

—そのセコンドの声を聞いた瞬間、五味選手が危ないと思ったんですか！

川尻　そうですね。あの時点で「これは負けるかな……」って思いました。

—なるほどねぇ……。それで今回の結果を受けて、「五味の倒し方がわかった」という言い方をする人間もいるんですが、そういう意見はどう思いますか？

川尻　ボクはそうは思わないですね。あの試合はアウレリオの集中力が凄かったし、あそこまでタイミング抜群のタックルは、どこのリングでも、そうそう観れるもんじゃないですよ。やっぱり、アウレリオの集中力が五味くんのそれと格段に違ってたんじゃないですかね。

—『武士道』のライト級は、精神状態の差で勝敗が転んでしまうぐらい僅差の力関係にあるということなんでしょうか。

川尻　いや、ボクはまだ五味くんが一歩抜け出ていると思ってますね。ただ、精神状態は凄まじく肉体を支配するという話であって。

—アウレリオとの再戦に五味選手が完璧な精神状態で臨めば、おそらく五味さんが勝つんじゃないかと？

川尻　そうですね。対戦相手との相性もあるから一概には言えないけど、今回はモチベーションが上がりきらなかったんじゃないですかね。ボクも修斗のベルトを獲ってから、去年一年間はそこが一番苦しかったとこですから。

—目標を一旦達成したあとどうするのかっていう。

川尻　自分の中で、「ベルトは終着点じゃない。強さを求めていくんだ！」ということを何度も何度も繰り返して。幸いにもボクの場合は『武士道』というステージがスパイスになりましたし、なんとか強さを求め続けるということができたと思いますけど。

—ファイターは常に精神状態との闘いだったりしますよね。言葉にするより何倍も、実行が難しいことなんでしょうけど。

川尻　とくに五味くんはここ二年間で10試合もして、ハイペースで闘ってきてますから。想像を絶する苦しみがあったと思いますね。

—先ほどの話だと、負けても五味選手が一歩抜けているということでしたが、あとはダンゴの状態という感じなんですかね。

川尻　う～ん。あとの選手のことはあんまりわかんないですね。

—五味選手に勝ったアウレリオも？　彼にはどんな印象がありますか？

川尻　なんか地味ですよね（笑）。あんまりイメージが浮かばないですけど、寝技は強いんじゃないですかね。まあ、『ZST・GP』で優勝してるぐらいだから弱くはないんだろうけど、どのぐらい強いのかはいまいちよくわかんないですね。

—とりあえずライト級は混迷状態に陥った印象があるんですが、川尻さんはアウレリオを倒してその混迷から抜け出したいという気持ちはあったりしませんか？

川尻　いや、もしボクがアウレリオに勝ったとしても、五味くんに勝ったことにはならないですよ。ボクは五味くんに負けてるんだから、どうしても直接対決で五味くんに勝たないと、そんなの意味ないですからね。

—その五味選手がほかの選手に倒されたのを目の当たりにして、瞬間的に思ったこ

アウレリオの集中力が五味くんとは格段に違った。でも、まだ五味くんが一歩抜け出ていると思います。

Tatsuya

とってどういうことでした？

川尻　それはやっぱり「真剣勝負ってこういうことだな」ってことですね。これは毎回思うんですけど、やっぱ勝った人が強いんであって。また、そうあるべきだって。真剣勝負は何が起こるかはわからないなって。

――修斗のヨアキム・ハンセン戦もそういう結果ですよね。試合開始わずか8秒、まさかの反則裁定で。

川尻　本当にそうですよね。どんなに自分が万全な状態で試合に挑んでもそういうアクシデントはあるし、ホント真剣勝負は何があるかわかんないです。自分で「修斗の会場を満員にしたい」って言って、たくさんのお客さんに来てもらって。なのに、8秒で玉を蹴られて終わったんじゃ、お客さんも満足しねえだろうなって。

――ダメージのほうはもう大丈夫なんですか？

川尻　はい。もう大丈夫です。あのときは本当に本当にヤバかったですけど……。まあ、オカマになることもなく（笑）。

――個所が個所ですから（笑）。ボクが驚いたのは、あの直後に青木（真也）選手と『ゴン格』の表紙撮影をされていたことなんです。

川尻　そうなんですよ。『ゴン格』の表紙を見ていただければわかるとおりね、あの浮かない表情がね……。「勘弁してくれ……」って感じでずっと下向いてましたよ（笑）。

――試合後も苦悶してましたからね（笑）。

川尻　ボクは「青木くん一人の表紙でいいんじゃないですか？」って言ったんですけどねえ。ボクは表紙を飾るべき試合をしてないですからね。

――「Bout! Bout!! Bout!!!」っていう表紙コピーでしたけど、完全燃焼で闘ったわけじゃないですし（笑）。あとヨアキムの髪型にも衝撃を受けたんですけど。

川尻　あ、自分も笑いましたよ！

――なんかの罠かと思いますよね（笑）。

川尻　「笑っちゃうから、試合前に髪を剃るように言ってください」って言いましたもん（笑）。あれは卑怯ですよ！

――あれは卑怯な髪型でしたか（笑）。

川尻　おもいっきりM字ヘアになってましたからね（笑）。こないだの『武士道』でスキンヘッドに戻したのは、おそらく誰かから「剃ってたほうがいいよ」って言われたはずですよ。

――あのままだと、とても"北欧からの処刑人"の怖さはないですよね（笑）。そういえば、あの修斗代々木大会の前半戦のとき、川尻さんって会場内にいませんでした？

川尻　いたかもしんないです。どれくらいお客さんが入っているのか確認していたかもしれないです。

――『武士道』に討って出た甲斐もあって満員の客入りでしたね。

川尻　ある意味、俺の勝ちだなって。『武士道』に出たことは間違ってはなかったですね。うん。修斗をアピールするために『武士道』に出たのに、シャオリン戦（04年12月14日ヴィトー・"シャオリン"・ヒベイロ戦／代々木第二体育館）と同じくらいガラガラだったら落ち込みますよ、ホントに（苦笑）。

――やっぱり客入りは気にされるんですか？

川尻　そりゃ気にしますよ。やっぱり満員で試合をやりたいじゃないですか。

――それはメインイベンターとしての責任感もあるわけですよね？

川尻　そうですね。責任があったからこそ、ああいう終わり方になったことは考えさせられましたね、一週間ぐらいずっと。いままで勝っても負けても、プロとして恥ずかしくない試合をしてきたつもりなんで。試合に負けて自分は満足できなくても、お客さんは満足してくれたり。でも、今回ばかりは自分も満足できなかったし、お客さんも満足できなかったと思うんで、やっぱいろいろ考えさせられましたね。

――勝利と敗北では、どちらがより自分が変わるきっかけになると思いますか？

川尻　ボクに関して言うと、負けることがもっとも自分を成長させてきたと思います。勝つと、あまり反省しないじゃないですか。

――勝ったからいいかって感じで（笑）。

川尻　「ま、いっか！」ぐらいなんで（笑）。でも負けるとやっぱりいろいろ考えますから。

――そうは言っても、やはり負けたくはないですよね。

川尻　負けたくはないですね。負けて負けて負けてだと、いつ収穫するんだって感じですから（笑）。

――そういう意味で、五味さんも今回の敗戦は大きな収穫になるわけですよね。

川尻　そこは五味くん本人じゃないとわかんないし、ボクがとやかく言える立場でもないですけど。ボクはまだ復活してないんで、もう一度五味くんと闘えるところまで自分がたどり着ければいいかなと思ってます。同じ日本人としてまた『武士道』のリングを盛り上げたいという気持ちは、たぶん五味くんと一緒なんじゃないですかね。

――川尻さんの場合は修斗の兼ね合いもあると思うんですが、修斗とのリングであれば、ヨアキムとの再戦になるんですかね。

川尻　そうなるでしょうね。でも、夏にタイトルマッチをやりたくないですねえ。

――それはまたどうしてですか？

川尻　暑いから！

――とても納得できない理由です（笑）。

川尻　やるときはやりますよ（笑）。ただ、夏はあんまいい思い出がないんでね。中量級の盛り上がりを下げずに、自分もその波に乗り遅れないように積極的に試合はしていきたいですけど。

――がんばってください！『T－BLOOD』の東京進出も期待していますので。

川尻　……いやあ、東京は人がいっぱいいるから。人ごみ嫌いなんで。

――川尻さんって、苦手なものがけっこう多いですね（笑）。

【06年4月8日／茨城『T－BLOOD』にて収録】

Tatsuya Kawajiri

かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県稲敷郡出身。02年修斗ウエルター級（-70キロ）新人王。02年12月にヴィトー"シャオリン"ヒベイロを破り、修斗世界ウエルター級チャンピオンのベルトを奪取（保持中）。06年2月17日修斗代々木大会でヨアキム・ハンセンを相手に王座防衛。しかし金的による反則決着のため不完全燃焼。リング上で涙に暮れた。171cm、72.9kg。

この写真からはその全頭像は把握できないが、これが話題のハンセンM字カットだ。詳しくは各自調査で目に焼き付けてほしい！

修斗・環太平洋ウェルター級王者がついに『PRIDE武士道』に参戦!!

“動く”永久電池

石田光洋

Mitsuhiro Ishida

Mitsuhiro Ishida
いしだ・みつひろ■1978年12月29日、茨城県出身。レスリングの名門・霞ヶ浦校を卒業し、髙田道場へ。現在は、川尻達也と同じT―BLOODに所属。今年2月に第二代修斗・環太平洋ウェルター級王者となり、『武士道』初戦となったポール・ロドリゲス戦ではフロントチョークで見事快勝!! 167cm、70・8kg。

2006年一発目の『PRIDE武士道』には、5人のニューフェイスが参戦した。その中でも鮮烈デビューと言うにふさわしいインパクトを残したのは、やはり、川尻達也の盟友である修斗・環太平洋ウェルター級王者の石田光洋だろう。オーディエンスが『武士道』に臨む闘いを、石田は初戦で素晴らしくやってのけたのだから。

対戦相手であるポール・ロドリゲスの首をつかむやいなや、これでもかと言わんばかりに絞め上げる石田。その形相は、まさに〝殺気〟という文字が頭に浮かんでくるほどである。

試合の4日後、インタビューに応えてくれた石田が一番に発した言葉は、

「出来すぎですね。自分が一番ビックリしています（笑）」という極めて謙遜なものだった。しかし、つぎの言葉はやはり自信あっての発言だろう。

「〝気持ち、スタミナ、タックル〟。僕ってそんなふうに紹介されてたんですか？ じゃあ、スタミナは見てもらえなかったですねぇ」。

見事な快勝劇を演じたにも関わらず、〝必殺技〟を見せられなかったことへの嘆き。しかし、そう思うのも無理はないのかもしれない。なぜなら、彼のスタミナは本当に見せたくなるほど凄いから。それに石田はリング上で全力を出さないではいられない性分なのだ。

石田がこの世界に入ったのはプロレスラーに憧れて高校時代にレスリングを始めたのがきっかけ。卒業後、いったんマットを離れるが、やはりプロレスへの憧れが拭えず、一度就職した先に断りを入れ、髙田道場に通い始める。ところが……。

「当時はちょっと青かった部分があったんで（苦笑）」

と遠慮がちな石田。松井大二郎に誘われて受けたプロテストに、身長167センチという不利な体格ながら合格するという快挙を果たしたが、想像以上の厳しさゆえか、その後、石田は2、3ヵ月で道場を辞めている。

「でも、一度離れるとまたやりたいって気持ちが湧いてきて。だから、もう失敗するのはいやでした」

いったん茨城の実家に戻った石田は、今度は東京ではなく地元・茨城のジムに通う決意をした。それが、川尻に出会ったTeam TOPSだ。

石田が〝全力思考〟を身につけたのは、こうした挫折があったからかもしれない。また、前述した〝見せたくなるスタミナ〟を培ったのも、石田が自分に向けた怒りに端を発している。

「周りが認めてくれたとき五味さんに挑戦します」

それは、03年7月に行なわれた修斗・松下直揮戦でのこと。判定ドローとなった試合だ。当時を振り返って、石田はこう話す。

「試合終わって気づいたんですよ。相手は疲れ果てて座り込んでるのに、僕は歩いて動き回れるんだ!? って」

力を出しきらなかったことへの後悔。おそらく、試合へ向かう石田の姿勢はここから転換していったのだろう。その後の石田は凄い。修斗のベルトを獲った2月17日の修斗・富樫健一郎戦でも、石田は1ラウンドから富樫の二度に渡る腕十字、続いてスリーパーと、かなりの消耗戦を強いられるが、2、3ラウンドはまったくもってピンピンで、ゴングがなるまでテイクダウン→パウンドの攻撃を延々と続けていた。

とにかく、〝出せるものは全部出す〟。その信念を貫くうちに、石田はいつしか動き出したら止まらない〝I can't stop!〟なファイターとして評価されるようになり、今回の『武士道』でも〝永久電機〟ならぬ、〝永久電池〟のキャッチフレーズを得て登場した。

そして、あまりの見事な勝ちっぷりに、かつて道場で手ほどきを受けた髙田本部長には「よくやったね！ たいしたもんだ」と評され、試合後にはがっちり握手を交わしている。

ちなみに、〝永久電池〟というキャッチフレーズについて尋ねると、「パンフレット開けたときは、えっ!? って思いました……（苦笑）。僕、モノじゃなくて一応人間なんですけどねぇ」と愛すべき発言！ という話はともかく、今後、石田がこのキャッチフレーズ通りにリング上で暴れ続けるならば、今年の『武士道』ライト級はかなりかき乱されることになるだろう。

現状、『武士道・其の拾』では、アウレリオ、ハンセン、アゼレード、パルヴァーなど、昨年同様、強豪ファイターが引き続き参戦しており、さらに今大会ではライト級チャンピオンである五味が敗北という、まさに混沌とした状況である。この戦場に石田が足を踏み入れたいま、2006年のライト級はいったいどうなってしまうのか。

ただ、『武士道』で石田を初めて見るファンにとっては、修斗王者と言えども石田がどれほどの存在なのか未知数な部分が大きいのは確か。

「ベルトですか？ いまはベルトというよりも、強い外国人選手を倒すのが先ですね。いますぐというのは五味選手にも凄く失礼だと思うんで」。

もしベルトに挑戦できるのなら、それは周りが認めてくれたときだと話す。

修斗のチャンピオンでありながら、武士道では挑戦者という、ある意味バランスのとれた場所に石田はいる。周りが認めてくれるまで。本人がそう言うのなら、試合と同じく、ベルトへ向かう旅路も石田は止まることはないだろう。

〝永久電池〟はしっかり動く。そして一度動くと、もう止まらないのだ。

[PRIDE武士道ー其の拾ー]
○石田光洋 vs ポール・ロドリゲス×
(1R 2分29秒 フロントチョーク)
石田の高速タックルを受けたポールは、タイミングを見計らってスタンドに戻そうとする。が、その立ち際に石田がうまく首をつかみ、そのまま全力で首を絞め上げた石田が一本勝ち!!

「出版社にマンガを投稿したこともあるぜ
すぐに送り返されてきたけどな」

あなたの知らない
ヨアキム・ハンセン

強豪アゼレードに快勝！
ライト級最強外国人決定戦を制した男の知られざる素顔に迫る!!

『武士道・其の拾』で、またこの男による公開処刑が敢行された。その男の名は、ヨアキム・ハンセン。リング上ではじつに残虐なファイトを見せるかなり危険な存在だが、リングを降りるといたってファンキーなナイスガイ。本インタビューでハンセンの素顔がわかる!?

聞き手／ジャン斉藤　構成／松下ミワ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也
designed by matsu (TwoThree)

n Hansen

——いやあ、昨日のルイス・アゼレード戦は文句なしに大会ベストバウトでした！

ハンセン （話を聞かずに本誌カメラマンの『ミスフィッツ』キャップを指差して）ミスフィッツ、好きなのかい？

カメラマン ああ、ライブを撮影したことがあるんスよ。メタル系やパンク系はほかにも頻繁にライブを撮っていて、6月はOZZFEST撮りにアメリカへ行くし。

ハンセン へえ～。うらやましいなあ。

——大のメタル好きのハンセン選手にはたまらない感じなんですか。

ハンセン そりゃそうさ。昨日も試合が終わったあとにホテルの部屋でガンガン聴いてたんだ。（CDフォルダをめくりながら）モーターヘッドだろ、それからディープ・パープル、ガンマ・レイ……。毎回、かならず数十枚は持ち込んでいる。オレはメタル・ジャンキーみたいなもんだからな！

——同僚のエイネモ選手なんかは「うるさくてかなわん！」って文句を言ってましたけどね（笑）。

ハンセン そうなんだよ！（笑）。オレが車の中でガンガンに聴いてると、エイネモは勝手にボリュームを下げるんだよ。「頼むから勘弁してくれ！」ってことで（笑）。

——ワハハハ！ ハンセン選手はご自分でプレイしたりはしないんですか？

ハンセン ああ、その昔、バンドをやってたことはあるよ。オレの兄貴がベースを弾くんだけど、オレはギターかヴォーカルをやっていた。

——あ、本当ですか!?

ハンセン 近々、また騒ごうと思ってんだ。オレの友だちにドラムをバリバリやってるヤツがいて、ちょうどそいつが「バンドを再結成して活動再開しよう！」って話を持ちかけてきたところでさ。ハードコア系の曲をガンガンやろうってね。

——今度もヴォーカルかギターをやるんですか？

ハンセン まだわからないな。たぶんギターになると思うけど、もしかしたらヴォーカルをやるかもしれない。

——図々しいお願いですけど、いまここでハンセン選手の歌声を聴かせてください！

ハンセン え～っ？ いま歌うのかよ？

——ぜひ（笑）。

ハンセン しょうがないなあ。え～、コホン……ウ～ウ～ウ～ウ～♪（おもいきり照れながら）。

——ガハハハハハハハハハ！ ちょっと照れないでくださいよ（笑）。でも、素敵な歌声です！

ハンセン ありがとう（照）。

——今度はリング上で歌ってほしいぐらいですね。最近、日本では、試合に勝った選手がリング上で熱唱するのが流行っていますし。

ハンセン へえ～、日本ではそんなことが流行っているのかよ？ 聞いたことねえな。

——本当です！（ウソ）。もしそうなったら、ハンセン選手はどの曲を歌いますか？

ハンセン そうだなあ……（30秒近くじっくり考え込む）。

——そんなに真剣に考えますか（笑）。

ハンセン ……アイアン・メイデンの「ACES HIGH」（邦題「撃墜王の孤独」）かなぁ。……いや、やっぱりリング上でやるなら、オレはギターにしとくよ。

——ちょっと恥ずかしい？（笑）。

ハンセン いや、そういうわけじゃなくて。さっきのバンド再結成の話だけど、オレが帰国したらすぐ始めようってことになっていて、頭がギターモードに切り替わってるから。ヴォーカルという気分じゃないんだよなあ。

——ちなみに、そのバンドのオリジナル曲ってあるんですか？

ハンセン じつはデモテープはすでに録ってあるんだよね。

——いずれご自分の入場テーマにしてほしいですね！ ハンセン選手の「ウ～ウ～ウ～ウ～♪」というコーラスつきで（笑）。

ハンセン そう？（笑）。でも、いまのテーマ曲も気に入ってるからなあ。あれはサンダーボルトというバンドの「ディープダイヤモンド」って曲だけど。本当にメロディアスでノレるんだよ！ なんだかこう、天に向かうような感じになれて。あの力強いサウンドはオレにピッタリだぜ！

——つまり、音楽はハンセン選手の活力になっているところもあるんですかね。

ハンセン そうだね。オレにとって音楽というのは、車の中でも家の中でも常に一緒にあるものなんだ。だから、ヘビメタなんかはもうオレにとってはセラピーみたいなもんだな。

——それはまたハードなセラピーですね（笑）。

ハンセン 魂を癒してくれるものって意味で考えりゃ、やっぱりその言葉が一番しっ

昔、バンドやってたことあるよ オレはギターかヴォーカルだったんだ

メタルの話になるとまったくおしゃべりが止まらないハンセン。北欧の処刑人は、じつは超ノリノリのメタル野郎だったのだ！

ヨアキム・ハンセン Joachim

世界のマンガ消費量は日本が一番で二番はノルウェーなんだぜ！

くりくるかな。
—ところで、ハンセン選手はイラストも趣味だって耳にしたんですけど。
ハンセン ああ、じつはそうなんだよ。学校に通っていたときは、授業なんかろくに聞いちゃいねえ。ずっとノートに落書きばっかりしてたんだよ。それで10年ぐらい前だったかな。じつは出版社に自分のマンガを投稿したりしてたんだ。
—そうだったんですか！（笑）。
ハンセン でも、すぐに送り返されてきたけどな。あれは落ち込んだよ……（しみじみと）。
—ガハハハ！ それはショックでしょうね（笑）。
ハンセン 苦い思い出だよ、まったく（笑）。そのマンガはいまでも家にあるから、今度、来日したときに持ってこようか？
—ぜひお願いします！ 今度はボツにしないで丸ごと掲載いたしますから（笑）。
ハンセン あとエメリヤーエンコ兄弟のことを描いたイラストもあるから、それを持ってきてもいいかな。
—そのヒョードルもかなり絵がうまいんですよね。
ハンセン らしいね。ヒョードルが描いた絵は見たことないけど。
—マンガの知識量でいうと、『PRIDE』の外国人選手ではジョシュ・バーネットがナンバーワンですけどね。
ハンセン ああ、それは聞いたことあるな。オレは『PRIDE・31』のエイネモの試合のときにセコンドで来日したんだけど、じつは控室がジョシュと同じでね。そのとき声をかけられたよ。
—マンガについて話しかけてきたんですか？
ハンセン いや、そのときは「オイラはフィンランドのナイトウィッシュというパンクバンドが大好きなんだけど、アンタらはどう思う？」って聞かれたよ。
—ガハハハ！ 試合前なのに何をやってるんですかね、あの男は（笑）。
ハンセン そういやそうだ（笑）。ま、そんなに長く話をしたわけじゃないから、マンガの話題にはならなかったけど。マンガならやっぱり日本が一番、レベルが高いんじゃないのかな。
—日本のマンガで印象に残っている作品はなんです？
ハンセン たくさんあるよ。『攻殻機動隊』も読んだし、『北斗の拳』、『NARUTO』、それから『AKIRA』も読んだ。ノルウェー自体、日本マンガの影響を受けている部分がかなりあるんだよ。
—たとえば、それはどんな点ですか？
ハンセン そうだな。オスロの街にはマンガやビデオの店があふれているし、さっき言った『北斗の拳』とか『AKIRA』はけっこう知られているよ。
—ハンセン選手から見て、日本のマンガとノルウェーのマンガに何か違いはありますか？
ハンセン やっぱり日本のマンガのほうがレベルが高いよ。ノルウェーで人気があるマンガはどれもギャグマンガなんだよね。でも、日本マンガはギャグもあり、サスペンスもあり、スポーツもある。ストーリー自体もおもしろいもんな。
—なるほど。それで再び恐縮なんですが、色紙に得意なイラストを描いていただけませんでしょうか？
ハンセン ああ、いいよ（ニッコリ）。自画像を描こう！
（迷いもなくスラスラと描く）
ハンセン はい、完成。
—歌声に続いてすばらしいですねぇ（笑）。
ハンセン それはありがとう！ ……って、今日はこんな取材でいいの？（笑）。
—いや、もちろんアゼレード戦のこともおうかがいしますよ！ 昨日は目まぐるしい攻防の末、最後はじつに見事なヒザ蹴りが決まって。あのフィニッシュは狙ってたんですか？
ハンセン いや、本当はミドルキックを出そうと思って蹴ったんだよ。
—あ、そうだったんですか？ 途中で軌道修正したように見えたんですが……。
ハンセン 本当に狙ったのはアゼレードの肝臓さ。
—か、肝臓狙い。ハンセン選手が言うと、やけに生々しく聞こえますね（笑）。
ハンセン それで蹴りを放った瞬間、アゼレードが頭を下げてきたからそのまま顔に

ハンセン 『マンガマニア』っていうマンガ雑誌がノルウェーにあるんだけど、その雑誌がじつは日本の本と一緒で右開きなんだよね。普通、ノルウェーだと本は左開きなんだけど。それに、世界のマンガ消費量は日本が一番で、ノルウェーは二番なんだぜ。
—じゃあ、ハンセン選手は格闘家になる前から、日本文化に接点があったというわけですね。

Joachim Hansen
よあきむ・はんせん■1979年5月26日、ノルウェー・オスロ出身。03年8月の修斗で当時ウェルター級王者だった五味隆典を倒し、新王者に。『PRIDE』には『武士道・其の八』から参戦。さらに、メタルとイラストの達人であることが本インタビューで発覚!! 175cm、70.8kg。

[PRIDE武士道ー其の拾ー]

○ヨアキム・ハンセン vs ルイス・アゼレード×
(1R 7分9秒 KO)

ハンセンvsアゼレードは、昨年開催されたライト級GPの事実上の3位決定戦。序盤はアゼレードの蹴り技に苦戦したハンセンだったが、パンチが当たりだすとハンセンは徐々にペースをつかむ。本人曰く、最後は"肝臓狙い"のミドルキックがアゼレードのアゴにジャストミート!! またとんでもない処刑シーンを観衆の目に焼きつけた。

アゴに一発入っちゃったけど、本当に狙ったのはアゼレードの肝臓さ

ハンセンが再戦したい選手に挙げる川尻達也。前回の修斗ウェルター級タイトルマッチでは、開始8秒、ハンセンの強烈な蹴りがまさかのローブローに!! 結局、試合は川尻のベルト防衛という結果に収まったが、両者にとって消化不良の苦い一戦となった。

当たったというか、アゼレードの歯にガッチリ当たってさ。ヒザをちょっとカットしちゃったんだよね(笑)。

――でも、あの一発が出るまでは、かなり劣勢な場面も見受けられたんですけど、焦りはありませんでしたか?

ハンセン いや、「危ないな」って思ったのは、自分が下になったときにパウンドとストンピングをもらったときぐらい。とくに大きなダメージは受けなかったよ。

――今回のアゼレード戦は、事実上の〝ライト級最強外国人決定戦〟という面もあったんですが、そのあたりは意識しましたか?

ハンセン 自分自身、もちろんそのつもりで闘いに臨んだよ。それにこの試合に勝てば、オレが五味の挑戦することに異論を唱える人間はいないだろう、ともね。

――その五味選手はマーカス・アウレリオに負けてしまいました。

ハンセン でも、現時点のチャンピオンは五味だ。やっぱり一番強い相手とやりたいのがオレの本音だから、そういう意味でも五味とはいつか闘わないといけないと思ってるよ。彼だって修斗でオレに負けているから、決着はつけたいと思ってるはずだろうし。

――ベルトといえば、修斗世界ウェルター級王座を懸けて闘った川尻(達也)選手の試合は残念な結果になりましたね(ヨハキムの急所攻撃による反則失格)。

ハンセン あれかい? ……試合中のアクシデントとはいえ、川尻には本当に悪いことをしたと思ってるよ。結果的に負けたオレが言うのもなんだけど、川尻とはもう一度、ちゃんと決着をつけたいと思っている。

――五味戦も川尻戦も多くのファンが観たがってる試合だと思うので、かなり期待しています!

ハンセン OK! ……(カメラマンに向かって)もう取材はおしまいだろ? ゆっくり話せる場所に移動して、パンクやメタルの話をたっぷりしようぜ!

カメラマン ああ、べつにいいッスよ。

――あ~、ちょっと待ってください。最後に、修斗のときの独特な髪型の謎を聞きたいんですが……。

ハンセン (聞かずにカメラマンを連れ出して部屋から出ていく)いやあ、オレが思うにメタルというのはさ……。

――ああ、ハンセンさん。あの髪型の謎を聞かせてくださいよぉ! ハンセンさ~~~ん!

【06年4月3日/都内ホテルにて収録】

5・5大阪ドーム、PRIDE無差別級GP開幕!!

ANTONIO R.NOGUEIRA

BTTニットキャップ
¥3,150（税込）

BTTジップパーカー
ブラック／グリーン
特別販売価格 ~~¥10,290~~→ ¥6,090（税込）
S･M･L･XL
※数に限りがございますので、お早めにお求め下さい

MIRKO CRO COP

ミルコ ジップパーカー
ホワイト／ブラック
特別販売価格 ~~¥10,290~~→ ¥6,090（税込）
S･M･L･XL
※数に限りがございますので、お早めにお求め下さい

FRONT BACK

ミルコボクサーブリーフ
ブラック ¥2,625（税込）M･L･XL

ミルコ ニットキャップ
¥3,150（税込）

EMELIANENKO FEDOR

レッドデビル ジップパーカー
ブラック／レッド
特別販売価格 ~~¥10,290~~→ ¥6,090（税込）
S･M･L･XL
※数に限りがございますので、お早めにお求め下さい

RED DEVILニットキャップ
¥3,150（税込）

ヒョードル クラウンTシャツ
レッド／ブラック ¥3,990（税込）
S･M･L･XL

KAZUSHI SAKURABA

SAKU オブリガード Tシャツ
オレンジ ¥4,200（税込）
S･M･L･XL

SAKU ポコ・カンサード Tシャツ
グレー ¥4,200（税込）
S･M･L･XL

SAKUジップパーカー
オレンジ／ネイビー
特別販売価格 ~~¥10,290~~→ ¥6,090（税込）
S･M･L･XL
※数に限りがございますので、お早めにお求め下さい

SAKUニットキャップ
¥3,150（税込）

TAKANORI GOMI

NEW

川尻T-BLOOD Tシャツ
ブラック ¥3,990（税込）
S･M･L･XL

ハンセン 処刑人 Tシャツ
ブラック ¥3,990（税込）
S･M･L･XL

五味 キャラクター Tシャツ
ホワイト／ブラック ¥3,990（税込）
S･M･L･XL

このページの商品はkamipro Handでも購入可能!! 詳細は右ページ下段を参照ください➡

ミャンマー・ラウェイ関東上陸&日本vsタイ対抗戦とは何か?

ちょっとだけ帰ってきた "さささきぃの STAND BY ME"(仮)

ささきぃです! 時折帰ってくる極私的立ち技コーナー「STAND BY ME」です。終わったのか終わってないのか。バカヤロー! まだ始まってもいねぇよ! ……うまいこと言ったつもりになりました。立ち技格闘技界に事件が起こるとき、いつでもこのページは帰ってきます! いまそう決めました。さて、今月はいったい何が起きたのか!?

"死の原始格闘技"ミャンマー・ラウェイがついに関東来襲!

素手にバンデージのみを巻いて、グローブを着けずに殴り合う格闘技ミャンマー・ラウェイ。ムエタイ700年の歴史に対し1000年の歴史を持ち、パンチ、蹴りだけでなく、ヒジ、投げ、頭突き、脊椎への攻撃までありというまさに"なんでもあり"の原始格闘技が、3月17日金曜日、東京のど真ん中、新宿FACEにやってきた。昨年、長崎で日本初のラウェイ試合が行なわれてから、約半年。ついにラウェイが関東上陸を果たした。

大会はラウェイルールが4試合、うち3試合がミャンマー人ファイターと日本人の対抗戦だった。結果は0勝2敗1分で日本チームの敗北。貴重な引き分けを手にしたのが、ニュージャパンキック・東京北星ジム所属の石黒竜也だった。くまのプーさんの着ぐるみで入場(※この日はポストペットの「モモ」の着ぐるみ)、試合は反則上等、ジムに住み込んでいる、人を殴るのが好きだからキックをやっている……など、石黒に対するエピソードは一般誌などでも取り上げられたことがある。前日会見では「正直、キックなんか好きじゃないんですよ。このルールこそ俺がやりたかったルール。思いっきりケンカができる。ラウェイ最高!」と吠えていた石黒の試合は、事前の発言のとおり「このルールをやりたい男」が存分に暴れまわった5Rだった。

引かずに殴って頭突きを叩き込み、相手のパンチを受けても倒れない。ミャンマー人ファイター側も倒れず、真っ向から石黒の顔面にパンチを叩き込む。技術と志を持つ素手の男同士がバンデージを血の色に染めて殴りあうさまは、まさに圧巻だった。超危険なルールに挑戦することが尊い、凄いとされていたところから"あえて"このルールでやりたい」と一歩先に踏み出した石黒が"ラウェイ・ベストファイト"を見せたことで、日本におけるラウェイの歴史は次のステージに進んだ。

稀有な経験を積んだ選手たちが、ここから"元のリング"に戻ってどんな闘いを見せるのか。それとも、この闘いをさらに探求する旅に出るのだろうか? 今大会は石黒の試合と、ラウェイの目撃者がイッキに増えたことが事件だった。

この二つが起きたことで、ラウェイを取り巻く環境は大きく変わっていくだろう。闘志を持って挑む選手の前に、ラウェイという可能性の道は広がっている。

[3/17 和術慧舟會総本部『クシマズファイト12』東京・新宿FACE]
【ラウェイルール・3分5R】

○**ソー・ゾー・レイ**(ミャンマー・ラウェイライト級王者) **VS**
佐藤真之(日本/FSA拳真館・士道館全日本空手選手権中量級準優勝) ×
(1R 2分52秒 TKO)

△**チョー・ニェン**(ミャンマー・ラウェイウェルター級王者) **VS**
石黒竜也(日本/東京北星ジム・元NJKFウェルター級王者) △
(5R 時間切れドロー)

△**若杉成次**(和術慧舟會福岡支部) **VS**
村井義治(日本/新日本格闘術空手道連盟/MAキック日本フェザー級2位) △
(5R 時間切れドロー)

○**ロン・チョー**(ミャンマー・ラウェイミドル級王者) **VS**
山内哲也(日本/アクティブJ・前J-NETWORKミドル級王者) ×
(3R KO)

ミャンマー・ラウェイ……ミャンマー(旧ビルマ)の国技で、素手にバンデージを巻いたのみの状態で行なう伝統格闘技。立ってさえいればヒジ打ち、頭突き、腕のねじ曲げ、脊椎への攻撃もOKというごくごくシンプルかつ超危険なルールが特徴。2004年7月、ミャンマーで日本との対抗戦が行なわれ、現在総合格闘技津田沼道場に所属する田村彰敏が外国人として初勝利。ラウェイの歴史に風穴をあけてみせた。

©全日本キックボクシング連盟

超満員の観客が大熱狂!! 日本vsタイ対抗戦は奇跡のイーブン決着に!!

3.19 後楽園ホール
ALL JAPAN KICKBOXING
『SWORD FIGHT 2006
〜日本vsタイ・5対5マッチ〜』
観衆 2080人(超満員札止め)

昨年10月に全日本キック後楽園大会で行なわれた日本vsタイ5対5マッチ。日本側が全敗も、大会の盛り上がりは昨年度ベスト興行とする声も多かった。そして、我らが藤原敏男を日本側監督に迎えた3月19日大会の5対5マッチは、2勝2敗1分という、できすぎなくらいのイーブン決着となった。

野良犬・小林聡はタイ人のヒジに斬られてTKOという残念な結果になったけれど、この勝利を受けてタイ陣営はイッキに盛り上がり、メインの"藤原イズム最後の継承者"山本真弘へつながった。だが、タイ陣営の大将ワンロップ・ウィラサクレックのヒジは山本を斬り裂き、倒し、マットに這いつくばらせて山本へ初のKO負けを味わわせた。

傷を負って血を流しながら、それでも"逆転の一撃"を狙って勝ちをつかみに殴りかかる人の姿=セミの小林とメインの山本を見ていると、神様に祈りたくなるような感覚に襲われた。前回の全勝から引き分けと、戦績では押されたタイ陣営だったが、副将・大将を破ってお祭りムード。28年前に藤原敏男が挑み、世界初のラジャ王者という金字塔を成し遂げた"打倒ムエタイ"というテーマは、いまでも熱を呼び起こす力を確かに持っている。

読プレは

ゴールデンウィークも休まず営業!!

連休明けには5月病(実話)

kamipro PRESENTS

美濃輪選手サイン入り国旗

今号・真ん中の特集で美濃輪選手が羽織った日の丸国旗にサインを入れてプレゼント。これであなたも美濃輪になれる! 当たった人はいますぐスタンディングリアルフィストをしよう。

1名様

あなたも私も、go to HEAVEN!!

サイン入り

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(賞品は5月16日以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤面白かった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦ハッスルに参戦してほしい人⑧いままでで一番凄い連休の過ごし方

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部「死神は再生しない」係まで

※締切は2006年5月15日(月)当日消印有効

kamipro 098 応募券 質問しよう!

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

PRIDE

■PRIDE***http://www.prideofficial.com/

美濃輪サイン入りタオル

美濃輪選手のオリジナルスポーツタオルを、ご本人のサイン入りで6名様にプレゼント!

大小各3名様

サイン入り

『PRIDE無差別級GP』ポスター

5月5日にいよいよ開催される『PRIDE無差別級GP』。そのポスターを1名様にプレゼントします。ちなみに、この精子が向かっている先は"イン卵"だそうです。【DSE提供】

1名様

5・24『CMAフェスティバル日本対韓国全面対抗戦』ポスター

韓国vs日本の11対11という斬新な対抗戦が行なわれる当大会。美濃輪選手は約4年ぶりに、聖地・後楽園に大将として登場!! 今度の日韓戦の勝負の行方は?

1名様

サイン入り

ヨアキム・ハンセンの自画像色紙

上手すぎる!! コミック誌にマンガを投稿したこともあるというハンセン選手。その自画像入りサイン色紙を1名様にプレゼント。ヒョードルに続くPRIDEまんが道がここにも!

1名様

アウレリオ選手サイン入り『武士道-其の拾-』パンフレット

PRIDEライト級チャンピオン・五味選手に勝利したマーカス・アウレリオ選手のサイン入りパンフレットを1名様に差し上げます。未来の王者の貴重なサインになるかも!?

1名様

サイン入り

T-BLOOD 川尻選手&石田選手サイン色紙

初の『武士道』参戦で見事勝利した石田選手と、セコンドについていた川尻選手のT-BLOODコンビのサイン色紙を1名様に。

1名様

HUSTLE

■ハッスル***http://www.hustlehustle.com/
■メディアファクトリー***http://www.mediafactory.co.jp/
■ぶんか社***http://www.bunka.co.jp/

2名様

RGMサイン色紙

突如、『kamipro』編集部に姿を現わしたRGM（ハガキ愛ランド参照）。写真は新GMになってから初のサイン色紙です！ 2名様にワッツアップ!!

1名様

『ハッスル』注入DVD3

（4月28日発売）
約240分／¥5040（税込）

『ハッスル』第3弾は、前作から続く『ハッスル8』～『ハッスル12』まで全9大会のダイジェスト版として登場！ ハッスル軍と髙田モンスター軍の抗争はますますヒートアップ！【メディアファクトリー提供】

1名様

インリン・オブ・ジョイトイ写真集『МИРのM』

（4月28日発売）¥3360（税込）

インリン様もゲスト出演している魅惑の写真集がぶんか社から発売!! インリン・オブ・ジョイトイさんのサインを入れて1名様にプレゼントします！ ちなみに、インリン様はまたどこかへ旅立ったとか。【ぶんか社提供】

TICKET

10組20名様

第177回コーセー アンニュー アージュトーク チケット

所英男がまたまたイベントに登場！ 今回は、強豪ぞろいで結成されたダンス界のドリームチームBugs Under Groove6人とのトークライブ。異色の組み合わせの7人からどんなトークが飛び出すのか、乞うご期待。

開催日時：5月22日（月）
会場：恵比寿ガーデンプレイス　ザ・ガーデンホール
料金：前売り2200円／当日2600円
チケット発売日：4月22日（土）
チケット取扱い：マーク・アイ（03-3464-0761）
チケットぴあ（0570-02-9999　Pコード：606-619）

■マーク・アイ***03-3464-0761

WEAR

1名様

ART JUNKIE キング オブ キャラクターズTシャツ

東京・笹塚にショップをオープンしたART JUNKIEさんから、またまたTシャツをプレゼントしていただきました。新しいお店にも、ぜひお出かけください!!【ART JUNKIE提供】

ART JUNKIEのショップがオープン!!

ART JUNKIE TOKYOといいながら、東京で買えないという「なぁ～にがしたいんだ、コラ～!」なTシャツブランドが、ついに東京で事務所&ショールームをオープン。一般販売は土曜、日曜の午後12時～17時。（イベント等によりオープンしない場合もあります）お越しの際は、あらかじめメールやブログ等でご確認ください。ご質問ご連絡はメールで。
E-mail : infor@artjunkie.jp
〒151-0073
渋谷区笹塚1-62-7 ハイツ笹塚707
URL　http://www.artjunkie.jp

5名様

雪崩式 伍周年記念Tシャツ

プロレスTシャツを作り続けて5年間の雪崩式さんが、伍周年記念Tシャツを販売！ 『kamipro』のロゴも入ったこのTシャツを5名様にプレゼント。【雪崩式提供】

5名様

死ねばいいのに Tシャツ

女子ボクシング初代フライ級チャンピオン・八島有美さんの口癖をデザインした強烈なTシャツをファイターさんからプレゼント。着ていく場所には気をつけよう!【ファイター提供】

1名様

MARSオリジナルTシャツ

興行二回目にして大会方針を大幅に軌道修正したMARS。4月29日には韓国で、5月13日には千葉・幕張メッセで続々と大会が開催されます！ 格闘技ファンならMARSは見逃せないぞ!!【MARS提供】

■ART JUNKIE GROUND COBRA***092-711-1021　■雪崩式***http://www.nadareshiki.com　■ファイター***http://www13.ocn.ne.jp/~fighter/　■GCM***http://www.g-c-m.net/

BIG JAPAN

■BIG JAPAN***http://www.bjw.co.jp/

1名様

3/31『大日本プロレス後楽園大会』メインで使われた剣山

この日の、佐々木貴vsアブドラーザ小林の一戦は蛍光灯&剣山デスマッチ（詳しくは『ハードコア道場』参照）。その剣山の一つを上杉どんぐりが編集部に持って帰ってきたので、読者の方にプレゼントします。

T-1

■T-1***http://t-1.jp/tk/

1名様

二見さんが壊したトロフィーの破片

3・19『ONLY ONE』後楽園大会で堀田祐美にサングラスを壊されて炎上した二見代表は、なんと、勢い余ってタッグトーナメントのトロフィーを破壊!! その破片をチョロさんが持って帰ってきてくれました。【松澤チョロ提供】

BOOKS

■アスペクト***http://www.aspect.co.jp/np/index.do
■英知出版***http://www.eichi.co.jp/general/esp.cgi?_file=index&_toTop=1
■zaza***03-5766-9766

3名様

『格闘家のためのロシアンパワー養成法』

（英知出版）¥1470（税込）

最強格闘技サンボの練習方法やPRIDEヘビー級王者・ヒョードルに代表されるロシア選手のパワーの秘密など、究極のロシアンパワーが習得できる一冊!!【英知出版提供】

各1名様

水道橋博士『博士の異常な健康』

（アスペクト）サイン本　¥1365（税込）

稀代の健康マニア・水道橋博士が綴る前代未聞の異常な健康読本が完成!! 博士自らが体験取材して書いた一冊です。ちなみに、髪の毛フサフサな江頭2:50も登場します。【アスペクト提供】

武田幸三写真集『REAL～錆びない、鋼鉄～』

¥2600（税込）

ムエタイの頂点を極めた男"超合筋"武田幸三の写真集が完成。ラジャダムナンスタジアムやタイのジムでの写真など、武田の素顔に密着。【zaza提供】

QUEST

■QUEST***http://www.queststation.com/

各1名様

大橋秀行 ボクシング完全教則 DVDBOX

（5月11日発売）271分／¥15750（税込）

WBA、WBCの両世界チャンピオンであり、現在は自らが指導するジムで王者を次々と送り出している大橋秀行が、基本からプロデビューレベルの技術まであらゆるテクニックをDVDで紹介。

01★國際松濤館空手完全教則 入門篇
107分／¥5880（税込）
02★高小飛 王培生伝劉氏八卦六十四掌
67分／¥5880（税込）
03★日本空手道無門会
60分／¥4935（税込）
04★長野峻也 武術秘伝の原理
100分／¥5880（税込）

キックボクシング完全教則 DVDBOX

（5月11日発売）255分／¥15750（税込）

キックボクシングのあらゆるテクニックをわかりやすく紹介するDVDBOXがついに発売！ ベーシックな技術を組み合わせたコンビネーションや、敵を欺くフェイントなど、実戦に役立つ技術が満載。

KAMIROBO

■コロムビア***http://columbia.jp/

1名様

カミロボDVD

¥3465（税込）

05年8月3日、後楽園ホールで開催されたカミロボのプロレスのイベント「MAXリーグ　カミロボエンタテインメントショー」が「紙人形組み立てキット」つきのDVDボックスとして発売!
【コロムビアミュージックエンタテインメント提供】

日々の練習で強さを勝ち取れ!!

肉体改造！

1日15分のトレーニング。

魔裟斗<マサト>
K-1 WORLD MAX 2003 世界王者
シルバーウルフ所属

「ファイティング」DVD

Wプレゼント！
バーベル、ダンベルお買上げの方に、**ウェイトグローブをプレゼント！** 発汗によるスベリを無くし、安全にトレーニングできます。さらに、**トレーニング解説DVD「ファイティング」もプレゼント！**

正しく学ぼう！
P 入り商品お買い上げの方には、**トレーニング解説DVD「ファイティング」をプレゼント!!**
第1部は魔裟斗選手の試合直前本格練習を収録しました!! ☆魔裟斗選手による正しい打撃、蹴りのアドバイスもあるぞ!
第2部はあの東京大学ウエイトリフティングチームによるより良い筋肉の造り方を収録!!☆ベンチプレス、ダンベル、腹筋・・・等、正しいフォームを学ぼう!

ブラックタイプ

バーベル ブラックタイプ

重量	消費税込価格
30kgセット	12,000円→6,800円
50kgセット	17,000円→9,800円
70kgセット	22,000円→13,800円
100kgセット	29,500円→17,800円
140kgセット	39,000円→23,800円

シャフト付き

ダンベル ブラックタイプ

重量	消費税込価格
20kgセット	7,000円→4,800円
30kgセット	9,500円→6,800円
40kgセット	12,000円→7,800円
50kgセット	14,000円→8,800円
60kgセット	16,500円→10,800円

シャフト付き

プレート ブラックタイプ

重量	消費税込価格
1.25kg	300円
2.5kg	600円
5.0kg	1,200円
7.5kg	1,800円
10.0kg	2,400円
15.0kg	3,600円
20.0kg	4,800円

ラバータイプ

バーベルラバータイプ

重量	消費税込価格
30kgセット	16,000円→9,800円
50kgセット	24,000円→13,800円
70kgセット	32,000円→19,800円
100kgセット	44,000円→26,800円
140kgセット	60,000円→34,800円

シャフト付き

ダンベル ラバータイプ

重量	消費税込価格
20kgセット	9,500円→6,800円
30kgセット	13,500円→8,800円
40kgセット	17,500円→10,800円
50kgセット	21,500円→12,800円
60kgセット	25,000円→14,800円

シャフト付き

プレート ラバータイプ

重量	消費税込価格
1.25kg	400円
2.5kg	800円
5.0kg	1,600円
7.5kg	2,400円
10.0kg	3,200円
15.0kg	4,800円
20.0kg	6,400円

W130×D137×H100～130
キングofベンチ (プレートセット別売)
背もたれ角度4段階に調節可能!
35,000円→12,800円 (消費税込)

W62×D126×H85～105
ハードベンチ (プレートセット別売)
ワンタッチでシットアップベンチ、折りたたみが可能!
20,000円→9,800円 (消費税込)

W52×D126×H100
トレーニングベンチ (プレートセット別売)
安定感抜群のベンチプレス台
12,000円→5,800円 (消費税込)

W130×D137×H205
キングスセット (プレートセット別売)
背もたれ角度4段階に調節可能!
40,000円→18,800円 (消費税込)
ラット運動によるショルダー部の集中強化によりパンチ力強化、持久力が備わります!

W130×D195×H205
キングスセットDX
プロスクワット台付 (プレートセット別売)
背もたれ角度4段階に調節可能!
58,000円→27,800円 (消費税込)

W100×D115×H140～220
マルチジム
高さ調整可能
24,800円→9,800円 (消費税込)

1日10分!!
有酸素運動で脂肪を燃やせ! 持久力をつけろ!
抵抗値設定
運動時間累計
速度の計測
走行距離の累計
消費カロリーを累計表示

W51×D90×H111cm
フィットネスバイク fr
サドル高さ調整可能
39,800円→7,800円 (消費税込)

W55×D130×H45
フラットベンチPRO
極太パイプを使用抜群の安定感!
10,000円→4,800円 (消費税込)

W56×D127×H123
シットアップベンチ
手軽に腹筋・背筋のトレーニングが出来ます。
10,000円→4,800円 (消費税込)
5段階の角度調節が可能!

W45×D51×H60～82
ベンチセーフティ
ベンチの両サイドにセットすれば安全にプレス運動ができます。
13,000円→6,800円 (消費税込)

W100×D60×H120～160
プロスクワット台 (プレートセット別売)
18,000円→9,800円 (消費税込)

kamipro 紙のプロレス

No.98
2006年5月5日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集若頭
堀江ガンツ

編集スタッフ
ジャン斉藤
真下“非公式参拝”義之
松下“かぼちゃ”ミワ
八木賢太郎(GW家族サービス計画ため非番)

電気部
ささきぃ
松澤チョロ

企画制作部
坂井“爆睡王”ノブ
上杉再検査

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子RGM

編集次長リローデッドPart.7
松林 貴

デザインカントク
出田さん(TwoThree)

デザインキャプテン
金井ヒサくん(TwoThree)

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき(以上、TwoThree)
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志(以上、さおとめの事務所)

カメラマン
乾 晋也
菊地茂夫
丸山剛史
平工幸雄
戸成嘉則
山口比佐夫
松本 崇
吉場正和

お勘定&衣料部
林 一枝

ダイエット中止?
入江ライス半分(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“早朝の山手線2周プレイ”芳司

“決算が終わったので暴れます”編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川“春からお仕事3倍増”奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
(広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで)

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
(受付時間/土日祝祭日を除く12:00〜17:00)
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン(URL:http://www.enterbrain.co.jp/)、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

次号No.99号は 5月19日(金) 発売予定!

※地域によっては多少発売日が遅れます。

NEXT ISSUE

5・5PRIDE 無差別級GP 特盛大特集!!

kamipro 2006 98
格闘技宇宙一決定戦!!
2006年5月5日
発行人／浜村弘一　編集人／山口日昇、青柳昌行　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

enterbrain

9784757727656
定価:本体838円＋税
雑誌61954-06 Ⓗ2006.8
ISBN4-7577-2765-8
C9476 ¥838E
Printed in Japan 図書印刷
1929476008381